

四〇 質屋取締法中改正法律案

質屋取締法中左ノ通改正ス

第三條 質屋ハ質物ニ付不正ノ疑アルトキハ直ニ其ノ旨ヲ警察官ニ申告スヘシ
第五條第二項ニ左ノ但書ヲ加フ
但シ質置主ニ於テ之ヲ必要トナササルトキハ交付セサルコトヲ得

二年三月二十二日岡田榮君外二名提出、同月二十四日第一讀會ヲ開キ提出者(岡田榮君)ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

本案ハ質屋取締法ヲ改正セントスルノデアリマシテ、同二條ハ諸君ガ御承知ノ如ク、質屋ガ質ヲ取ルニ當テ質置主ニ於テ其質物ニ就テ、果シテ質入スルトコロノ權利ガアルヤ否ヤヲ確メヤウト云フ規定デアリマス、此規定ハ本員ノ見ル所ニ於テハ全く無用ナ規定ナル、現在質屋ガ質ヲ取ルニ當リマシテハ、其質權ヲ實行シテ其目的ヲ達スルト云フノ當然デアリマシテ、質權ノ實行ヲスルコトガ出來ナイ、言葉ヲ換ヘマスレバ不確實ナ質ヲ取ルト云フ馬鹿者ハ世ノ中ニアリマセヌ、ソレカラ一方カラ考ヘテ見マシテ、不正ノ品ヲ取ツタナラバ刑法上ノ處罰ヲ受ケマス、尙情ヲ知ラナクテ取ツテモ質屋取締法ノ十六條ニ依リマシテ警察官カラ何時ニテモ徵收セラレテ、自分が損害ヲ受ケネバナラヌヤウナ次第デ、十二分ニ質屋ハ注意ヲ致シマスノデアリマスルカラ、此規定ハ無クモ宜シイ、無クテモ宜シイト云フモノデアッタナラバ、唯ソレダケデアリマスルナラバ茲ニ改正ヲスル必要モアリマセヌガ、是アルガタメニ非常ナ害ヲ爲シテ居ルノデアリマス、其害ハ最初質ヲ取ル時ニ方リマシテ相當注意ヲ施シ、善意ヲ取ツテ居リマシテモ後トテ其品物が不正品デアルト云フ事柄ガ發見シタ際ニ、之ヲ結果カ

ラ見マシテ、確認シテ居ラナカッタト云フノ往々處罰ヲ致シテ居ルヤウナ事例ガアリマス、是ハ裁判官ノ非常識ト云フ事柄モ多少原因致シテ居リマセウガ、必要ナ規定デアルナラバ免モ角モ、前申シマスガ如ク全く不必要ナ規定デアリマスルガ故ニテス、之ヲ除イテ明瞭ニ致スト云フ事柄ガ至極相當ノコトデアルト本員ハ確信致シマス、ソレカラ質札ト質ノ通帳ヲ出スト云フ事柄ハ、御承知ノ如ク質置主ノ權利ヲ保護スルガタメデアル、然ルニ現行法ニ於キマシテハ質置主ガ要ラナイト云フコトヲ言ツテモ、尙之ヲ質屋ガ出サナケレバナラヌコトニナツテ居ル、若シ之ヲ出サナカッタナラバ處罰ヲ受ケルコトニナツテ居リマス、此ノ如キハ普通立法ノ精神ニ反シテ居リマスノデアリマスルカラ、質置主ニ於テ必要ガナイト云フ場合ニ於テハ、渡サナクテモ宜イト云フ事柄ノ明文ヲ加ヘルガ至極相當ノコトデアルト思フ、ドウカ諸君ノ御贊同アラシコトヲ請ヒマス

質疑應答ノ後議長指名ノ委員ニ付託スルニ決シ議長ハ即日之ヲ指名ス委員ハ翌二十五日委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ノ末本案ヲ可決シ即日報告書ヲ議長ニ提出セリ

三月二十六日第一讀會ノ續會ヲ開キ委員長石川甚作君ハ左ノ報告ヲ爲ス

本案ハ極ク簡單ナ案デアゴザイマスカラ、極ク簡略ニ説明致シマス、本案ハ質屋取締規則ノ中、第三條ノ質物ヲ取ル時分ニ疑アルカナイカト云フコトヲ糺シタ上テ取ルベシ、但シ不正品ト認メタ時分ニハ之ヲ警察署ニ届出ツベシト云フヤウナ規定ガアルノヲ、前ノ方ノ疑アル云々ト云フノヲ取消シマシテ、唯「質屋ハ質物ニ付不正ノ疑アルトキハ直ニ其ノ旨ヲ警察官ニ申告スヘシ」ト言フダケノ簡單ナル條ニシタイト云フノガ、第三條ノ修正デアリマス、第五條ハ質屋ガ質物ヲ取ツタ時分ニハ、通帳ヲ質置主ニ交付スベシト云フ命令的ニナツテ居ル、之ヲ原則トシテ「但シ質置主ニ於テ之ヲ必要トナササルトキハ交付セサルコトヲ得」ト云フ但書ヲ付ケタイ、是ガ第五條ノ修正デアゴザイマス、此案ニ就キマシテハ政府ハ同意ヲ致シマセヌカッタガ、委員會ニ於テハ全會一致ヲ以テ決定致シマシタ、此段御報告致シマス

討論ナク引續キ第二讀會ヲ開キ第三讀會ヲ省略シテ原案ヲ採用シ之ヲ確定セリ即日貴族院ニ送付シタルモ同院ノ議決ヲ經ルニ至ラサリキ

四一 日本勸業銀行法中改正法律案

日本勸業銀行法中左ノ通改正ス

第十四條第三項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

鐵道財團及軌道財團ハ本法ノ適用ニ付テハ之ヲ不動産ト見做ス

二年三月二十二日水間此農夫君提出、同月二十四日第一讀會ヲ開キ提出者ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

本案ハ極ク簡單ナ議案デゴザイマシテ、即チ日本勸業銀行法中ノ第十四條第三項ノ次ニ鐵道財團及軌道財團ハ本法ノ適用ニ付テハ之ヲ不動産ト見做スト云フ一項ヲ加ヘテ貫ヒタイト云フニ過ギヌデゴザイマス、鐵道並ニ軌道ハ農工業發達ノ上ニ於キマシテ直接ナル關係ヲ有シテ居ルモノデゴザイマス、輕便鐵道ノ如キハ國費ノ補助ヲ以テ普及ヲ致シテ居リマス位デゴザイマスルカラ、是ニ放資ノ途ヲ開クト云フコトガ最モ肝要ナコトデゴザイマス、然ルニ鐵道財團ヲ不動産ト見做スコトノ明確ナル規定ノナイタメニ、不動産ヲ目的トシテ貸付ヲ致シテ居リマス、銀行カラ放資ノ途ヲ得ナイト云フコトハ甚ダ遺憾ナ次第デゴザイマスカラ、差當リ日本勸業銀行法中ニ是等ノ改正ヲ致シタイト云フ案ニ過ギナイノデゴザイマス、ドウゾ皆サン御贊成ヲ願ヒマス

本案ハ鐵道抵當法中改正法律案ノ委員ニ付託スルニ決シ委員ハ審査ノ末本案ヲ可決シ即日報告書ヲ議長ニ提出セリ

三月二十六日第一讀會ノ續會ヲ開キ委員長小出五郎君ハ審査ノ結果ヲ報告シ勝田大藏次官ハ本案

ニ反對ノ演說ヲ爲ス

小出五郎君ノ報告

本案ハ極ク簡單ナル案デアリマシテ、日本勸業銀行法中第十四條第三項ノ鐵道財團及軌道財團ヲヤハリ不動産ト見做スト云フ改正案デアリマス此改正案ニ付キマシテハ、委員會ニ於テ殆ト同一ノ性質ヲ持ッテ居ルトコロノ輕便鐵道財團ト云フモノヲ、ヤハリ同様ニ加ヘタイト云フ修正案ガ出マシタ、鐵道財團及軌道財團ニ付キマシテ、不動産ト見做シテ之ヲ擔保ニシテ、日本勸業銀行カラ金ヲ借リマスコトヲ許ス以上ハ、輕便鐵道財團ニ付テモ同様ニシテ宜イト云フ趣意デアッタデアリマス、政府ニ於キマシテモ此改正案並ニ修正案ニ付キマシテハ異存ハナイト云フコトデアリマス、委員會ハ全會一致ヲ以テ此修正案ノ通り可決致シマシタ、此段御報告致シマス

勝田大藏次官ノ演說

本案ニ付キマシテハ——異議ノナイコトハナイノデス 大體本案ニ付キマシテハ鐵道ノ財團、或ハ此軌道財團輕便鐵道財團ニ對シテ金融ノ方法ヲ研究スルト云フコトニ付テハ、是ハ政府ハ大ニ同情ヲ持ッテ居ルデアリマス、併ナカラ勸業銀行法ヲ改正致シマシテ、斯ノ如クスルト云フコトハ尙熟考ヲ要スルト政府ハ考ヘテ居リマスソレハ第一ニ斯ノ如キモノヲ勸業銀行ノ中ニ入レマシテ、勸業銀行ヨリシテ資金ヲ投資スルト云フコトニナリマス云フト、資金ノ潤澤ト云フコトニ付テハ其方法ヲ此處テ研究シナケレバナリマセヌ、今日ハ勸業銀行法ニ於テ、勸業銀行ノ資本ガ現今ノ勸業債券發行ノ力ニ依ッテ、是等ノモノニマデモ十分資金ヲ供給シ得ルヤ否ヤト云フコトハ、是ハ考ヘナケレバナラヌ問題デアリマス、ソレカラ致シマシテ又此勸業銀行ニ同様ニ修正ヲ致シマス云フト、勸業銀行ト同一ノ性質ヲ有ッテ居リマス、例ヘバ北海道ノ拓殖銀行デアリマス、或ハ農工銀行デアリマス、ソレカラ又此ヤハリ是ハ資金ノ關係ニナリマスガ、勸業銀行法ノ十四條ノ一二ニ依リマシテ、ガアルノデアリマス、ソレカラ又此ヤハリ是ハ資金ノ關係ニナリマスガ、勸業銀行法ノ十四條ノ一二ニ依リマシテ、御承知ノ如ク、前年此法律ヲ改正致シマシテ其資本並ニ債券ノ發行額ノ半分ハ、工場財團トカ或ハ市街地ノ貸付ニ使フト云フコトヲ以テ勸業銀行ノ本務トシテ居リマス、即チ産業ニ充テル、斯ウ云フコトニナッテ居

リマス、サウシマスト云フト之ヲ今日單ニ斯ウ云フ改正ヲシテ許シマス、農事ナリ商工業ニ使フト云フ其方ノ金ガ此方ニ喰込ニテ來マスカラ、此方ニ充分資金ガイカヌト云フ憾ミガアリマス、サウ云フ次第デアリマスカラシテ、此趣旨ニ於キマシテハ政府ニ於テハ大體ニ於テ大ニ諒トシテ居ルノデアリマスガ、免ニ角今日此勸業銀行法ヲ改正シテ、斯様ナコトニスルト云フトニ付キマシテハ、政府ハ反對ヲ表シマス
他ニ討論ナク引續キ第二讀會ヲ開キ第三讀會ヲ省略シテ委員會ノ修正案ヲ採用シ本案ヲ確定セリ
即日貴族院ニ送付シタルモ同院ノ議決ヲ經ルニ至ラサリキ

四二 巡查看守退隱料及遺族扶助料法中改正法律案

巡查看守退隱料及遺族扶助料法中左ノ通改正ス

第三條第一項中「後ノ勤續一年ヲ加フル毎ニ後ノ退職當時ニ於ケル月俸額十分ノ一ヲ退隱料年額ニ増加ス」ヲ「退隱料ヲ給ス」ニ改ム

二年三月二十四日請願委員長提出、翌二十五日提出者ノ請求ニ依リ延期シタル儘議決ヲ經ルニ至ラス

第五款 上奏案及建議案

第一項 上奏案

開院式勅語奉答文案

元年十二月二十七日本院ハ開院式ニ賜ハリタル 勅語ニ對シ直ニ奉答文ノ件ヲ院議ニ付シ議長指名ノ起草委員ヲ設ケ起草了ルヤ會議ヲ再開シ委員長元田肇君ハ「謹ンテ奉答文起草委員會ノ經過ヲ御報告致シマス、奉答文起草委員會ハ直ニ議長室ニ集マリマシテ、委員長ニ不肖當選致シマシテ、理事ニ花井卓藏君、鵜澤總明君ガ當選致サレマシタ、引續キマシテ慎重審議ヲ凝シマシテ、唯今朝讀致シマスルトコロノ文ヲ起草致シタ次第デアリマス（奉答文ハ第一章ニ掲ク）……」ト報告シ奉答文ヲ朗讀ス總議員ハ起立シテ敬意ヲ表シ全會一致ヲ以テ可決シタリ

第二項 建議案

一 羽越沿岸鐵道建設ニ關スル建議案

新潟縣下村上町ヨリ山形縣下鶴岡町、酒田町ヲ經テ秋田縣下秋田市ニ達スル鐵道線路ハ其ノ延

長一百二十四哩ニシテ本線路ニ據ルトキハ北海道ト京阪地方トヲ聯絡スルニ東北線ニ比シ實ニ
一百七十哩餘ヲ短縮スルノ最捷路タリ而シテ此ノ間ニ於ケル農産物、林産物、水産物、鑛物等豐
富ナルハ勿論沿道中新潟縣下瀨波、山形縣下溫海、田川、湯ノ濱等各溫泉場ノ盛況ハ一箇年浴客
ノ計數約一百万人ヲ算フ然ルニ交通甚タ不便ヲ極メ且海上モ冬期及其ノ前後ハ風波暴威ヲ逞フ
シ殆ト交通杜絶ノ慘況ナルヲ以テ沿道住民ノ不幸措ク能ハサル所ナリ依リテ政府ハ速ニ本鐵道
ヲ敷設全通セシメ羽越地方無限ノ富源ヲ開發スルト同時ニ東北交通ノ利便ヲ増加シ國家經濟ノ
發達ヲ計ラレムコトヲ望ム
右建議ス

二 上越鐵道建設ニ關スル建議案

本鐵道線路ハ我カ國本州ノ中部ヲ橫斷シ中央北越連絡ノ最捷路タリ故ニ本線ヲ敷設スルハ軍事
上經濟上喫緊ノ急務ナリ殊ニ西比利亞鐵道複線工事ノ竣工ニ伴ヒ日本海ニ瀕スル北越地方ハ運
輸、交通、國防等ノ上ニ付至大ノ注目ヲ要スルヤ明ナリ依リテ政府ハ速ニ本鐵道敷設ノ計畫ヲ立
テ一朝有事ノ日ニ於テハ國防ノ行動ヲ敏速ナラシメ常時ニ於テハ運輸交通ノ便益ヲ圖リ以テ帝
國國運ノ發展ニ資セラレムコトヲ望ム
右建議ス

三 信越河東鐵道建設ニ關スル建議案

長野縣下屋代驛ヨリ松代町、須坂町、飯山町新潟縣下十日町ヲ經テ小千谷町ニ達スル鐵道線路ハ
其ノ延長六十九哩ニシテ此ノ間長野縣下ニ在リテハ國產生絲ノ產地トシテ一箇年貨物ノ輸出入
高三千萬貫目以上ヲ算シ其ノ他澁溫泉ヲ始メトシ數箇所ノ溫泉場アリテ一箇年ノ浴客數ハ一百
五十萬人ニ及フ從テ之ニ對スル貨物ノ輸出入實ニ夥多ヲ極ム又新潟縣下ニ在リテハ十日町、小
千谷町ヲ中心トシテ絹織物業ノ隆盛市上取引ノ頻繁ニ伴フ原料並貨物ノ輸出入實ニ著大ナリト
ス尙北信南越一帶ニ亙レル千山萬岳ノ抱有スル無限 大森林及鑛物ヲ開發シテ生産事業ノ發展
ニ資スルハ目下ノ急務ナルヲ認ム依リテ政府ハ速ニ本鐵道ヲ敷設全通セシメ沿道地方無限ノ富
源ヲ開發スルト同時ニ交通運輸ノ利便ヲ増加シ國家經濟ノ發達ヲ計ラレムコトヲ望ム
右建議ス

以上三案ハ二年二月二十七日(一)佐藤信古君外九名、(二)加藤勝彌君外五名、(三)加藤勝彌君ノ提
出ニ係リ三月四日逐次院議ニ付シ各提出者ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

(一)長晴登君ノ演說

私ヨリ本案提出ノ理由ヲ簡單ニ申上ゲマス、本案ハ既ニ二十數回モ此議場ニ現ハレテ、其度毎ニ可決シタ案

デゴザイマシテ、今年アタリハ此議場ノ御厄介ニナラズニ濟ム事デアラウト思ッテ居ッタ位デアッタガ、政府ノ計畫ハ即チ鐵道院ノ要求ガ大藏省ニ纏ラヌタメ、又此ノ如ク御厄介ヲ掛ル譯ニ相成リマシタガ、本案ハ丁度日本海ニ面スル所ノ幹線デゴザイマシテ、新潟縣下村上ヨリ山形縣下鶴岡酒田ヲ經テ秋田縣秋田市ニ達スル鐵道デゴザイマシテ、此幹線ノ目的カラ云ヒマスレバ、北海道奥羽ヨリ關西ヲ聯絡シテ百四十哩モ短縮スル效力ヲ持ッ線デアリマス、又此沿線ニハ山林、礦物或ハ溫泉等ガゴザイマシテ、其土地ノ開發ニハ最モ急要ヲ感ズル線路デアリマスカラ、ドウツ是等ニ付テハ一ツ委員付託トナシテ、十分當局ト交渉シテ、此案ノ早ク——此案件ニナツテ居ル鐵道線路ハ速カニ架ケタイト云フ方策ヲ取リタイ積リデアリマスカラ、御贊成アランコトヲ偏ニ希望致シマス

(二)武藤全吉君ノ演說

簡單ニ提出ノ理由ヲ説明致シマス、上越鐵道ハ高崎ヨリ澁川、沼田ヲ經テ越後ノ長岡ニ達スル九十九哩七十鎖ノ所デアリマス、此鐵道ト致シマシテハ、此鐵道ハ蓋シ我邦有數ナル鐵道ノ一ツデアルト思ヒマス、北ハ日本海ノ方面ト東ハ太平洋ノ方面ノ聯絡橫斷線デアリマス、果シテ此線ガ出來マスト、北陸ト羽越ト、關東トノ交通ハ之ニ依テ頗ル有用ノ線路ニナルデアリマス、又國防上カラ申シマシテモ、此線ハ缺クベカラザルノ鐵道ノ一デアリマス、現在上野新潟間ハ二百六十六哩七鎖ノ距離ガアリマス、此線ガ出來マスト上野カラ新潟ノ間ハ二百十哩ニ短縮致シマス、即チ此線ガ出來マスト羽越並ニ越後方面カラシテ五十六哩ノ短縮ガ出來ルコトニナルデアリマス、近ク當局ニ於テ調査シタルトコロ承ッテ見マスト、前ノ工費ハ二千九百萬圓デアリマシタサウデアリマス、然ルニ最近ニ於ケル調査ニ依リマスト工費ハ千九百五十五萬圓テ出來ル、即チ九十五哩七鎖ニ對シマシテハ一哩ノ工費ハ二十一萬四千圓掛ルコトニナルデアリマス、而シテ距離ノ上ニ於キマシテハ十五哩ヲ減ジマス、古イ調査ハ百十哩デアリマシタモノガ九十五哩ニ減ジテ居リマス、十五哩減ジ工費ノ上ニ於テ一千万圓減ズルコトニナルデアリマス、而シテ工事ハ最急勾配ハ四十分ノ一ノ處モアリマスガ、以前ノ計畫ニ致シマスト、以前ノ計畫ハ一哩内外ノ隧道ガ五箇所アッタ、然ルニ新シキ調査ニ依リマスト五哩ノ隧道ガ一箇所サウデ、東ハ西上州ノ一圓ヲ通シマシテ越後長岡ニ通ルデアリマスカ

ラ、此沿道ノ利益ト云フモノハ頗ル多イ、現ニ鐵道院ヲ調査シマシタルトコロノ利當リハ二分ヲ計上シテアリマス、私共ノ利益ノ見込ハ上野ノ大半ヲ有シテ居ッテ、其中ニハ利根郡、吾妻郡、群馬郡、此等ノ沃野ヲ持ッテ居リマス、此利根郡、吾妻郡ハ大森林ヲ持ッテ居リマスノミナラズ、群馬郡、吾妻郡ニハ十數箇所ノ溫泉ガアリマス、又新潟ノ方面ニ參リマスレバ、御承知ノ通り新潟ハ石油事業ノ近來完全ハ諸君モ御承知ノ通りデアリマス、實ニ關東北陸羽越等ノ聯絡ヲ取ル此利益ト云フモノハ、當ニ利當リノ二分ニ止ラヌ、新潟上野間ニ於テ五十六哩ノ距離ヲ短縮シ、其間ニ於テ永久ニ日々何千噸ノ貨物ノ運賃ト何千人ノ乘客ノ時間ト、賃金ノ節減ガ出來ルト云フコトハ、恐ラクハ將來日本國民ノ全體ニ對シテ私ハ多大ナル御土産デアルト思ヒマス、上越鐵道ハ此敷設ヲ希望シテ居ルコトハ、始メテ國會ノ開ケタ當時ニ吾々ノ先輩ガ提出サレテ、每議會ニ於テ通過致シテ居ルデアリマス、尋常普通ノ御土産鐵道案トハ違ヒマスカラシテ、宜シク滿場ノ御贊成ヲ希望スル次第デアリマス

(三)加藤勝彌君ノ演說

簡單ニ提出ノ理由ヲ述ベマス大略ハモウ此文案ニ盡シテ居リマスノデス、ケレドモ諸君ガ議案ヲ御携帶ナイ御方ガ澤山アラシヤルヤウデアリマスカラ、一通リ述ベマスデゴザイマス、此鐵道ハ長野縣屋代驛ヨリ分岐致シマシテ、同縣ノ松代、須坂、飯山等ヲ經マシテ、新潟縣ノ十日町ヲ經テ小千谷町ニ達スル延長ハ十九哩ノ線路デアリマス、即チ長野縣ノ北部新潟縣ノ南部ヲ全通スル、即チ上越線信越線ノ中間ニ在ルモノデアリマス、是ハ昨年二十八議會ニ於テ諸君ノ御同情ニ依ッテ滿場一致ヲ以テ此處ヲ通過シタデアリマス、爾來當局者モ其望ミヲ容レマシテ、誠意調査ヲ重ネラレ、昨年以來調査ヲ重ネラレマシテ餘程精密ナル案ガ出來テ居リマス、願クハ是ハ委員付託トナシテ、十分當局者ノ意ノアルトコロヲ聞キ、速ニ完成セラレントヲ望ムタメニ聊カ一言提出ノ理由ヲ辯ジマシタ、ドウツ御贊成アランコトヲ希望致シマス

各案ハ議長指名同一ノ委員ニ付託スルニ決シ議長ハ即日之ヲ指名ス委員ハ翌五日委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ノ末第一、第二ノ兩案ニ修正ヲ加ヘ第二案ヲ可決シ三月二十二日報告書ヲ議長ニ

提出セリ

(委員會報告書)

(小字及——ハ委員會修正)

第一案

新瀨縣下村上町ヨリ山形縣下鶴岡町、酒田町ヲ經テ秋田縣下^{○本莊町ヲ經テ}秋田市ニ達スル鐵道線路ハ其ノ延長一百二十四哩ニシテ本線路ニ據ルトキハ北海道ト京阪地方トヲ聯絡スルニ東北線ニ比シ實ニ一百七十哩餘ヲ短縮スルノ最捷路タリ而シテ此ノ間ニ於ケル農產物、林產物、水產物、礦物等豐富ナルハ勿論沿道中新瀨縣下瀨波^{セナヒ}、山形縣下溫海、田川、湯ノ濱等各溫泉場ノ盛況ハ一箇年浴客ノ計數約一百万人ヲ算フ然ルニ交通甚タ不便ヲ極メ且海上モ冬期及其ノ前後ハ風波暴威ヲ逞フ^{○加フルニ本線ハ已ニ南部中部ニ於テ起工中ニ屬スルヲ於テ之ヲ連絡スルハ鐵道自ラノ經濟上ニ於テモ亦急要ナルヘシ}。依リテ政府ハ速ニ本鐵道ヲ敷設全通セシメ羽越地方無限ノ富源ヲ開發スルト同時ニ東北交通ノ利便ヲ増加シ國家經濟ノ發達ヲ計ラレムコトヲ望ム

右建議ス

(委員會報告書)

(小字及——ハ委員會修正)

第二案

長野縣下屋代驛ヨリ松代町、須坂町、飯山町新瀨縣下十日町ヲ經テ小千谷町ニ達スル鐵道線路ハ其ノ延長六十九哩^七ニシテ此ノ間長野縣下ニ在リテハ國產生絲ノ產地トシテ一箇年貨物ノ輸出入高三千萬貫目以上ヲ算シ其ノ他溫溫泉ヲ始メトシ數箇所ノ溫泉場アリテ一箇年ノ浴客數ハ一百万人ニ及フ從テ之ニ對スル貨物ノ輸出入實ニ夥多ヲ極ム又新瀨縣下ニ在リテハ十日町、小千谷町ヲ中心トシテ絹織物業ノ隆盛市上取引ノ頻繁ニ伴フ原料並貨物ノ輸出入實ニ著大ナリトス尙北信南越一帶ニ亙レル千山萬岳ノ抱有スル無限ノ大森林及礦物ヲ開發シテ生產業ノ發展ニ資スルハ目下ノ急務ナルヲ認ム依リテ政府ハ速ニ本鐵道ヲ敷設全通セシメ沿道地方無限ノ富源ヲ開發スルト同時ニ交通運輸ノ利便ヲ増加シ國家經濟ノ發達ヲ計ラレムコトヲ望ム

右建議ス

三月二十六日三案ヲ一括シテ續會ヲ開キ委員加藤勝彌君ハ委員長ニ代リ左ノ報告ヲ爲ス

初メニ羽越沿岸鐵道ニ關スル建議案ノ委員會ヲ開キマシテ、政府委員ノ答辯ヲ求メマシタ、是ハ殆ド十數回此議場ノ御同情ヲ得マシタル案デアリマス、曩ニ提出ヲ致シマシタノニ修正ヲ加ヘマシタ、其修正ハ山形縣下酒田ヨリ直チニ秋田市ニ達スルト云フノデアリマシタノヲ、之ヲ「秋田縣下本莊町ヲ經テ秋田市ニ達スル」ト云フコトニ直ツタノデアリマス、其他末文ニ至リマシテ「加フルニ本線ハ已ニ南部中部ニ於テ起工中ニ屬スルヲ以テ之ヲ連絡スルハ鐵道自ラノ經濟上ニ於テモ亦急要ナルヘシ」ト云フ文字が加ッタノデアリマス、是ハドウシテ斯ウ云フ文字が加ッタカト申シマス、此沿岸鐵道ノ南ノ方ニ於キマシテハ、新發田村上間が目下工事

中デアル、又丁度中央頃ノ山形縣ノ酒田町ヨリ余目迄、是ハ工事中デアリマス、其間斷續シテ居ル故ニ、之ヲ連絡セシムルハ鐵道經濟ノ上ニ於キマシテモ最モ必要デアルト云フノ事實上ヨリ之ヲ記載シマシタ、幸ニシテ此鐵道が聯絡シマスレバ、北ノ方ハ東山道北陸道畿内又山陰道青森ヨリ馬關ニ至ルマテ盡ク聯絡スルノデアリマス、唯此間が未ダ成立ラシナイタメニ、甚ダ遺憾ヲ感ズル譯デアリマスカラ、ドウゾ一ツ一年モ早く是ガ全通セシムルヤウニ御同情アラントヲ望ミマス、ソレカラ其次ハ上越鐵道デゴザイマス、是ハ別ニ修正ハシマセヌ、即チ前ニ御手許ニ廻シマシタ建議案ノ通り、滿場一致ヲ以テ可決確定シマシタノデアリマス、是ハ曩ニ提出者ノ一人ノ武藤君ヨリモ御述ベニナッタ如ク、前々來ノ設計ハ百十哩ニシテ工費ガ三千万圓ト云フ巨大ナル額デアリマシタカラシテ、必要ノ線路デアリマスケレドモ、目下ノ經濟上之ヲ許サナイノデ、夫故ニ昨年改メテ設計ヲ爲シマシタノガ哩數ニ於テ十五哩ヲ短縮シ、工費ニ於テ約千万圓ヲ減シマシタ譯デ、其利當リハ殆ド二分ニ當ル、是ハドウモ北越及中部ノ聯絡上、最モ急ヲ要スル線路デアリマスカラ、是モドウゾ御同情ヲ以テマシテ通過セラレルヤウニ希望致シマス、モウ一ツハ信越河東線デアリマス、是ハ前ノ建議案ニ於キマシテ哩數ニ少々誤リガアリマシタカラ、當局者ノ説明ヲ要シテ前ニ六十九哩トアリマシタノヲ、七十九哩ト改メマシタ、ドウゾ是モ有利ナ線路デアリマスカラ、ソレ故ニ御同情ヲ得ンコトヲ望ミマス、委員長ニ代ッテ御報告ヲ致シマス

院議異議ナク二案トモ委員長ノ報告ヲ採用セリ即日政府ニ呈出ス

四 農家ノ副業ニ關スル建議案

農家ノ副業ヲ獎勵スルハ目下ノ急務ナリトス政府ハ須ラク相當ノ方法ヲ立テテ之カ實行ヲ期スヘシ右建議ス

二年三月一日井上角五郎君外八名提出、同月八日院議ニ付シ提出者(小出五郎君)ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

本員ハ農家ノ副業ニ關スル建議案提出者ノ一人トシテ説明致シマス、方今都市ノ繁昌スル割合ニ我農村ノ繁盛ガ之ニ伴ハヌ、又我國ガ古來農業國デアリニ拘ハラズ、商工業ノ發達スル割合ニ此農民ノ繁盛ト云フコトが伴ハナイノハ如何ナル理由デアルカ、種々ノ理由モゴザイマセウガ、吾々ノ最モ注意センケレバナラヌト考ヘマスルノハ、此農家ガ田畑ノ耕作ヲスルノニ、春夏秋冬絶エズ此田畑ノ耕作ヲシテ居ッテハ、ドウモ餘暇ガ生ズルノデアアル、ナゼ餘暇が生ズルカト云ヘバ氣候ノ關係モゴザイマセウ、又耕作ノ種類ニ依ッテ年中從事スルコトノ出來ナイ性質ノモノモゴザイマセウ、此餘暇ニドウスルカ、寒國ニ於テハ唯單ニ圍爐裡ニ火ヲ焚イテサウシテ暮シテ居ル、暑イ地方ニ於テハドウデアルト云ヘバ、午睡ヲシテ居ル、此ノ如キハ田畑耕作ノ農業ニハ甚ダ堪ヘラレヌデモアリマセウガ、此期間ヲ利用シテ副業ニ從事スル方法ヲ知ラナイカラデアラウト思ヒマス、無論副業モ今日マデ隨分行ハレテ居リマス、精覈ナル調査ハ分リマセウケレドモ、農商務省ノ大體ノ調べニ依リマシテモ侮ルベカラザル副業ノアルコトが見ラレテ居ル、即チ一年中ニ二億七百二十七萬餘圓ト云フモノガ、副業ニ依ッテ年々産出セラレテ居ルノデアリマス、是ガ充分ナル保護獎勵ノ方法ガ行ハレテ、而シテ是ダケノ産額ヲ得ラレテ居ルカト云ヘバ、從來ノ有様ハ決シテ左様ナ保護獎勵ハサレテ居ラヌノデアアル、ノミナラズ偶々保護獎勵ノ方法ヲ講ゼントスレバ、甚ダトンチンカンノ事ヲヤッテ居ル、即チ土地ノ狀況モ考ヘズ、氣候ノ状態モ考ヘズ、不適當ナル副業ヲ獎勵シテ大失敗ヲシタリ、若クハ原料ノ存在モ調査セズシテ濫リニ副業ノ獎勵ヲヤリカケテ居ル、是等ハ皆滑稽ニ了ッテ居ル位デアリマス、畢竟當局者ニ於テ充分副業ト云フコトニ付テモ調査セズ、又獎勵方法ニ充分ナル力ヲ盡サヌ結果デアラウト考ヘマス、私ハ此農産ヲ保護スル上ニ於テハ、普通ノ耕作ハ勿論デアルガ、副業ニ付テモ充分ナル注意ヲ拂フ必要アリト確信スルノデアリマス、即チ先ツ此副業ハ如何ナル性質ノモノカ、又ツレガ適當デアルカト云フコトニ付テ充分ナル調査ヲシテ、而シテ之ヲ適當ナル場所ニ向ッテ獎勵シ廣ク知ラシムルト云フコトノ途ヲ採ラナケレバナラヌト思フノミナラズ、唯ダ斯ウ云フ種類ノ副業ガアルカラ、オヤリナサイト云フギリデハイカヌト思ヒマス、相當ナル資本ヲ之ニ與フル方法モ講ジナケレバナラヌ、又相當

ナル資本ヲ與ヘ相當ナル機械ヲ與ヘ、相當ナル販賣ノコトヲモ親切ニ教ヘ、之ヲ助ケテイカナケレバナラヌト考
ヘルノデアリマス、是等ノ方法ニ付テハ遺憾ナガラ今日ハ充分ナル方法ガ行ハレテ居ラヌノデアリマス、故ニ本
案ハ政府ニ向ッテ此副業獎勵ニ關スルトコロノ相當ナル方法ヲ取ルベキコトニ努メラレンコトヲ建議スルモノデ
アリマス、尙ホ詳細ナル其獎勵ノ方法等ハ委員會ニ於テ精シク説明致シマス

次テ議長指名ノ委員ニ付託スルニ決シ議長ハ即日之ヲ指名ス委員ハ二月十日委員長及理事ノ互選
ヲ行ヒ審査ノ末本案ヲ可決シ二月十九日報告書ヲ議長ニ提出セリ
翌二十日續會ヲ開キ理事早速整爾君ハ委員長ニ代リ左ノ報告ヲ爲ス

委員會ノ經過竝ニ結果ヲ御報告致シマス、此建議案ノ趣旨トスルトコロハ、理由書中ニ最モ委シク掲ゲテゴ
ザイマスル、又過日當議場ニ於キマシテ提出者ヨリ委シク御説明ニ相成リマシタル通りテ、要スルニ農家經濟
ヲ助ケル爲メニ農村ノ疲弊ヲ救治スルタメニ、此農家ノ副業ヲ獎勵スルト云フコトハ今日ノ急務デアラカラ、
政府ハ相當ノ方法ヲ立テ、其獎勵ノ途ヲ調査シテ、此獎勵ノ方法ヲ全國ニ普及セシメヤウト云フノガ本建
議案ノ趣意デゴザイマス、洵ニ農家經濟ニ取リマシテ重要ナ問題ト認メマシテ、委員會ニ於キマシテハ相當ノ
審査ヲ致シマシタル結果、全會一致ヲ以テ本案ヲ可決致シマシタ、而シテ政府當局者ノ御意見ハ、ヤハリ本
案ノ趣旨トスルトコロニハ同意デアアル、相當ノ調査機關ニ依テ相當ノ方法ヲ立テラト云フコトノ意思ヲ表明
セラレタノデゴザイマスカラ、併セテ御報告申シテ置キマス

松田源治君贊成ヲ表セルノミニテ異議ナク本案ヲ採用セリ即日政府ニ呈出ス

五 臺灣ニ於ケル棉花栽培獎勵ニ關スル建議案

我カ邦紡績業ノ發達ニ伴ヒ棉花ノ需要ハ益多大ナルニ内地ニ於ケル產出ハ殆ト絶無ニシテ其ノ

大部分ハ之ヲ海外ノ供給ニ仰ケル爲我カ貿易上輸入超過ノ因ヲ爲スヤ歎シトセス幸ニ臺灣ノ地
タル最棉花ノ栽培ニ適シ獎勵宜キヲ得ハ同島ノ一大產物タルヲ得ヘキコト確然タルノミナラス
之ニ因リテ輸入超過ノ勢ヲ防止スルノ效大ナルモノアルヤ必セリ故ニ政府ハ同島ニ棉花ノ栽培
ヲ獎勵スルノ策ヲ取ラレムコトヲ望ム
右建議ス

二年二月一日井上篤太郎君提出、同月四日院議ニ付シ提出者ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

私ガ此本案ヲ提出致シマシタ希望ハ第一ニ連年打續イテ居リマス輸入ノ超過、此逆潮ヲ挽回シタイト云フ、
言葉ヲ換ヘテ申シマスレバ輸入ノ貿易ガ甚ダ不均衡ニナッテ居リマスカラ、ドウゾ此「バランス」ヲ取ルヤウニシ
タイト云フコト、ソレカラ第一ニハ御承知ノ通り内地ノ方デハ棉花ト云フモノハ今日殆ト耕作ヲシテ居リマセ
ヌ、ソレデハ内地ノ消費シテシマフカト申シマス、二億方圓以上ノ棉花ヲ輸入シテ參リマシテ、内
地ノ消費シテシマヒマスモノガ殆ト一億二千万圓ニ達シテ居ル、斯ノ如ク多數内地ノ消費致シテ居ルニ拘ラ
ズ、棉花ノ栽培ト云フコトハ少シモ計畫サレテ居ラヌ、幸ニ此臺灣朝鮮ト云フヤウナ棉花栽培ニ好適ノ所ガ
日本ノ領土ニ歸シマシタ以上ハ、此新領土ニ向ッテ棉花栽培ヲ獎勵スルト云フコトハ、國家經濟ノ上ニ於キ
マシテモ殖民政策ノ上ニ於テモ、甚ダ必要ナコトデアルト考ヘルノデゴザイマス、然ルニ前ニ申シマシタ如ク、僅ニ
朝鮮テ少シハカリ此施設ガシテアルダケデ、臺灣ニ於キマシテ何等施設モシテナイノデゴザイマスカラ、私ハ臺灣
ニ向ッテ是非共此棉花栽培獎勵ノ方法ヲ設ケタイト云フコトヲ、政府當局者ニ向ッテ請求致スノデゴザイマ
ス、ソレデハ之ニ付キマシテハイロク、統計モゴザイマスシ、長イ説明ヲシナケレバナリマセヌカラ、茲ニ其事ヲ認メ
テアルモノガアリマスカラ、議長ノ許可ヲ受ケマシテ速記録ニ載セテ御目ニ掛ケルコトニ致シマス、サウ云フ次第
デゴザイマスカラ、私ノ誠意ノアル所ヲ御諒察下サイマシテ、是非御贊成アラントヲ希望致シマス

質疑應答ノ後議長指名ノ委員ニ付託スルニ決シ議長ハ即日之ヲ指名ス委員ハ翌五日委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ノ末本案ニ修正ヲ加ヘ表題ヲ臺灣其ノ他ニ於ケル棉花栽培獎勵ニ關スル建議案ト改メ三月十九日報告書ヲ議長ニ提出セリ

(委員會報告書)

臺灣其ノ他ニ於ケル棉花栽培獎勵ニ關スル建議

我カ邦紡績業ノ發達ニ伴ヒ棉花ノ需要ハ益多大ナルニ内地ニ於ケル產出ハ殆ト絶無ニシテ其ノ大部分ハ之ヲ海外ノ供給ニ仰ケル爲我カ貿易上輸入超過ノ因ヲ爲スヤ尠シトセス幸ニ臺灣其ノ他最棉花ノ栽培ニ適スル方面ニ於テ獎勵ヲ加フレハ之ニ依テ輸入超過ノ勢ヲ防止スルノ效大ナルモノアルヤ必セリ故ニ政府ハ最善ノ方法ヲ以テ同島ニ棉花ノ栽培ヲ獎勵スルト共ニ其ノ他有望ノ土地ニ於テモ獎勵擴張ノ策ヲ取ラレムコトヲ望ム

右建議ス

翌二十日續會ヲ開キ委員長田邊熊一君ハ左ノ報告ヲ爲ス

本案ノ委員會ノ經過及結果ヲ簡單ニ御報告申上ゲマス、委員會ハ本案ガ貿易上經濟上、將タ産業上最も重要ノ關係ガアリマスル故、之ヲ審議致シマスルニハ極メテ鄭重ニ調査ヲ致シマシタ、政府委員ノ出席ヲ請ヒマシテ質問應答ヲ重ネマシタガ、尙直接ニ懇談折衝スルノ理由ヲ發見致シマシタガ故ニ、更ニ之ヲ三名ノ特別調査委員ヲ擧ゲマシテ、懇切ニ鄭重ニ政府委員ニ交渉致シマシタ次第アリマス、而シテ本案ハ臺灣ニ於テ棉花ノ栽培ヲ獎勵スルト云フノデゴザイマスケレドモ、當ニ臺灣ノミデハ満足スルコトガ出來得マセヌガ故ニ、

廣ク日本ノ領土内ニ於テ棉花ノ栽培ヲ獎勵シテ、以テ我國ノ現在棉花ノ輸入ガ二億万以上ノ多キニ上ツテ居リマスルガ故ニ、ソコテ幾部分デモ此海外輸入ヲ防ギタイト云フ趣意ヲ貫徹シタイト云フコトデゴザイマシテ、建議案ノ趣旨ニ修正ヲ加ヘマシタノデアリマス、其建議ノ修正案ハ既ニ諸君ノ御手許へ御配付ニナツテ居ルト思フノデアリマス、其修正ノ理由ハ唯今申上ゲマシタ通りデアリマスガ、今少シク時間ヲ頂戴致シマシテ其理由ヲ述ベテ置キタイト思ヒマス、近時我ガ紡績業ノ發達ハ著シク進ンテ參リマシテ、海外カラ棉花ヲ輸入スルコトニ億有餘圓ニ達シマスガ、遺憾ナカラ此海外カラ原料ヲ取リマシテ、更ニ是ニ加工製造致シマシテ海外ヘ輸出スルモノハ其半バニスラ至ラヌノデアリマス、ナカク、盛ニナリマシテ國家ノタメ喜ブベキコトデアリマスケレドモ、一億万ノ輸入ガアツテ、一億万サヘ出タイト云フ場合ニ於テハ、ヤハリ一億万輸入超過スルノデアリマス、今日ノ貿易上ニ於テ此點ヲ吾々ハ深ク憂ヘテ居ルノデアリマス、而シテ紡績業ハ如何ニ發展致シマシテモ、海外ヘ原料ヲ仰イデヤラナケレバナラヌト云フコトデアツテハ、未ダ以テ我工業ノ基礎ガ確立シタトハ斷言スルコトガ出來ナイノデアリマス、故ニ國家經濟上産業上ノ發達上カラ見マシテモ、ドウシテモ我領土内ニ於テ棉花ヲ尙一層獎勵スル必要ヲ感シタノデアリマス、此理由ヲ有テマシテ當ニ臺灣ノミデハ満足ガ出來マセヌガ故ニ、有望ナル朝鮮其他ニ於テモ、政府ハ適當ナル獎勵方法ヲ設ケテ一段ノ發達ヲ劃スルト云フコトヲ望ムノデアリマス、政府モ最善最良ノ方法ヲ以テマシテ、本建議案ガ通過致シマスル以上ハ、此趣意ヲ尊重致シマシテ、一日モ早ク議會ノ要求ニ應ジタイト云フ政府委員ノ同意ヲ得タノデアリマス、斯ノ如キ問題デアリマスガ故ニ、我國家産業ノ百年ノ大長計ヲ立ツル意味ニ於テ、滿場諸君ノ御贊成ヲ得タイト思フノデアリマス

松田源治君贊成ヲ表セルノミニテ異議ナク修正案ヲ採用セリ即日政府ニ呈出ス

六 立憲思想養成ニ關スル建議案

政府ハ全國ノ公私立諸學校ニ訓令シ毎年紀元節ノ式日ニ於テ在來ノ如ク建國ノ大典ヲ記念スルト同時ニ明治二十二年二月十一日憲法發布ノ大典ヲモ記念セシムルカ爲舉式中必ス憲法發布ノ勅語

ヲ朗讀セシメ竝其ノ御趣旨ニ副フヘキ訓話ヲ爲サシメ以テ立憲思想ノ養成ヲ普カラシメムコトヲ望ム
右建議ス

二年三月四日石橋爲之助君提出、同月八日院議ニ付シ提出者ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

本建議案ノ趣意ハ毎年紀元節ノ式日ニ、全國ノ各學校テ此建國ノ大典ヲ紀念スルト同時ニ、明治二十二
年二月十一日御發布ニナリマシタトコロノ憲法發布ノ大典ヲモ紀念セシムルタメニ、此式日ノ式ノ間ニ必ズ
憲法發布ノ勅語ヲ朗讀セシメテ、其趣旨ニ適フトコロノ訓話ヲ爲サシムルヤウニ、政府ガ全國ノ各學校ニ訓
令セラレンコトヲ望ムト云フ趣意デアリマス、帝國憲法ハ他國ノ例ニ見ルガ如ク革命ノ結果デナクシテ、流血ノ
慘ヲ見ルガ如キ不祥ノ事實ナクシテ、先帝陛下ガ吾々國民ニ下シ賜ハリタルトコロノ有難キ千載不磨ノ大
典デアリマス、然ルニ國民一般ハ自ラ他國ノ例ニ見ルガ如キ、自ラ其革命ヲ運動シテ得タ結果デアリマセヌコ
トノタメニ、折角斯ノ如キ有難キ憲法ヲ戴キナガラ、其有難味ヲ感ズル念ノ比較的薄イト云フヤウナコトハ、實
際ニ吾々ノ見受ケルトコロノ例デアリマス、ドウシテモ此憲法政治ヲ完備セシメマスニハ、國民一般ニ此立憲ノ
思想ヲ普及セシムルト云フコトガ最モ根本的ニ必要デアリマス、ソレ故ニ今後ハ斯ウ云フ風ニ全國諸學校ニ
於テ、兒童ニ學生ニ其趣意ヲ吹込ムト云フコトヲ努メラル、ヤウニセンコトヲ希望スル譯デアリマス、斯ウ云フコ
トハ別段訓令致サズトモ、今日ノ教育者ハ既ニ實行スベキ管トハ存ズルノデス、併シ今日マデサウ云フ實例ヲ
餘リ見受ケマセヌノハ、教育者ガ氣ガ弱クシテ少シデモ在來ノ習慣ニ違ツタトコロノコトヲナセバ、ドウ云フ答メ
ヲ受ケルカモ知レヌト云フヤウナ、サウ云フ要ラザル心配ヲシテ爲サヌモノガ多數ニアルノデハナイカト考ヘマス、
故ニ政府ハ積極的ニ此式日ニハ、斯ノ如クナスベシト云フ訓令ヲ發セラレマシタナラ、帝國ノ教育者ハ其旨ヲ
奉ジテ、必ズ此立憲思想ヲ養成ト云フコトニ段々力ヲ盡スコトガ多クナルデアラウト信ズルノデアリマス、故ニ此
案ヲ提出致シマシタノデ、願クハ諸君ノ御贊成アラントコトヲ希望致シマス

次テ議長指名ノ委員ニ付託スルニ決シ議長ハ即日之ヲ指名ス委員ハ二月十日委員長及理事ノ互選

ヲ行ヒ審査ノ末本案ヲ可決シ即日報告書ヲ議長ニ提出セリ
翌十一日續會ヲ開キ委員長石橋爲之助君ハ左ノ報告ヲ爲ス

本案ノ委員會ハ一名ノ異論者ナク、政府ニ於テモ其趣旨ニ大贊成デアリマシテ、數回問答ヲ重ネマシタ、中
ニ政府委員ノ言明セラレタル所ノ大要ハ、此精神ハ既ニ實行シツ、アルトコロノコトデ、教科書ノ中ニモ立憲
思想ノ養成ニナルヤウナ事項ヲ澤山ニ加ヘテアルヤウナ次第アルカラ、殊ニ昨年ノ議會ニハ此建議案ト同一
ノ趣旨ニ依テ質問モ受ケタカラシテ、爾來研究中デアルノデ、最モ此趣意ニ對シテハ贊成ヲ表スルノデアルト
云フコトデアリマシタ、其故ニ願クハ來年ノ紀元節ニ實行ノ間ニ合フヤウニ速ニ其方法ノ點ヲ研究シテ、早ク
其效果ヲ現ハサレンコトヲ望ムト云フコトヲ申シマシテ、其意ヲ政府ニ於テモ諒トセラレタ譯デアリマス、斯ク致
シマシテ滿場一致ヲ以テハ可決致シタノデゴザイマス

院議異議ナク本案ヲ採用セリ即日政府ニ呈出ス

七 新潟縣築港速成ニ關スル建議案

新潟港ハ日本海岸ニ於テ最古キ歴史ヲ有シ所謂五港ノ一ナルニモ拘ラス其ノ實之ニ適ハサルハ
信濃川河口ニ於ケル土砂ノ堆積セルカ爲ナリシモ今ヤ其ノ河口改修工事追々進捗シ加之浚渫船
ヲ使用セシ以來河口ノ深度平均十數尺ヲ保ツニ到レリ而シテ大河津分水工事ノ竣工セシ曉ニハ
必スヤ二十五尺以上三十尺ノ深度ヲ保ツヘキハ當路者ノ言明スル所ナリ然リト雖猶實際ニ於テ
良港タラシメムトセハ當ニ河口改修ヲ以テ足レリトスヘキニ非ス必スヤ充分ナル築港ノ設備ヲ
爲ササルヘカラス、特ニ露國カ旅順、大連ヲ失ヒ今ヤ浦鹽港ニ全力ヲ傾注スルノ時ニ當リ其ノ對

岸ニシテ最近距離ナル新潟港ヲシテ名實相伴フコトヲ得セシムルハ露國ハ勿論歐洲トノ交通並
貿易上喫緊ノ事項ナリトス、況ヤ新潟縣ニハ陸上ノ設備トシテ米穀ノ産出一箇年二百五十萬石
餘、石油ノ産額ハ今ヤ日進月歩ノ好運ニ際會シ到底鐵道ノ運搬力ヲ以テ輸出シ得サルノ好況ニ
在リ、又一面交通機關トシテハ岩越線羽越線ハ漸次工ヲ進メ以テ益新潟築港ノ急ヲ促スニ至レ
リ故ニ政府ハ直ニ案ヲ立テ可成速ニ工事ニ著手スルノ運ニ至ラシメムコトヲ望ム
右建議ス

二年三月五日若杉喜三郎君外四名提出、同月八日院議ニ付シ提出者(若杉喜三郎君)ハ左ノ如ク趣
旨ヲ辯明セリ

極メテ簡單ニ本案提出ノ理由ヲ申上ゲマス、新潟港ハ日本海岸ニ於キマシテ最モ古キ歴史ヲ有シ、所謂五
港ノ一デアリマスニモ拘ハラズ、其ノ實之ニ適シマセヌハ信濃川河口ニ於ケル土砂ニ基キマスルデアリマス、
然ルニ今ハ河口改修工事モ既ニ進捗致シマシタ、加之浚渫船ヲ使用致シマシテカラ此方ト云フモノハ、深度
ハ平均十數尺ヲ保ツコトニ相成リマシタノミナラス、數年後ニ至リマシテ大津分水工事が竣工ヲ告ゲマシタ
曉ニハ、必ズヤ二十五尺乃至三十尺ノ深度ヲ保チ得ルデアラウト云フコトハ、當局者モ言明シテ居ルコトデア
リマス、併ナガラ是ハ唯河口改修工事テ、決シテ港デハナイノデスカラ、港ヲ成スニハ未ダ更ニ幾多ノ費用ヲ要
スルデアリマス、眼ヲ轉シテ露國ノ方ヲ見マスルト、日露戰爭ノ結果トシマシテ露國ハ旅順大連ヲ失ヒマシテ
以來ト云フモノハ、浦鹽斯德ノ經營ニ全力ヲ傾注シテ居ル有様デアリマス、然ルニ我日本ハ對岸ニ條約ニア
ルトコロノ五港ノ一ナル新潟港ヲ有シナガラ、其設備ハ何等シタコトガナイデアリマス、然ルニ新潟附近ハ御

承知ノ如ク陸上ノ設備ニハ殆ド申分ナイ位ニ、米穀ノ産出ハ一箇年二百五十萬乃至二百萬石近クモ出
來ルデアリマス、石油ノ産額モ今ヤ日進月歩ノ好運ニ際會シテ居リマシテ、到底鐵道ノ運搬力ヲ以テ之ヲ
輸出シ得ザルノ好況デアルデアリマス、又一面交通機關トシテハ、岩越線、羽越線、其他越後鐵道ナドモ漸
次工ヲ進メテ來マシテ、益、新潟港ノ設備ヲシテ急ナラシムル譯デアリマス、ドウツ提出ノ理由ハ斯ノ如キ次第
デアリマスルカラ、何卒此意味ヲ御諒察下サリマシテ御贊成アランコトヲ乞ヒマス

次テ議長指名ノ委員ニ付託スルニ決シ議長ハ即日之ヲ指名ス委員ハ三月十日委員長及理事ノ互選
ヲ行ヒ審査ノ末本案ヲ可決シ即日報告書ヲ議長ニ提出セリ

三月十二日續會ヲ開キ委員長若杉喜三郎君ハ左ノ報告ヲ爲ス

委員會ノ經過ヲ御報告申上ゲマス、委員會ニテハ委員諸君ヨリ詳細ナル質問ヲ發セラレマシタ、政府委員モ
之ニ對シテ懇切ナル答辯ヲ與ヘラレマシタ、而シテ其内容テヨト摘シテ申上ゲマスレバ、港灣調査會ニ於キマ
シテ全國ヲ通シテ約七百箇所ノ港灣ヲ調査致シマシタ、其中全部國庫ヲ設備スベキ港、即チ所謂國港トモ
稱スベキモノガ二箇所アリマス、其他地方ガ主トナツテ港灣ヲ設備シタ場合ニハ、政府ハ之ニ補助ヲ與フベキモ
ノニシテ、所謂地方港ト稱スベキモノガ十四箇所アルノデス、而シテ新潟港ハ即チ其一ツニ編入セラレテアル、
最モ大津分水工事が竣工シナケレバ何ヲ爲スモ成績ヲ見ルコトガ出來マセヌカラ、河口改修工事ノ中ニ多
少築港ニ便宜ヲ與フルト云フヤウナ意味ヲ含蓄シテアルデアリマス、併ナガラ未ダ具體的ノ設計ハシテ居ラヌ
ト云フコトデアリマス、故ニ大津分水工事が竣工ル日ヲ蹊ッテ更ニ方法ヲ講ズルヨリ外ハナイト言ッテ居ラレ、
右ノ如キ政府ノ意見モ新潟築港ノ必要ヲ認メテ居リマス、大津分水工事は共ニ河口改修工事をスルト云
フコトヲ明言セラレテ居リマスカラ、委員會ハ滿場一致ヲ以テ本案ヲ可決致シマシタ、此段御報告申上ゲテ
置キマス、同時ニ提出者ノ一人トシテ何卒此案ヲ御贊成ヲ希望致シマス

松田源治君贊成ヲ表セルノミニテ異議ナク本案ヲ採用セリ即日政府ニ呈出ス

八 武相横斷鐵道急設ニ關スル建議案

東京府下大崎驛ヨリ分岐シ東海道線松田驛ニ達スヘキ鐵道ハ交通上及土地開發上極メテ重要ナル線路ニシテ其ノ急設ヲ要スル甚切ナルモノアリ故ニ政府ハ速ニ調査ヲ遂ケ相當ノ措置ヲ爲スヘシ右建議ス

二年三月五日井上篤太郎君外二名提出、同月八日本案ヲ院議ニ付シ提出者(井上篤太郎君)ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

本案提出ノ理由ヲ簡單ニ申述ベマス、此鐵道ハ府下大崎驛カラ東海道ノ松田ヘ拔ケマス鐵道デゴザイマス、其沿道ハ武藏國橘樹郡、都筑郡、相模國高座郡、愛甲郡中郡之ヲ經マシテ足柄上郡ノ今ノ松田驛ヘ拔ケマスノデアリマスノデアリマスカラ、此線路ヲ繪圖ニ描イテ見マスルト、丁度唯今ノ東海道ノ官線ガ弓ナリニナッテ松田ヘ參ッテ居ルトコロヘ、丁度弦ヲ張ツタヤウナ眞直ナ鐵道ニナルデアリマス、松田マデハ新橋カラ參ルト、タシカ五十二哩餘アルト思ヒマスガ、此鐵道ガ出來マスルト新橋カラ品川ヲ入リマシテ大崎ヘ參リマシテ、大崎カラ分岐シテ參リマス、丁度四十哩程ノ間ニ合フコトニナリマス、丁度十三哩程近クナリマス、サウシテ此地方カラ出來マス物産ハ養蠶ノ非常ニ盛ナ所デゴザイマスルカラ、蠶ノ繭生絲之ヲ第一ト致シマス、ソレカラ、米、麥、雜穀、薪炭、木材、煙草、斯ウ云フ風ナ產物ガ澤山ゴザイマス、ソレカラ又之ニ入リマスル貨物ト致シマスルト、肥料ヲ始メト致シマシテ、日用品トシマシテハ種々ノ雜貨ガ輸入サレテ來ルノデ、此鐵道ガ出來マスルト此地方ノ開發ノ上ニ於テハ非常ナ利益ガゴザイマス、ソレカラ交通ノ上ニ於テハドウカト云フコトヲ調ベテ見マスルト、交通ノ上ニ於キマシテハ、今申上ゲマシタ通り東海道廻リヲ致シマスヨリモ僅ノ間デ、十二哩モ近クナル其上ニ此線路ハ彼ノ大山詣、富士詣、道了詣等一年間ニハ二十万乃至三十万ト云フ多大ノ參詣人ノ出

テ參リマスル最モ捷徑トナッテ、此人々ニモ非常ナ便宜ヲ與ヘルノデゴザイマス、ソレカラモウ一ツ近キ將來ニ於テ東海道ガ廣軌鐵道ニナッテ、熱海ヲ迂迴シテ參リマスルト云フコトニナリマスルト、國府津カラ沼津マデノ間ノ唯今ノアノ線路隧道ノ多イ線路、アノ線路ハ全ク閑却サレルコトニナル、此閑却サレタ線路ニハアナタ方モ御承知ノ通り、一ツノ工場デ一箇年ノ産額一千二百萬圓位製造スル所モアリマス、又其會社ハ一箇年ニ十萬圓以上ノ賃金ヲ拂フモノモアリマス、ソレカラ富士詣ノ上下ヲ致シマス、御殿場驛、佐野驛ト云フヤウナ澤山ナ客ヲ吞吐スル停車場モアルデアリマス、此閑却サレタ東海道ノ舊イ線路ト云フモノト、丁度是トガ結付キマシテ、非常ニ困却サレベキ棄ラレルベキ線路ヲ活カシテ來ルコトニナリマスカラ、鐵道院ノ收入トシテモ十分利益ナ線路ニナラウト考ヘマス、斯カル次第デアリマスカラ、ドウゾ御贊成アラントヲ希望致シマス

次テ議長指名ノ委員ニ付託スルニ決シ議長ハ即日之ヲ指名ス委員ハ三月十日委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ノ末本案ヲ可決シ三月十七日報告書ヲ議長ニ提出セリ

三月二十日續會ヲ開キ委員長井上篤太郎君ハ左ノ報告ヲ爲ス

極メテ簡單ニ委員會ノ經過ヲ御報告申上ゲマス、委員會ハ本月ノ十日及十七日ニ一回開キマシテ、慎重ニ審査ヲ致シマシタ、當局者トシマシテハ平井鐵道副總裁、水越陸軍大臣、岡陸軍次官、是ダケガ出席サレマシタ、鐵道院側ノ意見ト致シマシテハ別ニ反對ハシナイガ、サリナガラ一年二年ノ間ニ之ガ出來得ルモノデアルカト云フコトハ分ラナイ、斯ウ云フ意味ノコトヲ漏シテ居ラレマシタ、陸軍側ノ答ト致シマシテハ、本鐵道ハ軍事上戰時及平時共ニ必要ナ線アルカラ、大ニ贊成スルト云フコトヲ言明サレマシタ、委員會ハ全會一致ヲ以テ之ヲ可決致シマシテゴザイマス、左様御承知ヲ願ヒマス、私ハ此提案者ノ一人ト致シマシテ滿場一致ヲ以テ此案ガ可決サレンコトヲ切ニ希望致シマス

松田源治君贊成ヲ表セルノミニテ異議ナク本案ヲ採用セリ即日政府ニ呈出ス

九 小柳津式農法ニ關スル建議案

小柳津式農法(天理農法)ハ愛知縣人小柳津勝五郎ノ發明ニ係リ明治四十年以來千葉、茨城、埼玉、東京、巖手、宮城、靜岡、神奈川、愛媛、熊本、新潟等各府縣ノ一部ニ行ハレ之ヲ米麥作其ノ他ノ農作ニ施シテ頗ル見ルヘキノ成績ヲ舉ケツツアリ該農法ハ未タ以テ完全ナル良法ニハ非サルヘシト雖特殊ナル肥料ノ製法ヲ首メ播種耕作ノ方法等著シク在來ノ方法ニ異ナレルモノアリ之カ取捨ト經營ノ方法ヲ誤ラサルニ於テハ在來ノ方法ニ勝ルノ結果ヲ舉ケ依テ以テ農作物ヲシテ多大ノ增收ヲ告ケシメ延テ本邦ノ農界ニ一新生面ヲ開クヲ得ヘシ故ニ該農法ニ關スル實際ノ試驗ヲ行ヒ以テ其ノ可否ヲ斷定シ果シテ相當ノ成績ヲ見ルニ於テハ須ク之ヲ獎勵シテ其ノ普及ヲ謀ルヘキナリ而シテ該農法ノ如キ特殊ノモノニ在リテハ當ニ試驗ノ方法ヲ誤ラサルニ止ラス誠實ト熱心ヲ以テ事ニ當ラサルヘカラス從テ之ヲ發明者或ハ發明者ニ準スヘキモノニ一任シ政府ハ爲ニ相當ノ費用ヲ支給スルノ策ヲ執ラレムコトヲ望ム

右建議ス

二年三月六日小西和君提出、同月八日院議ニ付シ提出者ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

此小柳津式農法ニ關スル建議案ノ要點ハ、一倍若クハ二倍以上ノ收穫カアル模様ニ見エマストコロノ改良農法デアリマス、其農法ニ對シテ果シテ宜イモノデアアルカ、果シテ宜イモノデアアルカト云フコトヲ試驗致スルニ、發明者又ハ發明者ニ準ズベキ者ニ向ツテ、相當ノ費用ヲ政府カラ支出シテ費ヒタイト云フ希望ナリデアリマス、固ヨリ政治的ノ大問題デアリマセヌケレドモ、我日本ノ人口ノ過半ヲ占メ、サウシテ我國產ノ重大ナル部分ヲ占メテ居ルトコロノ農作物、此二ツニ對スル未曾有ノ重大問題タルヲ失ハナイノデアリマス、申マデモナク農家ハ夙夜孜々罷勉致シテ、一合ノ米一本ノ大根タリトモ澤山ニ穫リタイト努メテ居リマス、政府ノ當局者或ハ農學者其他ノ人々モ農業ノ改良進步發達ニ付テハ、相當ノ注意研究ヲ致シテ居リマス、而モ未ダ經濟ヲ度外視セナイ範圍ニ於テ、一二割位ノ增收ヲスラモ期スルコトガ出來ナイト云フヤウナ状態ニアルノデアリマス、此時ニ當ツテ小柳津式農法ノ發明ガアツタト云フコトハ、免ニ毛角ニモ我國ノ農業上誠ニ喜ブベキ現象デアルト存ジマス、新聞紙ノ傳フルトコロニ依レバ發明者小柳津勝五郎翁ハ、一昨六日逝去サレタサウデアリマス、誠ニ愁傷ニ堪ヘナイ次第デゴザイマスケレドモ、此發明者ガ殘シタ所ノ改良農法ハ今後益々其光ヲ放チ、サウシテ國家ニ大ナル貢獻ヲスルト云フコトハ、必ズシモ期シ難イコトデアリト思ウテ居リマス、此方法ハ薰炭肥料ト唱ヘル所ノ特種ノ肥料ニ、ソレニ所謂小柳津式ノ耕作法ト云フ特種ノ耕作法ヲ施シテ、而モソレガ極メテ輕便デアル、極メテ簡單ナ方法デアアルニモ拘ラズ、優ニ二倍以上ノ增收ガ得ラル、ト云フヤウナ次第デアリマシテ、未ダ以テ理想的ノ方法トハ申シ難イトハ致シマシテモ、少クトモ唯今マデニ見ルコトノ出來ナカッタ一種ノ新シイ方法タルヲ失ハナイノデアリマス、此新シイモノニハ免角害ガ伴ヒ易イノデアリマシテ、御承知ノ石灰ノ肥料トシテ用ヒマス如キハ、土地ニ對シテ或ル障害ヲ殘シマスルタメニ、容易ニ之ヲ推獎スルコトハ出來マセヌガ、此薰炭肥料ノ如キハ決シテサウ云フ心配ハナイノデアリマス、現在此農法ヲ實地ニ行ツテ居リマスルモノハ、關東方面、東北地方ト東海道、四國、九州方面ノ一部分ニ行ハレテ居ルノデアリマス、何レモ相當ノ成績ヲ舉ゲテ居ルヤウデアリマスルガ、此農法ニ對シテ農商務省ノ一部ノ人々及一部ノ農學者其他ニ反對ノ聲ヲ放ツ者ガアリマシテ、此農法ノ普及ヲ阻害スルヤウニ見エルノデアリマス、而モ追々ニ發達シツ、アリマスルガ、是ガタメニ農家ハ果シテ之ヲ採用シテ宜イノカドウデアアルカト云フコトニ迷ウテ居ル者ガ少クナイノデアリマス、故ニ此際ニ果シテ宜イモノデアアルカ否ヤト云フコトヲ試驗致シテ、實際之ヲ獎勵シ普及シテ宜イモノトナリマシタナラバ、須ラク其實行ニ努メラレシコトヲ望ムノデアリマシテ、是ガ愈々立派ナモノデアアル、サウシテ全國ニ普及スルト云フコトニナツタナラバ、喧シイ食物問題是等ハ容易ニ解決出來マスシ、又日本ノ國家經濟ノ上ニ大ナル利益ヲ與ヘ、農村ノ疲弊ヲ恢復スルノミナラズ、更ニ農村ヲシテ發達セシメ農家ニ幸福ヲ與ヘ、サウシテ國家ヲ富強ナ

ラシムルニ於テ大ナル效果ガアルコトヲ信ジマス、要スルニ此農法ハ我農業社會ニ一新生面ヲ開クモノタルコトヲ疑ヒマセヌ、是レ本案ヲ提出スル理由デアリマス

次テ農家ノ副業ニ關スル建議案ノ委員ニ付託スルニ決ス委員ハ其ノ審査ニ著手シタルモ終ニ報告ヲ經ルニ至ラス

一〇 東方調査局設置ニ關スル建議案

東方ノ國情調査ニ關スル特別機關ヲ設ケ在朝在野ヲ問ハス廣ク其ノ事情ニ精通セル人士ヲ集メ完全ナル調査機關ヲ設ケ以テ我カ國對東方政策ノ根底ヲ確立セムコトヲ望ム
右建議ス

二年三月十日伊東知也君提出、二月二十一日院議ニ付シ(三月十八日ハ提出者ノ請求ニ依リ延期ス)提出者ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

東方調査局設置ニ關スル建議案ヲ私ヨリ提出致シマシタ、簡單ニ其理由ヲ述ベヤウト思ヒマス、東方ト申シマスルト、支那ヲ中心ト致シマシテ北ハ西伯利亞南ハ海峽殖民地及南洋諸島ニ至ル、亞細亞洲ノ過半ヲ含ンダ意味デアゴザイマス、賢明ナル諸君ニ對シテ喋々ト其必要ナル理由ヲ申述ベルマデモナイコトデアリマスガ、將來我國ノ根本問題ヨリシテ、東方ノ調査ト云フコトハ是非トモ出來得ル限リノ力ヲ揮フテヤラナケレバナラヌコトデアルト私ハ考ヘル、政府ニモツレ、外務省ナリ其他イロ、機關ガ設ケラレテゴザイマセウガ、私ガ何十年ノ間支那其他西伯利亞地方及南洋諸島ヲ放浪致シマシタ結果、ツレ等ヨリ考ヘテ見マスルト、是マデモサウデアアル、現在モサウデアアル、政府ノヤリ方ト云フモノハ殆ド成ツテ居ラヌト斷言スルコトヲ憚ラヌデア

ル、諸君、重モナル一二ノ實例ヲ擧ゲテ諸君ノ御清聴ヲ煩シタイト思フ、彼ノ日露戰爭以前ノ露西亞ガ東清鐵道ヲ架ケルト云フ其當時ハ、露西亞ノ鐵道ト云フモノハ「ストロチエンスク」マデ、其途中カラ分岐シテ旅順大連ノ方ニ來ルト云フ計畫ガ明カニナツテ居ルニモ拘ラズ、日本ノ外務省其他ノ當局者ハ何處カラ岐カレルノカ、ドウ云フ方法ニ依ツテ鐵道ヲ架ケルノカト云フコトハ、殆ド五里霧中デアッタノデゴザイマス、其當時私ハ西伯利亞ノ「ブラゴエチエンスク」ニ居ツテ、吾々同志ノ者トイロ、研究シテ當局者ニ報告シタコトガアル、其證據モ持ツテ居ル、又彼ノ現在ニ於テ露西亞ハ東方經營ノ根據地トシテ、尤モ有名ナル哈爾濱市街ノ建設ニ著手シテ、殆ド過半出來上リカ、ツタニモ拘ラズ、日本政府ト云フモノハソレスラ知ラナカッタデアアル、是モ吾々同志ノ一人ガ偶然ニモ滿洲ヲ旅行シテ、其處ニ行キ會ヒ、驚イテ之ヲ當局者ニ報知シタ實例ガアル、是ハ現ニ私共彼ノ地ニ參リマシテ、現在ノ總領事本多熊太郎君ガ現ニ證明サレタ所デアリマス、斯ノ如ク北方ニ於テ露西亞ノ施設露西亞ノ設備ハ著々歩ヲ進メルニモ拘ラズ、其當時ノ政府ノ措置ト云フモノハ殆ド調査モ何ニモ實行セラレテ居ラヌノデゴザイマス、露西亞ハ其當時ヨリ滿洲里ト云フ一冊ノ本ニモ、調査ニ調査ヲ重ネテ、一部ノ本ヲ拵ヘルニモ二十萬圓ト云フ大金ヲ費シテ五六年モカ、ツテ、或ハ技師ヲ送り、專門家其他ノ學者政治家ヲ滿洲地方ニ差遣シテ、調査ニ調査ヲ重ネテ一部ノ本ニ三十萬圓モカケテ作ツテ居ル、是ハ私ガ諸君ニ向ツテ證明スルマデモナク諸君モ既ニ御承知ノコトデアラウト思フ、北方ハ斯ノ如キ有様デアッタガ、幸ヒニシテ日露戰爭ハ我國民ノ忠勇ナル活動ニ依テ勝利ヲ得マシタガ、同等ノ人種トデアッタナラバドウデアッタカト、實ニ私ハ今更杞憂ニ堪ヘナイデアアル、北方ニ於テモ然リ、又支那ニ於ケル所ノ領事館外務省ナドノ働キト云フモノハ、實ニ鈍イモノデアツテ、殆ド調査機關ナドハ成ツテ居ラヌト私ハ斷言スルヲ憚ラヌデアアル、私ハ七八年間南清方面ニ居リマシタガ、而モ日本人ナドノ餘リ行カナイ地方ニ往ツテ、領事館ノ在ル地方ニ出テ來ルト、領事館ノ先生達ハ非常ニ悅ンテ歡迎シテ、ドウカ何カ面白イコトハナイカ聞カシテ呉レ、或ハドウ云フ方面ハドウ云フ地理ニナツテ居ルカ、何ハドウ流レテ居ルカ、山ハドウナツテ居ルカ、サウ云フヤウナ事マデモ領事館ノ先生ガ私共ノヤウナ旅行者ニ尋ネテ、ソレヲ一ノ材料トシテ、ソレヲ唯一ノ報告書類トシテ本省ニ送ツテ居ル、本省ハ之ヲ通商彙纂ト云フモノニ麗々シク記載スル、餘リ滑稽デアルカラ惡戯半分ニ二三嘘ノ事ヲ教ヘテヤッタラ、ソレヲヤハリ麗々シク事實トシテ出シテ居ル實ニ斯ノ如キ滑稽ナコトガ幾ラモアル、實ニドウモ私

ハ國家百年ノ爲メニ憂ヘルノテアル、又支那ノ調査ナドハ今申シタ通り其實例ヲ擧ゲタラバ、幾ラ饒舌ッテモ限リガナイノテアル、而モ支那以南——南方ニ向ッテノ有様ハドウデアアル、最モ諸君モ近頃必要ト認メテ居ルトコロノ、有利有望ト唱ヘテ居ル彼ノ護謨事業、南洋ノ護謨栽培事業、彼ノ護謨栽培事業ノ如キモ、外務省其他農商務省ナドモ殆ド等閑ニ附シ去ッテ居ッタデアリマス、ソレヲヤハリ私共ノ仲間ノ一人ガ新嘉坡ノ方ニ往ッテ、護謨栽培事業ノ實ニ有利ナルコトヲ發見シ、サウシテ資本家ヲ募ッテ之ニ著手シタデアリマス、是ガ日本ニ於ケル護謨栽培事業ノ嚆矢デアリマス、サウ云フヤウナ工合ニ又安南東京地方ニ於テハ、或ハ米ノ栽培デアルトカ、或ハ馬尼拉ノ「ローブ」ノ原料タル判ノ草ガアル、ソレ等ハ非常ニ野生ガ多クテ、ソレヲ以テ繩ナドヲ造レバ非常ニ有利ナ事業デアル、サウ云フ事ハ一向外務省ナドモ氣ガ附イテ居ラヌ、調べテモ居ナイノデアル、ソレモヤハリ民間有志私共ノ友人ノ一人ガ發見シテ、其事ニ現ニ著手シツ、アルノデアリマス、精シク言フナラバ、其事業及ヒ其人ノ名前ヲ申述ベテモ宜イノデスガ、私ハ省略シテ申上ゲマセヌ、サウ云フ工合ニ事々物々、又北方デモ南方デモ——政府ハ北方ニ於テハ日露協約ガアリ、南方ニ於テハ日佛協約ガアルカラシテ、種々雜多ナル所謂實業的方面ニ於ケル便宜ヲ得ラレルニ相違ナイノデアルガ、事實ハ是ト反對デアッテ、現ニ安南地方ニ於ケル事業ノ如キハ佛蘭西政廳ノ爲メニ幾多ノ迫害ヲ受ケテ居ルノデアル、而モ其當地佛蘭西ノ居留民ハイロ／＼ノ實業家其他ノ連中ハ非常ニ同情シ、非常ニ驩迎シテ、是非共其事業ヲ共同シテヤラウト云フコトヲ申込デ、共同事業ヲヤッテ居ルモノアリマスガ、佛蘭西政廳ガ之ニ妨害ヲ加ヘルヤウナ態度ハ、日佛協約ニ依テ完全ニサウ云フコトハ取除ケラレテ居ラナケレバナラヌニ拘ラズ、幾多ノ障礙幾多ノ妨害ト云フ日佛協約ニ背反シタルヤウナコトガ出來ルノデアアル、又日英同盟ト云フ非常ニ我國外交上ノ基礎ヲ爲スヤウナコトガアリマスルガ、南清地方ニ於テ日英同盟ノ實ト云フモノハ果シテ備ハッテ居ルカドウカ、厦門汕頭或ハ福州其他ノ地方ニ於テ、英吉利ノ商人ト日本ノ商人ト云フモノハ、詰ラヌ所ニ衝突ヲシテ常ニ背馳シタル行動ヲ執ッテ居ル、日英同盟ノ有様ナント云フモノハ、南清地方ノ内部ニ於テハ到底見ルコトノ出來ナイ有様ニナッテ居ル、之ヲ要スルニ畢竟皆政府ノ調査機關ガ不備不完ノ失態デアルト私ハ信ズルノデアリマス、或ハ陸軍省デアルトカ、或ハ農商務省デアルトカ、或ハ外務省其他諸省ガソレ／＼多少ノ調査方法ハヤッテ居ララシイ、ヤッテ居ラセウガ、其機關ト云フモノガ不備デアッテ少シモ役ニ立タヌヤウナ報告ハカリヤッテ居ル、

而モ其報告タルヤ區々デアッテ、陸軍省ハ陸軍省ノ報告ヲスル、外務省ハ外務省ノ報告ヲスル、農商務省ハ農商務省ノ報告ヲスルト云フヤウニ區々ニナッテ、孰レニ付テ宜イカト云フコトハ殆ド判斷ニ苦ムヤウナ次第デアリマス、申スマデモナク今後我國ノ國是トシテ、我國立國ノ基礎トシテ、ドウシテデモ此亞細亞問題ト云フモノニ全力ヲ注ガナケレバナラヌト云フコトハ、諸君ニ向ッテ申上ゲル必要モナイコトデアリマス、ソレデ今日大ニ經費ヲ節減シテ國民ノ負擔ヲ輕クスルヤウナ場合デアリマスルガ、此問題ダケハ、如何ニ他ノ方デ儉約シテモ、是非共此際完全ナル調査機關ヲ設ケテ、朝野ノ人士ヲ網羅シテ調査局ナルモノヲ設置セラレンコトヲ、私ハ最モ急務ナリトシテ政府ニ建議スル次第デゴザイマス、願クバ賢明ナル諸君ノ充分御賛成アラントヲ希望致シマス

次テ議長指名ノ委員ニ付託スルニ決シ議長ハ即日之ヲ指名ス委員ハ三月二十四日委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ノ末本案ニ修正ヲ加ヘ表題ヲ東方ノ國情調査ニ關スル建議案ト改メ翌二十五日報告書ヲ議長ニ提出セリ

(委員會報告書)

東方ノ國情調査ニ關スル建議

東方ノ國情調査ニ關シ相當ノ機關ヲ設ケ以テ我カ國力發展ニ資セムコトヲ望ム
右建議ス

三月二十六日續會ヲ開キ委員長戸水寛人君ハ左ノ報告ヲ爲ス

東方調査局設置ニ關スル建議案ハ委員會ニ於テ修正可決致シマシタ、先ツ此案ノ趣意カラ申シマス、支那西北比利其他亞細亞諸國ハ勿論ノコト、南洋諸島ニ至ルマデノ國情ヲ調査スル必要ガアルカラ、ソレニ付テハ東方調査局ヲ設ケタラ宜カラウト云フノガ、此案ノ趣意デアリマス、併ナガラ東方調査局ノ局ト云フ字ニ

必ず重キヲ置クニ及バナシ、宛ニ角調査機關サヘ出來タナラ、ソレテ宜イト云フノガ提案者自身ノ言ハレタ所
デアル、委員ニ於テモヤハリ全體サウ云フコトヲ考ヘテ居ッタノデゴザイマシテ、之ニ對シテ修正案ガ出タノデゴザ
イマス、標題モ修正シ且ツ本文モ修正スルト云フコトデシタ、其案ヲ申シマスルト云フト、標題ノ方ハ「東方ノ
國情調査ニ關スル建議」ト云フコトニシテ置イテ、本文ノ方ハ「東方ノ國情調査ニ關シテ相當ノ機關ヲ設ケ以
テ我國力發展ニ資センコトヲ望ム」斯ウ云フ修正案ガ出タノデゴザイマシタ、此修正案ニ關シテ政府委員ノ意
見ヲ求メマシタトコロガ、唯今直ニ經費ヲ支出スルト云フノハ困難デアルケレドモ、宛ニ角此案ノ趣意ニハ贊成
デアルト云フコトデゴザイマシタ、ソレテ委員會ニ於テハ、全會一致ヲ以テ此修正案ヲ可決シタ次第デゴザイマ
ス、本會議ニ於テモヤハリ全會一致ヲ以テ可決アランコトヲ希望致シマス

院議異議ナク委員會ノ修正案ヲ採用セリ即日政府ニ呈出ス

一一 鐵道速成ニ關スル建議案

香川縣下多度津ヨリ愛媛縣下今治ヲ經テ松山ニ至ル鐵道ハ豫讃連絡線ニシテ四國中最樞要ノ線
路ニ屬シ本院ハ已ニ數回本鐵道速成ニ關スル建議ヲ爲シ政府ニ於テモ極メテ有利有望ノモノト
斷定シ多度津川之江間ノ建設ニ著手セルモ川之江ヨリ今治ヲ經テ松山ニ至ル六十九哩餘ヲ殘留
シ之ヲ中斷セルカ爲最良線路ノ效用ヲシテ完カラシメス頗ル遺憾トスル所ナリ而モ此ノ間ニ要
スル建設費ハ他ノ豫定線路ニ比シ遙ニ低廉ナルヲ以テ政府ハ速ニ之ヲ豫算ニ計上シ議會ニ提案
セラレムコトヲ望ム

右建議ス

一二 鐵道建設ニ關スル建議案

- 一 熊本縣下八代ヨリ分岐シ水俣ヲ經テ鹿兒島縣下川内ニ至ル鐵道
 - 一 宮崎縣下宮崎ヨリ延岡ヲ經テ大分縣下佐伯町ニ至ル鐵道
 - 一 大分縣下犬飼ヨリ熊本縣下宮地ニ至ル鐵道
 - 一 福岡縣下吉塚ヨリ分岐シ佐賀縣下唐津、伊万里、長崎縣下田平ヲ經テ佐世保ニ接続スル鐵道
 - 一 福岡縣下久留米ヨリ日田、玖珠ヲ經テ大分縣下大分ニ至ル鐵道
- 右鐵道ハ産業ノ發展ニ資シ交通ノ不備ヲ補フカ爲急設ヲ要スルモノト認ムルヲ以テ政府ハ速ニ
調査ヲ遂ケ相當ノ措置ヲ採リ建設ニ著手アラムコトヲ望ム
- 右建議ス

一三 鐵道建設ニ關スル建議案

- 一 茨城縣下水戸ヨリ分岐シ福島縣下白河及郡山方面ニ接続スル鐵道
- 右ハ産業ノ發達交通ノ不備ヲ補フ爲必要ニシテ且奥羽線及岩越線ト水戸線トノ連絡上必要ナリ
ト認ムルニ依リ政府ハ速ニ本線ノ建設ニ著手スヘシ

以上三案ハ二年三月十日(一)渡邊修君外二名、同月十一日(二)川原茂輔君外八名、(三)根本正君外四名ノ提出ニ係リ三月十八日逐次院議ニ付シ各提出者ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

(一)渡邊修君ノ演説

諸君本案ハ數回本院ヲ通過致シマシタ建議案デアリマスカラ、別ニ説明ノ必要ハナイト考ヘマス、唯一言諸君ノ御記憶ヲ喚起ス爲ニ附加ヘテ置キマス、此線路ハ最モ經濟的デアツテ、經費等ニ於キマシテモ他ノ線路ニ比シマシテハ餘程少ナクテ濟ムデアリマス、故ニ昨年此線路ノ中ノ多度津カラ川之江ニ至リマスルマデノ間ヲ豫算ニ計上致シマシテ、今日著手シテ居ルデアリマス、併ナガラソレダケデハ甚ダ鐵道ノ效用ガ薄イデアリマスカラ、是ハヤハリ豫定線ニアリマス如ク、松山マデ延長シテ、此線路ヲ速ニ建設シテ貫ヒタイト云フ趣意ニ外ナラヌデアリマス、是ハ四國ノ鐵道デアリマスカラ、局部的ノヤウニ御考ノ御方モアリマセウガ、極メテ重大ノ線路デアリマシテ、九州及中國トノ關係モ餘程長クナルデアリマスカラシテ、何卒御贊成ヲ願ヒマス、殊ニ是ハ民設デアリタイト云ツテ既ニ計畫ヲシテ出願シタ者モアルデアリマス、所ガ政府デヤルカラト云ツテ民業ニ許サナイ、民業ニモ許サズ政府モ建設シナイト云フコトハ甚ダ無理デアラウト思ヒマスカラ、ドウカ速ニ政府ヲ建設ヲ致シマスヤウニ御贊成ヲ願ヒタイデアリマス

(二)川原茂輔君ノ演説

此建議案ハ單リ本年ノミナラズ、同ジコトヲ九州ノ吾々同志者ハ最早五六回同ジ事ヲ此議場ニ於テ建議スルデアリマス、而シテ何時モ滿場一致ノ御贊成ヲ得マシテ、其中ニ政府ニ於テモ段々必要トセラレテ、第一ニ揭ケテアル八代ヨリ分岐シテ鹿兒島縣下川内ニ至ル鐵道ハ、鹿兒島ノ市ヨリ川内迄ハ將ニ運轉ヲ開始セントスルノ場合ニ進ンダデアリマス、ソコデ之ヲ肥後ノ八代ト薩摩ノ海岸線ト通シナケレバ、鐵道ノ效果ヲ完ウ

シマセヌカラ、即チ數年來ノ希望ヲ繼續シテ貫徹シテ貫ヒタイト云フノ意思デアリマス、次ニ宮崎縣下宮崎ヨリ延岡ヲ經テ大分縣下佐伯ニ至ル鐵道、是モ初メハマダ長イデアリマシタガ、吉松ヨリ分岐シテ都ノ城ヲ經テ宮崎縣下宮崎ニ至ル鐵道ハ今著手中デ、是モ追々ニ運轉ノ場合ニ至リマス、大分縣ノ方カラハ佐伯迄モ段々著手シ居リマスカラ、是モ九州ノ南方ヲ貫徹セザレバ即チ日向大隅等ノ開發——物産ノ開發ト云フコトハ出來マセヌカラ、當初ノ目的通りヤツテ戴キタイト云フ意味デアリマス、其次ハ大分縣下犬飼ヨリ熊本縣下宮地ニ至ル鐵道、是ハ初メ建議ヲ致シマシタノハ、即チ熊本ヨリ大分ニ至ルデアリマシタガ、此大正二年度ノ豫算ニ於テ輕便鐵道トシテ雙方ヨリ少シツ、ヤルト云フコトニナリマシタカラ、其殘リノ所モ引續キヤツテ戴キタイ、斯ウ云フ考デアリマス、其次ハ福岡縣下吉塚ヨリ分岐シテ佐賀縣下唐津、伊万里、長崎縣下田平ヲ經テ佐世保ニ接續スルノ鐵道、是ハ未ダ同ジ事ヲ五回モ六回モ建議シマスケレドモ、一尙ニ政府ニ於テ著手シテ呉レナイト云フ譯デアリマス、此鐵道ニ於テハイロク因縁ガアリマスケレドモ、之ヲ御話申セバ隨分長クナリマスカラ申シマセヌガ、昨年ノ此議場ニ於テ風景ニ於テハ日本一ガ幾ツデモアリマスト云フコトヲ諸君ニ御紹介シテ置イタヤウナ必要ノ鐵道デアリマス、是ハ軍事上ノ事ヲ一ツ申上ケテ置キマスガ、佐世保鎮守府ニ向ツテ万一事有ル場合ニ於テ、小倉ノ十二師團福岡ノ二十二旅團ノ兵ヲ佐世保ニ送ラントスルニハ、此線ニ依ルガ最モ輕便最モ近クナルデアリマス、即チ軍事上ノ必要ト言ヘバ此一點ヲ蓋シ十分カト思フデアリマス、ソレカラ福岡縣下久留米ヨリ日田ヲ經テ大分縣下大分ニ至ル鐵道是ハ鐵道網ノ豫定線ニハナツテ居リマスノデ、建議ヲ致シマスルノ本年ガ初メテゴザイマスカラ、是モ第一軍事上ノ必要ヨリ少シク申上ケテ置キマスガ、豊後ノ水道方面ニ當ツテ事有ル場合、久留米ノ十八師團ノ兵ヲ此豊後水道方面ニ送ルト云フコトニ於テハ、此鐵道ガ貫徹セザレバ十分ノ效果ヲ收メルコトガ出來ナイト云フ必要ナル線路デアリマス、ソレカラ久留米、熊本、鹿兒島等ノ方面ヨリ門司ヲ經由シテ大阪東京ニ赴クト云フコト、大分ヨリ船ニ乗ツテ大阪ニ行ツテ目的地ニ達スルコト、シマシタナラバ、餘程此鐵道ガ貫徹シマスレバ近クナリ、且ツ便利ニナリ、從ツテ産業ノ發展等ニ利便ヲ資スルコトハ勿論ノコトデアリ、斯フ云フ便利モアルデアリマス、ソレカラ頼山陽ヲ以テ天下ニ紹介シタ彼ノ耶馬溪ノ附近ヲ通行シテ行クト云フ、是亦風景ニ於テ最モ富ンダ所デアリマス、旁々軍事上産業上必要デゴザイマスカラ、相變ラズ御贊成下サツテ、政府ハ即チ此必要ナル線路ヨリ著々實行サレンコトヲ希望スルト云フコトデゴザイマス

(三)根本正君ノ演説

鐵道建設ニ關スル建議案アリマスガ、本鐵道ハ茨城縣水戸ヨリ福島縣白河及郡山附近ニ達スルところノ鐵道ノ建議アリマシテ、第二十七議會及第二十八議會ニ於キマシテモ滿場一致ヲ以テ通過シタ問題アリマス、爾來政府ハ明治四十四年ニ於キマシテ、此地方ノ測量モ出來マシタケレドモ、マダ今日著手ヲ致シマセヌカラシテ速ニ著手セラレムコトヲ望ムノデアリマス、此方面ハ最モ農産或ハ山林礦物ニ富ンデ、殊ニ此地方ニハ水戸市ヨリ勝倉、爪連、山方、大宮町ト云フところハ大ナル煙草ノ生産地デアリマス、又大子町ト云フ處モ非常ニ大ナル煙草ノ生産地デアアル、又森林モ澤山アル、葛藟或ハ煙草紙ナドモ澤山アル處デアリマス、殊ニ此棚倉町ノ如キハ一日ニ百五十車ツ、モ東京ニ薪炭其他ノ荷物ヲ運搬致シマス、然ルニ此棚倉及東館地方ヨリ東京ニ出マス荷物ハ、特ニ白河マデ持ッテ行カナケレバナラヌト云フコトデス、是ハ南ニ出ル荷物ヲ一度北ニ持ッテ行キ、十里アリマスカラ二十哩ノ處ヲ持ッテ行キ、又南ニ二十哩持ッテ來マスカラ、一日五十車ニ百車ノ荷物ヲ日々四十哩ツ、モ餘計ノ時間ヲ費スト云フコトデアリマス、ウレデ此鐵道ハ最モ國力發展ニ付テ大關係ノアルモノデアリマシテ、政府ハ既ニ測量モ濟ンデ居リマスカラ、速ニ起工セラレンコトヲ望ムト云フ建議デアリマス、ドウカ御賛成アラントヲ望ミマス

各案ハ議長指名(十八名)同一ノ委員ニ付託スルニ決シ議長ハ即日之ヲ指名ス委員ハ翌十九日委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ノ末三案ヲ可決シ三月二十日報告書ヲ議長ニ提出セリ
三月二十六日三案ヲ一括シテ續會ヲ開キ(同月二十二日ハ委員長ノ出席ナキ爲延期ス)委員長中倉万次郎君ハ左ノ報告ヲ爲ス

報告致シマス、此三案ハ一括シテ御報告ヲ致シマス、日程ノ第二十二渡邊修君外二名提出ノ鐵道速成ニ關スル建議案、日程第二十四川原茂輔君外八名提出鐵道建設ニ關スル建議案、日程第二十五根本正君外四名提出鐵道建設ニ關スル建議案、此三案デアリマス、委員會ハ此案ニ付テ一回委員會ヲ開キマシテ、政府當局者ノ出席ヲ求メマシテ、提出者ノ說明ヲ聽キ政府ノ意見モ聽キマシタ、委員會中ヨリハ此建議ニ係ル所ノ鐵道ノ建設ニ著手スル期限等ノ事モ當局ニ質問ガアリマシタケレドモ、國家經濟上今日ノ場合ニ於テハ何年ヨリ之ニ著手スルト云フコトノ明答ハ出來ナイ、併ナガラ此鐵道其モノハ必要ヲ認メテ居ルガ故ニ、成ルベク國家經濟ノ都合ヲ計ッテ、速ニ建設ニ著手スル考デアルト云フヤウナ答辯ヲ得マシタ、此三案トモニ滿場一致ヲ以テ委員會ハ可決致シマシタ

院議異議ナク三案ヲ可決セリ即日政府ニ呈出ス

一四 信濃川改修工事年限短縮ニ關スル建議案

信濃川改修事業ハ現下大河津分水工事進行中ニ在リト雖比年洪水氾濫シ被害ノ區域益擴大スルノ情況ニ鑑ミ急速之カ竣成ヲ謀ルノ必要アリト認ム依リテ政府ハ適當ノ方法ヲ立テ更ニ工事年限ヲ短縮シ速ニ目的ヲ完成セムコトヲ望ム
右建議ス

二年二月十一日佐野喜平太君外四名提出、同月十八日院議ニ付シ提出者(佐野喜平太君)ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

本案提出者ノ一人ト致シマシテ、聊カ其理由ヲ述ベマス、信濃川改修事業ハ現下大河津分水工事進行中ニ在リト雖モ、比年洪水氾濫シ被害ノ區域益擴大スルノ情況ニ鑑ミ、急速之カ竣成ヲ謀ルノ必要アリト認ム、依リテ政府ハ適當ノ方法ヲ立テ、更ニ工事年限ヲ短縮シ、速ニ目的ヲ完成センコトヲ望ム、文章ニ書キ

マスルト斯ウナリマス、私ハ言葉ヲ今ノ理由ヲ繰返シテモ餘リ冗長ニナッテ却テ諸君ノ倦厭ヲ來ス恐レガアル、故ニ文章ヲ以テ理由ノ言葉ニ代ヘテ置キマス、尙一言附加ヘテ簡單ニ申シマスガ、先キニ若杉君ヨリ提出説明致シマシタ所ノ新瀾築港速成ニ關スル建議案ノ一部分ニハ、本案ガ關係ヲ持ッテ居ル問題デアリマスル故ニ、慎重御審議ノ上、願クハ御賛成アラント切ニ希望致シマス

次テ議長指名ノ委員ニ付託スルニ決シ議長ハ即日之ヲ指名ス委員ハ翌十九日委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ノ末本案ヲ可決シ三月二十日報告書ヲ議長ニ提出セリ

三月二十二日續會ヲ開キ委員長若杉喜三郎君ハ左ノ報告ヲ爲ス

委員會ノ經過竝ニ結果ヲ御報告申シマス、委員會ハ一回開キマシテ、委員ヨリ詳細ナル質問竝ニ希望ヲ述ベテ政府ニ尋ネマシタ、而シテ政府委員ハ大體ニ於キマシテハ同意ヲ表シテ居ラレマシタケレドモ、是ハ決シテ金問題デハナクテ寧ロ技術上ノ問題デアッテ、開鑿ノタメニハ、或ハ機械ノ運轉ノタメニハ一定ノ限度ガアリマスカラ、到底甚シク年度ヲ縮メルト云フコトハ困難デアルト云フコトデゴザイマス、併ナガラ機械ノ運轉宜シキヲ得マスレバ、或ハ一箇年位ノ短縮ハ出來得ルカモ知レヌト云フコトデアリマシタ、故ニ委員會ハ十分ナル活動ヲ望ミマシテ、本案ヲ保全會一致ヲ以テ可決致シマシタ、此段御報告ヲ致シマス

吉田虎之助君賛成ヲ表セルノミニテ本案ヲ採用セリ即日政府ニ呈出ス

一五 港灣政務統一ニ關スル建議案

四面環海ノ我カ帝國ハ米亞大陸ノ間ニ介在シ東洋貿易ノ中心トシテ眞ニ要衝ノ地位ヲ占メ船舶出入ノ數、百貨集散ノ額ハ年ト俱ニ多大ノ増加ヲ示シ其ノ趨勢ハ世界通商貿易ノ發達ニ隨伴シ

テ窮極スル所ナク帝國貿易ノ盛衰通商ノ消長ハ一ニ係リテ港灣設備ノ良否ニ在リ

然ルニ帝國港灣ノ設備ハ規模狭小ニシテ且天工ノ形勝ヲ恃ム而已ニシテ未タ人事ノ最善ヲ盡ササルノミナラス現ニ帝國首要ノ國港ナル橫濱、神戸兩港ノ如キスラ其ノ所管ハ内務大藏遞信及其ノ所在地方廳ニ分屬シテ全責任ノ歸一スル主管廳ナク偶港灣調査會アリト雖執行機關ニ非ス單ニ調査機關ニ止マリ責任ノ歸一スル所ナク從テ港灣ノ政務舉ラス國運ノ發展ヲ阻害スルコト鮮少ナラス

今ヤ巴奈馬運河ハ近ク明年ヲ以テ開通セムトシ大船巨舶ノ本邦ニ輻輳スルモノ期年ナラスシテ倍加セムトス此ノ時ニ當リ港灣政務ヲ統一シ其ノ施設經營ヲ爲スハ帝國ノ國力發展上緊急ノ要務ナリ既ニ鐵道ニハ鐵道院アリテ之ヲ統一シ經營進行シ船舶ニハ遞信省アリテ之ヲ統一シ保護獎勵スルニ非スヤ故ニ斯ノ鐵道ト斯ノ船舶ヲ聯絡スル港灣ニモ速ニ全責任ヲ有スル主管衙ヲ定メ帝國港灣政務ヲ統一スルコト鐵道ニ鐵道院、船舶ニ遞信省アル如クセラレムコトヲ望ム

右建議ス

二年三月十一日西村丹治郎君外一名提出、同月十八日院議ニ付シ提出者(西村丹治郎君)ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

港灣政務統一ニ關スル建議案提出ノ理由ヲ極ク簡單ニ辯ジタイト思ヒマス、御承知ノ通り我國ノ如キ位置

ニ於キマシテハ、先ツ何ヨリモ港灣ノ改良、港灣ノ修築ト云フコトハ最モ必要ナコトデアラウト思フ、殊ニ明後年ニ至リマスル例ノ巴奈馬運河モ開通スルト云フコトニナリマス、之ニ對シテ果シテ當局者ハ此東洋ノ航運界ニ一大變化ヲ及ボサントスル巴奈馬運河開通ニ對シテ、ドンナ計畫ヲ今爲サレツ、アルノデアラカ、本員ハ殆ド其何ヲ爲サレツ、アルカト云フコトヲ見出し得ナイノヲ遺憾トスル者デアリマス、殆ド今日ニ於テ港灣ニ對シマシテハ何等ノ計畫ト云フモノハナイノデアアル、殊ニ巴奈馬運河開通ニ對シテ、此航運界ニ一大變化ヲ呈セムトシテ居ル此目下焦眉ノ問題ニ對シテ、何等ノ計畫モ施設モナイノデアリマス、唯私思ヒマスルノニ此巴奈馬運河ノ開通ニ對シテ、海軍ノ當局者ハ夙ニ今ヨリ數年以前ヨリ致シマシテ、巴奈馬運河開通ノ曉ニ取ルベキトコロノ政策ヲ取ツテ居ラレマス、即チ彼ノ軍事經營ノ如キ、既ニ委員會ニ於テモ辯明サレテ居リマス通リ、三億五千万圓ト云フ大金ヲ投シテ、海軍擴張ノ計畫ニ既ニ著手セラレムトシテ居ルノハ何デアラカト言ヘバ、此巴奈馬運河開通ニ對スル計畫ト云フテモ差支ナイト思フ、然ルニ經濟方面ニ於テハ何等ノ計畫モアリマセヌ、私ハ尙之ニ向ッテ充分ノ説明ヲ與ヘタイト思ヒマスケレドモガ、既ニ簡單ト云フ言葉ガアリマスカラサウ長クハ申シマセヌ、モウ二三言デ盡シタイノデアリマス、何故ニ斯ク經濟方面ニ對スル港灣ノ改良港灣ノ修築ト云フコトガ、目下ノ如キ惻然果敢ナキ有様デアラカト申シマスレバ、詰リ此港灣ニ對スル行政港灣ニ對スル政務ト云フモノガ、イロ／＼ノ方面ニ分タレテ居ラカラデアラウト思フ、即チ港灣ニ關スル事務、ソレカラ築港ニ關スル事務、運輸ニ關スル事務、此三ツノ事務ト云フモノガ三省ニ分タレテ居ル、即チ或一部ハ内務省、或一部ハ大藏省、或一部ハ遞信省ト云フガ如ク三箇所ニ分タレテ、此一ツノ港灣ト云フモノガ今日支配サレテ居ルノデアリマス、是ガ私ハ港灣ニ對スル根本政策ヲ定メ能ハサルノ病源デアラウト思フノデアアル、ソレ故ニ是等ハ統一シテ一ツノ大機關ヲ設ケテ、恰モ鐵道ニ對スル鐵道院ノ如ク、若クハ船舶ニ對スル遞信省ノ如ク、免モ角港灣ヲ統一シテ、一ノ大ナル機關ヲ以テ此根本的ノ施設經營ヲナスト云フコトハ目下ノ急デアラウト考ヘマスル、故ニ是非トモ一ノ大ナル機關ヲ設ケテ、速ニ此世界ノ航運界ニ對シテ一大變化ヲ及ボサムトスル巴奈馬運河ノ開通ニ對スル準備ヲ速ニ願ヒタイト云フ意味ニ於テ、此案ヲ提出シタノデゴザイマス、ドウカ御贊成ヲ願ヒマス

次テ議長指名ノ委員ニ付託スルニ決シ議長ハ即日之ヲ指名ス委員ハ三月二十日委員長及理事ノ互

選ヲ行ヒ審査ノ末本案ニ修正ヲ加ヘ即日報告書ヲ議長ニ提出セリ

(委員會報告書)

本案中「スルコト鐵道ニ鐵道院、船舶ニ遞信省アル如ク」ヲ削除ス

三月二十二日續會ヲ開キ(同日委員長出席ナキ爲一時延期シ更ニ議事日程ニ追加ス)理事守屋此助君ハ委員長ニ代リ左ノ報告ヲ爲ス

簡單デゴザイマスカラ此處カラ申シマスガ、是ハ委員會ニ於キマシテハ、日本帝國ニハ鐵道ト船ノ事柄ハ能ク政治ガ居イテ居ルガ、此港ノ事柄ニ付テ政治ガ居イテ居ラヌト云フノハ、鐵道ハ今ヨリ二十年後ニナレバ斯ク／＼ニナル、ソレ故ニ廣軌鐵道ニ拵ヘナケレバナラヌト云フマデニ政治ガ先驅ケタ政治ガ出來テ居ル、ソレカラ船ニハ造船獎勵アリ航路ノ補助金ト云フモノガアツテ、一年ニ一千何百万圓ノ金ヲ使フト云フ斯ク居イタ政治ガシテアル、是ニハ管船局アリ、鐵道院アリ、人才ヲ集メテアレバヨソ左様ナ居イタ政治ガ出來テ居ル、之ニ反シテ港ハ所管ガ大藏省トナリ、内務省トナリ、遞信省トナリ、ソレカラ所在地方廳斯様ニ分立致シテ居ルカラ、此船ト鐵道トヲ連絡スル港ノ政治ガ荒廢致シテ居ル、然ル所ガ今ヤ東巴奈馬運河ガ開ケレバドウナルカト云フト、日本ハ此世界ノ文明ノ利器デ、利益ヲ受ケルモノニ付テ却ッテ害ヲ受ケテ居ル、何デアラカト云ヘハ海軍ノ擴張ト云フモノハ何ニ原因スルカト云フト、之ニ最大原因ヲ持ッテ居ル、斯様ナモノデアラカラ、ドウカ港ノ設備ヲ良クスルコトニ付キマシテハ、一日寸時モ速ニ統一ノ政治ヲシナケレバナラヌト云フコトニ付テ、大體ニ於テ此建議案ヲ委員會ハ贊成致シマシタ、サウシテ唯末ノ「帝國港灣政務ヲ統一」ト云フコトノ下ノ「スルコト鐵道ニ鐵道院、船舶ニ遞信省アル如ク」是ダケノ字ヲ削ッテ、末ノ方ヲ「港灣ニモ速ニ全責任ヲ有スル主管衙ヲ定メ帝國港灣政務ヲ統一セラレムコトヲ望ム」斯様ニ修正シテ全會一致テ可決ニナリマシタカラ、此段御報告ニ及ヒマス

吉田虎之助君贊成ヲ表セルノミニテ本案ヲ採用セリ即日政府ニ呈出ス

一六 國防上農村振興ニ關スル建議案

强健ナル體格ヲ有スル農民ノ子弟ハ軍隊精銳ノ中堅ナリ然ルニ農業ハ薄利ニシテ重税ノ負擔ニ堪ヘス壯丁ハ犁鋤ヲ棄テテ都會ニ移ルノ傾向ヲ生シ農村ハ漸次衰退シテ萎靡振ハサルノ状態ニ在リ如何ニ精銳ノ武器アリト雖兵士羸弱ナルニ於テハ何ノ用ヲカ爲サムヤ農村ノ盛衰ハ國防ノ安危ニ關スルコトハ爭フヘカラサルノ事實ナリ今ニシテ之カ方法ヲ講セサレハ國家百年ノ大計ヲ誤ルニ至ルヘシ故ニ政府ハ農村振興ノ方針ヲ以テ重税ノ負擔ヲ輕減シ安ムシテ農業ニ從事シ得ヘキ程度ノモノト爲ササルヘカラス依テ先ツ農村ノ小學教育費ヲ國庫支辨ニ移シ中農以下ノ地租ヲ一層輕減スヘキ案ヲ具シテ速ニ議會ニ提出セムコトヲ望ム

右建議ス

二年三月十一日中川虎之助君外三名提出、同月十八日院議ニ付シ提出者(田中善立君)ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

本員ハ提出者ノ一人トシテ辯明致シマス、本案ハ極メテ重大ナル問題ニ屬シマスルカラ、誠心誠意國事ヲ憂フル諸君ニ於テハ既ニソレノ御攻究ニナッテ居ルコト、信ジマスルカラシテ、簡單ニ其理由ノ存スル所ヲ申述ベマス、今日列國競争ノ激甚ナル際ニ當リマシテ、國務ノ忽ニスベカラザルコトハ申スマデモゴザイマセマ、是ト相俟ッテ最モ重要ナルハ農村デゴザイマス、即チ陸海軍ノ中殊ニ陸軍ノ主力土臺タルベキ重要ナル兵

卒及下士ト云フモノハ、農村ノ壯丁ヨリ其大部分ハ組織セラレテ居ルノデアリマス、故ニ農村ノ壯丁ニシテ若シ不堅實デアリマスルナラバ、直ニ軍隊ニ其惡影響ヲ及スノデアリマス、軍隊ヲシテ强健ナラシメントスルニ付テハ、ドウシテモ農村ト云フモノヲ裕ニシテ、其農村ノ壯丁ヲ堅實ナラシメナケレバナラヌデアリマス、之ヲ聞ク西南ノ役ニハ敵味方共ニ其勇敢ナル世界無比デアッタ、所ガ日清戰役ニ於テハ稍、劣シテ居ル、日露戰爭ニ於テハ遙カニ劣ッテ漸ク露兵ト伯仲ノ間ニアッタト云フコトデアリマス、果シテ然ラバ吾人ノ論據ヲ強クスルモノデアリマス、即チ明治十年當時ニ於テハ農村ハ未ダ裕デアリマシテ、其壯丁ハ忠實業ニ服シ、身心共ニ堅實デアリマシタカラシテ、一度軍隊ノ教育ヲ受ケレバ、戰爭ニ臨ンテ此ノ如ク世界無比ノ勇敢ナル行動ヲナスコトガ出來タノデアリマス、然ルニ其後段々ト稅ガ重クナリ農村ガ疲弊ヲ致シマシテ、有利ナル都會生活ヲ羨望シテ之ニ轉ズルト云フヤウニナリ、又殘ッテ居ルモノモ段々ト身心不堅實ニナッテ參リマシタカラ、更ニ二十年當時ニ比シテ進歩セル軍隊ノ教育ヲ受ケテモ、實戰ニ臨ンテ尙劣ルノデアリマス、尙ホ下ッテ重税ガ益、烈シクナリ農村ノ疲弊ガ益、烈シクナリマシタカラ、都會ニ移住スル者ガ愈々増加シテ殘レル者モ段々ト不堅實ナル状態ニナリマシタ、以上ハ縱令立派ナル教育ヲ受ケテモ實戰ニ臨ンテ遙ニ劣ラザルヲ得ナイノデアリマス、故ニ國防ヲシテ充實セシメントスルナラバ、ドウシテモ農村ト云フモノヲ今日ノ如ク放任シテ置イテハナラヌデアリマス、ドウシテモ此農村ヲ救済スルト云フコトガ最モ必要ト私ハ信ジマス、因ッテ此農村ノ救済法ニ付テハイロノゴザイマセウケレドモ、目下焦眉ノ急トスルコトハ中農以下ノ租稅ヲ特ニ減ズル、ウレカラ農村ノ教育費ヲ國庫支辨ニスルト云フガ如キハ、最モ焦眉ノ急デアラウト私ハ信ズルノデアリマス、若シ是ガ出來ヌナラハ國防ノ費用ノ幾分ヲ割イテモ、之ヲ救済センケレバナラヌト思フノデアアル、尙ホ一言——モウ長クハ申シマセヌ、試ニ今日農民ノ一日ノ勞働賃銀ハ幾ラデアルカト申シマス、一石十七圓臺ト致シマシテ一日ノ勞銀ガ僅カ二十四錢一厘ニシカナラヌデアリマス、僅カ二十四錢一厘ノ報酬ヲ得テ、致々汲々トシテ働イテ居ルノデアリマス、尙他ニ申上ゲタイコトモアリマスガ、餘リ時刻モ移リマシタカラ此位ニシテ置キマス、ドウカ是ハ重要ナル問題デアリマスカラ御協贊ヲ望ミマス

次テ議長指名ノ委員ニ付託スルニ決シ議長ハ即日之ヲ指名ス委員ハ翌十九日委員長及理事ノ互選

ヲ行ヒ其ノ審査ニ著手シタルモ終ニ報告ヲ經ルニ至ラス

一七 國民ノ政治的智德涵養ニ關スル建議案

國民ノ政治的智德ヲ涵養スル爲毎年二月十一日ヲ以テ憲法發布ノ謝恩會ヲ起シ各學校ニハ學生ヲ又各市町村役場ニハ市町村民ヲ召集シ鴻大無量ノ聖恩ヲ奉謝スルト同時ニ憲法發布ノ勅語ヲ捧讀シ深厚ナル聖旨ノ存スル所ヲ講演シ以テ國民ヲシテ憲政ノ一日モ忽諸ニ付スヘカラサル所以ヲ會得セシムルハ目下ノ急務ト認ム

右建議ス

二年三月十二日村松龜一郎君提出、同月二十二日院議ニ付シ(十八日ハ提出者出席ナキ爲延期ス)提出者ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

本案ハ折惡ク自分ガ缺席致シテ居リマシタ爲ニ、石橋爲之助君ニ依テ同シヤウナ問題ガ提出セラレマシテ、ソレガ可決ニナツテ居ルト云フコトデアリマス、ソレヲ精神ガ同一理由ガ同一デアリマシテ、此理由ヲ最早喋々スル必要ガナイノデアリマス、唯茲ニ石橋君ノト少々違ヒマシタ所ノモノハ、此案ニ於キマシテ自分ハ此憲法發布ノ謝恩會ヲ、毎年二月十一日ヲ以テ特ニ起シタイ、斯ウ云フノガ石橋君ノト違ウテ居リマス、ソレカラモウ一ツ違ツテ居リマスルノハ、石橋君ノハ各學校ニ於テ憲法發布ノ勅語ヲ捧讀スルト云フコトニナツテ居リマスルガ、本案ハ各市町村役場ニ於キマシテ、ヤハリ二月十一日ニ謝恩會ヲ起シテ、市町村民ヲ各役場ニ集メテ、サウシテ廣大無量ノ聖恩ヲ奉謝スルト同時ニ、憲法發布ノ勅語ヲ捧讀シテ深厚ナル聖旨ノ存スル所ヲ

普ク知ラシメテ、以テ國民ノ政治的智德ノ涵養ヲ爲サントスルニアルノデアリマス、是ダケガ違ツテ居リマス、其理由ハ既ニ議熟シ諸君ノ御了知ニナツテ居ルコト、信ジマスカラ、一切申述ベマセヌ、是ガ本案ヲ提出シタ所以デアリマス

相島勘次郎君ハ本案ニ反對、花井卓藏君ハ贊成ノ演說ヲ爲シ村松君ハ相島君ノ演說ニ對シ辯明ヲ爲セリ

相島勘次郎君ノ演說

私ハ之ニ對シテ反對ノ意見ヲ述ベヤウト思ヒマス、初メ私ガ此案ヲ見マシタル時分ニハ、國民ノ政治的智識ヲ涵養スルトアツタカラシテ、サウ思ツタ、智識ヲ涵養シテ戴キマスルナラバドナタノ建議案デモ宜シイカラ、私ハ大變ニソレハ善イコト、思ツタ、然ルニ能ク見ルト智德ヲ涵養スルトアル、政治上ノ智識及政治的智德ヲ涵養スルト云フコトガ含マレテ居ルノアル、政治上ノ道徳ト云フモノヲ涵養スルト云フ、其建議案ガ桂黨中央俱樂部ヲ擴張シタルトコロノ桂黨アル團體ヨリ出デ、サウシテ此案ガ通過スル——此院ニ於テ通過スルト云フコトハドウデアラウカ、私ハ之ヲ此院ニ於テ否決スルコトガ却テ政治的智德ヲ涵養スルコトニナルト思フ、勿論此案ハ今年初メテ出タノデハナイ、例年出テ居ルノデアリマスケレドモ、昨年マデハ之ニ贊成スベキ案ニ相違ナイ、併ナガラ今年ハ是ハ本院ニ於テ否決スベキモノト思フノアル諸君、私ガ一ノ例ヲ御話申シマス、米國ニ於テハ彼ノ黒奴即チ「ニグロ」ハ兵隊ニナルコトハ出來ヌ、又大官ニナルコトガ出來ヌノデアリマス、ソコデ黒奴ノ士官ガ士官ノ服ヲ被テ往來ヲ通ルト云フト本當ノ亞米利加ノ兵隊ハソレニ對シテ禮ヲシナイ、ソコデオ前ハ「オレ」ハ士官デハナイカ、士官ニ向ツテ禮ヲシナイト云フコトハ甚ダ不届ナ奴デアルト言ツテ黒奴ノ士官ガ怒ツタル時分ニ、其兵隊ガ言フニハ、宜シイ「貴方」ノ軍服ト「貴方」ノ軍帽ト「貴方」ノ帶劔ヲ取ツテ此木ヘ御掛ケ爲サレバ、私ハソレニ對シテ禮ヲスル、敬禮ヲ致シマス、併ナガラ「貴方」ガソレヲ纏ツテ居ツテハ私ハ敬禮ヲ致シマセヌト言ツタ話ガアリマス、ソレト同シヤウナ吾々ハ感ガアルカラシテ、是ハ此處ニ於テ滿場一致ヲ以テ否決スルコトガ宜カラウト私ハ思フ

村松龜一郎君ノ演説

諸君、今反對演説ヲセラレマシタガ、其理由ニ本案ハ出シテ手ガ惡イカラ賛成シナイ、案其モノニ向ッテ駁スベキトコロガアルナラバ、ソレハ十分駁スルガ宜イ、案其モノハ姑ク措イテ出シテ手ガ惡イカラ賛成シナイト云フコトハ抑々何タル一體偏狹ナルモノダ、加之本員ハ從來是ハ此院ニ於テ唱ヘ來ッタモノデアアル、國民黨ニ居ッテモ亦本日ノ黨ニ居ッテモ、何レニ居ッテモ唱フルコトニ於テ一貫シテ居ルノデアアル吾々ハ甲ノ黨派ニ居ラウカ乙ノ黨派ニ居ラウガ、一片愛國ノ至情ニ出ルモノデアッテ、決シテ吾々一個ノ私ニ出タモノデアナイノデアアル、然ルニ其出シ場ガ惡イカラ反對トハ何タルコトダ此ノ如キコトガ果シテ政治壇上ニ行ハル、モノナラバ、如何ナルモノデモ其出シ手ニ依ッテ如何ニ國家ニ利益アルモノデモ、國民ニ利益アルモノデモ、蹂躪シ去ランケレバナラヌ、此ノ如キコトハ何處ニアル、甚ダシキ是ハ——若シ右様ナ議論ガ此政治壇上ニ行ハル、トシタナラバ、何ヲ以テ此政治ヲヤッテ往ク、縱令桂氏ノ黨デアラウト、西園寺氏ノ黨デアラウト、若クハ山本氏ノ黨デアラウト、何レノ黨カラ出デヤウガ若シ其モノガ宜カッタナラバ、滿身之ニ賛成シテソレヲ助長セラレナケレバナラヌデアラウト思フ、然ルニ出シ手ガ惡イカラ反對スル、甚ダ以テ其意ヲ得ナイノデ、加之吾々ガ之ヲ出ス其精神ニ於テ、決シテ論者ノ後ヘニハ落ちナイノデアアル、論者ニ愛國心ガアルナラバ吾々ハ其論者以上ニアル積リデアアル、ソレダケノ自負ガアル

花井卓藏君ノ演説

諸君、此建議案ニ付キマシテ反對ノ演説ヲ拜聽致シマシタ、又村松君ノ熱心ナル維持ノ御意見モ拜聽致シマシタ、私ハ本案ノ委員ニ付託セラレテ慎重ナル審議ヲ凝サレンコトヲ欲スルノ餘リ、此壇上ニ立ッコトニ相成ッタデアリマス、建議案ニ掲ゲラレテゴザイマスル文字ニ御留意下サランコトヲ希望致シマス、此案ヲ否決スルト云フコトハ、直チニ建議案ニ映ッテ居リマスル文字ヲ否決スルト云フコトニ相成ルノデゴザイマス、此建議案ニ舉ラレテゴザイマスル文字ハ如何ナルコトガ寫シ出サレデアアルノデアアルカト云フコトニ、深ク私ハ御留意ヲ願ヒタインデアリマス、輕々ニ即決スルナドト云フコトハ、寧ロ立法部ノ面目ニ關スルト云フコトヲ私ハ信スルノデアアル、國民ノ政治的智徳ヲ涵養スル爲毎年二月十一日ヲ以テ憲法發布ノ謝恩會ヲ起シ各學校ニハ學生ヲ又

各市町村役場ニハ市町村民ヲ召集シ宏大無量ノ聖恩ヲ奉謝スルト同時ニ憲法發布ノ勅語ヲ捧讀シ深厚ナル聖旨ノ存スル所ヲ講演シ以テ國民ヲシテ憲政ノ一日モ忽諸ニ付スヘカラサル所以ヲ會得セシムルハ目下ノ急務ト認ムト書イデアアルデアリマス、勅語ヲ捧讀ヲ致シマシテ聖旨ノ存スル所ヲ知ラシムルト云フコトハ、如何ナル人ノ主張ニ致シマシテモ否定スルコトハ私ハ出來ヌト思フデアアル、案ノ提出者ガ其當ヲ得テ居ルヤ否ヤト云フコトノタメニ、聖勅ヲ捧讀スルト云フコトヲ否定スルト云フコトハ、餘リニ熱シ過ギタル態度デアリカト思フデアアル新政黨ノ出シタル案デアルト否トニ拘ラズ、新政黨ヨリ更ニ下リタル黨派ガゴザイマシテ、ソレガ出シタル案ト致シマシテモ、此案ハ贊成ヲシタイト思フデアリマス況ヤ今日ノ場合新政黨ハ固ヨリ感心致シマセヌガサリナガラ此新政黨ニ當リテ闘ハント欲スル一派ト雖モ、サウ威張ッテ己レノ思フトコロハ總テガ正理デアッテ、己レノ反對スルトコロノモノハ皆非理デアルト云フコトヲ絶叫スル程ノ權利ハ私ハアルマイト思フ、冷靜ニ公平ニ、此問題ハ委員ニ付託セラレテ研究セラル、ト云フコトハ相當デアラウ、案ニ含マレテ居ル事柄ガ如何ニモ畏レ多キコトデアリマスカラシテ、私ハ新政黨ニ頼マレハ致シマセヌガ、此壇上ニ立ッテ公平ナル御考慮ニ訴ヘタイト思フデアリマス

次テ議長指名ノ委員ニ付託スルニ決シ議長ハ即日之ヲ指名ス委員ハ三月二十五日委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ノ末本案ヲ可決シ即日報告書ヲ議長ニ提出セリ
翌二十六日續會ヲ開キ委員長小久保喜七君ハ左ノ報告ヲ爲ス

本案ハ殊ニ簡單明瞭ナ案デゴザイマスノデ、會議ヲ開キマシテ僅ニ他委員ト提出者トノ間ニ一二應答ノ後、直チニ滿場一致ヲ以テ可決致シマシタ、此段御報告致シマス

院議異議ナク本案ヲ採用セリ即日政府ニ呈出ス

一八 高層氣象觀測所設置ニ關スル建議案

我カ國中央氣象臺及地方測候所ヨリ發スル天氣豫報及暴風警報ハ地上ニ存スル各地ノ氣象觀測ニ依テ之ヲ豫知スルニアルモ近年ノ研究ニ依レハ高低氣壓ハ大氣ノ高層ニ其ノ動源ヲ有スルモノニシテ其ノ進行及盛衰ハ高層ノ溫度濕度等ニ依リテ定マルモノナルコトハ疑ナシ故ニ單ニ地上ノ觀測ノミニ依賴セス高層ノ氣象ヲ觀測スルヲ得ハ暴風雨ノ發生モ其ノ以前ニ於テ之カ兆候ヲ認メ得ヘク從テ豫報警報ノ機ヲ逸シ又ハ的中ヲ誤ルカ如キコト少キニ至ルヘシ依リテ政府ハ速ニ高層氣象觀測所ヲ設置セラレムコトヲ望ム

右建議ス

二年三月十三日根本正君外一名提出、同月十八日院議ニ付シ提出者(根本正君)ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

高層氣象觀測ニ關スル建議案ハ、既ニ第二十七議會、其前ノ二十六議會ニモ出テ通過シタ問題デアリマス、我日本帝國ハ四面海ヲ以テ環ラシテ居ル國デアリマス、夫故ニ漁業ニ重キヲ置イテ、既ニ遠洋漁業ニ對シテハ農商務省ヨリ補助金モ與ヘテ居ルデアリマス、然ルニ近年大風雨ノタメニ船ノ破損スルコトガ幾百ト云フコトニナツテ居リマス、又其損害モ數十方圓ニ上ツテ居ルデアリマス、其難破船ヲ救フニハ高層氣象觀測ト云フトコロノ、即チ空中氣球ヲ上ゲ或ハ紙鳶ヲ揚ゲテ其氣象ヲ觀測シマスルナラバ、四十時間先キノ觀測ガ行居クデアリマス故ニ歐羅巴ニ於キマシテハ既ニ二十箇年——獨逸ノ如キハ二十四箇年前ヨリ此事ニ付テ大ニ觀測ヲサレテ、今日ハ十七箇所モアリマス、斯ノ如ク此文明國ニ於キマシテハ此タメニハ充分ナ

ル設計ガアリマスケレドモ、我日本帝國ニ於キマシテハ唯漁業ニ補助ヲスルハカリテ其本ヲ防グトコロノ高層氣象觀測ト云フヤウナコトニ付テハ未ダ充分デアナイノミナラズ、更ニ設備ガナイ政府モ既ニ全然御同意デアルト云フコトデスカラ、速ニ可決アランコトヲ希望致シマス

質疑應答ノ後松田源治君贊成ヲ表シ院議異議ナク本案ヲ採用セリ即日政府ニ呈出ス

一九 朝鮮總督府裁判令改正ニ關スル建議案

一 朝鮮總督府裁判令第二十六條ノ四ヲ左ノ通改正スルコト

判事ハ本令又ハ懲戒ノ處分ニ依ル場合ヲ除クノ外其ノ意ニ反シテ轉官、轉所、免職、休職又ハ減俸セララルコトナシ但シ補闕ノ必要アル場合ニ於テ轉所ヲ命セララルハ此ノ限ニ在ラス

一同第二十六條ノ六ヲ左ノ通改正スルコト

裁判所ノ組織ヲ變更シ又ハ之ヲ廢シタル場合ニ於テ其ノ判事ヲ補スヘキ闕位ナキトキハ朝鮮

總督ハ之ニ本俸給ノ半額ヲ給シテ闕位ヲ待タシムルコトヲ得

一同第二十六條ノ七トシテ左ノ一條ヲ加フルコト

檢事ハ刑法ノ宣告又ハ懲戒ノ處分ニ由ルニ非サレハ其ノ意ニ反シテ其ノ官ヲ失フコトナシ

以上ノ條項ヲ改正セラレムコトヲ望ム

右建議ス

二年三月十三日岡田榮君提出、同月十八日院議ニ付シタルモ一時延期シ二十六日ノ會議ニ於テ松田源治君ハ提出者ヨリ撤回ノ申出アル旨ヲ陳ヘ院議異議ナク撤回ヲ許可スルニ決シタリ

二〇 陸軍幼年學校廢止ニ關スル建議案

陸軍士官候補生ヲ得ルハ中學校卒業生中ノ希望者ヲ以テ既ニ餘リアリ別ニ幼年學校ヲ存シテ之ヲ養成スルノ必要ナシ管ニ之ヲ存スルノ必要ナキノミナラス反テ大害ノ存スルアルヲ認ム依リテ之ヲ廢止セムコトヲ望ム

右建議ス

二年三月十三日石黒磐君外三名提出、同月十八日院議ニ付シ提出者(石黒磐君)ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

極メテ簡單ニ御話ヲ致シマスルガ、此案ハ始メテ大方衆議院ニ現ハレタ案カモ知レマセヌ又……故ニチヨツト大體此幼年學校ハドウ云フモノデアルカト云フコトヲ御話シマシテ、更ニ其必要ナキコトヲ申サウト思ヒマス御案内ノ通り士官候補生ヲ作ルタメノ是ハ學校デアリマス、其學校デゴザイマスルガ十二ノ年高等——今テ言ヘハ尋常小學ヲ卒業シタ者ヲ入レテ往ク、ソレカラ士官候補生マデノ間ヲ此處デ養フテ、或ハ中央幼年學校ノ方ヘ送ッテ更ニ士官候補生ノ方ニ往ク、斯ウ云フコトニナッテ居ル、其處デ士官候補生ト云フモノヲ作りマスル學校ト看做セバソレデ宜シ、所ガ我陸軍士官候補生ヲ採リマスノハ約一箇年ニハ八百人、然ルニ此地

方幼年、是ガ六箇所アリマス、デ皆サン是ハ御承知ダラウト思ヒマス、ズツト始メノ即チ師團ヲ置カレタトキノ形デ六箇所ニナッテ居リマス、其六箇所デ地方幼年(總テ一年ニ五十八人)、募集シマシテ、ソレカラ二百人來マ幼年學校ヲ卒業シマシテ、此中央ニハ——即チ豫備科ト云フヤツガ地方幼年ニ當ルノデ、ソレデ二百人來マスルガ、六百八ノトコロデ二百人不足ナラ、不足ナルガ故ニ之ヲ中學校卒業ノ希望者ヨリ採用スルト斯ウ云フコトニナッテ居リマス、サアソコデ私ガ考ヘマスノニハ、中學校ノ希望者ヨリ採用スルト云フコトデアラナラバ、此幼年學校ノ必要ハナイ、斯ウ云フコトハ斷言ガ出來ル譯デアラ又海軍ヲ訊テ見レバ海軍ハ斯ウ云フモノハナイ、直ニ兵學校ヘ中學校カラ來タ者ヲ募集シテ、一年ニ二百八十人、コレデ四千八カラノ應募者ガアル、ソレデ中學校ノ此二百人中學校ノ卒業者ヲ採ルニモ二千人以上ハ應募者ガアルト云フコトデ、ソレデ此幼年學校ト云フモノガナカタラバ、恐クハ六百八ノ募集スルノニ屹度六千人以上ノ人ガ出テ來ル、サウシテ見レバ之ニ對シテ幼年學校ヲ茲ニ存在シテ置ク必要ハナイ、斯ウ云フコトダケハモウ明カナ話ダラウト思フ金ハマア僅カナ話デスガ、金ノコトハ行政整理トカ何トカ云フ理窟デ出テ來ル、是ハソレデヤレバ宜シ、今直ニ潰スト、ヤリ掛ケテ居ル生徒ガ困ルカラ、先ツ此處デハ斯ウ云フモノヲ養フノ必要ナシト云フコトダケヲ決シマシテ、ソレカラ陸軍杯ノ人ガ已ムヲ得ズト反對スル、ソレハ生徒ニ對シテ軍事思想ヲ養ハニヤナラヌ、ソレ故ニ幼年學校デ斯ウ云フモノヲ始メカラ育テナケレバナラヌ、斯ウ云フ説ガアル、是ガイカヌノダ、是ハ私トスルト大變間違ッテ居ル、斯ウ云フコトニナルノハ此幼年學校ハ御承知ノ通り詳シク言ヒマセヌガ特待生ト半特待生トガアル、軍人ノ或ハ戰死シタトカ或ハ窮困デ困ッタ人ニハ全部ヲ助ケル、斯ウ云フコトニナッテ居ル、ソレカラ段々弊ガ生ジテ來ル、其弊害ト云フモノハ所謂俗ニ云フト閥族ト云フモノイカモ知レマセヌガ、サウ云フ風ニ一種ノ塊リガ軍隊内ニ出來テ來テ、中學ノ生徒ノ人ト希望者トコチラノ人ト暗々裡ニ其處ガ面白クナイ點ガアル、ソレノミナラズ此生徒ヲ養フト云フ點ニ向ッテハ、諸君ノ御判斷ヲ此處デ請ハニヤナラナイ、ト云フハ私ノ考デアルト云フト、是ハチツト理窟ニ過ギマスガ、例ヲ舉ゲ過ギマスカ知リマセヌガ、支那テ言ヘハ漢史ノ中ニ出テ居ッタ、父祖以來ヤッテ居ル業務ヲ移シテ、軍人ニ轉ジヤウトスル人ハ餘程ノ篤志家デアアル、餘程ノ熱心ノ強イ人間デアアル、普通ノ人デハナイ、ソレデカラ中學卒業ノ普通ノ人ガ軍人ニナッテ生涯働イテ見ヤウト云フ人ハ、非常ナル熱心ヲ持ッテ居ル人デアアル、體格モ宜シ、幼年學校ハ體格ハ十二カラズツト來テ居ル奴ダカラ惡イ者モアルシ、不成績ノ者モ這入ッテ居ル、ダカラシテ、其一點カラ觀マシテモ幼年學校ヲ信賴スル譯ニハ往カヌ、私ハ我

陸軍ノタメニ不幸ダト思ヒマス、早ク之ヲ改正シ之ヲ廢シテサウシテ費用ノ點ナリ——是ハマア此位ニシテ置キマス宜シクドウツ……

次テ議長指名ノ委員ニ付託スルニ決シ議長ハ即日之ヲ指名ス委員ハ二月二十日委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ノ末本案ヲ可決シ即日報告書ヲ議長ニ提出セリ

二月二十二日續會ヲ開キ委員長石黒磐君ハ左ノ報告ヲ爲ス

特別委員會ニ付セラレマシタ此幼年學校廢止ノ建議案ニ對シマスル委員會ノ經過及結果ヲ報告致シマス、再應政府委員ニモ詳密ニ委員會ニ於テハ質問ヲ致シマシテ、事情モ審カニ致シマシタ、政府委員ハ之ニ對シテハ不同意ヲ表シマシタ、其不同意ガ少シ辯ジテ置キマセヌト分リマセヌカラ申シテ置キマス、不同意ガ理由ノナイ不同意デゴザイマスカラ、委員ハ滿場一致ヲ以テ原案ヲ可決致シマシタ、其理由ノナイト云フコトニ付テチヨット申シ置キマス、中學校卒業生並ニ準中學校卒業生ノ學力ヲ備ヘタル者カラ試験的ヲ以テ採用スルモノト、幼年學校卒業生デ士官候補生ヲ這入ッテ行クモノト、其數ハ昨年アタリテハ中學校ノ方ガ多イノデス、所テ理事者ハ——政府委員ハ斯ウ云フコトヲ言ヒマス、此幼年學校ハ所謂陸軍ノ中樞タルベキ人物ヲ造ル所デアアル、即チ言ヒ換レバ幹部員タル人物ヲ養成スル所デアアルカラ是ハ廢サレヌ、斯ウ云フノデアアル、一應理窟ハ尤モダ、ソレナラハ何故ニ中學校ノ人間ヲ用ユルノカ、是デ足リルノデアアルカ、是ハ士官候補生ト云フモノガ、第一全部ノ士官候補生ナルモノヲ製造スルノデアアルカ、斯ウ申シマスト或ハ費用ノ點ガ云々トカ、費用ハ是非トモ要ルモノナラバ國庫トシテ仕拂ヒマスルノニ、二十万ヤ二十万ハ敢テ厭フ譯ハナイノダ、ソコデ理由ガ如何ニモ薄弱デ政府委員ノ反對說ハ之ヲ拒ムマデノ理由トハ見ルニ足ラナイノデゴザイマス、ソレ故ニ本委員會ニ於キマシテハ、此中學校ノ卒業生準卒業生ヲ以テ採レバ足リルノデアアル、然ル以上ハ特殊ノ學校ヲ今日多大ノ費用ヲ以テ設ケテ置クノ必要ハナカラウ、又茲ニ申シ置クノハ、此學校ハ中央幼年、地方幼年、合シマシテ一年ニ五十八人ヅ、採用シマシテ二年生マデ、スカラ、即チ百五十八人、凡ソ九百人ノ生徒デアアル、九百人ノ生徒ニ凡ソ二十二万幾ラノ金ヲ使ッテ居ル、隨分贅澤ノ學校デス中央幼年ノ方ガ二十四万——殆ド四十七八万ノ金ヲ幼年學校——中央幼年地方幼年併セテ使ッテ居リマス、今日國家ガ財政ノ急ヲ訴ヘツ、アル場

合ニ、斯ノ如キ多大ナル費用ヲ使フノデアアルカ、其必要ハナイト斯ウ云フコトデ原案ヲ可決シマシタ、ソレカラモウ一ツ理事者ニ斯ウ云フコトヲ尋ネテ、多少此地方幼年學校生徒ト、或ハ中央カラ出テ來ル生徒トノ間ニ軋轢ガアリハシナイカ、斯ウ云フ質問ヲシマシタラ、ソレハ軋轢云々ハナイケレドモ學問ト云フコトノ弊ハ多少ゴザイマス、斯ウ云フ話デアアル、サウ致シマスト非常ナル害ヲ生ズル、學問ノ弊ガアレバ其處カラ出タ人ハ他ノ方ヲ壓迫スルトカ云フ傾ガゴザイマスカラ、既ニ政府委員ガ多少其弊アリト認メル位ノ事情デゴザイマスカラ、寧ロ其弊ヲ去ッテ純然タル——費用モ澤山掛ラズ中學校卒業生準中學校卒業生ヨリ採ルガ適當デアラウ、又陸軍ノ爲ニモ宜カラウ、斯ウ云フノデ滿場一致ヲ以テ可決致シマシタ、宜シクドウツ

吉田虎之助君之ニ贊成セルノミニテ本案ヲ採用セリ即日政府ニ呈出ス

二 府縣稅及市町村稅ノ制限ニ關スル建議案

府縣稅中國稅ニ對スル附加稅ヲ除クノ外ハ各府縣各別ニ課目課率ヲ設ケテ課稅ヲ行ヒ而シテ市町村亦其ノ府縣稅ニ對シテ自由任意ニ附加稅ヲ賦課セリ是ノ如ク二者與ニ制限ナキカ故ニ偏輕偏重ノ弊ニ陥リ易キノミナラス意外ノ重稅ヲ課シ地方ヲシテ遂ニ其ノ弊ニ堪ヘサラシムルニ至ル之ヲ制限スルハ今日ノ急務ナリト認ム

右建議ス

二年三月十四日石黒磐君外三名提出、同月二十日院議ニ付シ(十八日ハ提出者ノ請求ニ依リ延期ス)提出者(石黒磐君)ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

諸君、此府縣稅及市町村稅制限ニ關スル建議ヲ致シマシタ、此本案ヲ本院ニ提出シタル大體ノ趣意ハ我國ノ財政上ハ御承知ノ如ク中央政府ノ財政モ非常ニ窮境ニ陥テ居ルノデゴザイマス、又地方ノ財政モ略窮境ニ陥リツ、向ヒツ、アルノデゴザイマス、ソコデ地方ノ狀況ヲ考ヘテ見マスト、或ハ三十四年頃ニアツテ地方費ト云フモノガ一億五千萬圓ノモノガ、今日デハ二億七八千萬圓ニマデ上ツテ居ルノデアリマス、ソコデ地方デ段々ニ道路改修トカ或ハ其他裝飾的ノ仕事ヲ致シマシテ、府縣稅市町村稅ヲ無暗ニ賦課シマスカラ、地方人民ノ困難ハ遂ニ非常ナル極度ニマデ達スルカモ知レナイ、斯ウ云フコトガ本案ヲ提出シタルトコロノ大原因デゴザイマス、ソコデドウ云フ事情ニナツテ居ルカト云フト、此題號ヲ申シマスト、是ハ府縣稅及市町村稅、ソレカラ水利組合費マデ入レルノダケレドモ、之ヲ略シマシテ「府縣稅及市町村稅」ト致シマシタガ、御承知ノ如ク國稅ニ對シテハ相當ニ地租ニ對シテハ幾ラ、地價ニ對シテハ幾ラ、營業稅ニ對シテハ幾ラ、或ハ所得稅ニ對シテハ幾ラト云フコトガ、國稅ニハ必ズ法律ガアツテ規定ガゴザイマス、又之ト引續イテ此國稅ニ對スル附加稅ニ至リマシテハ各々制限ガゴザリマスト、或ハ地租一圓ニ對シテドレダケヲ取ル、營業稅ニ對シテ幾ラ、所得稅ニ對シテ幾ラ取ル、斯ウ云フ制限ガ附加稅ニゴザリマスト、此府縣稅即チ府縣ノ直接國稅ナルモノニ向ツテハ無制限デアル、無制限トハ諸君モ御承知ノ通り府縣稅ノ直接國稅ト云ヘバ、即チ地租割トカ、戶數割、營業稅、雜種稅等、總テ是ハ即チ府縣ノ直接國稅トナツテ居リマスト、此府縣ノ直接國稅ニ制限ガ無イノデゴザイマス、制限ガ無イガタメニ各府縣ニ於テ各個ニ課目ダケハ內務省ヘ届ケマスケレドモ、總テ議案ノ決議シタノモ送リマス——送リマスガ即チ制限ガゴザイマセマカラ、或縣ニ於テハ即チ澤山ノ稅ヲ課ケマスト、或縣ニ於テハ少ナイ所モアリマス、ソコデ府縣ノ此稅ノ課ケ方ト云フモノガ、府縣ノ殆ド隨意ニナツテ居ル、ソコデチヨット一例ヲ舉ゲテ申シマスト、詳シイコトハ申シマセヌ、委員會デ申スコトニシテ置キマスガ、東京ガ一戶當リ幾ラ負擔シテ居ルカト云ヒマスト、東京ハ僅ニ六圓幾ラデアル、然ルニ愛知縣トヘ行キマスト七圓餘負擔シテ居ル、斯ウ云フコトデス、戶數割デ云ヘバ——其通りニエライ差ガアル、是ハ大阪ハ大阪、京都ハ京都トシテ見ルト、京都ガ一番比較上高イヤウデス、ソレカラ一ツノ例ヲ舉ゲレバ市ト云フモノ、上ニ於キマシテモ、唯東京市ニ在ツテハ即チ一戶ノ平均ガ十圓幾ラト云フモノデアル、京都ハ十八圓、大阪ハ十二圓トカ、或ハ愛知縣ノ如キハ十五圓餘拂ツテ居ル、斯ウ云フコトニナツテ種々様々ニナツテ居ルカ

ラ、之ニ制限ヲ設ケマセヌト知ラズ識ラズノ間ニ稅ガ高マツテ往クト云フコトハ自然ノ勢デゴザイマス、此府縣稅ニ制限ガ無イ、無イ府縣稅ニ向ツテ市町村稅ガ又之ニ附加スル場合ニ制限ガ無イ、ダカラ國稅ノ本稅並ニ附加稅ニハ制限ガアルガ、府縣稅ノ本稅並ニ府縣稅ニ附加スル所ノ附加稅ニ向ツテハ即チ無制限デアル、其結果ガ斯ウ云フ事情ニナツテ居リマス、是ハ總テ京大阪カラ其他ヲ調ベテ置キマシタ、唯一ツ此處デ一例ヲ申上ゲテ置キタイノハ、先ヅ名古屋デ一ツ言ツテ見マスト、國稅ノ方ニ於キマシテ千圓未滿ノ請負金額ニ向ツテ國稅ハ七圓デアル、之ニ對シテ縣ノ附加稅ハ七十七錢、名古屋市ガ之ヲ二圓十二錢課シテ居ル、合セテ九圓九十錢デアリマス、然ルニ一方ノ縣稅ノ方デ別ニ八圓ト云フモノヲ課シ、名古屋市ガ之ニ向ツテ八圓八十錢ヲ課シ、十六圓八十錢片方ガ、サウスト九圓九十錢デアルモノニ、無制限ナルガ故ニ十六圓八十錢モ課ケルト云フコトニナル、シマスト國稅ト縣稅ト附加稅市稅ノ附加稅ヲ合セテ額ヨリモ、コチラノ方デ縣稅ト市稅ヲ合シタモノガ上ニナル、斯ウ云フ不權衡ヲナシテ居リマス、一方ニ於テハサウ云フ方ハ公民權ヲ國稅ノ方ハ有ツテ居リマス、然ルニ一方ノ府縣稅ト市町村稅課セラレタ方デハ公民權ガナイノデアル、サウシテ訴ヘコトヲ知ラナイ人間デアル、斯ウ云フ人間ニ向ツテ非常ナル國稅以下、例ヘテ言ヘバ千圓ノ國稅ヲ納メル者ガ九百圓ニナツテ、其九百圓ノ人ガ却テ千圓ノ人ヨリ餘計稅ヲ拂ツテ居ルト云フコトハ、愛知縣ニ限リマセヌ、各府縣ノ間ニ澤山實例ガアリマス、ソコデ其結果ハ單ニ餘計取ルバカリデハナイ、ソコデ納稅者ニ於キマシテハ、斯ウ云フ事情デアルカラ、ソレヲ知ルト云フト九百五十圓ノ人ガ千圓ト云フコトニ嘘ヲ言ツテ居ラヌ、サウシテ千圓拂フト云フト公民權ガアル、即チ選舉ノトキニ候補者ガ來テ頭ヲ下ゲル斯ウ云フ有様デゴザイマスカラ、少シ氣ノ利イタ者ハ九百五十圓ノモノヲ千圓ト居出ル、斯ウ云フコトニナル、サウシマスト不德ナルコトヲ法律ヲ以テ強要スル、無理ニサウ云フコトヲサセル傾ヲ持テ來テ居ル、是ガ非常ナル弊害デアラウト思ヒマス、單ニ増スバカリデハゴザイマセヌ、ソコデ政府ノ當局者ニ私ハ注文ヲ致スノデアル、是ハ內務省ノ人モ此事ヲ知ラナイノデアル、私ガ內務省ヘ調ベニ行ツテモサウ云フコトハ知ラナカッタト云フ、併シ此項大藏大臣デアナイ次官デモナイ主稅局長ノ菅原某君ハ、營業稅ノトキノ説明ニ曰ク、營業稅ノ最低額ヲ今少シ引上ゲテモ宜シイ、宜シイガ地方デ餘計取ラレルカモ知レナイ、サウスト國稅ヨリ、ヨリ以上餘計取ラレルカモ知レナイト云フコトヲ、知リナカラ大藏省モ知ラヌ顏ヲシテ居ル、內務省ハ此事ヲ知ラナカッタト云フニ至ツテハ——ソコ

非常ナル結果ヲ來スカラ内務省ニ迫レバ、内務省ハ財政ト行政トノ地方ノ整理ヲシタ上テ致ス氣ダ、斯ウ云フ答デアル、サウ云フ日ヲ待ツテ居ルト恐ラクハ今日ノ役人ノ遣方テハ五年十年経ッテモ出來ナイ、是ハ早ク處分シナイト非常ナル害ヲ受クルコトダラウト思ヒマス、ソコテ無暗ニ中央政府ノ節減ノミテハナイ、地方ニ於テモソレノ節減ノ法ヲ立テ、相當ナル所ノ制裁ヲ茲ニ加ヘル法案ヲ設ケナクテハ、地方ハ遂ニ其弊ニ堪ヘヌト云フコトニナリハセヌカ、斯ウ云フコトガ本案ヲ提出シテ建議スル趣意デゴザイマス、宜シク御贊同ヲ願ヒマス

次テ議長指名ノ委員ニ付託スルニ決シ議長ハ即日之ヲ指名ス委員ハ三月二十二日委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ノ末本案ヲ可決シ三月二十四日報告書ヲ議長ニ提出セリ

三月二十六日續會ヲ開キ委員長石黒磐君ハ左ノ報告ヲ爲ス

委員會ノ經過及結果ヲ御報告致シマス、委員會ニ於キマシテハ、此案ニ對シテハ政府ハ喜ンデ贊成ヲセラルルデアラウト思ヒマシタ、然ルトコロ贊成デモナイ、趣意ハ至極結構デアアル、趣意ハ贊成デアルケレドモガ、嚴重ニスレバ却テ地方ノ活動ヲ妨害スルデアラウ、又寬ニスレバ制限ヲシタ效能ガナイ、餘リ嚴重ニスレバ制限外ノ請求等ガ出テ、大分手數ガ掛ルト云フヤウナコトニナルカモ知レヌカラ、少シ今日ノ場合テハ趣意ハ至極結構ガ贊成ハ致シ兼ル、斯ウ云フ政府ノ意見、ソコテ委員會ハ八名ノ出席デ委員長ヲ除キマシテ二名ニ對スル五名ノ多數ヲ以テ可決致シマシタ、右御報告ヲ致シマス、ドウゾ宜シク

院議異議ナク本案ヲ採用セリ即日政府ニ呈出ス

二二 明治神宮建設ニ關スル建議案

政府ハ 明治天皇ノ神靈ヲ奉祠セムカ爲明治神宮建設ノ計畫ヲ立テ速ニ帝國議會ノ協贊ヲ求ムヘシ

右建議ス

二三 明治天皇頌德記念事業ニ關スル建議案

明治天皇ノ神威聖德偉績鴻業ハ帝國臣民ノ敬慕禁スル能ハサル所世界萬邦ノ追頌措ク能ハサル所ナリ明治ノ盛世四十五年僅々半世紀ニ滿タサルノ間ニ於テ曠世ノ大業踵ヲ接シテ成リ絶代ノ偉勳年ヲ累ネテ舉リ國力内ニ張リ國威外ニ振ヒ文物燦然萬邦畏敬東洋ノ天地ニ未タ曾テ見サル文明帝國ヲ現出シタルハ古今ニ倫ナク東西ニ比ナク殆ト史上ノ奇蹟ト稱スルニ足ル而シテ是レ

- 一ニ 先帝カ不世出ノ御稜威ト未曾有ノ御盛德トノ致ス所ニ由ラスムハアラス
- 惟フニ明治ノ燦然タル盛世ト 先帝ノ崇懿ナル聖德トハ千秋萬古日月ト共ニ光ヲ爭フヘシ臣民ノ至情トシテハ聖德ヲ萬世ニ記念スヘキ事業ヲ完成シ一ハ以テ敬慕ノ微衷ヲ事實ニ表明シ一ハ以テ空前ノ偉績ヲ内外ニ顯彰シ且後世子孫ヲシテ永ク聖德ヲ感銘セシムルコトハ頗ル重要ノ事ナリト信ス曩ニ 先帝ノ崩御アラセラルルヤ聖德記念事業ノ必要ハ普ク朝野ニ唱道セラレ有志ノ士之ニ關シテ私議ヲ立テタル者枚舉ニ遑アラス其ノ方法等ニ付テ衆說一ナラスト雖舉國一致ノ計畫ニ成ル國家的記念事業ノ必要ハ既ニ衆論ノ一致スル所ニシテ全國民ノ舉テ切望期待スル

所ナリ政府ハ宜シク國民ノ衷情ヲ察シ輿望ノ歸スル所ニ從ヒ速ニ成案ヲ具シテ本院ニ提出セラレムコトヲ望ム

右建議ス

以上兩案ハ二年三月十五日(一)關直彦君外十一名、(二)増田義一君ノ提出ニ係リ同月二十日逐次院議ニ付シ各提出者ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

(一)關直彦君ノ演說

諸君、本員ハ謹シテ明治神宮建設ニ關スル建議案ヲ提出致シマス、本案ノ理由ハ餘リニ明瞭デゴザイマスカラシテ、且又 先帝ノ御威徳ハ吾々共ノ言葉ヲ以テ賞讃シ奉ルノ限度デハゴザイマセヌ、却テ喋々ノ辯ヲ費シマスルト云フト、聖徳ヲ汚シ奉ルノ惧ガゴザイマスカラ謹シテ御遠慮申上ゲマシテ、理由ハ說明致シマセヌカラ宜シク御了承アラント願ヒマス、唯國民ガ 先帝陛下ノ御盛徳ト御偉業トヲ敬慕スルノ餘リ、其神靈ヲ崇メ奉ランコトノ意思ニ外ナリマセヌノデゴザイマス、仍テ政府ハ適當ナル設備計畫ヲ立テラレマシテ、議會ニ協賛ヲ求メラレンコトヲ切ニ希望致シマス次第デゴザイマス、何卒滿場ノ諸君モ本案ニ對シテ御贊同アラント切ニ希望仕リマス

(二)増田義一君ノ演說

諸君、本員ハ茲ニ本案ヲ提出シタル理由ヲ謹シテ一言致シタイト思ヒマス、明治天皇陛下ハ幕府ノ末、國歩艱難ノ時ニ際シマシテ御幼冲ヲ以テ大統ヲ繼ガセタマヒ、不世出ノ御英明ヲ以テ此大艱難ノ境遇ニ立タセ給ウテ、大決心ヲ爲シテ此境遇ニ御立チ遊バシタノデゴザイマス、即チ神武創業ノ大精神ニ則ラセタマヒ、

萬乘ノ尊ヲ以テ一身ノ艱難辛苦ヲ厭ハズ、四方ヲ經營シ、億兆ヲ安撫シ、萬里ノ波濤ヲ開拓シ、國威ヲ四方ニ宣布シ、天下ヲ富嶽ノ安キニ置カントノ大決心ヲ爲シ給フタノデゴザイマス、而シテ此御決心ヲ親シク御宸翰ノ中ニ認メ、之ヲ群衆百官ニ下シ給ウタノデゴザイマス、是ガ即チ維新ノ大精神トナッタノデ、換言シマスレバ維新ノ大業モ明治ノ大日本モ一ニ 先帝ノ御精神御盛徳ノ反影ニ外ナラヌト思フノデゴザイマス、之ヲ謹シテ事實ノ上ニ徴シマスレバ、此御精神ガ第一ニ王政維新トナッタノデアル、次デ五箇條ノ御誓文トナッテ現ハレ、開國ノ進取ノ國是トナッテ現ハレ、藩籙奉還トナリ廢藩置縣トナリ、弊習ノ七百年モ續イタ封建制度ガ茲ニ全ク破レタノデアリマス、次デ府縣制ノ發布トナッテ地方自治制ヲ見ルニ至ッタノデアリマス、更ニ諸君ト共ニ大ニ注目スベキハ憲法ノ發布デゴザイマス、世界ノ歴史ニ於キマシテ憲法ハ多クハ何レモ血ヲ以テ購ハレタノデアリマス、然ルニ我が帝國ニ於キマシテハ恐多クモ 先帝ノ大御心ニ依リマシテ萬民感泣ノ間ニ下シ賜フタノデアリマス、實ニ世界ノ歴史アッテ以來、斯ル例ハナイノデゴザイマス、然ルニ此立憲政體ニ就キマシテハ如何デゴザイマカ、其運用ガ未ダ全キニ至ラヌト云フコトハ、吾々ハ實ニ恐懼ノ次第二堪ヘマセヌ、是ハ果シテ誰ノ罪デゴザイマセウ、唯恐懼ノ外ナイノデアリマス、又日清日露ノ一大戦争ニ依テ我帝國ノ地位ハ一躍シタノデアリマス、此ニ大戦役ハ萬民皆 先帝ノ爲ニ死セント云フ忠義ノ心持カラ此大捷ヲ得タルモノト信ジマス、其結果トシテ臺灣樺太ガ我ガ領土トナリ、續イテハ朝鮮ノ併合ガ行ハレタノデゴザイマス、二千年來國家ノ大宿題トナッテ居ッタ此朝鮮問題ガ、先帝ノ御稜威ニ依テ解決セラレタト云フコトハ是亦大ナル事デゴザイマス、此ノ如ク一面ニ於テ益々領土ハ擴張セラレマシタ、又他ノ方面ニ於キマシテハ法典編纂、司法制度ノ確立、之ニ依テ人民ノ權利財産ハ保障セラレマシタ、又條約改正セラレテ國權ガ伸張セラレタ、又兵制改革ニ依テ國民皆兵主義ガ斷行サレタノデアリマス、或ハ教育ノ普及ト云ヒ、學術ノ進歩ト云ヒ産業ノ發達ト云ヒ、一々數ヘ來リマスレバ逆モ數ヘ切レヌコトデゴザイマス、實ニ四十有五年ト云ヘバ僅カ半世紀ニモ滿チマセヌ、其短イ歲月ノ間ニ於テ外ニハ國威ガ伸張シ國權ガ張り、内ニハ文物ノ進歩ニ典章ガ整備シ實ニ面目一新シタル上ニ世界一等國ノ列ニ入ッタト云フコトハ更ニ々々偉大ナル事實デゴザイマス、殊ニ畏多クモ 明治天皇御一生ノ間ヲ窺ヒ奉リマスレバ、常ニ國ヲ思ヒ民ヲ思ハセ給ヒテ、而モ平素御儉徳ニ涉ラセラレ、御努力ノ點ハ御生涯一貫シテ居ル、何レノ點ニ就キマシテモ吾々國民ノ模範デゴザイマス、斯ル偉績鴻業ハ實ニ歴史アッテ以來世界ノ誇ト爲スニ足ルコト、思ヒマス、此事ハ一ニ 明治天皇不世出ノ大人格、踐祚ノ初ニ於テ千艱萬難ヲ排シテ

國家ヲ富強ノ安ニ置カント御決心爲シ給フタ所ノ維新ノ大精神ノ實現ニ外ナラヌト存シマス、我が日本帝國民ハ此 先帝ノ御精神ヲ千萬年ノ後マデモ奉戴シテ、無限ノ向上發展ヲ圖ラネハナラヌト思ヒマス、即チ頌德記念事業ノ一日モ忽ニスルコトノ出來ナイ所以デゴザイマス、冀クハ政府ハ成ベク速ニ成案ヲ具シテ議會ヘ提出セラレ、而シテ此御聖德ヲ永久ニ記念スル所ノ事業ヲ完成セラレンコトヲ切ニ希望スルノデゴザイマス、冀クハ滿場諸君御賛成アラントコトヲ希望シマス

兩案ハ議長指名(十八名)同一ノ委員ニ付託スルニ決シ議長ハ即日之ヲ指名ス委員ハ三月二十二日委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ノ末第一案ニ修正ヲ加ヘ表題ヲ 明治聖德紀念計劃建議案ト改メ、第二案ヲ可決シ三月二十四日報告書ヲ議長ニ提出セリ

(委員會報告書)

第一案

謹テ惟ルニ

明治天皇ノ聖德鴻業ハ炳トシテ日月ノ如ク萬邦古今比儔ヲ見ス我カ國家ノ隆昌ヲ致シタル所以ノモノハ實ニ此ニ由ル臣子ノ分須ラク肝ニ銘シテ之ヲ不朽ニ傳フヘシ政府ハ斯ノ絶代ノ偉業ヲ紀念スルノ方法ニ關シ慎重ニ調査ヲ遂ケ其ノ計劃ヲ具シテ之ヲ議會ニ提出セラレムコトヲ望ム右建議ス

三月二十六日兩案ヲ一括シテ續會ヲ開キ委員長中倉万次郎君ハ左ノ報告ヲ爲ス

私ハ是ヨリ委員會ノ結果ヲ謹シテ御報告ヲ致シマス、此案ノタメニドウカ暫ク御講聽ヲ願ヒマス第一ニ明治神宮建設ニ關スル建議案ヨリ御報告ヲ致シマス、此案ニ付キマシテハ最モ敬意ヲ拂ヒマシテ、最モ鄭重ニ熟考スルタメニ委員會ハ一回開キマシタ、速記ヲ止メマシテ秘密會ト致シマシテ懇談會ヲ開キマシテ、國務大臣ノ出席ヲ求メマシタ、政府ノ意ノアルトコロモ親シク委員ト交換ヲ致シマシタ之ニ付キマシテハ一モ異議ハナイノデゴザイマス、其結果ハ此建議案ニ付キマシテハ一人ノ異議ナク、滿場一致ヲ以テ委員會ハ可決致シマシタ、次ニ明治天皇頌德記念事業ニ關スル建議案、此案ニ付キマシテモ委員會ニ於テ、此案其モノニ付テハ異議ガゴザイマセヌ、併シ此建議案ノ趣旨ニハ少シモ異動ノナイ限ニ於テ、最モ簡明ニシタイト云フコトヲ極松君ヨリ修正案ガ出マシタ、其修正決議致シマシタノヲ申上ケマスレバ「明治天皇聖德紀念計劃建議案」ト云フコトニナリマシタ、表題ヲ斯ウ修正致シマシタニ付キマシテ、其理由ニ於キマシテモ、多少變更致シマシテ、初メノ案ヨリハ短クナリマシタケレドモ、此建議ノ趣旨ニ於テハ毫モ變リガゴザイマセヌ、此修正通りテ滿場一致ヲ以テ可決致シマシタ、此段御報告ヲ致シマス

松田源治君委員長ノ報告ニ贊成ヲ表シ院議孰レモ全會一致ヲ以テ之ヲ可決セリ即日政府ニ呈出ス

二四 豫算編成様式改正ニ關スル建議案

豫算編成ノ様式複雑多端ナルヲ以テ一見明瞭ナラス又豫算ト決算ト齟齬スルコト多クシテ財政ノ常軌ヲ脱スルノ弊アリ仍テ編成ノ様式ヲ改正シ國民ヲシテ其ノ大體ニ通シ易カラシメ國運ノ發展ニ副ハムコトヲ望ム
右建議ス

二年三月十五日紫安信九郎君提出、同月二十日院議ニ付シ提出者ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

本案提出ノ理由ヲ申上ケマス、本案ハ別ニ本員ノ氣付キマシタル案デモゴザイマセヌ、此事ハ財政ニ心ヲ寄せテ居リマスル所ノ人達ノ多年唱ヘテ居リマシタ問題デゴザイマス、本員ノ如キモ亦其必要ヲ感シテ居リマス一人ニ過ギナイノデゴザイマス、專制政治ノ時代ニ於キマシテハ、由ラシムベシ知ラシム可ラズト云フノヲ以テ政治ノ祕訣ト致シテ居リマシタ、此時代ニ於テハ財政ノ事アルトカ或ハ豫算ノ事ナドハ、成ベク人民ニ知ラセナイノヲ以テ善トシテ居ッタノデゴザイマス、併ナガラ立憲政治ノ今日ニ於キマシテハ一厘一毫ト雖モ國民ノ知ラザル支出ハナイノデアリマス、故ニ國家ノ財政又ハ豫算ニ關スルコトナドハ、成ベク之ヲ國民ノ間ニ知リ易カラシメルノガ私ハ本體デアラウト考ヘルノデアリマス、國民ガ財政ノ状態ナリ又豫算ニ現ハレテアリマスル點ヲ十分納得致シマシタナラバ、少々重キ負擔ヲ課シマシテモ満足シテ私ハ之ニ應ズルデアラウト思ヒマスルシ、又國家ノ財政状態ガ十分ニ解ラナケレバ、如何ニ財政ノ革新ヲ圖リ租稅ノ減少ヲ圖リマシテモ、國民ハ満足シナイモノデアラウト思フデアリマス、此我國ノ豫算ガ複雑多端ニシテ容易ニ分リ惡イト云フコトニ付キマシテハ、諸君ニ於カセラレテモ御異論ノナイコトデアラウト信ズルノデアリマス、此事ニ付キマシテ第十四議會第十五議會ニ於キマシテモ、斯ウ云フ建議案モ現ハレテ居ルノデアリマス、一國家ノ歲計豫算ハ費途ヲ明確ニ併セテ基金流用ノ緊縮ヲ期スルニ在リ然ルニ從來ノ豫算中陸海軍軍事費及裁判所費ノ三款ハ他ノ各款ニ比シ其區域廣濶ニ過キ從テ豫算案及決算ノ調査ニ際シ不便尠ナカラサルノミナラス、流用ノ度過大ニ失スルノ弊ヲ免レヌニ云々、斯ウ云フ建議案モ現ハレテ居ルノデアリマス、國家ノ豫算ハ民間ノ會社銀行ノ財產状態トハ固ヨリ異ナツテ居リマスルカラシテ、之ヲ民間ノ會社銀行ノ計算ト同様ナ方式ニスルト云フコトハ勿論望ムベカラザルコトデアリマスガ、今日民間ノ會社銀行ニ於ケル財產状態ノ計上ノ有様ヲ見マスルト、貸方ニ借方、此二ツニ依ツテ分ケテ居ル、此貸方ト借方ト二ツニ別ケテ居リマスカラシテ、一萬圓ノ會社モ千圓ノ會社モ、其會社ノ財產状態ヲ見ルニ於キマシテハ、誠ニ一目瞭然デアリマス、何トナレバ數字ニ現ハレテ居ルトコロハ、百圓ノ金モ一億圓ノ金モ別段違ハナイノデアリマス、單ニ其數ガ増シテ居ルト云フニ過ギヌノデアリマスカラシテ、借方ノ方ヲ見ントシマスレバ一十萬圓ノ會社ノ状態モ、其借方、一桁ノ中ニ舉ツテ居ル、其一桁ノ中ニ舉ツテ居リマストコロノ内譯ヲ見マスレバ、借方ナラバ借方ノ方ハ明白ニ分ル、又貸方ノ方ニ於キマシテモ是ト同一ノ状態デ誠ニ明白ニ分ル、其明白ニ分ル程度ト云フモノハ、一萬圓ノ會社ノ財產状態デモ、一十萬圓ノ會社ノ財產

状態デモ同一デゴザイマス、此民間ノ會社銀行ノ財產状態ハ一目瞭然ニ分リマスカラシテ、大藏省ナドニ於テ銀行ノ調査ヲ行ヒマスルトキニモ一目瞭然ニ分ルノデアリマス、所ガ國家ノ豫算ヲ見マスルトナカク、一目瞭然トコロノ話デハナイ、百目デモナカク、瞭然トハ參ラナイノデアリマス、今後國費ハ益々多端ニナリマスルト共ニ、之ニ對シマスル法律規則ナドモ益々多クナツテ參リマスルト、今日ノ複雜セル豫算ノ様式ハ益々複雑多端ニナルカラウト考ヘマス、此豫算ノ様式ガ複雑多端トナリマスル結果、時トシテハ豫算ト決算ト齟齬スルヤウナ場合モ往々ニシテゴザイマス、又今日ノ豫算ノ様式ト云フモノハ、明治二十一年ヨリ施行サレテ居リマスル所ノ會計法及閣令大藏省令ニ基イテ、二十五年ノ間同一ノ形式ニ依ツテ行ハレテ居ルノデアリマスガ、今日ニ於テハ大ニ改正スル點ヲ見出スコトガ出來ルノデアリマス、何トナレバ今日ノ豫算ノ様式ハ特別會計ニ於キマシテモ五十種ニ上ツテ居リマス、是等モ何トカ私ハ改正スルコトガ出來得ラレラウト思フ、何トナレバ同一ノ事項ノモノヲ一ツノ所ニ集中スルト云フコトモ出來ルデアラウト思ヒマス、又特別會計ニ計上シテ居ル所ヲ一般會計ニ編入スルコトモ、私ハ出來得ラレルモノガ隨分アルデアラウト思ヒマス、ソレカラ又同一ノ事項ハ同一ノ事項ニ集中スルト云フコトノ必要ガアリマス、何トナレバ建設費アルトカ、修繕費アルトカ、或ハ休職給アルトカ斯ウ云フ各款ニ互ツテ居リマスルモノヲ、一ツノ所ニ集中スルト云フコトモ私ハ必要デアラウト思フノデアリマス、要スルニ國ノ財政状態ヲ明白ニ致シマシテ、此財政状態ヲ國民ノ間ニ容易ニ知リ易カラシメ、國民ガ國家ノ財政ヲ見ル事尙自分ノ懐ヲ見ルガ如クニ痛切ニ感シマシテ、此財政ニ興味ヲ持タシメ趣味ヲ深カラシメルト云フコトハ、私ハ立憲政體ノ世ノ中ニ於テ最モ必要ノコトデアルト信ズルノデアリマス、故ニ私ハ政府ハ之ニ對シマシテ十分ニ研究モシ審査モ致シマシテ、適當ナル改正ノ方法ヲ施サンコトヲ切ニ希望スル次第デゴザイマス

次テ議長指名ノ委員ニ付託スルニ決シ議長ハ即日之ヲ指名ス委員ハ三月二十二日委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ノ末本案ヲ可決シ三月二十四日報告書ヲ議長ニ提出セリ
三月二十六日續會ヲ開キ委員長福井三郎君ハ左ノ報告ヲ爲ス

本案ハ名前ハ頗ル大キイノデアリマスケレドモ、内容ハ極メテ簡單ナモノデアリマス、提出者ノ説明ヲ聽キマスノ

ニ憲法實施以來、諸般ノ事物が皆改善ニ改良ヲ加ヘラレテ大ニ見ルベキモノアルニ拘ラズ、單リ豫算編成ノ
 様式ダケガ二十二年以來ノ舊套ヲ襲フテ、一向進歩シテ居ラヌト同時ニ、節目款項が煩多ニ過キテ見難イ
 故ニ、之ヲ一目瞭然ニセシムルヤウニ其編成ノ様式ヲ改メタイ、斯ウ云フノガ提出者ノ意見デアリマス、之ニ付
 テ提出者ニ何カ其方法デモ御考ガアルカト委員會ニ於テ質問致シマシタトコロガ、何シロ大キナ複雑ナ事デア
 ルガ爲ニ、今立ドコロニ斯ウシタラ宜カラウト云フ成案ヲ持タヌガ、一例ヲ舉ゲレバ、特別會計ノ如キモ十幾ツア
 ルト云フヤウナ有様デ、煩雜ニ、煩雜ヲ極メテ居ル、故ニ此等ノモノモ出來得ル限リ統一シテ、免ニ角何人ニモ
 一目シテ分リ易イヤウナ簡明ナモノニシタイノデアアル、先ヅ其成案ヲ求ムルガ爲ニ、冀クハ朝野其道ニ通ジタルモ
 ノヲ集メテ、政府ハ調査委員會デモ組織スルト云フコトニシテ貫ツタラドウデアラウカ、斯ウ云フノガ提案者ノ意
 見、希望デアッタノデアリマス、之ニ對シテ政府委員トシテ勝田大藏次官ガ答ヘテ言フニハ、分リ難イモノヲ分
 リ宜クシヤウト云フコトデアアルカラ無論反對ハ致シマセヌ、又政府モ現在ノ豫算編成ノ様式ヲ以テ至レリ盡セ
 リトハ考ヘテ居ラヌト同時ニ、特別會計ノ多イト云フコトモ思ウテ居ル、斯様ナモノニ付テハ追々整理ヲ致シテ
 其進歩ヲ圖リ、併セテ一目致シテ議員諸君ノ見易キヤウニ致シタイト云フ希望ヲ有ッテ居ル故ニ、様式ノ改正
 改良ト云フコトニ付テハ、少シモ異議ハナイ、サリナガラ朝野ノ其道ニ通ジタル者ヲ集メテ、調査委員會ヲ組織
 スルト云フガ如キコトニ至リテハ、直チニ是ナリト御答スルコトハ出來ナイ故ニ、提出者ノ御希望、一ツトシテ
 承ハリ置キマセウ、而シテ今別ニ如何ナル様式ニ依ッテ編成ヲ致スト云フ御答ハ出來ヌガ、建議ノ趣意ニハ贊
 成ヲ表スルノデゴザイマスト云フノガ、政府ノ答デアリマス、而シテ委員ノ意見モソレト同様デ、分リ難イモノヲ分
 リ易クシヤウト云フコトニハ一人ノ異議ヲ唱ヘル者ハ無カッタノデアリマス、斯様ナ經過進行ニ依リマシテ滿場
 一致ヲ以テ本案ヲ可決致シマシタ、此段御報告致シマス

院議異議ナク本案ヲ採用セリ即日政府ニ呈出ス

二五 警視廳廢止ニ關スル建議案

政府ハ速ニ警視廳ヲ廢止シ其ノ所管事務ヲ東京府ニ移スヘシ

右建議ス

二年三月十五日村松恆一郎君提出、同月二十日院議ニ付シ提出者ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

諸君、本員ノ提出致シマシタ建議ハ、警視廳ヲ廢シテ其事務ヲ東京府ニ移スベシト云フノデアリマス、此警
 視廳廢止ノ事ハ必ズシモ今日ニ始ッタコトデアリマシテ、既往十數年來民間ニ於テハ殆ド輿論トナッ
 テ居ル事柄デアアルノデアリマシテ、特ニ明治二十九年第二十二議會ノ時ニ於キマシテ、東京市市參事會、東
 京市長トシテ尾崎君ヨリ警視廳廢止ニ關スル請願ヲ提出セラレタ、其源ハ何デアアルカト申シマスレバ、其當時
 此警視廳ノ弊害ヲ認メマシテ、東京府會ヲ初トシテ東京市會及東京各區會デ悉ク警視廳ノ廢止ヲ決議ヲ
 致シマシテ、特ニ尾崎市長ハ東京市會ヲ代表シテ警視廳廢止ノ請願ヲ提出セラレタノデアリマシテ、ソレガタ
 メニ請願委員會ニ於テハ、特ニ警保局長及内務大臣等ノ出席ヲ求メテ、大ニ政府ノ意嚮ヲ質シ意見ヲ戰ハ
 シタコトハ當時ノ速記録ニ遺ッテ居ルノデアリマス、此顛末ヲ述ベテ置キマスルコトハ、此本案ノ精神ヲ有力ニ
 致シマスル上、竝ニ私ノ辯論ヲ助ケル上ニ非常ニ便益ト思ヒマスカラ搔摘ンテ申シマスガ、此當時警視廳ノ廢
 止ニ反對スル政府ノ意見ト云フモノハ、唯此東京ハ他ノ府縣ト異ッテ居ル、帝都ノ下ニアルトコロノモノデア
 ル、從ッテ警察事務ガ多イノデアアル、同時ニ高等警察ニ關スル事柄ガ多イノデアアル、故ニ他ノ府縣ト同様其府
 ナリ縣ナリト云フ中ニ警察部ヲ置クト云フ譯ニハ行カヌ、ドウシテモ特別ノ官衙ヲ要スルト云フコトガ第一ノ趣
 旨デアッテ、之ニ對シテ委員ノ側カラ若シ警視廳ヲ廢止スレバ如何ナル弊害ガアルカト云フコトノ質問ニ對シ
 テ、内務大臣警保局長ハ當時何等ノ答モセラレナカッタ、唯警視廳ハ帝都ノ下ニ於テ必要デアアル、若シソレニ
 付テ何等カノ弊害アルト云フナラバ、其弊害ヲ改メサヘスレバ宜イデハナイカト云フコトデ、其結果請リ政友會
 ノ諸君ハ皆此意見ヲ採ラレタノデアリマスカラ、請願委員會ニ於テハ此請願ノ趣旨ハ警視廳ヲ廢止スルト云
 フノデアアルニモ拘ラズ、唯將來警視廳ノ制度其他ヲ改良スルト云フコトノ條件ノ下ニ之ヲ可決ヲ致シタノデア
 リマス、併ナガラ是ハ請願者ノ趣旨ニ反シテ居ルノデアリマシテ、請願者ノ趣旨ハ改良トカ改正トカ云フコトデ

ナイ、警視廳ヲ廢シヤウト云フノデアル、是ニ於テ更ニ本會ニ向ッテ江間俊一君ヨリ警視廳廢止ニ關スル建議案ヲ提出セラレタノデアリマシテ、當時非常ニ盛ナル討論ヲ闘ハサレタ結果、是亦ヤハリ同請願委員會ト同一ノ意味ニ於テ、詰リ改正スレバ宜イデハナイカト云フコトノ條件ノ下ニ、是ハ否決セラレタノデアリマス、先ツ既往ニ於ケル經過ハ此通りデアル、然ラバ此警視廳ガ其以後ニ於テ果シテ如何ナル改良ヲ行ッタノデアルカ、如何ナル改正ヲ致シタノデアルカト云フコトヲ、既往此七八年間ノ事實ヲ見マスト云フト、少シモ改良シタル迹ハナイト私ハ思フ、若シ多少改良タル廉ガアルトシマシタラバ、曾テ警視廳ハ、拘摸ト結托シテ居ッタノデアアル、博徒ト妥協ヲシテ居ッタノデアアル、然ルニ近年ニ至ッテ其非ヲ悟ッテ拘摸ト提挈ヲ斷絶シ、博徒ト情意投合ヲ斷絶シタト云フ有様デアル、今日ハ妥協ノ本家タル桂公サヘモ妥協ヲ打切り情意投合ヲ打切ッテ居ル、僅ニ拘摸ヤ博徒ト情意投合ノ打切ヲシタコトハ褒メルコトハアルマイト思フ、ソレカラ制度ノ上ニ就テドウ云フ事ヲ致シタカト云フト、近來刑事犯人ニ對シテ指紋法ヲ用井テ居ル、是ハ多少效果ガアルト云フ話デアル、組織ノ上テドウ云フトラシタカト云フト、以前ハ市郡ヲ通ジテ僅ニ二十一箇所カニ警察デアッタノガ、今日ハ市郡ヲ通ジテ八十二箇所ト云フ警察署ヲ設ケテ居ル、是ガ改正ダト稱スル、同時ニ以前派出所制度デアッタノヲ交番制度ニ改メタ、其結果ハドウデアアルカト云ヘバ徒ニ機關ヲ多クシテ、殆ド從來ノ二倍以上ニ機關ヲ殖ヤシタノデアアルカラ、詰リ非戰鬥員ガ多クナル、機關ノ幹部ニ屬スル所ノ者ガ多クナルカラ戰鬥員ガ少クナル譯デ、斯ノ如クナッタ爲ニ寧ロ事務カ複雑ニナル、從テ警察ノ實際ノ效果ガ舉ラナイ、又彼ノ交番制度ト云フモノハ派出所制度ト違ッテ、何時モアスコニ立ッテ居ッテ休息ヲスル時間ガナイ、休息ヲスル時ハ態ノ本署ニ歸ラナケレバナラヌカラ、巡回ノ時間ト云フモノヲ其方ニ取ラレテシマフ、交番制度實施以來今日ノ巡查ハ市中ノ巡回ト云フコトハ少シモシナイノデアアル、是ダケ警察ト云フモノハ寧ロ退歩ヲシタノデアアル、取締リガ是ダケ不行居ニナッテ居ルノデアアル、是ガ何デ改良デアアル、何デ改正デアアル、勿論此事ニ付テハ當局者カラ言ヘバ、此故ニ近日更ニ制度改正ヲスルト言ハレルカモ知ラヌ、聞ク所ニヨレバ既ニ其内議モアルト云フ話デアル、是ハ私ガ新聞紙ヲ通シテ推測スルトコロニ依ルト、近來ノ八十二箇所ノ警察ヲ半數位ニ減ジテ、サウシテ派出所制度ヲ恢復シテ多クヲ派出所制度トスル、ソレニ交番制度ヲ混ゼル、詰リ以前ノ折衷案ヲ作ルト云フコトデアアルガ、是亦少シモ改良デハナイ、以前ノ改惡ノ詰リ塗リ消シヤッテ居ルノデアアル、以前ノ失敗ヲ恢復センガ爲メニ斯ウ云

フ事ヲヤルノハ少シモ進歩デナイ、改良デハナイノデアアル、其外ニ七八年間ニ於テ警察ガドソナ改良ヲシタノデアアル、外間ニハ少シモ吾々ニハ見エナイノデアアル、近來ノ新聞ニハ警視廳デハ巡查ニ「オイコラ」ト言ハセルコトヲ止メタト言ッテ、二號活字ヲ特筆大書シテ居ルノデアアルガ、今日ノ時代ニ於テ巡查ガ「オイコラ」ヲ止メタト云フコトヲ鬼ノ首ヲ取ツタ如クニ警視廳ガ誇ル程進歩ニ遅レテ居ル警視廳デアルト私ハ思フ、ソレテ實際ノ下級警察ノ有様ヲ見マスト少シク——少シクデハナイ、甚ダ私ハ遺憾ナ點ガ多イ、今日警視廳ヲ廢止シナケレバナラヌト云フ理由ニ付キマシテハ、既ニ此前ノ建議案ノ時ニ於テモ四ツノ理由カラ此建議案ガ出テ居ルノデアリマシテ、第一ハ時勢ノ進歩ニ伴ハナイト云フコト、ソレカラ第二ニハ權力濫用ノ弊ガアル、第二ニハ事務ノ統一ヲ缺ク、第四ニハ獨立官衙トシテ置クノ必要ガナイト云フノガ、是ガ前回ノ建議案ノ趣意デアッタ丁度今回ノ私ノ建議ノ趣意モヤハリ之ニ基クノデアリマシテ、今日マデ警視廳ガ何等改正セラレタコトモナイノハ、唯今申上ゲタ如クデアリマスガ、今日ノ如ク警視廳ヲ獨立ノ官衙トシテ置ケバ、勢ヒ其組織ガ危大ニナル、從ッテ權力ヲ濫用スルト云フノハ自然ノ結果デアアルノデアアル、御承知ノ如ク今日ノ警視廳ハ、勅任ノ警視廳總監ヲ置イテ、其下ニハ五十人カラノ奏任官ガ置イテアル、何レノ府縣ヲ見テモ斯ノ如ク高等官ヲ澤山使ッテ居ル所ハナイト思フノデアアル、其位地ト云フモノハ殆ド東京府ノ上ニ居ルノデアアル、殆ドデハナイ、實際ガ斯ノ如クテ其仕事ハドウデアアル、一部ノ高等警察ニ關スルコトハ警保局ノ官制ニ立派ニアルノデアアル、警保局ガ之ヲヤルノデアアル、ソレテ其他ノ下級警察ノコトニ就テ別ニ獨立ノ官衙ヲ置カズトモ他ノ府縣ノ如ク東京府デヤッテ少シモ差支ナイノデアアル、然ルニモ拘ラズ茲ニ獨立ノ官衙ヲ置イタノハ何ガ爲デアアルカト言ヘバ、先ツ歴史カラ考ヘナケレバナラヌ、此警視廳ト申シマスルモノハ御承知ノ如ク、維新後ノ際軍事警察ノ目的カラ置カレタモノデアアル、當時市中ニ於テ非常ニ暗殺ガ流行ルトカ、或ハ亂暴者押込トカ、強盜ガ徘徊スルトカ、或ハ新政府ニ向ッテ不軌ヲ謀ルトカ云フ者ガアル爲ニ、所謂一種ノ軍事警察今日ノ憲兵ノ如キ職務ノ下ニ組織セラレタモノデアアル、故ニ其當時ハ屯所ト稱シテ居ッタ、然ルニ後ニ至リマシテ一變シテ閥族擁護ノ機關トナッタノデアアル、警視廳ハ其所謂警察力ニ依ッテ閥族ニ反對スルモノヲ片端カラ之ヲ羅織シテ、サウシテ之ヲ牢ニ打込ミ或ハ罪ニ落スト云フヤウナコトヲヤッテ、殆ド明治十二三年以來ノ警視廳ト云フモノハ、唯此ノ閥族ノ擁護ト云フコトヨリ外、眼中ニ無カッタカモ知ラヌト思フ、此警視廳總監ト云フモノハ、何デアアルカト言ヘバ、言フマデモナク目明シ岡引ノ御

頭ニ過ギナイノデアル、然ルニ是ガ内閣ノ更迭毎ニ内閣大臣ト共ニ進退スルナド、云フコトハ既ニ間違ッテ居ル、又是ガ警視廳ト云フモノガ獨立ノ官衙デアル爲ニ、政治警察ニ重キヲ置ケテ證據デアル、既ニ政治警察ニ重キヲ置ケテ故ニ下級警察ノ方ニ自然疎カニナル、而モ少シク事アレバ直クニ權力ヲ濫用シテ人民ヲ虐ゲル、彼ノ明治二十八年ノ日比谷事件ノ如キ、諸君ガ十分ノ経験シタノデアリマシテ、警視廳ガ人民ヲ激シテ茲ニ至ラシメタノデアル、近クハ二月十日ノ騷擾ハ何デアルカ、其事ノ起リハ衆議院ノ門前デ諸君ガ御承知ノ通り、彼ノ騎馬巡查ガ何等騷擾ヲシナイ、何等暴行ヲ爲サザルトコロ、群衆ニ向ッテ馬ヲ乗入レテ多數ノ負傷者ヲ出シタト云フコトガ、導火線ト相成テ遂ニ彼ノ如キ大騷擾ヲ惹起シタ、是等ガ皆獨立官衙ノ爲ニ自カラ權力濫用ノ弊ニ陥ッテ、人民ヲ何トモ思ハナイ、警視廳ト云フモノハ政治警察ガ本趣意デアルカノ如ク誤解シテ斯ヤウナコトヲ惹起シタノデアル、或人ハ彼ノ二月十日ノ騷擾ヲ以テ憲政擁護會ノ使喚デアル、憲政擁護會ノ煽動デアルト云フコトヲ言フノデアルガ、決シテサウデナイ、此騷擾ヲ惹起シタモノハ警視廳デアル、此前十八年ノ暴徒ノ騷擾モヤハリ其通デアル、詰リ餘リニ警察官ノ權力濫用ニ過グル結果ト云フモノガ斯ヤウナコトニ相成ルノデアル、此警視廳ノ組織ヲ小サクシテ、サウシテ東京府ニ移スコトニナルト、ドウデアルカト云ヘバ、自ラ人民ニ對スル事モ親切ニナッテ來ル、今日警視廳ガ何ガ故ニ權力濫用ノ弊ニ陥リ易イカト申シマスレバ、獨立ノ官衙デアル東京府知事ノ上ニ居ル位ノ地位ニ居ッテ、其下ニ多數ノ高等官ガアッテ多數ノ巡查ガアルガタメニ、自ラ人民ニモ不親切ニナリ權力濫用ノ弊ニモ陥リ易イノデアル、而シテ實際ノ事實ニ於テ彼等ガ殆ド治外法權ノ如キ有様デ跋扈シテ居ルノ何ガタメデアルカト云ヘバ、今日國庫カラ二十何万圓ノ金ヲ出シテ居リマスガ、多數ノ金ハ人民カラ所謂地方稅カラ出シテ出ルノデアリマス、然ルニ實際此地方稅ニ付テ即チ此府ノ豫算ニ對スル責任ハ、東京府知事が帶ビテ居ル、而シテ東京府會ニ於テ若シ警視廳ノ非違ヲ攻メ警視廳ノ不都合ヲ攻メントシテモ、警視總監ハ其席ヘ來テ居ルノデハナイ、僅ニ部長位ナ者ガ來テ議案ノ辯明ハスルガ、其豫算ニ對スル責任ハ、東京府知事が受ケテケレバナラヌ、責任ハ受ケテケレバ自分ハ獨立ノ地位ニ居ルカラ、警視總監ガ權力濫用ノ弊ニ陥ル、是皆組織ガ獨立ノ官衙デアルコト、及組織ノ危大デアルコトガ元デアルト私ハ信ズルノデアリマス、成程此東京市ハ帝都ノ下ニアリマシテ、他ノ府縣トハ自ラ異ナル事情ガアルコトハ見テ居リマスガ、若シ警察事務ガ多イタメデアルト云フナラバ、ソレダケ人員ヲ殖ヤセバ宜シイ、又高等警察

ノタメデアルト云ヘバ、高等警察ヲ警保局デヤレバ何デモナイ話デアリマス、唯東京デ異ナルノハ、ソレダケノ事ト、モウ一ツハ行幸啓ノ時ニ護衛ノコトガ他ノ府縣ヨリハ少シ事務ガ多イ、唯ソレダケノ話デアリマス、是等ノコトハ東京府デヤラセテモ何モ差支ナイノデアル、若シ東京府知事ニ適當ナ人ヲ得、東京府ノ警務長ニ適當ナ人ヲ得タナラバ、今日ノ警視廳ノ仕事位ヲヤラセルコトハ何デモナイ、而モモウ少シ組織ヲ簡ニシテサウシテ事務ヲモウ少シヨリ多ク運ブコトハ何デモナイト信ズルノデアリマス、然ルニ外國ニモ其例ガアルト云フヤウナコトヲ言フテ、サウシテ東京ハ帝都ノ下ニ在ルノデアルカラ、特別ノ官衙ヲ置カケレバナラヌト云フヤウナコトハ、唯ホンノ形式ニ拘泥シタ話デアリマス、事實ノ上ニ何等影響ノナイコト、信ズルノデアリマス、此警視廳ガ獨立シテ居リマスル結果ハ、今申シ上ゲル通り政治警察ニ重キヲ置キ、高等警察ニ重キヲ置キ、從ッテ下級警察ガ自ラ疎カニナルト云フコトハ明カデアル、現ニ最近ノ一例ハドウデアル、神田ノ大火ハ二月二十日デアリマス、サウシテ其以後ハ連夜各所ニ放火ガアリ出火ガアッタノデアリマシテ、警視廳ノ調査ニ依レバ二十日間ニ六十回ノ出火ガアッタノデアル、是ニ驚イテ警視廳、漸ク此十二日ノ日カラ巡查ノ非常召集ヲ行ッテ、此放火ノ取締ヲシタ、斯ノ如クヤリ方ガ緩慢デアル、大火ガアッテカラ二週間目ニ漸ク心付イテ放火ノ取締ヲスル、其間ニ六十回出火ガアッタ、一體大火ノアッタ場合ニハ既ニ人ノ模倣性デ、火事ガ面白イトカ何カト云フ感シカラ頻々放火ガ行ハレル、單リ是ハ火事ノミデハナイ、慘酷ナル凶行ヤ慘酷ナル殺人罪ノアッタ時分ニハ、其事ガ新聞ニ現ハレルト其當分ハ非常ニ殺人ガ盛ニ行ハレル、是ハ警視廳ノ人ナドハ能ク知ッテ居ル答デアリマス、一度ビ大火ガアッタナラバ直クニソレノ配備ヲシテ、サウシテ取締ヲシナケレバナラヌト云フヤウナコトハ、二十日間打ッテ置イテ統計ヲ取ッテ見テ始メテ驚イテ、ソレカラ非常召集ヲ行ッテ放火犯人ノ取締ヲスル時分ニハ、大概東京市中ハ燒ケタ後デアル、下級警察ニ向ッテハ斯ノ如ク不用意デアル、彼ノ不良少年ノ横行ナドモ今日ニ始マッタ話シデナイ、既ニ久シキ以前ヨリノ事柄デアルガ、平素ハ高等警察ニ頭ヲ奪ハレテ、多クノ高等官ガ集マッテ高等警察政治警察ニ頭ヲ奪ハレテ居ル、故ニ下級警察ノ方ガ疎カニナル、勿論不良少年ニハ特別ノ機關ガ設ケテハアルケレドモ、ソレ程ノ仕事ヲシテ居ナイノデアル、斯様ナ譯デアリマシテ、其他餘リ御話シフミテハドウカ知リマセヌケレドモ、今日各區ニ於テ魔窟ナルモノガ非常ニ盛ニ跋扈シテ居ル、而モ能ク聞イテ見ルト、是ガ巡查ノ上ガリノ奴、巡查部長トカ巡查デアッタトカ云フヤウナ者ガ、皆營業ヲ致シテ居ッテ、自ラ其間ニハ警察官トノ連絡ヲ

保ッテ居ルト云フコトモ新聞ニ見エテ居ル、或ハサウ云フ事實ガアルダラウト思フ、又何處ノ町ヲ歩イテ見テモ待合ナドノ數ガ非常ニ多イノデアリマスガ、斯ノ如キモノガ今日安全ニ營業ヲ營ンデ居リマスガ、若シ風俗警察ニ於テ相當ニ取締ヲシタナラバ、彼ノ魔窟ト稱スルモノ若クハ彼ノ待合ノ類ナドガ、決シテ今日安穩ニ營業スルニトハ出來ナイノデアル、然ルニ彼等ガ益ヲ發展スルノハ、詰リ下級警察ニハ餘リ重キヲ置カナイノミナラズ、或ハ其間ニ言フベカラザル弊害ガ伴ッテ居ルノデハナイカト私ハ思フ、既往七八年間ニ於テ何等改良シタ事實ハナイト共ニ、何等カ事アル場合ニハ警察官ガ先キ立ッテ人民ニ戰ヲ挑ンデ、サウシテ人民ヲ斬ルト云フヤウナ譯デ、現ニ今回ノ騷擾ニ於キマシテモ二百何十人ト云フ人が拘引セラレ起訴セラレタノデアリマス、ソレガ皆實際罪ガアルト云ヘバ少シモ罪ハナイ、彼ノ騷擾ノ際ニ於ケル警察官ノ横暴ナドニ付テハ當時ノ各新聞ニ皆書イテアリマス、就中中央新聞ニハ最モ精密ニ書イテアリマス、或ハ全ク通り掛リノ何等關係ノナイ者ヲ拘引シタリ、或ハ通り掛リノ者デ全ク騷擾ニ係リ合ヒノナイ者ヲ、巡查ガ拔劍シテ切り付ケタト云フコトハ、當時ノ中央新聞ニ幾ラモ書イテアリマス、當時政友會ノ諸君ハ特ニ調査委員ヲ設ケテ之ヲ調べテ居ル、彼ノ當時ニ於ケル彼ノ騷擾ニ於テ、警察官ガ如何ニ亂暴狼藉ヲ働イタカト云フコトハ、茲ニ一々申上ケル必要ハナイト思フノデアリマス、平素ハ普通警察ニ向ッテ重キヲ置カズシテ、高等警察ニ全方ヲ用井、事アル時ハ直グニ人民ヲ敵ニシテ刀ヲ抜イテ戰フヤウナ警視廳ハ、餘リ吾々ハ歡迎シタクナイノデアリマス、今回モ亦當局者ニ於テハ或ハ改良ヲ加ヘルトカ、改正ヲ加ヘルトカ言ハレルカモ知レマセヌガ、改良トカ改正トカ云フコトハ其人ニ依ルコトデ、而モ今日マデ既往七八年ニ何ノコトモ出來テハ居ナイ、ソレカラ又是モ大切ナコトデアルカラ一言附加ヘマスガ、事務ノ統一ヲ缺クト云フコトハ、是ハ何デアルカト言ヘバ、東京府ノ仕事ト警視廳ノ仕事ハイツデモ同シヤウナ事柄ガ多イ、是ガタメニ始終衝突紛擾ガ起リ、又紛擾ガ起ラヌニシテモイロノ願書ヲ出ス時分ニ、若シ一ツナラバ一通ノ願書デモ良イノニ、警視廳ニモ出サナケレバナラス、東京府ニモ出サナケレバナラヌト云フ不便ガアリマス、尤モ是ハ二十二議會ノ結果二十九年ノ四月内務省訓令ヲ以テ、イロノ改正ノ訓令ヲ出サレテ居ルノデアリマスガ、併シ未ダ見ルベキ改正ナクシテ、同シヤウナ仕事ヲシテ居ルヤウナ感ガアルノデアリマスカラ、自カラ事務ノ統一ヲ缺クト云フコトハ自然ノ結果デ、今日一例ヲ申シマシテモ彼ノ電車ノ如キ軌道ノコトハ

警視廳ノ管轄デアルガ、車體ハ東京府ノ管轄デアルト云フヤウニ、同ジ一ツノ町ヲ通ル電車ニシテモ、斯ウニ云フ不統一ガアリマス、其外ニモ斯様ナコトガ澤山アリマスカラ、事務簡捷ノ上經費節減ノ上、普通警察ノ普及ノ上カラ申シマシテモ、此警視廳ハ速ニ之ヲ廢シテ、サウシテ之ヲ東京府ニ移スコトガ最モ簡便ダラウト思ヒマス、ドウツ御贊成ヲ願ヒマス

次テ議長指名ノ委員ニ付託スルニ決シ議長ハ即日之ヲ指名ス委員ハ三月二十二日委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ノ末本案ヲ可決シ三月二十六日報告書ヲ議長ニ提出シタルモ院議ニ上ラサリシ

二六 鐵道建設ニ關スル建議案

一石川縣下七尾ヨリ穴水町ヲ經テ輪島町ニ達スル鐵道

右鐵道ハ急設ヲ要スルモノト認ム故ニ政府ハ速ニ之カ建設ニ著手アラムコトヲ望ム
右建議ス

二七 鳥取智頭間鐵道急設ニ關スル建議案

鳥取縣下鳥取市ヨリ同縣下智頭ニ達スヘキ鐵道ハ鐵道敷設法ニ於テ第一期線ニ屬スル津山鳥取間線路中最重要ノ部分ニシテ地方開發上其ノ必要極メテ大ナルノミナラス山陰縱貫鐵道ノ營養線トシテ亦實ニ忽諸ニ附スヘカラサルモノタリ故ニ政府ハ速ニ該鐵道建設ノ計畫ヲ立ルヲ要ス

以上兩案ハ二年三月十五日(一)米田穰君外三名、同月十八日(二)濱本義顯君外一名ノ提出ニ係リ
三月二十日各別ニ院議ニ付シ各提出者ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

(一)米田穰君ノ演說

本案ハ極ク簡單明瞭、別段説明ノ要ハナイト思ヒマスルガ、本案ハ石川縣鹿島郡七尾港ヨリ鳳至郡穴水町ヲ經テ、輪島町ニ達スル延長線ヲゴザイマス、此鐵道ニ付キマシテハ數回本院及貴族院ニ對シテ請願ヲ致シタノデアリマス、然ルニ數回共全會一致ヲ以テ御採擇ニナリ、尙政府ハ數箇月ヲ要シテ此線路ハ十分調査ヲ終ヘテ居ルノデアリマス、而シテ政府ハ此線ハ最モ敷設スベキ必要ヲ線路アルト云フコトニ決定ハ致シテ居ルノデアリマスガ、此ニ於テ此線ハ一日モ早ク敷設セラレンコトヲ望ム趣意ノ案ヲゴザイマス、宜シク御贊成アラント願ヒマス

(二)濱本義顯君ノ演說

諸君此案ヲ提出致シマシタ理由ヲ簡單ニ説明致シマス、此線路ハ既ニ第一期線ニ幾多ノ調査ヲ經マシテ編入セラレタル利益ノ線路デアリマス、最モ國家ノ經濟上即チ鐵道經濟ノ上ニ於テモ、亦國防ノ上ニ於テモ、實ニ急要ナル線路デアアルノデアリマス、此智頭ニ於キマシテノ森林財源ト云フコトヲ簡單ニ御話シテ御參考ニ致シテ置キタイト思フ、ソレハ非常ナル森林寶庫ガアリマシテ、今日ハ彼ノ地方ヲ御承知ニナッテ居ル諸君ハ充分ニ御知リノコト、考ヘルガ、牛馬ノ脊ニ於テ之ヲ駒返リト云フ坂ヲ持出シテモ、一箇年二百二十万乃至百三四十万ノ金ヲ森林ニ於テ得テ居ルノデ、是ガ鐵道ノ交通機關ヲ以テ運ブト云フコトニナルト、木曾或ハ吉野ト云フヤウナ森林寶庫ニ優ルモノガアルト云フコトハ、當局者モ能ク認メテ居ル、是ハ秒時モ差措キ難イ線路デアリマシテ、其他段々紙ノヤウナモノトカ、生産事業ニ伴ウテ發達スルノデアリマス、又敷設費ノ如キモ

ノモ僅カナモノデアアル、是ハ暫クモ棄置カレヌ程ノ線路デアリマシテ、殊ニ山陰縱貫線ノ最モ是ハ營養線ニナルノデアリマス、速ニ諸君ノ御贊成ヲ得テ、一刻モ早ク敷設サスコトニ致シタイノデアリマス

次テ議長指名同一ノ委員ニ付託スルニ決シ議長ハ即日之ヲ指名ス 委員ハ三月二十二日委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ノ末兩案ヲ可決シ三月二十五日報告書ヲ議長ニ提出セリ

翌二十六日兩案ヲ一括シテ續會ヲ開キ委員長米田穰君ハ左ノ報告ヲ爲ス

此鳥取智頭間鐵道急設ニ關スル建議案ノ委員會ヲ開キマシテ、政府委員ノ意見ヲ聽キマスルト、既ニ此鐵道ハ建設スベキモノナリトシテ其調査モ經テ居ル、尙此鐵道ノ如キハ其建築費ニ對シテ年七朱以上ノ利益ニ當ル有益ノ鐵道デアルト云フ答辯ヲゴザイマシタ故ニ、委員會ニ於テハ全會一致ヲ以テ可決致シタ次第デアリマス、今一ツハ石川縣七尾ヨリ輪島ニ至ル鐵道モ同一ナル答辯ガアリマシテ、是非共建設スベキモノデアアル、併シ經費ノ都合テ今日直チニ之ヲ敷設スルト云フ譯ニイカヌケレドモ、既ニ敷設スベキモノトシテ總テノ準備モ整ッテ居ルト云フ答辯デアリマシタ、尙委員會ニ於テハ本鐵道ノ如キハ、單リ地方ノ利益ノミナラス、國家ニ利益アル鐵道トシテ、全會一致ヲ可決致シマシタ、此段御報告致シマス

院議異議ナク兩案ヲ採用セリ即日政府ニ呈出ス

二八 戰死者及戰病死者ヲ地方神社へ合祀ニ關スル建議案

護國ノ任ヲ完ウシタル戰死者及戰病死者ヲ其ノ出身地ノ神社ニ合祀シ鄉黨ヲシテ常ニ靈前ニ咫尺セシメハ自ラ崇敬ノ念ヲ向上シ且奉公ノ大義ヲ自覺セシムル上ニ多大ノ效果アリト認ム依リテ政府ハ速ニ適當ノ案ヲ立テ帝國議會ニ提出セラレムコトヲ望ム

右建議ス

二年三月十七日米田穰君外二名提出、同月二十日院議ニ付シ提出者(米田穰君)ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

本案ハ戰死者及戰病死者ヲ地方神社ヘ合祀致シタイト云フ趣意ノ案デゴザイマス、是ハ此案ニモ認メテアリマスル通り、第一此國家ノ犠牲トナリ忠死セラレシ人々ノ英靈ヲ各地方ノ氏神即チ其神社ヘ合祀致シタイト云フデゴザイマス、サスレバ此戰死者及戰病死者ノ英靈ヲ慰メ、又第二ハ遺族ニ對シテ多大ナル慰安ヲ與ヘル、又第三ニハ此氏神社ニ合祀スレバ、郷黨ヲ擧ゲテ神威ヲ感ゼシメ、而シテ敬神ノ念ヲ篤カラシメルト云フコトデゴザイマス、尙近來將ニ衰ヘントシテ居ルトコロノ士氣ヲ鼓舞スル上ニ於テモ、此案ハ最モ必要ノ案ナリト自分ハ信ジテ提出シタ次第アリマス、宜シク御贊成アランコトヲ希望致シマス

次テ議長指名ノ委員ニ付託スルニ決シ議長ハ即日之ヲ指名ス委員ハ三月二十二日委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ノ末本案ニ修正ヲ加ヘ即日報告書ヲ議長ニ提出セリ

(委員會報告書)

(小字ハ委員會修正)

護國ノ任ヲ完ウシタル戰死者及戰病死者ヲ其ノ出身地ノ神社ニ合祀シ。○又ハ各種ノ方法ニ依リ之ヲ紀念シ之カ祭祀ヲ行ヒ依テ其ノ尺セシメハ自ラ崇敬ノ念ヲ向上シ且奉公ノ大義ヲ自覺セシムル上ニ多大ノ效果アリト認ム依リテ政府ハ速ニ適當ノ案ヲ立テ帝國議會ニ提出セラレムコトヲ望ム

右建議ス

三月二十六日續會ヲ開キ委員長米田穰君ハ左ノ報告ヲ爲ス

本案委員會ノ經過及結果ヲ報告致シマスガ、委員會ニ於キマシテハ陸海軍各政府委員ハ熱誠ヲ以テ贊成ヲ表サレマシタガ、内務省ノ政府委員ニ於テハ本案ノ趣旨ハ最モ贊成ハ致シマスガ、此各神社ニ合祀ト云フコトハ相當ノ調査ヲ遂ゲナケレバナラヌガ、併ナガラ本案ノ趣旨ヲ以テ何等カノ方法ヲ講ズルト云フコトデアル、依ッテ委員會ハ慎重審議ノ末「神社ニ合祀シ」ラ次ニ又ハ各種ノ方法ニ依リ之ヲ紀念シ之カ祭祀ヲ行ヒ依テ其ノ「是ダケノ文字ヲ加ヘテ修正ヲ致シ、全會一致ヲ以テ可決シタ次第デゴザイマス、幸ニ御贊成アランコトヲ望ミマス

院議異議ナク修正案ヲ採用セリ即日政府ニ呈出ス

二九 北海道拓殖補助機關創設ニ關スル建議案

政府ハ速ニ北海道拓殖事業補助ノ機關トシテ適當ノ方法ヲ以テ北海道拓殖會社ヲ創設セラレム

コトヲ望ム

右建議ス

二年三月十八日東武君外十二名提出、同月二十日院議ニ付シ提出者(齋藤珪次君)ハ左ノ如ク趣旨

ヲ辯明セリ

提案ノ理由ヲ説明致シマス、極ク簡單ニ申上ケマスルガ、今日ノ國狀ニ於キマシテ、人口ノ激増ト又米價等ノ價格ノ暴騰、又農村ノ困憊ト云フコトハ皆諸君之ヲ介意セラレテ、此救濟策ニ付テハ幾多ノ法案ヲ定メラレ、又建議案ヲ出サレテ救濟策ヲ講ジツ、居ラレルノデゴザイマス、即チ本案モ之ニ對スルノ一策デゴザイマス、即チ北海道ニ於テ拓殖ノ補助機關タル拓殖會社ヲ、政府ニ於テ適當ノ方法ヲ以テ創立セラレタイト云フノ案デゴザイマス、極ク簡明ニ申シマスレバ、目下ノ北海道ニ於テハ土地ト資本ト農民トノ間ニ立ッテ、分配調節ノ任務ニ當ッテ居ルモノガナイノデアアル、彼ノ北海道ニ於ケル拓殖銀行ト云フモノガ一ツ、其任務ノ一部ヲ盡シテ居リマスケレドモ、是ハ北海道萬般ノコトナノデアッテ、彼ノ北海道ノ開發ヲ目的トシテ居ル、即チ維新宏謨ノ一タル此北海道ノ開發ニ向ッテ專心貢獻スルトコロノモノデハナイ、唯一部ヲ盡シテ居ルダケデアアル故ニ、北海道ニ於ケル今日ノ有様ハ大地主ニシテ農民ヲ得ルコトガ出來ナイ、サウシテ又農民モ意ノ如ク地所ヲ得ルコトガ出來ナイ、又地所アリト雖モ此改良此整理ト云フモノヲナスコトモ出來ナイト云フ有様デアアル、故ニ國家ガ此宏謨ニ基キ維新創業以來五億ニ垂トスル大金ヲ費シ、年所ヲ經ル四十六年ニ及ブモ未ダ見ルベキノ功績ガナクシテ、其面積カラ見レバ功程五分ノ一、人口モ僅ニ二百七十万ノ移民ヲ持ッテ居ルダケデアアル、此ノ如キコトデハ決シテ北海道ソレ自身ノ開發ガ出來ナイノミナラズ、内地ニ於テ今日ノ人口ノ激増、此外農村困弊、之ヲ救濟スベキ此援助ヲ爲スコトハ出來ナイノデアアル、故ニ之ニ向ッテ——此北海ニ向ッテ是カラ困憊シテ居ル農村ノ人が安心シ、喜ンデサウシテ起イテ北海道ノ天地ニ新農場ヲ作り、新開發場ヲ作ッテヤルト云フコトハ實ニ北海道ノミナラズ國家ノ今日ノ最モ經濟策上ノ急務ト信ズルノデゴザイマス、其方法順序等ハ委員會ニ於テ詳シク申述ベル次第デゴザイマスカラ、ドウカ御贊同ヲ願ヒタイト存ジマス

質疑應答ノ後議長指名ノ委員ニ付託スルニ決シ議長ハ即日之ヲ指名ス委員ハ二月二十一日委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ノ末本案ヲ可決シ二月二十四日報告書ヲ議長ニ提出セリ

三月二十六日續會ヲ開キ委員長申本康三君ハ左ノ報告ヲ爲ス

本案ハ御承知ノ如ク北海道ノ拓殖補助機關創設ニ關スル建議案デゴザイマス、北海道ハ土地ノ廣キニモ拘ラス、今日ハ僅ニ二百七十万位ノ人口ヲ有シテ居リマスケレドモ、尙進ンデ七百万以上ノ人口ヲ容レマシテ差支ノナイ土地デアアル、即チ土地ノ廣サハ申スマデモナイ四國九州ヲ合セタ倍以上アリマシテ、山ニ海ニ非常ナル利益ノ有ル處デアリマス、ケレドモ今日ハ滿韓ノ方ニ一切此人氣ガ奪ハレマシテ、北海道ノ事ヲ語ル者モナキ境遇ニ陥ッテ居ルノハ實ニ氣ノ毒デアリマス、ソレ故ニ此北海道ノ拓殖會社ヲ興シテ、サウシテ此發展ノ目的ヲ達シタイト云フ希望ノ建議案デアリマス、反覆審査ヲ致シマシテ全會一致ヲ以テ可決致シマシタ、宜シク贊成アラントトフ希望致シマス

松田源治君贊成セルノミニテ異議ナク本案ヲ採用セリ即日政府ニ呈出ス

三〇 官營製材事業廢止ニ關スル建議案

製材事業ハ性質上官營ト爲スニ不適當ナル而已ナラス國庫收入ノ上ニ於テ亦疑ハシク加之民業ヲ壓迫スルノ甚シキモノト認ムルヲ以テ速ニ廢止セラレムコトヲ望ム

右建議ス

二年三月十九日岩本平藏君提出、同月二十一日院議ニ付シ提出者ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

諸君、私ハ本案提出者ト致シマシテ提出ノ理由ヲ説明シヤウト思ヒマス、大體ノ理由ガ此刷物ニ載ッテ居リマスノテ至極短カイ時間ヲ藉リマシテ大要ノ理由ヲ述ベヤウト思フノデアリマス、大體此官營製材ナルモノハ何ガ故ニ惡イモノデアルカト申シマスレバ、是ガ一ツハ餘程此材木業ナルモノハ、緻密ナル注意トサウシテ多年ノ經驗ト、斯ウ云フモノヲ持ッテ居ラナケレバ完全ニヤルコトハ出來ナイノデアアル、ソレヲ唯ノ役人ニ任カシテヤラセ

ルト云フコトハ、是ハ第一ニ此材木業ヲ官營トスルノハイケナイト云フコトデアル、一體此私ノ案ハ、今ノ官營製材所十何箇所カアルトコロノ官營製材所ヲ廢メルト云フダケデハナイノデアツテ、各林區署ニ於テ行フトコロノ官行伐木、此事業ヲモ全部廢メタイト云フ考デアルノデアリマス、此官營事業ガ抑、國家ノ經營上、是非之ヲ官營ニシナケレバナラヌコトカ、若クハ之ヲ民業ニ移シタナラバ發達ヲシナイ、故ニ政府ガ一時之ヲ指導的ニヤルカ、若クハ國家ノ收入ヲ計ルガタメニ專賣的ニ此仕事ヲヤルカト云フコトガ、少クトモナケレバ之ヲ官營ノ事業トスルモノデアアルマイト思フノデアリマス、然ルニ之ヲ濫リニ――濫リニト云フコトハ、是ハ餘リ語弊ガアルカモ知レマセヌガ、政府ハ能ク其事ヲ調ベナクテ此官營事業ヲ始メタノハ、抑、彼ノ秋田ノ小阪ノ鑛山ノ彼ノ煙害ノタメニ枯レタ木ガ澤山出來タ、其モノヲ始末スルガタメニ彼處ニ製材所ヲ拵ヘタノガ是ガ始メデアツテ、決シテ初メカラニ此材木事業ヲ完全ナル仕事ナリトシテ政府ガ始メタノデアリマス、サウ云フ最初カラノ根柢ノ薄弱ナル事業デアアルガタメニ、前ノ内閣ガ之ヲ一旦拂下ゲラヌルト云フコトヲ提案ヲシタガ、其當時ノ提案――其案ガ最モムツカシイトコロノ條件ヲ附ケテアツテ、二、三ノ御用商人ニシカ入札ノ資格ガナイヤウニシタガタメニ、本院ニ於テソレヲ否決シタト云フコトヲ私ハ開イテ居ルノデアアル、所ガ之ヲ完全ニ廢メテシマヘバ何デモナイ、デサウシテ何ガ故ニサウマデ廢メナケレバナラヌカト云フト、此材木ノ仕事ハ一年ハ半年ヲ以テ結了スルコトハ出來ナイ、數年若クハ十數年ニ亙ラレテ之ヲ繼續的ニ仕事ガナツテ居リマスカラ、此豫算案ニ森林ノ收入トシテ掲ゲテアリマスケレドモ、此中ニハ澤山ノ官吏ヲ使ヒ、或ハ多大ノ資金ヲ要シテ居ル、現ニ森林ノ固定資本ニナツテ居ルモノモ約千二百萬圓バカリノモノヲ固定資本ニ使ツテ居ルノデアアル、其上ニ常ニ此材木業ニハ危險ガ伴フ、水ヲ利用スルニハ水害ガ伴フ、殊ニ此官營製材業ニ付テハ、火事ガ往々アル、是ハ民間ニ於テヤルノト餘程其趣ガ違フ、材木業者ノ火事ノタメニ莫大ナル損失ヲスルコトガアル、現ニ昨年高野官林ニ於テモ製材七千尺メモ燒キ、ソレカラ森林モ五十町以上モ燒イタ、其損失ノ額ガ十萬圓ニモ近イモノヲ燒イテシマツタト云フコトニナツテ居ル、所ガ其燒イタトコロノ責任ガ漸ク其時ノ主任ニ奉書四ツ切りテ以テ、其職務怠慢ナリト云フ謹責一枚デツレデ了ツテ居ル、斯ウ云フコトヲ政府ガ直接ニヤルカラ、斯フ云フヤウナ多大ナル損害ヲ見ルト云フコトニナツテ居ル、故ニ吾々ハ斯フ云フヤウナコトハ政府ガ決シテ營ムモノデアナイト思フ、サウシテ一面ニ於テハ此何百萬圓ノ收入ニ掲ゲテアル、一面ニハ今ノヤウナ澤山ノ俸給ヲ取ルトコロノ技手或ハイロク

ナ備トカ、サウ云フ者ガ澤山居リマスカラ、之ニ要スルトコロノ經費モ實ニ多大デアリマスカラ、サウ云フモノヲ差引イタナラバアノ下ニ掲ゲテアルトコロノ六七百萬圓ノ金ガ頗ル怪シイノデアアル、思フニ何百萬圓ノ森林收入トシテ豫算ニ掲ゲテアルモノハ、其年ニ賣上ゲタルトコロノ私ハ額デアラウト思フノデアリマス、サウシテモウ一ツハ此政府ノ仕事ハ豫算ヲ先以テ極メマシテ、サウシテ仕事ヲスルノハ是ガ甚ダ宜クナイノデ、總テノ事業、何ノ商ヒデモ需要ト供給ノ途ヲ圖ツテコソ、其價格ヲ保チ得ラレルノデアアルガ、額ヲ先以テ極メマシテ、サウシテ物品ヲ供給スルノデアアルカラ、値段ガ下レバ下ル程高ク之ヲ提供シナケレバナラヌト云フコトニナルノデアアルカラ、材木ヲ安クシテ其結果ガ民業ニマデ及ンデ來ルト云フコトニナツテ居リマスカラ、ソレハ是ハ多大ナル民業ニ壓迫ヲ加ヘルト云フコトニナルノデアリマス、サウシテ此間早川君カラカ政府委員ニ質問シタトキニモ此製材事業ヲ廢メルカ、斯フ云フ質問ニ對シテ是ハ今直チニ廢メルトハ政府ハ望マナイ、ソレハ此大火災等アル時分ニハ、價格ノ調和ヲ圖ルタメニ政府ガ其物品ヲ提供シテ、サウシテ價格ノ調和ヲ計ルコトニスル、斯ウ云フコトヲ申シテ居ル、所ガソレガ非常ナ間違デアアル、事實ガ非常ニ違ツテ居ル、現ニ大阪ノ大火ノ如キ、深川ノ大火ノ如キ、立派ナ事實ヲ示シテ居ル、政府ガ其事ニ氣付イタ時ニハ、民間デハ既ニ澤山ノモノヲ持ツテ來テ居ルカラ非常ニ安クナツテ居ル、現ニ神田ノ大火ナドモ安イ價格デ比較的安ク拂下ゲヤウト思ツデモ、申込ノ少イノヲ見テモ民間ノ價格ヲ調和スルヤウナコトニナツテ居ラヌ、ソコデ素人ハア、云フ大火ノ時分ニハ、寧ロ材木ガ高クナルカノヤウニ思ヒマスガ、ソレハ反比例デアアル、一面ニアレダケノ火事ガアルト建築スベキ仕事ヲ延べル、延べレバ爲メニ一般ノ需要ガ少ナクナル、サウ云フ時ハ却テ下ル、サウ云フ風テ役人ノ仕事ハ所謂昔ノ士族商賣トシテヤルカラ悉ク失敗シテ居ル、又其他此材木等ニ付テ殆ド兒戯ニ類シタヤウナ諸君ノ御笑ニナルヤウナ仕事ハ多クアリマスケレドモ、サウ云フコトヲ長ク申シマスコトハ却テ時間ヲ潰スノデアリマスカラ其事ハ止メマス、免ニ角ツレデハ之ヲ止メタラドウスルカト云フナラバ、森林ハ直チニ樹木ノ儘ヲ以テ拂下ゲテシマフ、サウシタナラバ收入ハ確カニ得ラレル、サウシテ多數ナル冗員ヲ淘汰スルコトガ出來テ、サウシテ千何百萬圓ノ資金ヲ他ニ轉用スルコトガ出來ル、斯フ云フ利益ガアル上ニ尙之ヲ民間ニ仕事ヲサヒタナラバ營業稅ト之ニ對スル所得稅、斯フ云フモノヲ更ニ得ラレル、結局兩得ノ方法ナリト私ハ信ズルガ爲メニ、本案ヲ提出シタ次第デアリマス、尙詳細ハ委員ニ御付託ニナラバ、ナラバ、其委員會ニ於テ十分ニ述ベマス、ドウカ御贊成アラントラ

次テ議長指名ノ委員ニ付託スルニ決シ議長ハ即日之ヲ指名ス委員ハ三月二十四日委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ノ末本案ヲ可決シ翌二十五日報告書ヲ議長ニ提出セリ

三月二十六日續會ヲ開キ委員長田中隆三君ハ左ノ報告ヲ爲ス

此案ハ非常ナ簡單ナ案デゴザイマシテ、私ノヤウナ物覺エノ惡イ者モ宙ニ暗誦シテ居ル案デゴザイマス、讀ミマス「製材事業ハ性質上官營トシテ不適當ナルノミナラス國庫收入ノ上ニ於テモ亦疑ハシク加之民間事業ヲ壓迫スルノ甚シキモノト認ムルヲ以テ速ニ廢止セラレンコトヲ望ム」ト云フ建議案デゴザイマス、是非非常ニ簡單明瞭デゴザイマシテ何人モ異議ノナイコトデゴザイマスカラシテ、滿場一致ヲ以テ可決致シマシタ、併ナガラ此案ニハ少シク謙遜過ギテ居ルコトガアル、即チ其國庫收入ノ上ニ於テモ亦疑ハシイト云フヤウナ、誠ニ其穩カ過ギタコトガアリマシテ、實ハ本員ノ如キハ此製材所廢止ト云フコトハ、是非トモ此財政整理トカ行政整理トカ云フ事業ノ事項ノ一ツトシテ、次ノ豫算面ニハ現ハシテ貫ヒタイト云フコトヲ希望シテ居ル者ノ一人デゴザイマス、テ餘リ謙遜過ギタコトノ結果、又政府ガ次ノ年度ニ於テ豫算上考案中デアルト云フヤウナコトガアツテハ遺憾ニ存ジマスルカラ、其點デケヲ——其外ノ民業ヲ壓迫スルトカ、或ハ性質上官營トスベキモノデナイト云フヤウナコトハ、至極明瞭簡單デ且ツ提出者タル岩本君ヨリ今議會ニ於テ先日明細ニ御述ベニナッテ居リマスルカラ其事ハ申シマセヌガ其岩本君ノ御述ベニナラズ且ツ私ノ唯今申上ゲマスルガ如ク、遠慮過ギルト云フ點ニ付テ諸君ニ御參考マデニチヨット申上ゲテ置キタイコトガアル、此處ニ申上ゲタイト思ヒマスノハ、免角此政府ノ大臣トカ——今日ハ御出デニナリマセヌガ、少シ頭ノ方ノ方ニナリマスルト云フト、屬僚ノ報告ニ胡麻化サル、コトガ屢アル、ソレデ丁度好イ例ト思ヒマスカラ、私ハ此事ヲ申上ゲタイト思フ、ソレハドウ云フ事カト申シマスルト、政府委員ニ聞キマスルト云フト、此製材所ハ十三箇所モゴザイマスルガ、四十二年度ハ二分ノ損デアツタ、四十二年度ニ於テハ八分二厘ノ儲ケニナツタ、資本ニ對シテデス、ソレカラ四十四年度ニ於キマシテハ一割二分何厘ト云フ大層都合ノ好イ儲ケニナツタト云フノガ政府委員ノ報告デアル、所ガ其報告ハ嘘デハナイノデス——嘘デアリマセヌガ拵ヘ方ニ呼吸ガアル、其事ヲ申上ゲテ置キタイト思ヒマス、ソレハドウ云フ事カ

ト申シマスルト、例ハハ四十四年度ノ利益計算ノ決算表ニ於テ、製材所中ノ一番ノ手本トナル大キナ製材所ハ秋田縣ニアリマスルトコロノ代野ト云フ所ニアル、製材所デアル、其製材所ノ四十四年度ノ決算ヲ私ガ調べテ見マスルト旨イ事ヲヤッテ居ルノデス、ソレハ其四十四年度ニ於ケル原料ノ代價製材所ガ受入レタ其材木ノ代價ヲ、一尺メ四圓ト先ヅ計算シテアル、所ガ政府デ之ヲ只デ製材所ニ持ッテ行カナイデ、民間ニ公賣シマシタ、代價ハ幾ラカト云フト四圓二十二錢デアル、十二万尺メカラアル其材木ヲ、自分ノ製材所デ取ル時ニハ四圓デ計算シテ居ル、他所ヘ賣レバ四圓二十二錢デアルカラ一尺メニ付テ二十二錢ノ差ガアルノデスカラ、是ダケデモ既ニ二万七千圓バカリノ差ガ出來テ來ル、ソレカラモット恐シイコトハ、前年度カラ繰越シテ來タトコロノ材木ガアル、前年度カラ繰越シテ來タトコロノ材木ハ前年度ノ値段ハ尺メ四圓二十二錢——四圓云フト一尺メ二圓九十九錢、所ガ今申上ゲマスル通り其年ノ材木ノ値段ハ尺メ四圓二十二錢——四圓二十二錢ノモノヲ製材所デアハ二圓九十九錢トシテ居リマスカラ、一圓以上ソコデ又出テ來ル、是モ二万何千尺メト云フモノガアル、サウスルトサウ云フ計算ヲシテ見マスルト、政府ノ一番結末ニハ二十五万圓ノ資本金ニ付テ一割六分儲ツタヤウナコトガ書イデアリマスケレドモ、一割六分デナンボニ當ルカト云フト、丁度五万七千圓バカリ——五万七千圓バカリ儲カッタヤウナ計算ニナッテ居リマスケレドモ、今申上ゲマスルガ如ク其年ノ材木ヲ其年ノ値段デ計算シテ見マスルト、儲ケガナイノミナラス、損ニナッテシマフノデアリマス、デソレハ餘程ノ政府委員ニモ氣ニ掛ルモノト見エマシテ、是ハ前々カラ前年度カラ繰越シテ來テ居ルトコロノ材木ハ、前年度ノ値段デヤッテ來テ居ルノガ例ニナッテ居ルカラト云フ辯明ハゴザイマシタ、併シソレハ其通りデアル——其通りデアリマセウガ、是ハ本統ノ損益計算ヲ示ス上ニ於テハ、サウ云フコトデハイケナイ、前年度モ廉カッタノデ、即チ安イノト高クナルトノ差デ儲ケガ出來タノデ、製材事業ノ儲ケハナイノデゴザイマス、ソレカラ又此民間ノ會社デモ實ハサウ云フ計算ヲスルト云フヤウナ辯明ラシイ言葉ナドモアリマス、併ナガラソレハ民間ノ會社ノ事トハ大違ヒデ、民間ノ會社ハ他所ノ品物ヲ廉ク買ッテ來テ、相場ガ上ツタタメニ儲カッタト云フナラバ、ソレハ本統ノ儲ケデアリマセウケレドモ、政府ハ自分ノ木ヲ廉ク計算シテ、相場ガ上ツタカラ儲カッタト云ウテモ、些ットモ儲ケニナッテ居ラヌト私ハ思フ、能ク政府ノ調ト云ウテハ少シ語弊ガアルカ知レマセヌガ、屬僚ハ上官ニ自分ノ手柄ヲ示スタメニ、サウ云フヤウナ調査書ヲ作ルコトガ往々アル、諸君モ是カラ大臣ニデモ御成リニナリマスレ

ハ、新大臣テ其屬僚ノ手加減ト云フコトヲ餘リ能ク御承知ナイト思ヒマス、サウ云フ邊ノコトヲ能ク一ツ御考ヘニナツテ、調査ニ間違ノナイヤウニ一ツ御考ヘニナルコトガ必要デアラウト思ヒマシテ、此際甚ダ恐入ツタコトデゴザイマスケレドモ、蛇足ヲ添ヘテ置キマス、ソレカラ一應御斷リ致シテ置キマスコトハ、此建議案ハ滿場一致ヲ以テ贊成ノ決議ニハナリマシタガ、其内容ニ付テ提案者ハ此製材事業ヲ廢止スルト云フコトハ、獨リ此木ヲ挽イテ板ニスルト云フヤウナ本統ノ製材ノ事ノミナラズ、併セテ政府ハ立木ヲ伐ル奴、政府デハ之ヲ豫算其他ノ上ニ於テハ斫伐ト言ツテ居ル、其斫伐ト云フコトハ、ソレカラ製材ト云フコトハ、伐ツタ木ヲ板ニ切ツタリ本統ノ角ニシタリスルコトヲ製材ト稱シテ居リマス、ソコデ提案者ハ理由書ニモ書イテアリマスル通り、斫伐事業モ政府ノ所謂製材事業モ共ニ廢止シテ欲シイト云フノガ提案者ノ御趣意デアッタノデ、當議場ニ於テノ御辯明モ其通りデアッタノデアリマス、所ガ委員會ニ於キマシテハ斫伐事業ノコトニ付テハ廢止スルト云フコトハ、今少シク調査ヲ要スル、果シテ利害得失ハドウデアルカ、研究ヲ要スルト云フコトデ、提案者ノ御同意ヲ得マシテ、本建議案ハ其斫伐事業ト云フコトヲ取除イテ、所謂純粹ナル製材事業ソレノミニ付テノ建議案トスルト云フ趣意ヲ以テ、之ヲ可決致シマシタ次第デゴザイマス、ソレカラ尙一言申上ゲテ置キマスコトハ大變長イケレドモ極ク簡單デス、チヨット申上ゲテ置キマス、政府ノ意見ハ秋田製材所ハ殆ド之ヲ維持スルノ理由ニ苦ム位デアルカラ、是ハドウモ廢止シナケレバイケマイト言ハヌバカリノ口氣デゴザイマシタ、ソレデ青森ノ製材所ハハ大ニ縮小シテ、殆ド有ルカ無イカノヤウナモノニシテ殘シテデモ置キタイト云フヤウナ口振リデ、詰リ此秋田ト青森ノ兩製材所ヲ廢メテシマウト云フコトニナリマス、殆ド製材所ヲ廢メタト同シ事ニナリマスカラ、吾々ハ此建議案ヲ諸君ノ御贊成ヲ得テ可決スルト共ニ、即チ來年度ノ豫算ニ於テ實際ニ現ル、コトヲ切望シテ居リマス次第デゴザイマス、ドウゾ御贊成ヲ願ヒマス

院議異議ナク本案ヲ採用セリ即日政府ニ呈出ス

三一 田畑地價修正ニ關スル建議案

現今ノ田畑地價ハ明治ノ初年制定セシモノニシテ偏重偏輕甚キモノナリ其ノ後政府再度之カ修正ヲ爲シタリト雖單ニ机上ノ見ヲ以テ特ニ高價ト認ムル地方ニ對シ僅ニ割引セシニ過キササルヲ以テ國民ノ負擔ハ依然トシテ公平ヲ缺ケリ政府ハ速ニ之カ調査ヲ遂ケ根本的改正ノ案ヲ具シ帝國議會ニ提出セラレムコトヲ望ム

右建議ス

二年三月十九日吉田虎之助君外三名提出、同月二十二日院議ニ付シ提出者(吉田虎之助君)ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

諸君、本案ハ昨年本議會ニ於テ可決サレマシタ案デアツテ、茲ニ詳シク述ベル必要ハナイト思ヒマス、デ簡單ニ其理由ヲ申上ゲマス、現在ノ田畑地價ナルモノハ御承知ノ通り、明治ノ初年ニ於テ各藩ノ石高ヲ基礎トシテ拵ヘタモノデアアル故ニ、其偏重偏輕アルコトハ明瞭デアアル、而シテ其石高二對シテ掛ケタル石代ハ一石五圓以上ノ場所ト、一圓ツコノ場所トアルノデアアル、而シテ其石代ガ其後國運ノ進歩ニ伴ツテ交通機關ガ行キ互リマシタ結果、唯今テハ石代ニ此ノ如キ差異ハナイノデアアル、故ニ益々偏重偏輕ヲ感ズルヤウニナツテ居ル、其後明治二十二年二十一年特別地價ノ改正ガ出來マシタケレドモ、是ハ地所ノ最も高キ所ノミヲ割引シタノデアアツテ、決シテ充分ノ修正ガ出來タモノト申セヌノデアリマス、唯幾分カ偏重偏輕ヲ感ズルコトギヌノデアリマス、其後明治三十七八年ノ戰役後非常ニ地租ガ高マツタ爲メニ益々此偏重偏輕ノ感ズルコトヲ深カラシメテ居ルノデアアル、昨年ノ所得稅ノ調査ヲ見マシテモ地價百圓ニ對シテ百圓ノ收入ノアル所ト地價百圓ニ對シテ二十一圓シカ收入ノナイ所トアル、昨年ノ本案ノ委員會ニ於テ政府ハ其不公平ガ非常ニ甚シキト云フコトハ認メテ居ル、認メテ居ル、ケレドモ之ヲ修正スルニ付テハ數千萬圓ノ金ヲ要ス、又非常ニ日數ヲ

要スルタメ政府ハ賛成スルコトガ出來ナイト云フテ居ル、此金額ニ付テハヤリ方ニ依テハ六七百万圓ヲ確ニ出來ルト云フ私ハ考フ有ツテ居ル、既ニ政府ハ偏重偏輕ガアルト認メタ以上ハ、賦ニ厚薄ナク民ニ勞逸ナカラシムル御詔勅ニ對シテモ、ドウカシナケレバナラヌ事ト存ジマス、故ニ本案ヲ提出シタ次第アリマス、ドウカ御賛成アラントコトヲ希望シマス

次テ議長指名ノ委員ニ付託スルニ決シ議長ハ即日之ヲ指名ス委員ハ三月二十四日委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ノ末本案ヲ可決シ三月二十六日報告書ヲ議長ニ提出セリ

同日議事日程ヲ變更シテ續會ヲ開キ委員長吉田虎之助君ハ左ノ報告ヲ爲ス

簡單デゴザイマスカラ本席カラ申上ゲマス、本案ハ委員會ニ於テ慎重審議致シマシタ結果、極ク適當ナル案ナリトシテ之ヲ可決致シマシタ、此段御報告致シマス

院議異議ナク本案ヲ採用セリ即日政府ニ呈出ス

三三二 酒類釀造試驗所増設ニ關スル建議案

關西ニ酒類釀造試驗所一箇所ヲ増設セララルルカ若ハ各稅務監督局ニ釀造技師ヲ増員セラレムコトヲ望ム

右建議ス

二年三月二十日武藤金吉君外三名提出、同月二十一日院議ニ付シ提出者(武藤金吉君)ハ左ノ如ク

趣旨ヲ辯明セリ

提出ノ理由ヲ簡單ニ申述ベマス、本案ハ關西ニ酒類釀造試驗所ヲ一箇所増設致シマシテ、又ハ更ニ各稅務監督署ニ此釀造技師ヲ増員スルト云フ建議案デアリマス、御承知ノ通り我國ニ於テ税金ノ最モ多額ナルモノハ酒造稅デアリマス、今ヤ九千万圓ニ垂ントシテ居ルニモ拘ラス、此好稅源ニ向ツテ國家ハ何等ノ保護獎勵ト云フモノ、途ハ出來テ居ナイノデアリマス、唯僅ニ府下ノ瀧ノ川村ニ釀造試驗所ガ一箇所アルノミデアリマス、此ノ如ク多額ノ税金ヲ上ゲテ居ルニモ拘ラス、普ク全國ノ一万余ノ酒造業者ニ恩典ヲ與ヘテナイト云フコトハ、如何ニモ殘念デアリマスカラ、酒造業ノ最モ盛ニナル造石數ノ最モ多キ關西地方ニ、此釀造試驗所ヲ設ケタイト云フノガ本建議案ノ主意デアリマス、何卒御賛成アラムコトヲ希望シマス

次テ酒造稅法中改正法律案外一件ノ委員ニ付託シ委員ハ審査ノ末本案ヲ可決シ三月二十五日報告書ヲ議長ニ提出セリ

翌二十六日續會ヲ開キ委員長武藤金吉君ハ左ノ報告ヲ爲ス

本案ハ委員會ニ於キマシテ政府委員ノ出席ヲ求メマシテ審議致シマシタトコロ、如何ニモ政府ニ於テハ二千万圓ニ達スル大ナル稅源ヲ得テ居ルニモ拘ラス、之ヲ保護スル方面ニハ僅ニ五方圓シカ瀧ノ川村ノ釀造所デ使ツテ居リマセヌ、ドウカ致シテ現在アリマス釀造所ヲモット盛ニ致シタイ、又其他ニ稅務監督署ガ十二アリマス中ニ、高等官ノ技師ガ僅カ八人シカ居リマセヌ、此人員モ増シタイト云フコトハ同意デアリマスガ、如何ニモ今日ハ經費節減ノ場合デアリマスカラ、其運ビニ至リマセヌノハ殘念デアルト云フノガ政府ノ辯明デアリマス、委員會ニ於テハ滿場一致ヲ以テ建議案通り可決致シマシタ、此段御報告ニ及ヒマス

院議異議ナク本案ヲ採用セリ即日政府ニ呈出ス

三三 鐵道速成ニ關スル建議案

一 岐阜縣下岐阜市ヨリ同縣下多治見町ニ至ル鐵道
右ハ東海道鐵道岐阜ヨリ分岐シ中央鐵道多治見ニ連絡スル鐵道ニシテ現ニ豫定線タリ而シテ該線ハ産業ノ發展交通ノ不備ヲ補フヘキ重要ナル線路ニシテ急設ヲ要スルモノト認ムルニ付政府ハ速ニ調査ヲ遂ケ建設ニ著手セラレムコトヲ望ム
右建議ス

三四 飛驒鐵道速成ニ關スル建議案

一 岐阜縣下太田ヨリ飛驒國高山町ヲ經テ富山縣下富山市ニ至ル鐵道
右鐵道ハ産業ノ發展交通ノ不備ヲ補フヘキ東海道鐵道ト北陸道鐵道トヲ連絡スル橫斷線ニシテ急設ヲ要スルモノト認ムルニ依リ政府ハ速ニ調査ヲ遂ケ相當ノ處置ヲ執リ建設ニ著手セラレムコトヲ望ム
右建議ス

三五 鐵道建設ニ關スル建議案

一 宮城縣下白石ヨリ分岐シテ山形縣下上ノ山ニ接續スル鐵道
右鐵道ハ宮城縣下白石福島方面ヨリ仙臺鹽釜方面ヨリ山形縣下上ノ山及山形方面トノ各種貨物ノ運輸竝一般交通機關トシテ必要ナルノミナラス其ノ經由地ニ於ケル森林、礦物、原野ノ利用開發上及石炭、海產物ノ輸送上最必要ナル橫斷線ナリ依リテ政府ハ速ニ調査ヲ遂ケ建設ニ著手スヘシ
右建議ス

三六 野岩羽鐵道建設ニ關スル建議案

一 栃木縣下今市ヨリ分岐シ福島縣下田島若松ヲ經テ山形縣下米澤ニ接續スル鐵道
右ハ奥羽線及岩越線ヨリスル東京ニ對スル線路ヲ短縮シ栃木福島山形ノ三縣ニ於ケル森林礦物ノ開發上最急ヲ要スルモノト認ム依リテ政府ハ相當ノ措置ヲ採リ建設ニ著手セラレムコトヲ望ム
右建議ス

以上四案ハ二年三月二十日(一)(二)佐々木文一外二名、(三)長晴登君外一名、(四)日下義雄君外七名ノ提出ニ係リ同月二十二日逐次院議ニ付シ各提出者ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

(一)(二)佐々木文二君ノ演説

日程第十ノ鐵道ハ、明治二十八年頃カラ中央線ノ幹線トシテ設計サレテ居リマス岐阜及多治見間ノ鐵道ニナッテ居リマス、鐵道院ノ調査ニ據リマシテモ幹線ノ未成線ノ部ニ這入テ居リマシテ、其哩數ハ僅ニ二十哩、是ガ出來マス東京カラシテ、ズット名古屋ニ出テズシテ岐阜ニ出テ關西ノ方ニ往カレル重要ナ線路デア
ルノデゴザイマス、此線路デゴザイマスカラシテ、是ハ是非至急ニ建設ヲシテ貫ヒタイト云フノガ本案ノ趣意デゴ
ザイマス、十一ノ方ハ今ノ十ノ議案ノ鐵道線路ノ中ノ太田ト云フ所カラ岐レマシテ、飛騨國高山町ヲ經テ富
山縣下富山市ニ至ル鐵道、是モヤハリ政府ノ幹線トナッテ居リマスノデ、幹線ノ未成線ニナッテ居リマス、此事
ニ付キマシテハ飛騨國ハ御承知ノ如クマルデ鐵道ト云フモノハゴザイマセヌノデ、是ハ越中ノ方ノ議員諸君、即
チ野村君ナド、其他ノ諸君モ深ク此鐵道ノ早ク完成スルコトヲ希望シテ居ラレル次第デゴザイマス、此兩案共
速ニ政府ガ建設致シマスヤウニ、諸君ノ御賛成ヲ請ヒマスノデアリマス

(三)(四)長晴登君ノ演説

日程第十二ノ案ハ昨年齋藤二郎君ノ提出ニナッテ案デゴザイマシテ、昨年ハ院議之ヲ可決シテ居リマス次第
デゴザイマス、本線ハ舊奥羽ヨリ陸羽ノ方ニ、諸侯ノ通路ニ當ルトコロノ白石ヨリ上ノ山ニ達スル昔ノ間道デ
ゴザイマス、其處ニ横斷線ヲ作ッテ以テ兩地方ノ聯絡ヲ保チ、又其間ニ於ケルトコロノ遺利ヲ開發シタイト云
フ趣意デゴザイマスカラシテ、ドウゾ宜シク御賛成ヲ願フ次第デゴザイマス、日程十七ノ野岩羽鐵道線、是ハ政
府ニ於テモ既ニ調査ガ充分進シテ居リマシテ、此鐵道ヲ敷設スレバ即チ今市ヨリ日光ヲ經テ福島縣下田島
町ニ到リ、尙若松ヲ經テ米澤市ニ達スル鐵道デゴザイマスガ、斯クスレバ奥羽線ヨリ東京ニ至ルニハ非常ニ距
離ハ短縮致シマシテ、而シテ御承知ノ如ク此經由ノ地方ハ東奥ノ最モ中央ニ位スルガタメニ、其土地ニハ鑛
物森林等ノ遺利ハ最モ多イ土地デゴザイマシテ、且又其線ニ依ッテ既成ノ鐵道ニ尙便利ヲ與ヘルコトハ、丁
度板谷ノ線路ハ二十分ノ一ニシテ、其輸送力ハ甚ダ缺乏シテ居ルガ、此線ハ全線四十分ノ一以上ニ相成リ
マシテ、其爲ニモ非常ニ便利ナ線デゴザイマス、又岩越線ガ既ニ通シマシタケレドモ、此岩越線ハ羽越沿岸線
願ヒマス

ト奥羽線トハ殆ド直角ノ形ヲ以テ横斷シテ居ルタメニ、是ハ中央ノ帝都ニ出ル上ニ取ッテ、甚ダ遠イ線デゴザ
イマス、是等ノ線ヲ活カシテ用ユル上ニ取ッテ旁、必要ト信ジマスカラ、ドウゾ御審議ノ上御協賛アラントヲ
願ヒマス

次テ議長指名(十八名)同一ノ委員ニ付託スルニ決シ議長ハ即日之ヲ指名ス委員ハ二月二十四日委
員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ノ末四案ヲ可決シ同日報告書ヲ議長ニ提出セリ

三月二十六日四案ヲ一括シテ續會ヲ開キ委員長戸狩權之助君ハ左ノ報告ヲ爲ス

委員會ノ結果ヲ報告致シマス、四案トモ一括シテ報告ヲ致シマスルガ、第一ハ岐阜縣岐阜市ヨリ多治見町
ニ至ル鐵道、ソレカラ其次ハ太田ヨリ分岐シテ富山市ニ至ル鐵道、ソレカラ其次ハ栃木縣今市ヨリ福島縣若
松ヲ經テ山形縣米澤市ニ至ル鐵道、モウ一ツハ宮城縣白石ヨリ山形縣上山ニ至ル鐵道、此四案ハ既ニ
二十七議會及二十八議會ニ於テ衆議院ガ滿場一致ヲ以テ建議シタル案デアリマス、要スルニ一日モ早ク此
速成ヲ希望スルト云フノデアリマスルガ、政府委員ノ説明ヲ聽キマシテ、滿場一致ヲ以テ此四案ニ可決ヲシタ
ノデアリマス、ドウカ御賛成ヲ願ヒマス

松田源治君賛成ヲ表シ院議ハ異議ナク四案ヲ採用セリ即日政府ニ呈出ス

三七 結核豫防ニ關スル建議案

政府ハ速ニ結核豫防ノ施設ヲ爲スヘシ

右建議ス

二年三月二十日丸尾光春君外四名提出、同月二十二日院議ニ付シ提出者(丸尾光春君)ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

建議ノ理由ヲ少シク敷衍致シマス、成ルベク簡單ニ要點ノミヲ述ベマス、ドウゾ少シク時間ヲ拜借致シマス、此結核病ノ病症ハ既ニ諸君ノ御熟知ノコトデゴザイマスカラシテ、今更申述ベマセヌ、唯此蔓延ノ狀況ノ梗概ヲ述ベテ置キマス、此結核病ハ諸君モ知ラル、如ク四季ヲ問ハズ所ヲ選バズ、且長年月ニ亙ル慢性病デアリマスカラシテ、又最モ的確ナル治療法ガナイノデ、長幼貴賤ヲ問ハズ侵襲ヲ蒙ルトカ、是等ガ蔓延ノ主因デアリマス、此病名ヲ醫師ヨリ宣言サル、トキハ、患者ハ死刑ノ宣告ヲ受ケタル如キ感想ヲ抱クノデゴザイマシテ、誠ニ此診斷ヲ下スコトニ躊躇スルノハ人情ノ然ラシムルトコロト私ハ思ヒマス、而シテ内閣ノ統計ニ依ルニ——統計此處デ申上ゲマスト冗長ニ互リマスカラシテ是ハ速記者ノ方ニ廻シテ略シマスガ、明治三十二年ヨリ四十二年マデノ十箇年間ニ於テ、此患者數ハ漸次ニ増加シテ參リマシテ、明治三十二年ニハ肺結核其他ノ結核ノ死亡數ハ六万七千五百九十九人デアリマシタガ、漸次増進シテ明治四十二年ニ於テハ十一万二千六百二十一人ニナツテ居リマス、人口増加ニ依ツテ除算シマスケレドモ、非常チ増加ノ數ヲ示シテ居ルノデゴザイマス、東京市ノ如キハ人口一萬二付三十一人餘ヲ示シ、全國ニ於テハ平均一萬人ニ付二十一人餘ヲ示シテ居ルノデゴザイマス、故ニ全國中現ニ總死亡者ノ十「プロセント」ハ殆ド結核病ノ死亡者デゴザイマス、又最モ寒心ニ堪ヘザルハ更ニ壯年者ノ死亡數ノ約三分ノ一ハ、結核病ト云ツテモ過言デナイノデアリマス、右ノ統計數字ニ依リマシテ之ヲ推算シマス、十年ノ平均死亡率ガ七万六千餘人ニナルノデゴザイマス、國家ノ設ケテ居ル法定傳染病、即チ霍乱、虎列拉、赤痢、「ペスト」、實扶的里、「バラ」瘰癧、天然痘、猩紅熱等ノ法定傳染病ノ十年ノ平均數ハ、二万千餘人デゴザイマスカラ、實ニ結核死亡者ノ數ハ之ニ二倍ノ死亡者デアアルノデゴザイマス、而シテ國家ハ年々國庫補助トシテ此法定傳染病ニ向ツテハ、未ダ補助費ヲ出シテ居ラヌノデゴザイマス、故ニ此十年平均即チ一年ノ死亡率七万六千人ノ數字ニ依リマシテ、彼ノ「コレネット」法ニ依テ推測シマスルト、我國ノ結核罹病者數ハ一年ニ四十萬位ニ達シテ居ルノデゴザイマス、最近肺結核死亡者ハ一年二十萬

餘人、其他ノ結核死亡者ハ二万ヲ超エテ居リマス、之ヲ推算シマスルト我國ノ結核患者ノ總數ハ實ニ七十七萬八千餘ニ達スルノデゴザイマス、尙之ヲ種々ナル點ヨリ想像致シマスルト、八十萬人ニ達スルコトハ間違イノデゴザイマス、今假ニ患者一人一日ノ療養費ガ平均七十錢ト致シマスルト、一箇年ニ此積算ガ二億四百餘萬圓ニナルノデゴザイマス、又患者一日一人ノ生産スルトコロノモノヲ二十錢ト假定シマシタラバ、一箇年ニハ八千七百餘萬圓ニ達スルノデゴザイマス、之ヲ前後合シマスルト二億九千萬餘ニナリマス、即チ約二億圓ノ現在國家ノ損失トナルノデゴザイマス、國家ハ年々結核患者八十萬人アル故ニ、一年ニ二億圓餘ノ損失ヲ被ルノデゴザイマス、然ルニ豫防法ヲ講ズレバ必ズ其效ガアルノヲ證スルコトヲ得ルノハ、英國ノ如キハ七十年前ニハ人口一萬ニ付テ二十八名ノ死者アリシモ、即今ハ十二人ニ減ジテ居リマス、亦獨逸ノ如キモ二十年前ニハ人口一萬ニ對シ三十名乃至三十二名ノ死亡者ガアリマシタガ、近年ハ十六人ニ減ジテ居ルノデアリマス、故ニ今ニ於テ其豫防法ヲ行ハザレバ、遂ニハ莫大ノ數ニ上ツテ、救フベカラザル慘害ノ域ニ達スルノデアリマス、現今ハ百人ニ付テ一人半ノ結核患者ノ數デアリマスガ、之ヲ此儘放棄シテ置キマスレバ、遂ニハ五十人ニ一人トナリ、三十人ニ一人トナリ、即チ百人集マレバ三人ノ結核患者ガアルト云フヤウナ有様ニ近キ將來ニ達セントシテ居ルノデアアルガ故ニ、此際政府ニ於テ是ガ豫防策ヲ講ズルノガ最モ急務中ノ急務ナリト自分ハ信スルノデゴザイマス、近時我國ノ衛生家ニ於テモ是ガ豫防法ニ注意セラレ、赤十字ニ於テハ一箇年間ニ一十八萬圓ヲ支出スルコトヲ決議シテ居リマス、又東京ニハ日本結核豫防會ト云フモノガ出來マス、大阪ニモ京都ニモ是ガ豫防會ノ組織ヲ見ルニ至ツタノデアリマスガ、是等民間ノ篤志家ノミニ委ネズニ、政府モ此際大ニ力ヲ盡スノ必要ガアリマス、如何トナレバ此疾患ヲ此儘放置シマスレバ農事モ工業モ軍隊モ、總テ衰頹シテ無能力ニ陥ルノ虞ガアルノデアリマス、唯我政府ハ明治三十七年ニ豫防法ニ關スル内務省令ヲ發シマシタケレドモ、殆ド是ハ形式ニ止ツテ是ガ履行ニモ努メヌノデアリマス、故ニ此際諸君ハ私ノ此建議案ニ賛成セラレ、一日モ早ク政府ニ結核豫防ニ對シテノ方法ヲ講ゼシムルコトヲ希望スルノデゴザイマス、ドウカ賛成ヲ請ヒマス

次テ議長指名ノ委員ニ付託スルニ決シ議長ハ即日之ヲ指名ス委員ハ二月二十五日委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ノ末本案ヲ可決シ即日報告書ヲ議長ニ提出セリ

翌二十六日續會ヲ開キ委員長丸尾光春君ハ左ノ報告ヲ爲ス

委員會ノ經過結果ヲ報告致シマス、委員會ハ昨二十五日午後開會致シマシテ、政府ヨリハ小橋衛生局長、北島内務省技師出席アリマシテ、質問應答且ツ意見ノ交換ヲ致シマシテ、會ハ一回デアリマスケレドモ頗ル長時間ニ亙リマシテ、審議ノ後全會一致ヲ以テ可決致シマシタ、本會ニ於テモ宜シク御賛成ヲ願ヒマス院議異議ナク本案ヲ採用セリ即日政府ニ呈出ス

三八 朝鮮ニ於ケル棉花栽培獎勵ニ關スル建議案

我カ邦紡績業ノ發達ニ伴ヒ棉花ノ需要ハ倍々多大ナルモノアルニ内地本土ニ在リテハ其ノ產出絶無ニシテ全部之ヲ海外ニ仰クノ實狀タリ貿易上ニ於ケル輸入超過ノ一因亦實ニ此ニ在リト謂ハサルヘカラス幸ニ朝鮮南部ニ於テハ棉花ノ栽培ニ適スルノ地域甚廣ク之カ獎勵宜シキヲ得ハ以テ其ノ一大生産品タルノ望ミ的確ナルコトハ既往七箇年ニ於ケル試験ノ明ニ證スル所ナリ然ルニ政府ノ之ニ對スル措置ヲ見ルニ唯區々タル獎勵ヲ爲スニ止マリ施設極メテ小規模ナルヲ以テ其ノ發展甚遲緩ナルノ憾ナキヲ得ス故ニ政府ハ此ノ際之ニ對スル根本的大方針ヲ確立シ速ニ其ノ發展ヲ策スルヲ要ス
右建議ス

二年三月二十日濱本義顯君提出、同月二十二日院議ニ付シ提出者ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

諸君、本案ニ付キマシテ説明ヲ致シタイト思ヒマスルガ、此棉花問題ハ最モ國家ノ經濟ニ至大ナル關係ヲ有テマスノデアリマス、暫時ノ間、暫時ト云フト大變テスガ五分ハカリノ間、諸君ノ御清聴ヲ煩ハシタイ此棉花ノ栽培ト云フコトニ付キマシテハ、世界各國ガ今競争シテ居リマシテ、總テ此歐米各國ノ強大國ハ皆此栽培ヲ非常ニ獎勵ヲナシテ居ルノデアリマス、既ニ此日本ニ於キマシテハ氣候風土ニ副ハヌタメニ、未ダ一俵ノ紡績機械ニ副フ棉花ト云フモノヲ栽培シ得ルコトガ出來ナイノデアル故ニ、一昨年ノ如キハ亞米利加ノ棉花商ニ依テ死命ヲ決セラル、ト云フ状態デアルノデス、二十圓ト云ヘバ二十圓デアリハナケレバナラヌ、五十圓ト云ヘバ五十圓デアリハナケレバナラヌト云フヤウナ、ツマリ外國ニ死命ヲ決セラレツ、アル、此悲惨ナ状態デゴザイマス、既ニ諸君モ御承知デアリマセウガ、獨逸ニ於テ千九百七年ト思ヒマスルガ、獨逸皇帝ガ議會ニ詔勅ヲ下シテ棉花栽培ニ極力獎勵セイト云フコトデアリマシテ、既ニ皇室費ヲ割カレテ其獎勵ニ努メラレタコトモアル、新ニ殖民省ヲ新設セラレテ、ソレガ爲ニ今日ニ於テハ外國ニ此棉花ヲ求メルト云フコトガナクナツテ、非常ニ效果ヲ收メテ居ルヤウナ次第デアリマス、丁度日本ノ状態モ以前ノ獨逸ノ状態ニ稍、似タヤウナ有様デアリマシタガ、獨逸ハ此ノ如キコトデアリマス、其他英國ト云ヒ亞米利加ト云ヒ、皆ソレノ如ク獎勵ヲ勵ンデ居ルデアリマス、殊ニ露西亞デアリマス、露西亞ノ如キハ即チ我四十二年度ニ於テハ僅ニ七千万圓内外ノ綿ホカ收穫シ得ナカッタモノデアリマスガ四十二年ニナツテハ一億二千万圓ノモノヲ獲得シタト云フ有様デアアル、丁度東亞細亞方面ニ向ッテ極力目下獎勵ヲ爲シツツアルノデアリマス、我邦ニ於テハ一俵ノ綿ガ得ラレナイト云フコトノタメニ、既ニ昨年ノ如キ外國カラ輸入シテ居リマスモノハ一億六千万圓ヲ算スルノデアリマス、其内六千万圓ハカリハ棉絲トナリ又織布トナツテ、支那或ハ東洋ノ市場ニ輸出サレルノデアリマスガ、一億圓ト云フモノハ詰リ我國民ノ費消スルコトナツテ居リマス、而シテ此紡績現在ノ錘數ハ二百万錘デアアルノデアリマスガ、昨年本年ノ中ニハ尙五十万錘ヲ増錘シテ之ニ伴フ棉花ハ一層需要ヲ増スノデアリマス、紡績業者ノ考ヘルトコロニ依ルト、兩三年ノ中ニハ二億ノ綿ハ買ハナケレバナラヌヲ云フコトニナツテ居リマス、其二億ノ綿ヲ買ウトシテ、或ハ半バ棉絲トナリ或ハ織布トナツテ外國ヘ出ルカモ知レマセヌ、其半バトシテモ一億五千万圓ト云フモノハ我邦ガ費消スルト云フヤウナコトニナリマス、此状態ヲ以テ推シマス、非常ニ國家經濟上ニ及ス

トコロノモノハ甚ダ寒心ニ堪ヘヌコトデアラウト思フ、サウシテ此朝鮮ニ於ケル棉花ト云フコトニ付テハ、之ヲ栽培獎勵シマシタノハ丁度二十八年ニ當ッテ居リマス、其二十八年ニ於テ我黨ノ首領即チ原君或ハ野田君其他ノ先輩ガ、極力力ヲ致サレ、又大石或ハ犬養ト云フヤウナ人々モ之ニ力ヲ協セマシテ、伊藤統監ガ最モ之ニ盡瘁セラレマシテ、政府モ少ナカラヌ金ヲ支出シテ居リマスガ、尙ホ朝鮮ノ貧困ナル政府ニ於テモ十萬圓ト云フ金ヲ出シテ、此棉花ノ亞米利加種ヲ取寄セ試験ヲ爲シタノデアリマス、其後棉花栽培協會ト云フモノヲ設ケマシテ、紡績業者モ多少ノ金ヲ出シタノデアリマスガ、ソレ等ノタメニ此試験ガ濟シテ居ルノデアリマス、臺灣ノ方ニモ棉花ガ出來ルト云フコトデアリマスガ、是ガ出來レバ誠ニ國家ノタメニ慶賀スベキコトデアリマスガ、是ハマダ試験ガ出來ナイノデ、昨年十月ニ漸ク種ヲ蒔イタト云フヤウナコトデ、是ハ誠ニ反對ノコトデ、十月ニハ收穫スベキ時期デアルノニ種ヲ蒔イタト云フコトデ、ソレハ何故カト言ヘバ颶風其他ノコトノ危険ノタメニ、臺灣ノ如キハ未ダ試験ト云フコトヲ了シナイノデアアル、然ルニ朝鮮ノ如キハ先輩諸君ノ各派ノ人々ガ非常ナ盡力ヲサレテ、少ナカラヌ金ヲ投ジテ今日デハ立派ニ其成績ヲ得テ居ルノデアアル、之ヲバ政府ガ緩漫ニ打棄テ、置ク譯デアアリマスマイガ、棉花ト云フモノハ獎勵セントスルニハ、彼ノ重キ實績ヲ交通機關ノ不完備ナル朝鮮ニ廣ク播種セントシテモ播種スルコトガ出來ズシテ、詰リ木浦附近ノ一局部ニ對シテ播種シテ居ルト云フ事柄デ、是デハ到底我邦ノ巨額ナル需要ヲ要スルモノニ向ッテ、甚ダ成效ヲ期スルコトハ歎ハシイ次第デアル、國家ハ之ニ對シマシテ所謂重キ實績デアルカラ、相當ノ地域ヲ定メテ、之ニ練綿工場ヲ設ケ、依テ以テ棉花ヲ栽培セシムル方法ヲ獎勵シナケレバ、僅カナ小規模ノ上ニ發展ヲ待ツナドト云フコトハ今日財政困難ノ場合ニ於テ出來ナイコトデアアル、暫クモ是ハ忽セニ出來ヌコト、考ヘマス、之ヲ大ニ獎勵シテ我邦ノ經濟ノ發展ヲ期シタイト思ヒマスノデ、諸君ドウツ御贊成ヲ願ヒマス

次テ議長指名ノ委員ニ付託スルニ決シ議長ハ即日之ヲ指名ス委員ハ三月二十四日委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ノ末本案ニ修正ヲ加ヘ三月二十六日報告書ヲ議長ニ提出シタルモ院議ニ上ラサリシ(委員會報告書)

我カ邦紡績業ノ發達ニ伴ヒ棉花ノ需要ハ倍々多大ナルモノアルニ内地本土ニ在リテハ其ノ產出絶無ニシテ全部之ヲ海外ニ仰クノ實狀タリ貿易上ニ於ケル輸入超過ノ一因亦實ニ此ニ在リト謂ハサルヘカラス幸ニ朝鮮南部ノ土地ハ棉花ノ栽培ニ適スヲ以テ之カ獎勵宜シキヲ得ハ其ノ一大生産品タルノ望ミ的確ナルコトハ既往七箇年ノ成績ニ徴シテ明ナリ政府ハ爾來陸地棉栽培ノ普及ニ努力スト雖尙未タ盡ササルモノアリ爲ニ其ノ發展遲緩ナルノ憾ナキヲ得ス故ニ政府ハ此ノ際更ニ根本的大方針ヲ確立シ速ニ其ノ發展ヲ策セムコトヲ望ム

右建議ス

三九 樺太漁業制度改正ニ關スル建議案

樺太島現行漁業制度ヲ改正シ移住島民ヲシテ鯧、鱒、鮭三主要魚族ノ漁利ニ均霑セシムヘシ
右建議ス

二年三月二十日木下成太郎君外四名提出、同月二十一日院議ニ附シ提出者(木下成太郎君)ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

樺太漁業制度改正ニ關スル建議案、本案ニ付テ少シク提出致シマシタ理由ヲ述ベテ見タイト思ヒマス、要スルニ此案ハ樺太ノ細民ノ救済ヲシテ、サウシテ樺太ヲ開發スルトコロノ實ヲ擧ゲタイ、斯ウ云フノデゴザイマス、

願ミマスルト樺太占領以來今日ニ於テ殆ド八年間、國家ガ樺太島ニ投ジテ居リマストコロノ國帑ハ、約二千万圓ヲ投ジタデアリマス、而シテ今日樺太ノ人口ハ約三万人ニナリマシタ、此三万人ノ人間ニ對シテ國家ハ二千有餘萬圓ノ金ヲ投ジタト云フコトニナルデアリマス、而シテ現在ノ樺太島民一人ニ付テ國家ハ七百圓宛ノ金ヲ今マデニ費シテ居ルト云フ都合デアアルデアリマス、其三万人ノ中ニ二万人ガ今日救濟ヲ要求シテ居ルトコロノ零細ナ民デアリマス、然ルニ端ナクモ樺太島民二万人ノ者ト、樺太ノ行政廳トノ間ニ衝突ヲ來シ、而シテ此救助ノ途ガ講セラレヌヤウナ都合カラシテ中央ノ問題トナリ、併セテ私共ガ諸君ノ御同情ニ訴ヘテ此建議案ノ成立ヲ冀フ所以デアリマス、凡ソ國ヲ開キマス順序ト致シマシテ、北海道ハ固ヨリ樺太ノ啓發致シテ行ク其成行ヲ見マス、此沿岸カラシテ段々開ケテ參リマシテ、サウシテ最初漁民ガ漁業ヲ致シ、其漁民ガ又農業ヲ兼ネ、農業ト漁業ト兼業致シマシテ段々農業上ニ於テ土地ノ改良ガ出來、而シテ土地ニ適當ナル種子ト云フモノガ見出サレマシテ、初メテ農業バカリニ從事スルト云フヤウナ都合ニナルノデアリマス、故ニ此沿岸漁業ノ時期ハ確ニ未開ノ時代デアルコトハ西洋ノ歴史ニ依ッテモ總テ證シテ居リマスノミナラズ、日本ニ於ケル北海道ノ四十五年間ノ歴史ハ、之ヲ能ク證明致シテ居ルデアリマス、然ルニ先般樺太長官カラシテ此樺太漁業制度ノ改正ト云フコトニ付テハ、漁民及同情セラレルトコロノ諸君カラ請願ガ出テ居リマス、ソレニ對スル長官ノ辯明ニ依リマスト云フト、今日ノ樺太ハ一網制度デアリ、而シテ現在モ將來モ一網制度デ之ヲ押通シテ行キタイト云フ御意見デアルヤウニ承リマシタ、然ルニ果シテ一網制度ナルモノガ、今日ノ時代ノ要求ニ適合致シテ居リマスルカ、否ヤト申シマスルト、般鑑遠キニアラズ既往ニ於ケル北海道四十五年ノ事歴ニ徴シマスルト、一網制度ニ依ッテ之ヲ將來マデモ持チ堪ヘルト云フコトハ出來ヌノデアリマス、漁業ノ進歩ノ模様ヲ見マスルト、沿岸漁業ナリ近海漁業ソレカラ遠洋漁業ト、斯ウ云フ都合ニナルノデアリマス、具體的ニ申シマスルト、最初ニハ建網ヲ使フ、曳網ヲ使フ、ソレカラ進ミマシテ刺網ト云フヤウナモノニナリマス、或ハ阿線ト云フモノニナリマス、或ハ手繰ヲ使フト云フコトニナリ、或ハ八坂デアルトカ、「ゴチ」デアルトカ、巾著ト云フヤウナ、ソレ等ノ漁具ガ漸次ニ發達シテ使ハレテゴザイマス、ソレガ民ガ不足ノ時分ニハ所謂沿岸漁業ノ建網デゴザイマスルトカ、曳網デアリマスルトカト云フノ宜シイデアリマス、人間ガ殖エレバ殖エルニ從ッテ、ヨリ以上ノ進歩シタトコロノ漁具ヲ使ッテ漁業ヲスルトハ、是ハ數ノ免レヌ次第デアルデアリマス、而シテ尙魚族ノ種類ニ付テ長官ノ説明ヲ承リマスルトコロガ、樺太ニ於ケル鯨ハ即チ游泳魚

デアルト云フコトニ承リマシタ、若シモ樺太ノ現在漁業ヲ致シテ居リマスルトコロノ鯨ガ、長官ノ辯明ノ如ク游泳魚デアルト云フコトデアレバ、尙更今日ハ一網制ヲ固執スルト云フコトハ、謂ハレガナイヤウニ私ハ信ズルノデアリマス、此問題モ新シイ問題デアッテ、而シテ古イ問題デアル、此鯨ノ凡ソ棲息地ト云フモノハ、世界ノ漁業學者水産學者ガ寄リマシテ、サウシテ永年ノ間研究ヲ致シテ居リマスケレドモ、鯨ノ棲息場ト云フモノガ今日ニ於テモ尙且探檢セラレヌデアルノデアリマス、或諾威ノ水産學者ハ、鯨ノ棲息地ハ太陽ノ黑點ニ向イテ居ル所ガ、即チ鯨ノ棲息地デアルト斯ウ云フコトヲ言ウテ居ル、日本ニ於ケルトコロノ水産學者ハ未ダ其點マデモ能ク攻究スルトコトヲシテ居リマセヌノデアリ、日本ニ去來スルトコロノ此鯨ト云フモノハ、ドノ方面カラ來ルデアルカ、常ニ日本ニ來ルトコロノ鯨ト云フモノハ、ドノ方面ニ棲息シテ居ルデアラウカト云フコトモ分ラズ致シマシテ、諸君モ御承知ノ如ク今日農商務省ガ多大ノ金ヲ使ッテ、サウシテ鯨ノ棲息地ノ探檢ヲ致シテ居ルヤウナ都合デアルノデアリマス、私共ノ信シマスルトコロデゴザイマスルト云フト、北海道ノ從來ノ歴史カラ申シマスルト、鯨ノ此游泳魚ニ屬シテ居リマスルトコロノ種類ハ、是ハ大ナル棲息地ガアッテ、而シテ之ヲ獲リマシタカラト云フテ此鯨ガ減ルト云フコトハ絶對ニナイモノト信ジテ居ルノデアリマス、實例ヲ申シマスルト北海道ニ於テ開拓使以來四十五年ノ間、鯨ノ産額ガ約一千三百万圓アルノデアリマス、個人々々ノ分配ニ於キマシテハ頗ル一箇統、一箇統ノ漁業權ニ當テマスルト減リマスルケレドモ、北海道ノ總産額ノ上ニ於テハ一千三百万圓ト云フ、此金ト云フモノハ些トモ四十五年ノ間ニ於テ減退ヲ致シテ居ラヌノデアリマス、テ言葉ヲ換ヘテ申シマスルト、北海道ニ於ケル東ノ方ガ不漁ノ時分ニ於テ、西ノ方ニ於テ大漁ヲ爲シ、南ノ方ニ於テ不漁ノ時分ニハ北ノ方ニ於テ大漁ヲ爲シテ居ルト云フ、斯ウ云フ都合デアリ、又部落部落ニ依リマスルト、或方面ハ三年ノ間漁ガゴザイマセヌデモ、或部落ニ於テハ三年ノ間豊漁ガ續クト云フ、斯ウ云フ都合ニナッテ居ルノデアリマス、ソレデ大體ニ於テ此産額ト云フモノハ減ッテ居ナイノデアリマス、樺太ニ於テモ其通りデアッテ、鯨ノ種類ニ於テモ同一デアリマス以上ハ、北海道ノ例ヲ以テ樺太ヲ付度スルト云フコトハ、決シテ是ハ違ヒナイト私ハ信ズル、ソレト同時ニ今日ノ樺太島ニ於ケル所謂此二万ノ細民ヲ救濟シ、二万ノ細民ニ職業ヲ與ヘルト云フ上ニ於テハ、何等カノ漁業ト云フモノヲ之ニ與ヘテ、サウシテ救濟セヌ以上ハ、救濟ノ途ハナカラウト思フノデアリマス、同時ニ從來樺太島ニ於テ漁業ヲ致シテ居ルトコロノ建網漁業者ニ向ッテモ、政府ハ當然是ハ保護ヲスルガ宜シイデアル、一面ニ建網漁業者ヲ保護スルト共ニ、一面ニ二万ノ零細ナル

トコロノ漁民ト云フ者ヲ保護スルノ途ハ、當然國家トシテ講ジナケレバナラヌト私ハ信ズルノデゴザリマスル、故ニ此事ニ付キマシテハ詳シク自説モ申述ベタウゴザリマスルシ、而シテ當局者及ヒ建網漁業者ノ主張モ充分承ツテ見テ、何等カノ調和ヲ致シ、サウシテ樺太ノ發達ヲ圖リマスル方法モアラウト存ズルノデアリマスルガ、私ハ此案ヲ成ベク諸君モ御同情下サリマシテ、十分ナル審議ヲ遂ゲラレテ、サウシテ本案ノ成立セントコトヲ希望致シマス、終ニ臨ンデ一言申シテ置キマスルガ、所謂天ノ命之ヲ性ト謂ヒ、性ニ率フ之ヲ道ト謂フトアリマス、樺太島ニ於ケル今日ノ漁民ガ此事ヲ絶叫シテ居リマスル、而シテ樺太政廳ガ之ニ向ッテ一顧ヲセズ、而シテ一面ニ於テ樺太島民ト樺太ノ行政廳ノ間ニ、意ガ疎隔ヲ致シマシテ、何レノ時代ニ於テ爆發ヲスルカ、殆ド分ラヌヤウナ危険ナ状態ニアル、樺太ノ行政廳ハ民意ノアル所ヲ用非ナイ——用非ナイガ故ニ樺太島民ハ今日ハ是ハ死活ノ問題ニアル、即チ麵麴ヲ得ルカ得ラレナイカ、明日ガ日ニハ死ナ、ケレバナラヌカ、樺太島ヲ去ラネバナラヌカト云フ問題ニナッテ居ルノデゴザリマスル同時ニ、樺太政廳ハ魚ニ重キヲ置イテ、サウシテ人民ヲ輕ク視テ居ル、魚ヲ保護シナケレバナラヌカ、人民ヲ保護シナケレバナラヌカ、二者何レニ於テ斷案ヲ下サナケレバナラヌ時デアアルノデアリマスカラ、何分ニモ諸君ノ御同情ヲ願ヒマス

次テ議長指名ノ委員ニ付託スルニ決シ議長ハ即日之ヲ指名ス委員ハ三月二十五日委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ノ末本案ヲ否決シ翌二十六日報告書ヲ議長ニ提出セリ
同日議事日程ヲ變更シテ續會ヲ開キ委員長川原茂輔君ハ左ノ報告ヲ爲ス

諸君、樺太漁業制度改正ニ關スル建議案ノ委員會ノ結果ヲ御報告致シマス、是ハ建議案ノ文字ハ甚ダ單簡デアリマスケレドモ、此問題ハ樺太ト云フ土地ニ對シテハ年來當業者ハ勿論、當局者間ニ於テモ研究ヲ致シ來タル問題デアリマシテ、委員會ニ於テモ數多ノ質問應答モアッタノデアリマス、而シテ今日即チ最後ノ委員會ヲ開キマシテ、一人ノ異議者無ク本案ハ否決スベシト云フコトニ極ッタノデアリマス、但シ其否決ノ中能ク漁業ノ事ハ承知仕ラヌカラ、イッレ其中ニハ相當ノ研究ヲセラレルコトデアラウト云フ意味デ否決ニ贊成シタ人ガ二人、其外ノ否決論者ハ即チ斯ル建議ハ爲スベキモノニ非ズト云フノ意味ニ於テ否決シタノデアリマス、

是ハ少シク其理由ヲ説明シナケレバナラヌ次第ガアリマスカラ、暫時ドウツ御聽取ヲ願ヒマス、樺太ニ於テ此鯨鮭鱒ノ二主要魚族ニ對シテハ、從來建網ノ制度ヲ採ッテ居ルノデアリマス、ソコデソレニ向ッテ刺網ヲ許シテ貫ヒタイ、曳網ヲ許シテ貫ヒタイト云フノガ此建議者ノ趣意ニアル、之ニ向ッテ其反對、所謂政府ノ辯明及委員ノ反對ト云フモノハ、建網制度ト及ヒ、曳網刺網等ノ即チ一ツノ網主義——一網主義ヲ二網主義ニ變更シタル結果ニ於テハ、第一魚族ノ蕃殖ヲ妨害スルト云フノガ一ノ理由デアリマス、現ニ北海道ノ如キハ前年百万石ノ生産高ハ此二網主義ヲ採ッタタメニ、魚族ノ蕃殖ヲ妨ゲタ結果トシテ、百万石ノモノガ五十万石ニ減シタト云フ實例ノ統計ヲ示シテノ議論モアッタノデアアル、ソレデ唯一時ノ收穫ヲ大ニシ、一時ノ漁民ノ數ヲ多クシテ、一時ノ賑ヒヲ呈スルコトニ於テハ刺網ト竝ニ建網ト、二網主義ヲ取ッテモ宜イカモ知ラヌガ、其結果ト云フモノハ即チ樺太拓殖ノ根柢ヲ破壊スルモノデアアル、即チ樺太ノ魚族ヲ永遠ニ細ク長クヤルノ意思ニ於テ——此二網主義ヲ取レバ即チ廣ク短クヤッテ魚族ノ蕃殖ヲ根本ヨリ破壊スルモノデアアルガ故ニ、此二網主義ヲ取ルコトハ甚ダ宜シクナイ、今樺太廳ニ於テ方針トシテ居ルトコロノ主義ガ、最モ樺太開發即チ樺太魚族蕃榮、所謂細ク長クヤル上ニ於テ適當ナコトデアアルカニ、此建議案ニ反對デアルト云フ意思デ、前申上ゲタ通り滿場一致デ否決ニナリマシタカラ、ドウカ御贊成ヲ願ヒマス

院議別ニ討論ナク本案ヲ否決シタリ

四〇 教員檢定委員會ニ關スル建議案

明治三十三年三月勅令第百二十五號教員檢定委員會官制第二條ノ常任委員及臨時委員ハ官立學校長教授助教等ト文部大臣ノ許可セル專門部高等師範部ノ設ケ有ル私立學校長ノ推薦ニ係ル教職員トヲ以テ平分ニ採用シ其ノ職權及待遇ヲ同等ニスルコト但シ臨時委員ハ右ノ採用法ニ據リ試驗學科目毎ニ之ヲ任命スルコトトスヘシ

二年三月二十日柏原文太郎君外四名提出、同月二十二日院議ニ付シ提出者(柏原文太郎君)ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

本案提出ノ理由ヲ申述ベマス、從來私立學校ハ幾多ノ人材ヲ出シマシテ、國家社會ニ貢獻シテアル事ガ多
イニ拘ラズ、政府當局者ハ免角官立ノ學校ヲ重シマシテ、潤澤ナル國費ヲ之ニ投ジ、優逸ナル特權ヲ以テ
之ガ獎勵ニ努ムルニ拘ラズ、私立學校ニハ免角煩瑣ナル檢束ヲ加ヘテ毫モ其保護獎勵ヲ加ヘナイヤウナ傾ガ
アリマス、然ルニモ拘ラズ政府ノ設立シテアリマスル所ノ學校ニ於テハ、此中等教員即チ中學師範學校高等
女學校等ノ教員ニ常ニ不足ヲ告ゲマシテ、之ガ爲ニ教員檢定委員會ト云フヤウナモノヲ設ケマシテ、此規則
ニ依ッテ汎ク民間ヨリ教員ヲ採用スルト云フ組織ニナッテ居リマス、此教員檢定委員會ノ規則ニ依リマスルト、
會長、主事、臨時委員、常任委員ト云フモノガアリマシテ、ソレガ檢定ノ事務ヲ管掌シテ居ルノデアリマスルガ、
其委員ノ選擇ハ悉ク官立即チ文部省ノ直轄學校ノ校長、教授、助教授等ヨリ採用致シマシテ、一モ私立
學校ノ教員等ヨリ採用シテアルモノハ無イノデゴザイマス、ソレ故ニ往々此試驗問題等ニ就キマシテモ非難ヲ
讓シマシテ、民間ニ於テモ新聞等ニ於テ始終其試驗ノアル毎ニ非難ノ聲ガ起ルト云フ有様デアリマス、是ハ全
體アマリ狭小ナル範圍カラ其委員ヲ採ルガ爲ニ、往々ニシテ學說等ノ差異ガアリマシテ、其ノ爲ニ不平ヲ醸ス
ヤウナ結果ニナルノデアリマス、專門學者ノ說ニ於キマシテハ、必ズ甲ノ非トスル所ト、乙ノ非トスル所ハ一致シ
ナイヤウナ事ハ往々アリマス、況ヤ無試験檢定ノ資格ノアル者モ、悉ク此文部省直轄學校ノ教授助教授等ニ
依ッテ檢定ヲサレルト云フヤウナ有様デアリマスルノデ、往々此不公平起ル、ソレ故ニ今日ハ成ベク學閥ト云フヤ
ウナモノヲ廢シテ、汎クハ公平ニ此委員ヲ選定致シマスルコトハ、他ノ學制ノ方ニ於テモ大ニ唱道サレル所デア
リマスガ、是ハ同等ニスルト云フノデハナイ、私立ニ於テ養ハレタ所ノ學生、若クハ私學ニ於テ養ハレタ所ノ受験
者、其數ハ年々二千一二三百人乃至四千八百人位ノ人數ガアル、其者ヲ試驗スルニ一モ私立ノ相當學校ノ教職

員ヲ採用シナイト云フコトハ、教育ノ聯絡上ニ於キマシテモ將又教育行政ノ公平ヲ保ツト云フ上カラモ、頗ル
缺點デアラウト思ヒマス、ソレ故ニ今日ハ文部大臣ノ奏請ニ依ッテ、内閣ニ於テ採用サレル範圍ニ於テ、私立
學校ノ教職員中ニモ相當ナル學者ガアル、又政府ニ於テモソレヲ認メテ教職員タルコトヲ認可シテアル以上ハ
其者ヲ採用致シマシテ、之ニ同等ノ權利待遇ヲ持タシテ、サウシテ此檢定ヲ完全ニサシタイ、サウスル事ガ日本
ノ教育行政ノ公平ヲ保チ完全ヲ保ツ所以デアラウト思フ、是レ本案ヲ提出致シマシタル理由デゴザイマス、ド
ウカ御贊成ヲ願ヒマス

次テ議長指名ノ委員ニ付託スルニ決シ議長ハ即日之ヲ指名ス委員ハ三月二十五日委員長及理事ノ
互選ヲ行ヒ審査ノ末本案ヲ可決シ同日報告書ヲ議長ニ提出セリ

翌二十六日續會ヲ開キ委員長三浦覺一君ハ左ノ報告ヲ爲ス

本案ハ教員檢定委員會ニ關スル建議案至ッテ簡單ナ案デアゴザイマスガ、學制上ニ取リマシテハ非常ナ重大
ナル案デゴザイマス、其趣意ハ既ニ建議者ヨリ此席ニ於テ御辯明ニナリマシタ通り、師範學校中學校若クハ
高等女學校ノ教員ノ檢定委員ト云フモノハ、是マデ悉ク官立ノ學校職員ニ採用シテ、私立學校カラハ少シ
モ其委員ニ採用シナイ爲メニ、此受験者ノ不便若クハ不利トナッテ居ルコトハ多大ナコトデアルカラ、宜シク將
來ハ私立學校ニモ適當ナル教職員ハ澤山アルノデアルカラ此中カラモ少クモ其委員ノ半數位ハ採ルベシト云
フ趣意デゴザイマス、委員會ニ於キマシテハ此趣意ハ最モ必要ナリト認メマシテ、滿場一致デ之ヲ可決致シマ
シタ、政府ノ方ニ於キマシテモ——政府委員ヲ呼出シテ政府ノ意見ヲ聽キマシタガ、此案ニ於テ反對ヲ致ス
筈モゴザイマセヌ、尙進ンデ委員會ハ將來ハ是非此建議案ヲ容レテ、少クモ半分以上位ハ採ルベシト云フ強
キ意味ヲ以テ、尙請求致シテ委員會ヲ閉ヂマシタコトデゴザイマス、ドウゾ滿場ノ御贊成ヲ得テ本案ノ通過セン
コトヲ希望致シマス

院議異議ナク本案ヲ採用セリ即日政府ニ呈出ス

四一 復古功臣前功表彰ニ關スル建議案

江藤新平、島義勇、前原一誠、奥平謙輔、大山綱良、桂久武、桐野利秋、篠原國幹、村田新八及小倉處平等ノ前功ヲ表彰スヘシ
右建議ス

二年三月二十日武富時敏君外四名提出、同月二十六日院議ニ付シ提出者(的野半介君)ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

私ハ會期切迫ノ今日、此復古功臣ノ顯彰ニ關シテ建議案ヲ出シタ一人デアリマス、復古功臣ノ中ニハ征韓論ニ於テカラシテ明治七年、明治九年、明治十年ニ賊名ヲ負ウテ空シク怨ヲ吞シテ死シタル人ガアリマシテ、其中ニ西郷南洲ト云フ人ハ是ハ皇室ノ特別ナル御取扱ニ依テ、復位授爵ノ恩典ニ浴セラレテ居リマスガ、其他ノ人ハ悉ク亂臣國賊謀叛人トシテ今日迄御取扱ガアツテ、一切大義名分ヲ失シタ者デアルト斯ウ云フ口上ノ下ニ葬ラレテシマツテ居ツタ、所テ私等ハ如何ニモ此餘流ノ教ヲ受ケテ政府ノ役人ト云フモノハ惡人デアル、惡イコトヲスルモノデアルト云フコトダケヲ聽キ嚙ツテ、全ク私等ト云フモノハ斯ウ云フ方面ノ政見一點張デヤツテ來タ人間デアリマス、所ガドウシテモ此復古功臣ノ中ニ亂臣賊子ト呼做サレタ所ノ連中ニ於テ、西郷隆盛ト云フ一人ガ贈位授爵ノ恩典ガアツテ、其他ガ一切ナイト云フコトハ實ニ朝廷ノ御瑕瑾デハナイカト思フテ、此點ニ付テハ私ハ甚ダ不足ガアツテ、朝鮮ノ合併ヲナスヤ、直様宮内省ニ行ツテ宮内大臣ニ此場合ニ相當ノ御取扱ハ出來ヌダラウカト云フコトヲ聽キマシタケレドモ、ドウモ大義名分ヲ失シテ居ル以上ハ出來ナイト云フ話、大義名分ト云フ事カラ言ハハ西郷ナル人ハ其巨魁ダラウト思フ、之ニ對スル一切ノ御取扱ガ甚ダ其要

ヲ得ナカッタカラシテ、遂ニ諸君ヲ煩ハシテ一昨年ノ議會ニ江藤新平ニ對スル表彰ノ建議案ヲ出シタ所ガ、滿場一致テ御同意下サツタ此委細ノ事ハ復古功臣顯彰ニ關スル建議案ノ中ニ十分ナ意味ヲ籠メテアルカラシテ、説明ヲ要セズシテ私ハ壇ヲ下ツテ委員會ニ於テ總理大臣ト差向ノ話ヲスル積リデアツタ所ガ、會期切迫ノ今日ニ於テ委員付託ナドト云フコトモ一切出來ヌト云フ話ダカラ、茲ニ諸君ノ御記憶ヲ新ニスルタメニ一言申上ゲルト、此江藤、前原、奥平、島、大山綱良、桂、桐野、篠原、村田、小倉處平等ノ人ハ全ク明治六年ノ征韓論ニ禍ヲ買ウテカラシテ、遂ニ賊名ヲ負ウテ終ツタ人デアツテ獨リ西郷隆盛ト云フ人ハ片落チノ御言葉ガ掛ツテ、贈位授爵ノ恩典ニ預ツテ居ルガ、他ノ人ハ復古ノ功臣トシテ赫々タル事績ヲ有ツテ居リナガラ御取扱ノ今日ノヤウニ曇ルコト、云フモノハ甚ダマツト思フカラ、徹頭徹尾私ハ此路ヲ開ケテ貫ヒタイ積リテ、其砌リ桂總理大臣ニ向ツテ突込シテ所ガ、總理大臣ハ曰フニ、ドウモ賊徒臭カラ一皮ツ、剝カウト云フ話デアツタ、其結果江藤新平ノ未亡人ニ對シテハ一昨年ノ秋デアツタカ 皇后陛下ヨリ御情ガアツテ三千圓ト云フ金ヲ養老トシテ下サツタト云フヤウナ事情デアル、ソレカラ昨年ノ 先帝陛下ノ御崩御ノ砌ニ於テ、遂ニ賊名ノ剝ゲテ居ツタト云フ事實ガ現ハレテ來テカラ、昨年ノ九月ニ於テ島、江藤二人ニ對シテハ賊名ヲ取消スト云フコトノ檢事總長カラノ證明書ガ出テ譯デアル、其他大山トカ前原トカ、其他ハ其儘賊名ヲ取消ストコトモ出來ヌト居ル、是ハ遺族ノ申立ニ依テ出來ル筈デアルガ、唯賊名ガ取消サレタハカリデハ路ヲ開ケルコトハ出來ヌ、賊名ガ取消サレタ以上ニハ、ドウシテモ維新ノ功勞復古ノ功臣トシテノ功勞ト云フモノハ大キナモノデアルカラ、相當ノ功績アル人ニハ位ヲ復シ、若クハ爵位ヲ授ケテ其遺族ヲ慰メ、其死シタ人ノ靈ヲ慰メルト云フコトハ、皇室ニ取ツテノ當然ノ御覺悟ガアルベキモノダラウト思フ、是ガ無クテハ非常ナ功ヲ國家ニ積ンデモ、此國家ニ功勞ヲ立テタ人ニ對ツテ唯一時ノ一小瑕瑾ノ爲ニ、前功ヲ沒シテシマフト云フコトニ就テハ、甚ダ朝廷ノ御瑕瑾デハナイカト思フ、ドウカ此連中ニ對シテノコトハ前功ヲ思召スコトアルナレバ充分ナル御取扱ガナイト云フト、或ハ幸徳秋水ノヤウナ者ガ若クハ皇室ヲ御怒ミ申サヌニ限ラヌ次第デアラウト思フ、一體此征韓論ト云フモノハ、諸ニ當ル閣臣ハ、其責ニ顧ミテカラ此御執成ヲ爲サルコトガ當然ダラウト思フ、一體此征韓論ト云フモノハ、諸君ガ御承知私ガ言フ迄モナイ話デアルケレドモ、私共ハ其仲間ノ方ニ立ツテ其教ヲ受ケテ頻ニヤツテ來タ人間デアルカラ聊カ茲ニ辯ズル要ガアルト思フ、征韓論ト云フモノハ朝鮮ノ無禮ヲ咎メルト云フト雖モ、南洲若ハ江

藤南白アタリノ志ト云フモノハ單リ朝鮮ノ無禮ヲ咎メルト云フノミニアラズシテ、寧ロ進ンテ王政復古ノ大業ト云フモノハ、嘗ニ徳川幕府ヲ倒スチヤナクシテ、此世界大革命ニ際シテ一步ヲ誤レバ日本ト云フモノハ外人ノ奴隸トナシテ滅茶滅茶ニナラウト云フ虞ガアツタモノデアアルカラシテ、徳川ヲ倒シタ此元氣ヲ以テ、亞細亞大陸ニ相當ナル道ヲ講シテカラ白人ノ侵略ヲ防ガウト云フ一點張ノ希望ヲ持ッテ居タ人デアアル、僅ニ朝鮮ヲ征伐シヤウト云フ考ノミデアナイ、頻ニ江藤ノ如キ征韓論ノ議ニ於テ、十年後ニハ鋒先ヲ印度地方ニ争フト云フコトマデハキリ言ウテ居ル人デアアル、西郷ノ東洋經綸ト云フモノハ少クモ亞細亞ノ天地ニ於テ、大和民族ト云フモノハ東洋平和ノ局面ニ當テ働クノハ當然ノ話デアアルカラ、先帝陛下ヲシテ此亞細亞ノ盟主タラシムルト云フコトニ非常ナル熱心ヲ持ッテヤッタニ違ヒナイ、江藤ノ如キ待チ給ヘ、モウ今日ハ此記憶ヲ諸君ニ新タニシテ貫ッテ大ニ後ニ吾輩内閣諸公ニ向ッテ突込ム積リデアアル——陛下デハナイソリヤア違フ、朝廷ノ御瑕瑾デハナイカト思フト云フノチヤソレデ一體此大切ノ問題ヲドウカシテヤリタイ一體西郷江藤其他征韓論ニ立ッタ方ノ外征側ノ人ト云フモノハ、非常ナル勢ヲ以テカラシテ、此東洋ノ平和ヲ維持スルタメニ、此亞細亞ノ盟主タラシムルタメニ非常ナル活動ヲシタノデアアルガ、是ガ端ナクモ西郷ト大久保トノ兄弟喧嘩デ刺違トナッテ終ッタノハ實ニ遺憾ノ話デアアルガ、實ニ此征韓論ノ始末ニ付テ其後日本ニ大損害ヲ來シタト云フコトハ、此征韓論デアラウ、ツマリ征韓論ノ局ニ當ッタ人ニ對シテ、今日ノ此如キ憐レナ状態ニアルノハ最モ氣ノ毒デアアルカラシテ、ドウニカシテ適當ノ御取計ヲ願ヒタイ積リデアアル、頻ニヤッテ居ル譯デアアル、一體此復古ノ功臣ノ名前ハドウデアアルカト云ヘハ、畏多イコトナガラ政權ガ王家ヲ離レテヨリ一千年、武門ニ移ッテヨリ七百年、徳川家ニ至ッテ二百年デアラウ、サウシテ徳川家ナルモノハ關八州ニ蟠居シテ八百万石ヲ領シ、殺生與奪ノ全權ヲ握ッテ二百ノ諸侯ニ號令シテ居ッタノデアアル、陛下ハ其場合ドウナサッテ御出ニナッタカト云ヘハ、山城ノ一隅ニ僅カ十萬石ノ祿高ヲ宛行扶持トシテ御持チナサッテ、此中デ皇族若クハ公卿等ヲ御養ニナッテ僅ニ御自身ハ一萬六千石ノ玄米ホカ御取リニナッテ居ラナイ、殆ド宮廷ノ御料ト云フモノハ甚ダ憐レナ御氣ノ毒ナモノデアッテ、屏風一雙御買ニナラウト云フテモ、御側ノ人が幕府ニ伺ハナケレバ出來ヌト云フヤウナ、有様デアッタ、ソレカラ御歌ガ出來テモ色紙ガ無カッタト云フ位ノ話デアアル、非常ナル窮狀ニアラセラレタ、ソレデ此時ニ勤王ノ諸士ト云フモノハ非常ナル憤ヲ爲シテ、皇國ノ臣民タルモノハ皆天子ノ赤子デアアル、武門ニナキツ武士ハナキツ、四民タルモノハ宜シク忠義ヲ勵ミ勤王ノ軍ヲ起シテ幕府ヲ倒サウヂヤナイカ、非常ナル決心ヲ現ハシテ働イタノハ

今ノ前原、西郷、江藤、皆此人、ハ維新ノ後マデ生殘ッタ人デアッテ、不幸ニシテ征韓論ニ依ッテ此禍ヲ買ウタモノデアアル、當時皇室ノ憐レナル御状態ニ在ラセラレタルコトヲ思召シ回ラセラレタナラバ、是等非常ナル功勞者ニ對シテハ適當ナル御計ヒヲ願ヒタイ一點張デアアル、イロノソレニハ此傳記ヲ綴ッテ居ル、又征韓賊軍ニ立ッタ人ノ傳記モ綴ッテヤッテ居リマスガ、免ニ角目的ヲ達スルマデハ何度マデモヤッテ行ク積リデアリマスカラ、諸君ノ御同情ヲ得テモウ今日ハ委員付託ナント云フ餘地ハナイ譯デアリマスカラ、唯諸君ノ御記憶ヲ新タニスルダケデアアル

松田源治君之ニ賛成シ院議全會一致ヲ以テ本案ヲ採用セリ即日政府ニ呈出ス

四二 織物消費稅徵收猶豫ノ擔保ニ關スル建議案

織物消費稅法第五條ニハ消費稅額ニ相當スル擔保ヲ提供シタルトキハ政府ハ三月以内消費稅ノ徵收ヲ猶豫スヘキコトヲ規定シ同法施行規則第二十條ニ於テ其ノ擔保物ノ種類ハ金錢又ハ所轄稅務署ノ確實ト認メタル有價證券ニ限ルト規定セリ故ニ消費稅ノ徵收猶豫ノ恩典ニ浴セムト欲セハ多額ノ資本ヲ固定セサルヘカラサルヲ以テ斯業者ノ困難尠カラス法ノ恩惠的趣旨ニ添フ能ハサルノ事實アリ依テ政府ハ其ノ施行規則ヲ改正シテ擔保ノ種類ニ土地及建物ヲ認メ織物販賣業者ニ利便ヲ與ヘ延テ斯業ノ發達ヲ期シ併セテ稅源ノ涵養ニ資セラレムコトヲ望ム

右建議ス

二年三月二十日小林源藏君外四名提出、同月二十六日院議ニ付シ提出者(小林源藏君)ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

諸君、此場合私ハ簡明ニ且ツ全速力ヲ以テ本案提出ノ要領ヲ説明致シテ諸君ノ御賛成ヲ願ヒタイ、御承知ノ如ク海外ノ輸出織物竝ニ自ラ用ユルノ目的ヲ以テ製作ス織物ノ外、總テ從價一割ト云フ重稅ヲ課セラレテ居ルノデアリマス、其重稅ヲ課スルトコロノ根本法ナル織物消費稅法第五條ニ於キマシテ、消費稅額ニ相當スル擔保ヲ提供スレバ、政府ガ三箇月以内消費稅ノ徵收猶豫ヲ爲スコトヲ得ルト規定シテ居リマス、其擔保ヲ提供致シマシテ始メテ三箇月ノ徵稅猶豫ヲ得マスルト同時ニ、織物取扱業者ハ藏置シテ居ルトコロノ倉庫ヨリ搬出シテ、之ヲ販賣シ輸出スルトコロノモノハ、其擔保ヲ爲シテ始メテ海外ニ輸出スルノデアリマス、輸入業者ハ其擔保ヲ提供シテ始メテ保稅倉庫若クハ稅關ヨリ品物ヲ受取ルノデアリマス、是ガ彼ノ峻酷煩瑣ナル織物消費稅法ノ唯一ノ特典トナツテ居ルノデアリマス、然ルニ同法施行規則第二十條ニ於キマシテ、其擔保ノ種類ハ金錢又ハ所轄稅務署ニ於テ確實ト認定シタルトコロノ有價證券ニ限ルト限定シテ居ルノデアリマス、金錢ヲ擔保ト爲シ得ル力ガアルモノデアリマシタナラバ、何ヲ苦ンデ消費稅ヲ納メナイ譯ガアリマセウ、而モ有價證券ニ對シテハ所轄稅務署ノ認定ナルモノガ嚴重ニ嚴重ヲ重ネマシテ、サナキダニ法ノ上ニ於テ狹隘ナルトコロノ擔保ノ種類——益、種類ガ收稅官吏ノ認定ニ依リマシテ——嚴酷ナル認定ニ依リマシテ愈、益、其手心ニ依リマシテ愈、益、其範圍ヲ狹メテ居ルノデアリマス、是ニ於テカ多クノ國民——國民ノ大部分ノ人ニ代ツテ納稅ヲ致シテ居ルトコロノ仲繼人ガ、澤山ノ資本ヲ固定シテハナラヌノ大ニ困難ヲ致シテ居ル次第デゴザイマス、因テ私ハ政府ニ建議ヲ致シマシテ其施行規則ヲ改正致シテ、擔保ノ種類ヲ擴ケ、土地若クハ建物モ其擔保ニスルコトガ出來ルト云フコトニ改正致シマシテ、織物取扱業者ノ資金ノ融通ニ便利ヲ得セシメタイと思フノデゴザイマス、御承知ノ如ク織物ハ普通商品ノ中ニ於キマシテ、ナカク、高價ノ品デゴザイマス、之ヲ藏置スルトコロノ倉庫ハ完全ニ造ラナケレバナラヌ、而モ織物ヲ取扱フトコロノ商人ハ、市若クハ町村ノ主要ナル土地ヲ占メテ居リマスノデ、ソレガ爲メニ投ジテ居ルトコロノ資本モ容易ナラザル額ニ上ツテ居ルノデアリマス、ソコデ之ヲ流用スルノ途ガ出來マシタナラバ——一朝之ヲ流用シテ擔保ニ供スルコトノ途ガ開ケマシタナラバ、

其仲繼人ノ利スルトコロハ大ナルモノナリト私ハ確信シテ疑ヒマセヌ、ソレデ此織物ニ關係致シマシテ、織物消費稅ノ惡稅デアルト云フコトガ、既ニ屢、議論ヲセラレ、此議會ニ於キマシテモ國民黨諸君ヨリ織物消費稅半減ノ議案ガ出來テ居リマスノデ、私ハ此半減案ニ贊成ヲシヤウト思ツテ、案ノ議場ニ上ルノヲ待ツテ居リマシタケレドモ、遂ニ今日マデ其案ハ此議題ニモ上ラズシテ、正ニ會期ガ過ギントシテ居ルノデアリマス、元來織物消費稅ハ先刻來頻リニ國民黨諸君ガ論ゼラレタ如ク、選舉人ノ數ニモ關係シナイ案デアリマス、然ルニ此案ヲ議場ニマデサヘ持ツテ來ル勇氣ガナイ、持ツテ來得ナイノデアアル、ソコデ私ハ若シモ此議場ニ上リマシタナラバ、假リニ除外例ヲ受ケマシテモ贊成シヤウト思ツテ今日マデ待ツテ居リマシタ、假リニ消費稅半稅ノ法案ガ通過スルトナリマスレバ、斯ノ如キノ案ハ提出ノ必要ガナイノデアリマス、其案ト同時ニ修正シテ置ケバ宜シイ、而モ今日マデ急ニ出ナイカラシテ茲ニ會期切迫ノ際ニ於テ此案ヲ提出シタ所以デアリマス、是ハ問題ガ小デアリマスケレドモ、凡ソ國民ガ何人デモ此消費稅ニ關係シナイモノハアリマセヌ、而モ寢テモ起キテモ生レテカラ死ヌマデ、若クハ男女幼ヲ問ハズシテ此消費稅ニ關係スルノデアリマス、ソコデ取扱業者ニ幾分ノ便宜ヲ與ヘマシテ、而シテ延テ國民ニ利益ヲ得セシメント云フ所以デアリマス、滿堂諸君ノ御贊成ヲ願ヒマス

質疑應答ノ後院議異議ナク本案ヲ採用セリ即日政府ニ呈出ス

四三 鐵道國有法廢止ニ關スル建議案

四四 和服ノ制限ニ關スル建議案

四五 日華聯絡航路開始ニ關スル建議案

我カ國ハ道路險惡河川亦用ヲ爲サス到底鐵道ニ從ルニ非サレハ交通運搬ノ業完成セサルヘシ然ルニ政府ハ鐵道國有法ニ據リ鐵道敷設權ヲ獨占シ民資ノ用ユヘキナキニ至ラシム是レ鐵道ノ發

展ヲ妨ケ漫然國家の事業ヲ阻止スルノ弊ナシトセス依テ速ニ該法ヲ廢止シ從來ノ如ク官民兩制ヲ採リ鐵道ノ普及増設ヲ企圖スヘシ

右建議ス

我カ國現在ノ和服ノ袖(筒袖ニアラサルモノ)女子ノ端折及女子ノ大幅帶ハ無用ノ長物ナルニ依リ之ヲ廢止嚴禁セラレムコトヲ望ム

右建議ス

日本帝國長崎ヲ起點トシ中華民國上海ニ至ル間日華聯絡航路ヲ開始シ快走汽船ニ依リ毎日又ハ隔日ニ兩港間ヲ往復セシメムコトヲ望ム而シテ該事業ハ官營又ハ適當ノ方法ニ從ヒ民設ト爲スモ可ナリ

右建議ス

以上三案ハ二年三月二十二日江副靖臣君ヨリ提出、同月二十六日一括シテ院議ニ付シ提出者ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

諸君、私ノ議案ハ鐵道國有法ヲ廢スルト云フ議案デゴザイマス、鐵道國有法ヲ廢スルト云ヒマスルト、或ハ鐵道國有其モノヲ廢スルト云フヤウナ疑ガゴザイマスルガ、本案ノ趣意ハ左様デゴザイマセヌ、一體政府ノ官營鐵道ハ鐵道院ト云フモノヲ置キマシテ、其官制ニ依テ鐵道ノ商賣ヲヤツテ居ラレマスカラ、最早今日ノ鐵道國有法トハ關係ハナイノデアリマス、而シテ國有法ハ先年政府ガ私設鐵道ヲ買收スルトキニ拵ヘタモノデ、要スルニ其買收手續ヲ極メタモノデアリマシテ、今日デハ最早過去ニ屬シテ適用スベキ箇條ハ多クゴザイマセヌ、唯其第一條ニ「鐵道ハ國有トス」ト云フコトガアリマシテ、縱橫ニ鐵道ヲ拵ヘナケレバナラヌノデアリマスガ、政府ハノデゴザイマス、所ガ今日鐵道ノ必要ハ益、迫リマシテ、縱橫ニ鐵道ヲ拵ヘナケレバナラヌノデアリマスガ、政府ハ貧乏デ鐵道ヲ造ルコトガ十分ニ出來マセヌカラ、此際ニ民設ヲ十分ニ許シテ鐵道ノ普及ヲ圖リタイノデアリガ、今ハ右様ナル第一條ガ存在シテ居リマシテハ、鐵道發展ノ障害ニナルノデゴザイマス、ソレデ私ハ鐵道ヲ十分ニ發展サセタイト思ヒマスカラ、斯ノ如キ法律ヲ除キタイ、此法律ガ私設鐵道ノ發達ヲ阻害シテ居リマス、他日政府モ私設鐵道ヲ希望スル場合ガアリマシテモ、此法律ガアル限リハ政府ハ許可スルコトガ出來マセヌ、徹又政府ハ私設鐵道ヲ全然不許可スベキモノト考ヘマスレバ、敢テ此條ニ依ラザルモ不許可ガ出來マスル、徹頭徹尾此箇條ハ不必要ナモノト考ヘマスカラ速ニ廢シタイト云フ案デゴザイマス、ソレカラ其次ハ和服ノ制限デゴザイマスルガ、和服ノ制限ハ和服ノ袖ヲ廢シヤウト云フコトデゴザイマス、一ハ女子ノ和服ノ端折ヲ廢スルト云フコトデゴザイマス、今一ハ女子ノ大幅帶ヲ廢シヤウト云フコトデゴザイマス、和服ノ袖ヲ廢スルト云フノハ、筒袖ニ爲シマシテ此長イ袖ヲ廢スルト云フ意味デアリマス、ソレカラ端折ヲ廢スルト云フノハ日本ノ婦人ハ長イ衣服ヲ拵ヘマシテ、腰ノ邊ニ幾重ニモ疊ミ込ムノデアリマス、之ヲ廢シテ神代ノ服ヲ作ルト云フコトニシタラ宜カラウト云フノデゴザイマス、是ハ廢スル理由デアリマス、和服ノ改良限制ノコトハ是マデニ聞ク所デゴザイマスガ、未ダ成案トハナリマセヌ、本案ハ和服ノ改良限制ヲ直チニ拵ヘヤウト云フノデアリマセヌガ、蓋シ其趣意ニ外ナラヌノデアリマス、衣服ニ對シ此案ガ行ハレル場合ニハ和服ノ材料ハ從來ノ四分ノ一若クハ二分ノ一ヲ減シマスル、其代價及勞力費運搬費デ減シマスカラ一箇年ニ二三億圓ノ國家經濟ニナリマスル、是等ノコトニ御注意ヲ願ヒマス、ソレデ諸君ハ今ガヤノ言フ通りニ、珍ラシイ變々事デアアルカラ、一時美觀ヲ害スルヤウナ考ヲ有テ居ラウト思フ、併シ今日ノ衣服ハ決シテ美觀ヲ備ヘテハ居ラヌ、諸君、先年支那人ガ言タコトガアル、日本人ノ好男子ヲ見テ、ナカノ好男子デアアル美男子デアアルガ、惜イカナ彼レニ支那服ヲ著セテ辯髮

ニシタラモウ一層好クナルデアラウト云フコトヲ言ッタコトガアル、ソレト同ジコトデ諸君ドウデアリマスカ、歐洲婦人ヲ見テ彼レハ美人デアルガネ、アレハ美人デアルガ惜イコトニ日本服ヲ著セタラ尙宜カラウ、是ハ丁度支那人ト同ジヤウニナリハシマセヌカ、今日ニ於テ是ハ國家ノ利益國民ノ生産ノタメニ、今日ニ於テ斷行スルノガ宜イト考ヘマスル、ソレデ此二案ハ抑々法律案デ出ス積リデアツタガ賛成者ノ都合デ今日建議案ニ直シマシタ、ドウカ最早期日モアリマセヌカラ即決シテ貫ヒタイ、今一ツハ長崎ト上海間ニ往來船ヲ拵ヘタイト云フ案デアリマス、支那ノ革命ニ付テ日本トノ往來ガ益々頻繁ニナリマシタカラ、現今行ハレテ居ル所ノ横濱ト上海間ヲ往來致シマスル船ハ、荷物ニ重キヲ措キマシテ客ヲ主ト致シマセヌ、ソレガタメニ甚ダ不便ガアリマスル、ソレデ今日ニ於テハ支那ト日本ノ間ヲ餘程往來ニ便ニスルト云フコトハ、國家ノ努ムベキコト、考ヘマス、上海ト長崎間ニ直接往來ヲスルコトニナリマスレバ、約十時間以上ノ時間ヲ縮メマスル、ソレデ今日デハ客ヲ主トセシ船ハ東洋ニハ餘リ無イヤウデアリマスル、此支那ト長崎間ノ一番近イ所ニ客主義ノ船ヲ拵ヘテヤルノハ、蓋シ日本ノ面ト云ツテモ宜カラウ、義務ト云ツテモ宜カラウト思フ、又實際上ノ利益ハ先キニ述ベタ通りデアリマス、故ニ此案ハ成立センコトヲ希望致シマスル、ドウカ期日ガアリマセヌカラ即決シテ貫ヒタイ。

松田源治君ハ第一案及第二案ニ對シ委員付託ノ動議ヲ提出シ第三案ニ對シ賛成ヲ表シ加瀬禮逸君ハ右動議ニ反對ヲ主張シ表決ニ及テ院議兩案ニ對スル動議ヲ否決シ次テ三案トモ之ヲ否決シタリ

四六 明治節設定ニ關スル建議案

政府ハ國民ヲシテ 明治天皇ノ御偉業ヲ頌シ永久其ノ御洪恩ヲ記念セシムル爲十一月二日ヲ以テ大祭祝日ト定メムコトヲ望ム
右建議ス

二年二月二十二日松田源治君外十三名提出、同月二十六日院議ニ付シ提出者(石橋爲之助君)ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

本建議案ノ趣旨ハ、十一月二日ノ舊天長節ヲ永ク大祭祝日ト致シマシテ 明治天皇陛下ノ御偉業ヲ記念シ、且國民ガ 明治天皇陛下ヨリ受ケタル御鴻恩ヲ永ク記念スルガタメニ、此日ヲ祝日トシテ守ルヤウニ制定セラレンコトヲ望ムト云フ趣意デゴザイマス國民ノ忠愛ノ至情ヨリ出デタルモノデアリマシテ、既ニ各派打揃ッテノ提出デアリ、衆議院全部ノ賛成デアリマスル、故ニ委員會ノ審査ニ付スルマデモナク、即決可決アランコトヲ希望致シマス

何等ノ討論ナク全會一致ヲ以テ本案ヲ採用セリ即日政府ニ呈出ス

四七 撫養港改築ニ關スル建議案

徳島縣下撫養港ハ古來ノ良港ニシテ維新前ニ於テハ本縣唯一ノ輸出入港タリ常ニ船舶ノ出入多ク貨物ノ集散ハ概ネ本港ニ於テ行ハレタリ然ルニ維新以來船舶ノ噸數漸次増加スルヤ大船ハ港口ノ暗礁ニ妨ケラレ直ニ本港ニ入ル能ハス又一方小鳴門ハ兩岸相迫リ且水路屈曲多クシテ大船ノ航行ニ便ナラス而シテ鳴門村堀越ニ出ツルトキハ航路大ニ安全ナルモ堀越ノ掘鑿口狹隘ニシテ亦大船ヲ通スルニ由ナキヲ遺憾トス依テ之カ改良工事ヲ施シ先ツ港口ノ暗礁ヲ撤去シ次テ堀越ノ隘口ヲ擴大シ五千噸以上ノ大船舶ヲ自由ニ通行シ得ルニ至ラシメ尙多少ノ築港工事ヲ行ヒ船舶ノ碇繫ニ便ナラシムルヲ得ハ當ニ本縣郡ノ利益タルニ止マラス帝國航海上ニ新生面ヲ開ク

モノニシテ東海岸各港ヨリ瀬戸内海及九州北部ニ至ル船舶ハ大阪灣ニ迂回シテ岩屋海峽ヲ通スル必要ナク紀州沖ヨリ直ニ本港ヲ經テ堀越ヨリ瀬戸内海ニ出ツルコトヲ得之カ爲航海時間ヲ節約シ得ルコト五時間以上ニ及ヒ實ニ國家ノ一大福利ヲ増進スルモノト謂フヘシ依リテ速ニ之カ施設アラムコトヲ望ム

右建議ス

二年三月二十二日大久保弁太郎君外一名提出、同月二十六日院議ニ付シ提出者(大久保弁太郎君)ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

私ハ徳島縣撫養港改築ノ建議ニ對スル理由ヲ簡單ニ申上ゲマス、四國ノ極東徳島ヨリ本州ニ聯絡ノ爲メニハ一ノ大港ヲ要スルノデゴザリマス、然ルニ唯今私が申上ゲマスル撫養港ハ四面山ヲ圍ッテ居リマシテ、灣内ガ廣ウアリマシテ、海底ガ深ウゴザリマシテ、一万噸以上ノ船ヲ數多碇泊ヲ致シマスルニモ差支ヘヌノデゴザリマス、所ガ入口ト又一方堀越ト申ス所ニ、障害ノタメニ當時出入ガ止マツテ居リマス、之ヲ改築致シマシタナラバ大港灣ニ相成ルノミナラス、又南海ヨリ瀬戸内ニ交通ヲ致シマスル船ガ便利ヲ得マスルノデゴザリマス、此ノ如キ港灣ハ宜シク政府ニ調査ヲ請フテ、相當ノ處置ニアツカリタイト存スルノデゴザリマス、宜シク諸君ハ御賛成下サランコトヲ希望致シマス

院議異議ナク本案ヲ採用セリ即日政府ニ呈出ス

四八 醫術開業試験ニ關スル建議案

現行醫術開業試験ハ醫師法ノ規定ニ依リ大正三年九月ヲ以テ廢止セラレヘキモノニシテ文部省ハ明治四十五年三月前期試験舉行ヲ大正三年四月限廢止スルコトヲ告示セリ然ルニ現行醫術開業試験規則ハ前期及第者ハ更ニ一箇年半以上修學セシ後ニ非サレハ後期試験ヲ受クルコト能ハサルコトヲ規定セリ故ニ大正三年四月最終ノ前期ニ及第シタル者ニ對シテハ更ニ一箇年半ヲ經テ後期試験ヲ施行スルヲ至當ナリトスヘキニ之ヲ六箇月後僅ニ一回ノ受験期ヲ與フルノミニテ廢止スルハ穩當ノ處置ニ非ス現ニ大正二年第一回試験出願者後期二千六十七人同實地六百〇一人合計二千六百六十八人アルニ徴スルモ實際上ニハ尙以上ノ後期學說及第證書ヲ所有スルモノアルヲ推知スルヲ得ヘシ政府ハ速ニ相當ノ方法ヲ設ケテ此等ノ醫生ヲシテ其ノ道ヲ得セシメムコトヲ望ム

右建議ス

二年三月二十二日濱田政莊君外四名提出、同月二十六日院議ニ付シ提出者(濱田政莊君)ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

私ハ醫術ノ開業試験ニ關スル建議案ニ付キマシテ、此處ニ其理由ノ大要ヲ申上ゲマス、是ハ既ニ御承知ノ御方モゴザイマセウガ、我國ニ於キマシテハ明治十六年ノ十月ニ醫師免許規則ヲ發布致シマシテ、十七年一月

以來政府ニ於テ一定ノ試験ヲ以テ醫師ヲ免許シテ居リマス、是ニ依テ醫師トナリマシタモノガ四十二年末ノ現在數一萬千七百七十五人アリマス、然ルトコロ去ル明治三十九年五月法律第四十七號ヲ以テマシテ、右ノ醫師免許規則ノ代リト致シマシテ、現行ノ醫師法ガ制定サレタノデゴザイマス、此法律ニハ醫師トナルニハ主トシテ醫科大學若クハ專門醫學校ヘ入りマシテ、規定ノ年限間醫學教育ヲ受ケ卒業シタモノニ限ルト云フコトニナツテ居リマスガ、併シ從來ノ醫術開業試験ヲ一朝ニシテ之ヲ廢止スル譯ニイキマセヌトコロカラ、是ハ本法施行後尙八箇年間繼續スルコト、シマシテ、即チ明大正三年五月限リ廢止スルコトニナツテ居リマス、然ルニ此開業試験ト申シマスルモノハ、前期試験ト後期試験ト二段ニナツテ居リマシテ、其前期試験ニ及第シテカラ更ニ一箇年半以上修業シタ上デナケレバ、後期試験ガ受ケラレヌヤウニナツテ居ル、サウ云フ規則デゴザイマス、所ガ政府ハ四十五年ノ二月文部省令ヲ以テ前期試験ノ方ヲ明大正三年ノ四月即チ試験廢止ノ六箇月前マデ受ケサセルコト、シテ告示シテ居リマス、サウ致シマスルト四月ニ前期試験ニ及第シテ、僅ニ六箇月後ノ九月ニ後期試験ヲ受ケルト云フコトハ實際上困難ナルコトデ、到底修學ノ時日ガナイノデアリマス、尤モ是ハ前カラ醫學ノ修業ヲ二箇年間ヤツタト云フ證明ノアルモノニ限リ、前期試験ヲ受ケサセルト云フヤウナ規定ガ告示サレテアリマスルカラ、此三年内ニ後期ノ學科モヤツタ答ダト云ヘバ言ヘマスノデアリマスケレドモ、試験ヲ受ケル多クノ醫學生ト申シマスモノハ、マダ前期ニ及第シナイ中ニ、醫學上ニ於テ尤モ困難ナル所ノ後期ノ學科ヲ修メル餘裕ノアルモノデアリマセヌ、現ニ高等醫學專門學校ニ於テサヘ、後期試験ハ前期試験ヲ終ツテカラ二箇年ノ後ニ施行サレテ居リマス、理窟ハドウニモ言ヘマスガ、實際ハ無理ナ譯デ、決シテ是ハ穩當ナ處置トハ申サレヌノデゴザイマス、且又大正二年第一回ノ試験出願者ハドレ程アツタカト調べ見マスルト、前期ガ五百八十五人テ後期ノ方ハ二千六百七十八人、同シク實地ノ方ガ六百一人、合計三千二百五十三人アリマスカラ、實際上ニハ此後期試験ヲ志願スル權利ヲ持ツテ居ルモノハ、尙ヨリ以上ノ多數アリト推斷スルコトガ出來マス、是等醫學生ノ多クハ學校ニ入ッテ修業スルノ時間モナク、又資力モナイ憐レナモノデゴザイマシテ、其多クハ開業醫師ナリ病院ナリノ手傳ヲナシツ、殆ド獨學的ニ醫學ヲ修メテ居ル篤學者デゴザイマス、彼等ハ唯試験ヲ受ケテ相當ノ醫師タランコトヲ希ヒ、致々トシテ勉強シテ居ルモノデゴザイマスルガ、是ガ明年九月マデニ其試験ヲ廢止スルコトニナリマスカラ、此儘ニシテ置キマシタナラバ、少ナクトモ其二千八百人位ハ落伍者ヲ出ステアラウト思ヒマス、即チ現在ノ法律ノ結果ト致シマシテ生シタルトコロノ此落伍者ハ、實ニ終生不幸ナル境遇ニ陷

リ、或ハ非醫業者トナリテ社會ニ害惡ヲ流サヌトモ限リマセヌ、依テ是ハ社會救濟ノ事業ト致シマシテモ、決シテ看過スベキモノデナイト思フ、諸君、御承知ノ如ク醫學生ト云フモノハ、法學生ヤ文學生ノヤウニ潰シノ利カヌモノデ、茲ニ一部分ノ及第證書ヲ所有シテ居ツタトコロデ、所謂片輪者デアリマス故ニ、其多クハ一生ヲ誤ルコトニナリマス、私共ハ彼等ノ狀況ヲ熟知シテ居ルモノデゴザイマスルカラ、之ヲ座視スルニ忍ビナイトコロカラ、出來得ベクハ醫師法ヲ改正シテ此試驗期ヲ或期間延長シテ十分ニ彼等ニ修學ノ時日ヲ與ヘマシテ、完全ニ醫師ノ免許ヲ得サセタイト思ヒマス、是ハ丁度株式會社ヲ解散シタ後ニ、清算事務ヲ爲スト同シク、此前期及第者ハ此清算ヲ要求スル權利ガアルト認メマス、然ルニ此議會ハ已ニ餘日モナク、醫師法改正ノ目的ヲ達スルコトハ到底覺束ナイト存ジマスカラ、此際政府ハ速ニ是等ノ醫學生ヲシテ方向ニ迷ハシメザルヤウニ、相當ノ方法ヲ設ケラレンコトヲ希望スルノデアリマス、依テ謹シテ滿場諸君ノ御賛成ヲ仰ギマス

院議異議ナク本案ヲ採用セリ即日政府ニ呈出ス

四九 海洋調査機關設置ニ關スル建議案

海洋ニ於ケル諸般ノ事項ヲ調査シ併セテ國民ノ海事思想ヲ鼓吹普及スルノ方法ヲ定ムル爲在朝在野ヲ問ハス廣ク其ノ知識ヲ有シ其ノ事情ニ通スル人士ヲ集メテ完全ナル特殊ノ機關ヲ設ケ以テ我カ國海洋政策ノ根柢ヲ確立セムコトヲ望ム

右建議ス

二年三月二十四日小西和君提出、同月二十六日院議ニ付シ提出者ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

海洋調査機關ノ設置ニ關スル建議案ノ理由ニ付キマシテハ、今更諄々シク申上ケルマデモナク、十分諸君ガ其必要ヲ認メテ居ラル、コト、信ジマス、是ハ日本ノ現狀及日本ノ位置ニ鑑ミマシテ、是非共無クテハナラヌモノト存シテ居リマスノデアリマス、其大體ノ理由ハ建議案ニ書附ケテ諸君ニ御廻シテアリマスルモノニ附イテ居リマスカラ、是ハ更メテ申上ケマセヌ、就テハ海洋調査ノ機關ア、如何ナル仕事ヲスルカト云フ箇條ヲチヨット申上ケテ置キマス、第一ニ海洋潮水動植物ノ學術的調査ノ方針及方法、第二ガ海洋氣象、海洋磁力潮流調査ノ方針及方法、第三ガ漁場ノ開拓、漁業ノ啓發ノ方針及方法、第四ガ海運貿易海外殖民ニ關スル方針及方法、第五ガ航路海軍等ニ關スル問題ノ解決、第六國民ニ海事思想ヲ吹込ミ之ヲ普及サセラル方法、七ガ其他海洋ニ關スル萬般ノ調査、斯ウ云フモノデアリマス、ドウゾ會期切迫ノ折柄デゴザイマスカラ海國男兒トシテ滿場一致ヲ以テ御可決アラントヲ冀フ次第デアリマス

院議異議ナク本案ヲ採用セリ即日政府ニ呈出ス

五〇 取引所制度調査機關設置ニ關スル建議案

取引所制度調査會ヲ起シ取引所改善ノ目的ヲ以テ必要ナル調査研究ヲ遂ケシムヘシ
右建議ス

二年三月二十四日小泉策太郎君提出、同月二十六日院議ニ付シ提出者ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

本案提出ノ理由ヲ略説ヲ致シマス、取引所改善ノ必要ガ議論ヲ要サスト同時ニ、此取引所問題ガ解決ニ非常ニ困難デアルト云フコトモ亦一般ニ認メラレテ居リマス、テ歐米各國ノ此問題ニ對シマスル態度、及我政府ガ從來屢、此問題ニ觸レテ屢、失敗ヲ繰返シタトコロノ實例ニ徴シマシテモ、此取引所ニ關係スル問題ガ如何ニ複雑デアルカ、如何ニ困難デアルカト云フコトカラ解シ得ラレルノデゴザイマス、テ改善ハ必要デアルケレ

ドモ、サリナガラ之ヲ輕卒ニシテハナラヌト云フ趣意カラシテ、此建議案ヲ提出シタ次第デゴザイマス、テ歐米各國ノ此調査機關ニ付テノ先例等ハ、簡略ナガラ此理由書ニ大要ヲ記載シテゴザイマスルカラシテ、茲ニ多ク言葉ヲ費ス必要ハナイト考ヘマス、提出ノ時期ノ遅レマシタメニ、委員會ノ審査ヲ經ル時間ガナイコトハ甚タ遺憾デゴザイマスガ、要スルニ取引所問題ハ極メテ複雑デアル、極メテ困難デアル故ニ之ヲ解決ヲスル順序トシテ極メテ慎重ナル手續ヲ費シタイト云フコトノ極メテ簡明ナル趣意カラ、此案ヲ提出シタ次第デゴザイマスカラシテ、何卒御即決アラントヲ希望致シマス

院議異議ナク本案ヲ採用セリ即日政府ニ呈出ス

五一 鎮昌鐵道建設ニ關スル建議案

軍港トシテハ東洋無比ノ稱アル朝鮮鎮海ハ明治四十四年四月一日ヲ以テ軍港市街地貸下ヲ發表シ爾來當局官憲ノ熱誠ナル指導ト嚴格ナル制令ニ基キ道路ノ築造及家屋ノ急設ヲ促サレ若期ニ後ルルモノハ返地ヲ命セラルルノ不幸ニ陥ルヲ以テ競フテ建設ヲ爲シ諸官衙ノ設置電燈電話ノ架設等モ亦全ク竣成シ今ヤ整然タル一市街地ヲ形成シ戸數二千三百餘投資額三百萬圓以上ニ達セリ然レトモ該市街地トシテ唯一ノ目的タル軍港ノ設備ハ未タ第一期計畫ノ三分ノ一ニモ達セサル有様ナルヲ以テ市民爲スヘキノ業ナク一時一萬二千以上ノ人口ヲ算セシモ漸次減退現今ハ五千ニ滿タス窮迫日ニ加ハラムトス加之該地ハ南面海ヲ控フルノ外山岳ニ圍繞セラレ陸上交通ノ便全ク無ク僅ニ不完全ナル汽船ニ依リテ釜山、馬山ニ航通スルニ過キス而シテ前面ニハ無限ノ

水産物ヲ出シ附近ノ山野ニハ無盡ノ鑛物ヲ藏スル外朝鮮唯一ノ物産タル米穀ノ産出亦尠ナカラ
スト雖交通ノ不便甚シキヲ以テ從テ商工業ヲ盛ニシ貨物ノ集散ヲ繁カラシムルコトヲ得ス故ニ速
ニ鎮海昌巖間十三哩ノ鐵道ヲ敷設シ以テ如上ノ不便不利ヲ除キ同時ニ市街地ノ衰頹ヲ挽回シ居
住民ニ安意ヲ與フルヲ得ハ單リ鎮海ノ幸福ナルノミナラス又實ニ國利ノ増進ニ外ナラサルナリ
依リテ政府ハ之カ建設ニ著手セムコトヲ望ム
右建議ス

二年三月二十四日久保通猷君提出、同月二十六日院議ニ付シ提出者ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

私ノ建議案ハ朝鮮ノ鎮海ヨリ昌巖ニ至リマスル十三哩ノ鐵道ノ速成ヲ希望スルノデアリマス是ハ御承知ノ
通り、鎮海ハ軍港豫定地デゴザリマスルガ、今日ハ非常ニ手違ナコトガアツタサウデゴザイマシテ、内地移住民
モ或ハ資本ヲ投ジテ居ル者モ非常ニ迷惑ヲ致シテ居ルヤウナ次第デゴザイマスルガ、要スルニ鎮海ノ繁榮ヲ期
シマスル上ニ付キマシテハ、鐵道敷設ト云フコトガ最モ生命トナルヤウナ次第デアリマスルカラ、本案ヲ提出シタ
ヤウナ次第デゴザイマス、ドウカ即決可決ヲ希望致シマス

討論ナク院議本案ヲ否決シタリ

第六款 重要動議

一 明治天皇崩御ノ際列國議會ノ表明セル弔意ニ對シ謝意ヲ表スル件

大正二年二月五日開議ノ初メニ於テ尾崎行雄君ノ發議ニ基キ議事日程ヲ變更シテ本件ヲ院議ニ付
シ同君ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

昨年夏 先帝陛下ノ御崩御ニ當リマシテ、列國殊ニ英吉利、白耳義、葡萄牙、「ニュージララント」、南
濠州等ノ上下兩院若クハ其一院ハ殊ニ決議ヲ以テ我帝國臣民ニ對シ弔意ヲ表セラレマシタ、此列國ノ元
首人民、之ヲ代表スルトコロノ議會ノ深厚ナル同情ハ、帝國臣民ノ一同ニ深ク感ズルトコロデアリマス、故ニ
茲ニ特ニ決議シテ是等ノ諸國ノ厚意ヲ謝シタク存ジマス

院議全會一致ヲ以テ之ヲ可決シ即日議長ヨリ内閣總理大臣ヘ左ノ通牒ヲ爲セリ

本日本院ハ明治天皇崩御ノ際列國議會ノ表明セシ同情アル弔意ニ對シ謝意ヲ表スルノ動議ヲ全
會一致ヲ以テ可決致候間此段及通牒候也

二 決議案

内閣總理大臣公爵桂太郎ハ 大命ヲ拜スルニ當リ屢 聖勅ヲ煩シ宮中府中ノ別ヲ紊リ官權ヲ私
シテ黨與ヲ募リ又帝國議會ノ開會ニ際シ濫ニ停會ヲ行ヒ又大正二年一月二十一日本院ニ提出シ

タル質問ニ對シ至誠其ノ責ヲ重スルノ意ヲ昭ニセス是レ皆立憲ノ本義ニ背キ累ヲ大政ノ進路ニ及ホスモノニシテ上 皇室ノ尊嚴ヲ保チ下國民ノ福祉ヲ進ムル所以ニアラス本院ハ此ノ如キ内閣ヲ信認スルコトヲ得ス因テ茲ニ之ヲ決議ス

二年二月五日元田肇君外十名提出、同日議事日程ヲ變更シテ院議ニ付シ提出者(尾崎行雄君)ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

本員等ノ提出致シマシタル決議案ハ、唯今桂總理大臣ヲ答辯ニ照シ、尙其前後ノ舉動ニ鑑ミテ、茲ニ此決議案ヲ提出スルノ已ムベカラザルコトヲ認メテ出シマシタ譯デアリマス、其論點タルヤ、第一ハ身内府ニ在リ、内大臣兼侍從長ノ職ヲ辱ウシテ居リナガラ總理大臣トナルニ當ツテモ、優詔ヲ拜シ、又其後モ海軍大臣ノ留任等ニ付テモ、頻リニ優詔ヲ煩シ奉リタルト云フコトハ宮中府中ノ區別ヲ紊ルト云フノガ、非難ノ第一點デアリマス、唯今桂公爵ノ答辯ニ依リマスレバ、自分ノ拜シ奉ツタノハ勅語ニシテ、詔勅ハナイガ如キ意味ヲ述ベラレマシタガ、勅語モ亦詔勅ノ一デアアル、而シテ我帝國憲法ハ總テノ詔勅——國務ニ關スルトコロノ詔勅ハ必ズヤ國務大臣ノ副署ヲ要セザルベカラザルコトヲ特筆大書シテアツテ、勅語ト云ハウトモ、勅諭ト云ハウトモ、何ト云ハウトモ、其間ニ於テ區別ハナイデアリマス、若シ然ラズト云フナラバ、國務ニ關スルトコロノ勅語ニ若シ過チアツタナラバ、其責任ハ何人ガ之ヲ負フデアルカ、畏多クモ 天皇陛下直接ノ御責任ニ當ラセラレナケレバナラヌコトニナルデハナイカ、故ニ之ヲ立憲ノ大義ニ照シ立憲ノ本義ヲ辨ヘザル者ハ默シテ居ルベシ、勅語デアラウトモ、何デアラウトモ、凡ソ人間ノ爲ストコロノモノニ過チノナイト云フコトハ言ヘナイデアアル是ニ於テ憲法ハ此過チノナキコトヲ保障スルガタメニ(議場騒然)憲法ヲ調ベテ見ヨ(議長 討論中デアリマス、御意見ガアレバ順次登壇シテ御述ベナサイ、斯ル大切ナル問題ヲ議スルニ徒ラニ騷擾スルガ如キハ甚ダ取ラザルトコロデアリマス)我憲法ノ精神ナルモノハ……我憲法ノ精神ハ 天皇ヲ神聖侵スベカラザルノ地位ニ置カンガタメニ總テノ詔勅ニ對シテハ、國務大臣ヲシテ其責任ヲ負ハセルデアアル、然ラズンバ……(議長 討論ガ憲法

論デアアル間ハ本院ニ於ケル議論ハ議員ノ自由デアリマス)御聽キナサイ、御聽キナサイ、總テ 天皇ハ神聖ニシテ侵スベカラズト云フ大義ハ國務大臣ガ其責任ニ在ルカラ出テ來ルデアリマス然ルニ桂公爵ハ内府ニ入ルニ當ツテモ大詔已ムヲ得ザルト辯明シ又内府ヲ出テ、内閣總理大臣ノ職ヲ拜スルニ當ツテモ、聖意已ムヲ得ヌト辯明スル、如何ニモ斯ノ如クナレバ桂總理大臣ハ責任ガ無キガ如ク思ヘルケレドモ、却テ 天皇陛下ニ責任ハ歸スルヲ奈何セン凡ソ臣子ノ分トシテ已レノ責任ヲ免ガレンガタメニ、責ヲ外ニ歸スルト云フガ如キハ、本員等ハ斷ジテ臣子ノ分ニアラズト信ズル殊ニ唯今ノ辯明ニ依レバ勅語ハ總テ責任ナシト云フ、勅語ト詔勅トハ違フト云フガ如キハ、彼等一輩ノ曲學阿世ノ徒ノ、憲法論ニ於テ、此ノ如キコトガアルカモ知レナイガ、天下通有ノ大義ニ於テ其ヤウナコトハ許サヌデアアル彼等ガ動モスレバ、引イテ以テ己ノ曲說ヲ辯護セントスルトコロノ獨逸ノ實例ヲ見ヨ、獨逸皇帝ガ屢、四方ニ幸シテ演說ヲ遊ハサレル、其中ニハ頗ル物議ヲ惹起スルトコロノモノガアル、天下騷然タルニ至ツテ總理大臣ノ主トシテ仰ゲトコロノ「ヒューロー」公爵ハ、總テノ陛下ノ演說ニ對シテ拙者其責任ニ任ズルト云フコトヲ天下ニ公言シテ居ルデハナイカ、演說ニ對シテスラ總理大臣タルモノハ、總テ責任ヲ負フ、況ンヤ勅語ニ對シテ責任ヲ負ハヌト云フガ如キハ、立憲ノ大義ヲ辨識セザル甚シキモノト云ハナケレバナラヌ、殊ニ桂公爵ガ未ダ内閣ヲ組織セザル以前、身内府ニ入ツタトキニ、天下ノ物情如何ニアツタカト云フコトハ、公爵自ラ之ヲ知ラナケレバナラヌ、惟フニ、公爵ノ邸ニハ唯纔ニ其道ヲ踏マズシテ内府ニ入り恰モ 新帝ヲ擁シテ、天下ニ號令セントスルガ如キ位地ヲ取ツタガタメニ幾通ノ脅迫狀、幾通ノ血ヲ以テ認メタルトコロノ書面ガ參ツデアラウ、此一事ヲ以テ見テモ、天下ノ形勢何處ニアルカト云フコトハ、略、承知致サナクテハナラヌ、彼等ハ常ニ口ヲ開ケバ直ニ忠愛ヲ唱ヘ、恰モ忠君愛國ハ自分ノ一手專賣ノ如ク唱ヘデアリマスルガ、其爲ストコロヲ見レバ、常ニ玉座ノ蔭ニ隱レテ、政敵ヲ狙撃スルガ如キ舉動ヲ執ツテ居ルデアアル、彼等ハ玉座ヲ以テ胸壁トナシ、詔勅ヲ以テ彈丸ニ代ヘテ政敵ヲ倒サントスルモノデハナイカ、此ノ如キコトヲスレバコソ、身既ニ内府ニ入ツテ、未ダ何ヲモ爲サザルニ當リテ、既ニ天下ノ物情騒然トシテナカク、靜マラナイ、況ンヤ其人ガ常侍輔弼ノ性格——其人ノ性格トシテ一點ダモ、常侍輔弼ト云フ責任ヲ執ルベキ資格アリヤ否ヤト云フコトハ、公爵自ラ承知シテ居ラナケレバナラヌ常侍輔弼ナルモノハ、其品行端正、舉止謹嚴、一舉一動帝王ノ師トナルベキ者ニシテ始メテ成就スルデアアル、桂公爵ハソレ等ノ資格ヲ一點ダモ備ヘテ居ル所ガアリ

マスカ、此ノ如キ性格ノ者ガ、玉座ノ蔭ニ隠レテ常侍輔弼ノ責ニ當リ、而シテ其野心ヲ逞ウセント欲スレバコソ、天ハ人ヲシテ言ハシメ、誰ガ教フルトナク、天下物情騷然トシテ定マルトコロガナイノデアアル、況ヤ其人ガ入ッテ未ダ數箇月ヲ經サルニ再ヒ諸般ノ奇略ヲ弄シ、殊ニ先帝崩御ノ後天下皆憂愁ノ裡ニ沈ムノ場合ニ當ッテ、諸般ノ陰險ナル作略ヲ弄シテ、故ラニ平地ニ風波ヲ捲起シ、而シテ徐ロニ優詔ヲ拜シテ内府ヲ出テ來リ、恰モ我々ニアラズンバ、天下ヲ治ムル者ナシト云フガ如キ顔色ヲシテ、總理大臣ノ職ニ就クト云フニ至ッテ、天下ノ物情益々騷擾ニナルト云フコトハ敢テ怪シムニ足ラヌノデアアル、今日苟モ眼アル者ハ、天下ノ形勢ヲ見ナケレバナラヌ、如何ニ地方忠愛ノ士ガ殊ニ醇朴ナル地方ノ人ガ如何ニ今日ノ事態ヲ憤慨シテ居ルカト云フコトハ、蓋シ臺閣ノ裡ニ隠レテ天下ノ實情ヲ識ラザル者ノ豫想ノ外デアアルマセウ、本員ハ近來地方ヲ歩ルイテ餘程此朴實ナル人々ニ接シマシタガ、近來ノ事態、殊ニ桂公爵ノ出入、皆優詔ヲ煩ハシ、己レ常ニ其責任ヲ免レルガ如キ言動ニ至リマシテハ、何レノ地ノ沒曉漢ト雖モ涙ヲ以テ其非行ヲ語ラヌ者ハナイノデアリマス、即チ吾々ハ已ムヲ得ズシテ此物情ニ副ヒ、冀クハ國家今日ノ危急ノ状態ニ對シテ、民論ノアルトコロヲ表明スルガためニ、第一ニ於テ此宮中府中ノ區別ヲ紊ルト云フコトヲ掲ゲテ、彼レ總理大臣及其他ノ人々ノ反省ヲ促スノ目的ニ外ナラヌ、吾々好シク此議ヲ提出スルニアラズ、世間ノ形勢實ニ已ムヲ得ザルノデアリマス、殊ニ今日鋒ヲ逆マニシテ吾々ガ天下ノ輿論ヲ代表シテ内閣ノ反省ヲ促スノヲ見テ、恰モ故ラニ平地ニ風波ヲ起ス如キ言説ヲ彼レ臺閣ノ者ガ爲シマスルガ、元ト其原因ハ彼等ガ前内閣ヲ倒シテ、不法ナル手段、陰險ナル方法ヲ設ケテ、前内閣ヲ倒シ、取ッテ之ニ代ツタト云フノガ、抑、此大逆浪ヲ捲起シタル原因デアッテ、其形勢ハ恰モ積水ヲ決スルカ如キ事態デアリマス、實ニ怒濤ノ逆卷ク所、何人ト雖モ之ニ對抗スルコトガ出來ナイノデアアル此形勢ヲ識ラズシテ、徒ラニ彼等ノ非行ヲ助ケントスルトコロノ徒輩ハ、唯自ラ逆浪ノ中ニ葬ラルル一法アルノミ又其内閣總理大臣ノ地位ニ立ッテ、然後政黨ノ組織ニ著手スルト云フガ如キモ、彼ノ一輩ガ如何ニ我憲法ヲ輕ク視、其精神ノアルトコロヲ理解セナイカノ一班ガ分ル、彼等ガ口ニ立憲的動作ヲ爲スト云フ、併ナガラ天下何レノ處ニ先ヅ政權ヲ握リ、政權ヲ挾シテ與黨ヲ造ルノヲ以テ、立憲的動作ト心得ル者ガアリマスカ、凡ソ立憲ノ大義トシテ、先ヅ政黨ヲ組織シ、輿論民意ノアルトコロヲ己ノ與黨ニ集メテ、然後内閣ニ入ルト云フノガ其結果デナケレバナラヌノニ、彼等ハ先ヅ結果ヲ先ニシテ而シテ其原因ヲ作ラントスル

ガ如キハ、所謂逆施行ノ甚シキモノデアッテ順逆ノ別ヲ識ラナイ者デアリマス、又此ノ如キ非行ヲ見テ立憲的動作ナドト考ヘテ、之ニ服従スル者ガアルニ至ッテハ、其無智亦大ニ驚クベキモノガアル、又此議會開會ノ初ニ當ッテ濫リニ停會ヲ致シタト云フガ如キモ、現ニ彼等立憲的動作ノ何物タルヲ辨別セザルカ、但シハ之ヲ知ッテ敢テ非立憲的舉動ヲ爲シテ憚ラザルト云フコトノ證據デアアル唯、豫算ノ印刷ガ間ニ合ハナイト云フガタメニ、議會ヲ停會ヲシテ、議會ノ權能ヲ抑止スルガ如キ亂暴狼藉ナル舉動ヲ爲ス立憲的大臣ガ、天下何レノ處ニアリマス又其本員等ノ提出シタルトコロノ質問ニ答フルトコロノ有様ヲ見ルニ、一モ誠意ノ見ルベキモノナシ、但シ桂總理大臣ノ誠意ヲ缺クト云フコトハ、啻ニ此一事ニ止マラズ、彼レガ誠意ニ於テ缺クルトコロアルハ、天下萬衆ノ皆認ムルトコロデアリマスルガ故ニ、彼レ如何ニ口ニニ美ナルコトヲ唱ヘ、如何ナル約束ヲシヤウトモ、天下ノ人多クハ之ヲ信ジマセヌ、若シ之ヲ信ゼシメント欲スレバ、啻ニ口ニ言フノミナラズ、先ヅ之ヲ實行ニ於テ示サナケレバナラヌ、實行ニ於テ示スベキ機會ハ幾ラモアルニ拘ラズ、却テ實行ニ於テハ謂ハレナク議會ノ停會ヲ命ジ甚シキニ至ッテハ詔勅ト勅語ノ區別ノ如キコトヲ述ベテ、人目ヲ胡麻化シ去ラントスルガ如キハ、彼レガ凡テノ點ニ於テ誠意ナキノ證據デアアル、此ノ如ク誠意ナキ者ガ如何ニ立憲的動作ヲスルト申シタトコロガ、真正ニ其事ノ行ハレヤウ筈ガナイ、若シ行ハントスルナラバ、吾々謹シテ其実績ヲ見然ル後非難ヲスルコトデアアル、今日桂公爵ヲ談ズルモノハ、既住二三十年間ノ桂公爵デナケレバナラヌ、彼レ既住二三十年間ニ於テ何ヲ致シテ居リマシタカ、一トシテ非立憲的舉動ナラザルナシ、政黨組織可ナラザルニアラズト雖モ、彼ノ伊藤公ガ十餘年以前政黨組織ヲサレタトキニ、百方ノ妨害シタデハナイカ、又更ニ迦レハ板垣、大隈諸伯ノ如キガ、明治十四年、十五年ノ際ニ政黨組織ヲ致シタ以來、彼レガ如何ニ此政黨ナルモノヲ呪ヒ、之ヲ毒シ、之ヲ賊ヒシカト云フコトハ、天下公衆ノ皆知ツテ居ルトコロデアリマス、併ナガラ彼レ若シ三十年ノ後ニ於テ過ヲ悟ッタト云フコトナラ、吾々ハ其過ヲ改ムルコトヲ答メハシナイ、彼レ若シ十餘年ノ前ニ於テ伊藤公ノ政黨ヲ妨害シタル過ヲ悟ッタト云フナラバ、是亦過ヲ改ムルコトヲ非難ハ致サヌ、併ナガラ眞ニ悟レルモノハ直ニ其過ヲ改ムルノ實ヲ擧ゲナケレバナラヌ、彼レ何ヲ以テ今日ニ於テ改ムルノ實ヲ擧ゲマシタカ、若シ其實ヲ擧ゲントスレバ、前一週間ノ停會中ニ於テ其實ヲ證明スルコトガ出來タノデアリマスガ、其間、爲シタトコロノコトヲ見レバ纔ニ政權ヲ挾ム利益ヲ賄賂トシテ政黨攪亂ノ仕事ヲシタト云フ一事アルノミデアアル、凡ソ朝憲ヲ挾

ンテ與黨ヲ募ラントスルガ如キハ、非立憲的行爲ノ最モ甚シキモノデアアル、吾々ハ第一彼レガ類リニ 新帝ヲ擁シテ、己レノ私ヲ逞ウスルト云フ如キ、舉動ニ對シテ、天下ノ公憤ヲ漏ラシ、今日ハ天俱ニ憤ルト云フ事態ヲ生ジタルハ、彼レノ舉動已ムヲ得ザルモノデアッテ、其原因ハ唯ニ彼レノ既往ノ事績、現在ノ所爲、總テ是ニアルノデアアル、彼レ自ラ之ヲ改ムルニアラズンバ、天下ノ物情ハ如何ニシテモ、之ヲ鎮靜スルコトガ出來ナイト考ヘマスガ故ニ、聊カ全國ノ公憤ヲ漏ラスタメニ此決議案ヲ提出シタ次第デアリマス

桂内閣總理大臣ハ本案ニ對シ左ノ演說ヲ爲ス

諸君、唯今此議場ニ不信任案ヲ提出ニ相成リマシテ、尾崎君ハ數千言ヲ費ヤサレマシテ、其說明ヲ致サレマシタ、其初ニ當リマシテ本官ガ内府ヨリ出テ總理大臣ノ重任ヲ拜シマシタ間、勅語濫發ト云フコトヲ述ベラレマシタ、其勅語ノ性質ニ於キマシテハ、過刻元田君ヨリノ御質問ニ對シマシテ餘儀ナク良多クモ本官ハ是ニ對スル答辯ヲ致シテ置キマシタカラ、此尾崎君ノ說明致サレマシタトコロノ箇條ニ付キマシテハ、諸君ハ疾クニ誤解ヲ御解キニナシタデアラウト考ヘルノデアリマス、又決議案ニ御贊成ニナシタ諸君ハ宜シク此點ニ付テ誤解ヲ御解キ下サルヤウニ希望致スノデアアル、唯此等ノコトハ感情ヲ以テ、ワットナサルベキモノデアナイト云フコトハ本官ノ申スマデモナイコトデアアル、又數千言ヲ費ヤサレマシテ、私ノ數十年ニ於ケル動作ノ御非難ヲ御演說ニナリマシタガ、是ハ尾崎君ニ向ッテ御答辯スル必要ハナイト考ヘマス、此等ハ天下ノ人が公平ナル判斷ヲ以テ尾崎君ノ演說ヲ判斷スルデアラウト考ヘル、唯勅語ノ一點ニ付キマシテ、其勅語ニ對シマシテ責任ガナイト言フノデアハナイ、能ク御聽キナサイ、憲法第五十五條ニ依リ副署ヲ要スルモノニアラザルコトヲ云フノデアリマス、又必シモ奏請ヲ待ツモノデアナイト云フコトヲ言フノデアリマス、大命ヲ奉ズル者ガ其責ニ任ズルハ、勿論ノコトデアルト云フコトヲ茲ニ明言致シテ置クノデアリマス、ドウカ諸君、此議場ノ有様ヲ見マスルト多分誤解ヲ御解キニナシテモ、或ハ多數ヲ御決議ニナルカモ知レナイガ、本官ハ、ドウカ此ノ如キ誤解ノナイヤウニ諸君ノ誤解ハ十分ニ御解キ下サルコトヲ希望シテ已マヌノデアリマス

此ニ於テ議長ハ通告順ニ依リ島田三郎君ヲ指名シ同君登壇セルニ停會ノ 詔書ヲ傳達セラレ引續

キ二回ノ停會アリ次テ内閣總辭職ノ爲後繼者ノ定マル迄休會ト爲リ二月二十七日會議ヲ開クヤ提出者全體ヨリ撤回ヲ請求シ院議異議ナク之ヲ許可シタリ

三 決算ニ關スル決議案

明治四十三年度歳入歳出ノ決算中ニハ會計法ニ違背ノ收支ヲナシ或ハ不當ノ出入ヲナセルモノ尠カラス如上ノ事實アルハ當ニ該會計年度ノ決算ニ止マレルニ非サルヲ以テ政府ニ向ヒ屢警告スル所アリシニ拘ラス依然トシテ之ヲ改メサルモノ多キ所以ハ政府ノ歳入歳出取扱ニ對シテ誠意ヲ缺ケルト上級官廳ノ下級官廳ニ對スル監督ニ怠慢ナル所アル結果ナリト認ム

二年三月二十六日明治四十三年度歳入歳出總決算外三件ノ會議中小西和君ハ右決議案ヲ提出シ討論ノ後否決スル處ト爲レリ(本章第二款參看)

第七款 請願(議院法第六十四條第一項ニ依レルモノ)

本院ニ於テハ大正元年十二月二十八日請願委員ヲ選舉ス委員ハ同日委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ二年二月二十八日科ヲ分テ左ノ四ト爲シ請願ノ種類ニ依リ其ノ審査ノ分擔ヲ定メタリ

第一分科 (内閣及大藏省所管) 兼任委員 七十名 主查 紫安新九郎君

第六章 議事 第三節 議案ノ討議及表決 第七款 請願

第二分科 (外務省、内務省及文部省所管)

〔專任委員〕 七十名 主査 井上篤太郎君

第三分科 (陸軍省、海軍省、司法省及農商務省所管)

〔專任委員〕 八十名 主査 丸山豊治郎君

第四分科 (遞信省所管、鐵道院及雜)

〔專任委員〕 七十名 主査 則元 由庸君

請願委員會ニ於ケル審査ノ結果ハ第六章第二節ニ摘記セルヲ以テ茲ニ重複セス

請願特別報告ノ討議及表決ハ左掲ノ如シ

一 司法官及辯護士試驗制度改正ノ請願(特一八)

二 巡查看守退隱料及遺族扶助料ノ請願(特八五)

兩請願(特一八ハ二年二月十日、特八五ハ二月二十二日報告)ニ對シテハ請願委員會ニ於テ法律ノ制定ニ關スル請願取扱規則ニ據リ法律案ヲ起草シテ議院ニ提出シ院議第一ヲ可決シ第二ハ議決ニ至ラサリシ(本章第四款第二項二六、二七及四二參看)

三 池田町ニ區裁判所出張所設置ノ請願外二件(特一、二、三)

二年三月三日報告、同月八日一括シテ院議ニ付シ委員長植場平君ハ左ノ報告ヲ爲ス

特別報告第一號請願文書表ノ第六號デアリマス、池田町ニ區裁判所出張所設置ノ請願、請願者ハ徳島

縣三好郡池田町長島崎傳吉提出デアリマス、紹介議員ハ大久保弁太郎君、此請願ノ要旨ハ意見書ニ詳カデアリマス、請願委員會ハ反覆審査ヲ致シマシタ結果、本請願ハ至當ナルモノト見マシテ採擇ニ決定致シマシタ、次ノ請願ハ特別報告第二號、請願文書表ノ二十一號デアリマス、高梁區裁判所出張所設置ノ請願デアリマス、請願者ハ岡山縣川上郡手莊村長赤松佳倫外三名デアリマス、紹介議員ハ西村丹治郎君、本請願ノ要旨ハ別紙意見書ニ詳カデアリマス、本案ニ對シマシテモ請願委員會ハ反覆審査ヲ致シマシタ結果、採擇ニ決定致シマシタ、次ノ請願ハ特別報告第二號請願文書表ノ五十九號デアリマス、旭川區裁判所出張所設置ニ關スル請願デアリマス、請願者ハ北海道天鹽國上川郡士別村平民農菅原太吉外七名デアリマス、紹介議員ハ東武君デアリマス、本請願ノ要旨ハ別紙意見書ニ詳カデアリマス、是亦請願委員會ハ反覆審査ヲ致シマシタ結果、至當ノ請願ト見マシテ採擇ニ決定致シマシタ、此段御報告ヲ申上ゲマス

院議異議ナク各請願ヲ採擇セリ即日政府ニ送付ス

四 陸軍現役兵卒家族扶助料給與ノ請願外十九件(特四乃至一七)

二年二月七日報告、同月十一日一括シテ院議ニ付シ委員長ハ左ノ報告ヲ爲ス

議長ノ宣言ニ從ヒマシテ本日ノ日程ニアリマスル報告ヲ全部是ヨリ致シタイト思ヒマス、報告第四號、陸軍現役兵卒家族扶助料給與ニ關スル請願デアリマス、請願者ハ東京市赤坂區青山北町三丁目五番地士族商中村枝幸、紹介議員ハ西谷金藏君デアリマス、本案ハ別紙意見書ニゴザイマス如ク至當ノ請願ト認メマシテ請願委員會ハ審議ノ結果採擇スルコトニ決定ヲ致シマシタ、報告第五號、土佐線速成ノ請願、請願者ハ高知市升形八番屋敷平民吳服商谷協靜一外七名ノ呈出テ、紹介議員ハ片岡直温君デアリマス、本願モ審議ノ結果至當ノ請願ト認メマシテ採擇スルコトニ決定致シマシタ、次ハ報告第六號、鰻

ケ澤町浪岡間鐵道敷設ノ請願デアリマス、請願者ハ青森縣南津輕郡浪岡村長岡田清平外二十六名呈出、紹介議員ハ長晴登君デアリマス、本請願モ請願委員會ニ於キマシテハ反覆審査ノ結果、至當ノ請願ト認メマシテ採擇ニ決シマシタ、報告第七號、福山今市間輕便鐵道敷設ノ請願、請願者ハ廣島縣甲奴郡上下町五百一番屋敷金穀貸付業甲奴郡會議員岡田胖十郎外百二十六名呈出、紹介議員ハ井上角五郎君デアリマス、モウ一ツ福山今市間輕便鐵道速成ノ請願、此請願者ハ島根縣飯石郡吉田村大字吉田村百五番地平民鑛業田部長右衛門外千七百六十名呈出、紹介議員ハ恆松隆慶君デアリマス、此二案トモ審査ノ結果至當ノ請願ト認メマシテ採擇スルコトニ決シマシタ、次ハ報告第八號、急行列車神奈川驛停車ノ請願、請願者ハ神奈川縣橫濱市子安町三千四百四十四番地平民農田邊市太郎外一名呈出、紹介議員ハ守屋此助君デアリマス、此請願ノ要旨ハ總テ急行列車ヲ神奈川驛ニ寄セルコトニシテ貫ヒタイト云フ請願デアリマスガ、請願委員會ハ審査ノ結果最急行タケハ除クト云フコトニ致シマシテ、殘ル所ノ通常ノ急行列車ハ著ケテ宜カラウト云フコトニ致シテ採擇ニ決シタノデアリマス、次ハ請願報告第九號安來母里間輕便鐵道速成ノ請願デアリマス、島根縣能義郡赤屋村大字赤屋十七番屋敷平氏農藏光善一郎外三百二名ノ呈出ニ係ル請願デアリマシテ、紹介議員ハ恆松隆慶君デアリマス、本案モ請願委員會ニ於キマシテ審査ノ結果採擇スベキモノナリト決定致シマシタ、次ハ請願報告第十號大湊鐵道速成ノ請願、請願者ハ青森縣下北郡田名部町大字田名部字小川町三十三番地平民農西山廣外二百十六名ノ呈出デアリマシテ、紹介議員ハ長晴登君デアリマス、本請願モ審査ノ結果至當ナリト認メマシテ採擇スルコトニ決定致シマシタ、次ハ請願報告第十一號安來井尻間輕便鐵道敷設ニ係ル請願デアリマス、請願者ハ島根縣能義郡井尻村平民農岩佐專五郎外七百名呈出、紹介議員ハ福岡世徳君外一名デアリマス、本案モ請願委員會ニ於テ親切調査ノ結果至當ナリト認メマシテ採擇スルコトニ決定致シマシタ、次ハ請願報告第十二號、北海道留萌増毛間鐵道速成ノ請願デアリマス、請願者ハ北海道増毛郡増毛町大字辨天町一丁目二十九番地平民商本間泰藏外三十八名デアリマシテ、紹介議員ハ東武君外一名デアリマス、本案モ請願委員會ニ於キマシテ審査ノ結果至當ト認メマシテ採擇スルコトニ決定致シマシタ、次ハ特別報告十三號紋龜黒松内間鐵道官設速成ノ請願、北海道壽都郡壽都町大字岩崎町八番地平民小町佐吉外二百四名呈出、紹介議員ハ内山吉太君デアリマス、本案モ請願委員會ニ於テ反覆審査ノ結果至當ト認メマシテ採擇スルコトニ決定致シマシタ、次ハ請願特別報告十四號、天鹽沿岸鐵道敷設ノ請願デアリマス、請願者ハ北海道留萌驛留萌町大字留萌村字記念通五十八番地平民林太右衛門外百二十三名ノ呈出デアリマシテ、紹介議員ハ東武君デアリマス、本案モ審査ノ結果至當ト認メマシテ採擇スルコトニ決定致シマシタ、次ハ特別報告十五號、知井宮村郵便局設置ノ請願デアリマス、請願者ハ島根縣簸川郡知井宮村大字知井宮本郷六百二十八番地農山本厚太郎外十二名ノ呈出デアリマシテ、紹介議員ハ恆松隆慶君デアリマス、本案モ審査ノ結果至當ト認メマシテ採擇スルコトニ決定致シマシタ、次ハ請願特別報告十六號、小坂鑛山鑛煙毒救濟ノ請願デアリマス、請願者ハ秋田縣北秋田郡大館町東大館七百八十八番地平民農竹村定直外六百名ノ呈出デアリマシテ、紹介議員ハ町田忠治君デアリマス、本請願モ審査ノ結果至當ト認メマシテ採擇スルコトニ決定致シマシタ、次ハ特別報告十七號デアリマス、文書表ノ二號、四號、三十三號、三十四號、三十五號、五十九號、此請願ハ同一請願デゴザイマス、故ニ一括シテ審査ニ付シマシテ何レモ相當ノ請願ト認メマシテ、採擇スルコトニ決定致シマシタ、此段御報告申上ケマス

院議異議ナク各請願ヲ採擇セリ即日政府ニ送付ス

五 借地權救濟ノ請願外十五件(特一九乃至二三及二五乃至三五)

二年三月十日及十七日報告、同月二十日一括シテ院議ニ付シ理事大橋松二郎君ハ委員長ニ代リ左ノ報告ヲ爲ス

委員長植場平君ガ缺席デゴザイマスルデ、理事トシテ私カラ御報告申上ケマス、日程ニ上ッテ居リマスル、第二十八乃至第四十二マデノ各請願ノ件ハ、請願委員會ニ於テ何レモ適當ナル請願トシテ之ヲ採擇スルコトニ決シマシテゴザイマス、前例ニ依リマスルト此請願件名、請願人名、紹介議員諸君ノ御名前ヲ皆御報道ニ

ナッテ居リマスガ、之ヲ省カウト思ヒマス——ソレデハ今日マデノ經過ダケヲ御報告申上ケテ置キマス、請願ノ件受領致シマシタ總數二百二十八件、昨日マデ議了シタル件數、百十件、法律案ヲ制定シタルモノガ一件、採擇スベシト意見ヲ付シタルモノガ六十三件、不採擇ニシマシタルモノガ五件、政府ニ參考トシテ送付シタルモノガ三十四件、特別委員會ニ送付シタルモノガ五件、ソレカラ法律案又ハ請願委員會議決ノ結果ニ依テ、其議決ヲ要シタルモノガ二件、未了ノモノガマダ百十八件アリマシテ、本日ノ院議ニ付サレマシタルモノハ十六件、斯様デアリマス、本日ノ日程ニ上ッテ居リマスル中ニ於テ姫路城ノ保存ノ件ニ付キマシテハ、分科會ニ於キマシテ政府委員ノ意見等モ徵シマシテ之ヲ決定致シタ次第デアリマス、此段御報告致シマス

院議異議ナク各請願ヲ採擇セリ即日政府ニ送付ス

六 小湊村郵便局設置ノ請願外二十一件(特三六乃至四四、四六乃至五四及五六乃至五八)

二年三月十七日報告、同月二十二日一括シテ院議ニ付シ委員長ハ左ノ報告ヲ爲ス

唯今議題トナリマシタル日程二十四ヨリ四十四ニ至ル各案ニ對シマシテハ、請願委員會ハ慎重審議ノ結果、何レモ至當ノ請願ト認メマシテ採擇スルコトニ決定ヲ致シマシタ併セテ請願委員會今日迄ノ經過ヲ御報告申上ゲマス、請願委員會ニ於キマシテ當初ヨリ受理致シマシタル件數ガ二百四十九件デアリマシテ、其中一昨二十日ニ報告ヲ致シマシタルガ百十件デアリマス、其後審査ノ結果採擇スベキモノト意見ヲ付シテ報告致シマシタルモノガ十八件、採擇スベカラズト決シタルモノガ一件、政府ニ參考トシテ送付スベキモノト決定致シマシタルモノガ六件、同種ノ請願デゴザイマシテ、既ニ院議決定致シマシタルモノト同様ナモノデ、議決ヲ要セズト決定致シマシタルモノガ一件、未了ノモノガ百十三件デアリマス、サウシテ本日報告ヲ致シマシタルモノガ二十二件デアリマス、此段御報告ヲ申上ゲマス

院議異議ナク各請願ヲ採擇セリ即日政府ニ送付ス

七 滿鮮方面輸出花蔴検査所設置ノ請願外八十件(特五九、六一乃至七六、七八乃至八四、八六乃至八八、九〇乃至九四、九六乃至一〇〇乃至一四二)

二年三月二十日、二十二日、二十四日及二十五日ノ報告、同月二十六日一括シテ院議ニ付シ委員長ハ左ノ報告ヲ爲ス

御報告ヲ致シマス、日程ノ四十七ヨリ百二十五マデ七十九件、此各案ハ請願委員會ニ於キマシテ慎重審議親切ニ調査ヲ致シマシタル結果、何レモ至當ナル請願ト認メマシテ採擇スルコトニ決定ヲ致シマシタ、別ケテ一言加ヘテ置キマス、日程ノ七十二號試驗制度改正ニ關スル請願ハ、去ル十日ニ分割致シマシテ、裁判所構成法改正案、辯護士試驗制度改正案ヲ本院ニ於テ可決ニ相成リマシテ、殘ッテ居ルモノハ即チ唯今御報告致シタルデゴザイマスガ、是ハ總テ省令ニ依テ改廢シ得ラル、事件——問題デアリマス、是ハ請願ノ趣旨相當ナリト認メマシテ全部採擇ヲ致シタルデゴザイマス、更ニ附加ヘマシテ二十議會ニ於キマスル請願委員會ノ經過結果ヲ御報告致シマス、三十議會請願委員會ニ於キマシテ受理致シマシタル請願總數ハ二百八十三件デアリマス、其中法律案ヲ制定致シマシテ本議ニ御報告申上ゲマシタルモノガ二件、採擇スベキモノナリトシテ意見ヲ附シテ報告ヲ致シマシタルモノガ百五十二件、採擇スベカラザルモノトシテ御報告致シマシタルモノガ十八件、政府ニ參考ト致シテ送付スベキモノナリト決定致シマシタルモノガ八十二件、特別委員會ニ參考トシテ送付スベキモノナリト決定致シテ送付致シマシタルモノガ二十二件デアリマス、而シテ同種ノ法律案又ハ請願ノ議決ノ結果ニ依リマシテ、議決ヲ要セズト決定ヲ致シマシタルモノガ五件、取下ケノ許可ヲ申出デマシテ許可ヲ與ヘマシタルモノガ二件デアリマス、是ガ請願委員會ノ經過デゴザイマスカラ御報告申上ゲマス

各請願中酒造税法改正ノ請願外二件(特一〇一)ハ同種法律案ノ議決ニ依リ日程ヨリ除キ他ノ請願ニ對シテハ院議異議ナク之ヲ採擇セリ即日政府ニ送付ス

八 福山今市間輕便鐵道敷設ノ請願外六件(特二四、四五、五五、六〇、七七、八九、九五)

二年三月十日、十七日、二十日及二十二日報告各請願ハ同種議案又ハ請願議決ノ結果院議ニ付スルヲ要セサルモノト爲レリ

第七章 質問及答辯

本會期中議員ヨリ政府ニ對シ質問シタル總件數二十六件ニシテ之ヲ類別スレハ内閣ニ關スルモノ九件、内閣、外務、陸軍、海軍ニ關スルモノ一件、内閣、内務、文部、逓信ニ關スルモノ一件、内閣、農商務ニ關スルモノ一件、外務ニ關スルモノ五件、外務、逓信ニ關スルモノ一件、内務ニ關スルモノ四件、内務、大藏ニ關スルモノ一件、内務、陸軍、文部ニ關スルモノ一件、内務、司法、農商務ニ關スルモノ

一件、大藏ニ關スルモノ五件、陸軍ニ關スルモノ二件、司法ニ關スルモノ一件、農商務ニ關スルモノ三件トス左ニ其ノ質問及答辯ヲ列記スヘシ

一 憲法上元老會議ニ關スル件

大正二年一月二十日清水市太郎君ヨリ左ノ質問ヲ提出シタリ

- 一 元老會議ナルモノハ憲法ニ違反スルナキカ
 - 二 元老會議ナルモノハ 天皇ノ大權ニ侵蝕スルナキカ
 - 三 元老會議ナルモノハ累ヲ 天皇ニ及スノ虞ナキカ
 - 四 元老會議ナルモノハ寡人政治ノ體裁アリテ憲政多數政治ノ根本義ニ反スルナキカ
 - 五 元老會議ナルモノハ無責任ニシテ政治上百弊ノ根原タルナキカ
- 本質問ハ三月三日提出者ヨリ之ヲ撤回セリ

二 移民ニ關スル件

二年一月二十日森田小六郎君ヨリ左ノ質問ヲ提出シ三月十八日其ノ趣旨ヲ辯明シタリ

- 一 移民ノ海外發展ハ帝國焦眉ノ急務ト信ス之ニ對スル政府ノ方針如何

一在米日本人ニ對スル政府從來ノ方針ハ終ニ彼等ヲ絶滅セシムル外ナキモノト認ム之ニ對スル
 政府今後ノ方針亦同一ナリヤ
 一在米日本人學齡兒童教育ニ關スル政府當局ノ方針如何

本件ニ關スル質問ハ既ニ本會議ノ始メニ提出致シテ置キマシタケレドモ、イロノノ事情ニ依リマシテ延べル
 コトニナリマシタ、本日茲ニ再ビ此質問ヲ試ムル機會ヲ得マシタノハ、私ノ光榮トスルトコロデゴザイマス、諸君、
 我帝國ノ最モ深キ憂トスルトコロノモノハ、人口ノ増加ト輸出ノ均衡ヲ誤ッテ居ルト云フ此ニ一點デゴザイマ
 ス、人口ノ増加ニ對シテハ適當ノ排泄口ヲ拵ヘ、輸入ノ超過ニ對シテハ適當ノ出入ノ按排ヲ計ルト云フノガ、
 帝國ノ現狀ヲ救フトコロノ最モ急務ノ一デゴザイマス、諸君、今日ハ人口ノ増加ガ最モ激烈ナ時代デゴザイ
 マス、人口ノ増加ハ殆ド無限デゴザイマスケレドモ、之ニ供給スルトコロノ食物ノ供給ハ殆ド限アルノデゴザイ
 マス、從ッテ限リナキトコロノ人口ノ増加ト食物トノ間ノ調節ヲ圖ルガ爲メ、英國ヲ初メテ歐洲先進國ハ
 皆苦心シテ居ルトコロデゴザイマス、故ニ英吉利ハ十九世紀ノ後半ヨリ五十年ノ間ニ、殆ド一千二百萬ト云
 フ人民ヲ外國ニ送出シタノデゴザイマス、更ニ今世紀ニ入りマシテカラ十年間ニ六百萬人ノ人間ヲ外國ニ送ッ
 テ居ル、更ニ獨逸佛蘭西露西亞等モ亦多大ノ移民ヲ外國ニ送リマシタ、現ニ既往八十年ノ間ニ於テ、北米
 合衆國へ送出シタトコロノ移民ノ數ハ二千七百萬ハカラアルノデゴザイマス、是等ノ移民ガ本國ニ貢獻スル
 所ノ力、本國ノ財政ヲ救ヒ本國ノ經濟社會ヲ賑ハス其力ハ實ニ偉大ナルモノデゴザイマス、就中最モ偉大ナ
 ルモノハ伊太利ノ移民デゴザイマス、伊太利移民、伊太利ノ亞米利加ニ移住シタ所ノ者ガ、伊太利ノ本國ヲ
 救フ力ノ最モ偉大ナルコトハ、實ニアノ伊太利ノ紊亂シテ居ルトコロノ財政ガ、如何ニシテ救ハレタカト云フコ
 トヲ御調ベニナレバ直チニ判明スルノデゴザイマス、諸君、伊太利ト云フ所ハ洵ニ土地ノ狹イ處デ、サウシテ國ノ
 產物ガ乏シイ國デゴザイマス、然ルニ之ニ反比例シテ人口ノ増加ハ非常ニ夥シイ、從ッテ國民ノ常食ト致シテ
 居ルトコロノ食物、小麥其他種々ノ生活品ノ供給ハ皆外國カラ仰イテ居ルノデゴザイマス、一昨年ノ伊太利

ノ外國貿易状態ヲ調ベテ見ルト、外國カラ供給ヲ受ケテ居リマストコロノ小麥ガ二億七千萬「リラー」、石炭
 ガ二億六千萬「リラー」、棉花ガ二億一千萬「リラー」、鐵ハカリデモ一億七百萬ト云フ莫大ナル金額ヲ輸入
 シテ居ルノデゴザイマス、一昨年ノ伊太利ノ輸入超過ハ四億萬「リラー」カラアルト云フヤウチ莫大ナル統計ヲ
 示シテ居ルノデゴザイマス、伊太利ハ年々輸入超過ヲシテ居ル、或年ハ二億萬、或年ハ三億萬、此状態ヲ以
 テ進ミマシタナラバ、伊太利ハ終ニ破産ヲ免レヌノデアルケレドモ、却テ伊太利ノ國富ガ非常ニ増加シテ行ク、
 北米合衆國ニ居ルトコロノ移民ガ、年々少キハ二億萬多キハ七億萬ト云フ莫大ノ金額ヲ本國ニ輸入スル
 カラデゴザイマス、諸君、我國ハ伊太利ト同様ニ土地ガ非常ニ狹ウゴザイマス、國産ガ非常ニ少ウゴザイマス、
 人口ハ非常ニ多ウゴザイマスケレドモ、貿易ハ一向振ハナイ、我國ノ貿易額ヲ一人當リニ付テ調ベテ見マサル
 ト、漸ク十八圓五十錢デゴザイマス、英吉利ハ二百五十圓、亞米利加ハ八十圓、日本ト殆ド同一ノ國力ヲ
 以テ居ル伊太利デサヘモ、貿易額ハ一人當リ六十圓ト云フ莫大ナル高ヲ示シテ居ルノデゴザイマス、而モ日本
 ハ原料品ノ供給ヲ外國ニ仰イテ居ル、現ニ昨年ノ統計ヲ見マシテモ棉花ハカリ、棉花ハカリデ一億五千萬圓、
 ソレカラ羊毛石油砂糖、此三科目ニ於テ四千萬圓ト云フ莫大ナル金額ヲ輸入シテ居ルノデゴザイマスガ、外
 國カラ特ニ亞米利加カラ來ル所ノ莫大ナル棉花ハ、日本ニ於テ如何ニシテ消化サレルカト云フト、其大部分
 ハ日本ニ於テ消費サレマシテ、漸ク綿絲トナリ或ハ種々ナル木綿製品トナリマシテ、外國ニ送リ出ス額ハ漸ク
 四千萬圓足ラズデゴザイマス、此ノ如キ状態デアリマシテ、輸入超過一億萬圓ノ聲ヲ聞キマシテモ、敢テ人民
 ハ之ヲ怪マヌト云フ誠ニ悲惨極マル状態ニアルノデゴザイマス、正貨ガ流出イタシマシテモ之ヲ補充スル途ガ更
 ニナイ、此状態ヲ以テ進ミマシタナラバ、近キ將來ニ於テ我國ニハ財政上及ヒ經濟上ニ於テ一大危險ガ來ル
 ノデゴザイマス、又我國ノ人口ノ増加率ハ世界ニ於テ第一デゴザイマス、一箇年ノ人口ノ増加ガ五十萬乃至
 六十萬ト云フ莫大ナル數ヲ示シテ居リマス、土地ガ極度マテ耕サレマシテ食物ガ非常ニ缺乏シテ居ル、食糧
 品ノ價ハ日ニ益、騰貴致シマシテ、細民ハ非常ニ困難シテ居ル、單リ細民ノミナラズ國民ノ最モ多數ヲ占ムル
 中産ノ階級ハ、租稅ノ増徴ト物價ノ騰貴ノ爲ニ非常ニ苦シテ居ルノデゴザイマス、人口ノ自然ノ増加ノ結果
 トシテ、失職者ガ又出來ルト云フコトハ自明ノ理デゴザイマス、現ニ文官高等試験ニ及第致シマシテ其證書ヲ
 有シナガラ空シク採用サレヌデ苦シテ居ルモノガ、現ニ四百人カラアルノデゴザイマス、帝國大學文部省直轄ノ

高等専門學校ヲ卒業シテ、今尙其職ヲ得ザル者何千ト云フ許多ノ人數ガアルノデゴザイマス、此状態ヲ以テ進ミマシタナラバ吾々ノ最モ危険トスル所ノ或ハ社會主義或ハ無政府主義ト云フヤウナ危険思想ガ、是等無職ノ高等教育ヲ受ケテ居ルモノカラ出テ來ルノデゴザイマス、誠ニ危険ナル状態ニナルノデゴザイマス、此危険ナル状態ヲ救済スル一ノ方法ハ、唯今ノ方法ハ我國ニ有リ餘ル所ノ移民ヲ外國ニ放散スルト云フノガ、是ガ唯一ノ救済方法デアルト私ハ考ヘマス、然ルニ我帝國ノ現狀ヲ救済スル所ノ根本的問題タル移民問題ニ對スル外務當局ノ態度ハ極メテ冷淡デゴザイマス、當ニ移民ヲ獎勵セザルノミナラズ、成ベク移民ガ外國ニ渡航スルコトニ付テハ、制限ヲ加ヘテ居ルト云フ傾ガアルノデゴザイマス、更ニ移民ニ付テ何レノ地ガ最モ移民ガ安心シテ移住スルコトガ出來ルカ、移民ニ最モ適當シタ土地デアルト云フ事スラ十分ニ調査シテ居ラヌノデアル、尤モ外務省ガ移民ニ付テ調査ヲシナイト云フコトニ付テハ、一ノ理由ガゴザイマス、ソレハ何デアルカト申シマス、移民調査費ガ甚ダ尠イ、漸ク豫算ニ計上サレテアル移民調査費ガ二万圓ニ過ギナイノデゴザイマス、斯クハカリ僅少ノ調査費ヲ以テ十分ニ移民ニ關スル調査ヲスルコトヲ要求スルノハ、無理ノ注文デアルカモ知レマセヌケレドモ、免ニ角移民ニ付テ十分ノ調査ヲシテ居ナイ、然ルニ北米合衆國ハ、北米合衆國ニ居ル所ノ日本人ノ調査ヲスルダケニ、十二万圓ノ金ヲ費シテ居ル、加州デハ加州ニ居ル日本人ノ状態ヲ調査スルガタメニ二万圓ノ金ヲ支出シテ居ル、現ニ外務省ヨリ諸君ニ配布サレタ所ノ此移民調査報告第十一ナルモノハ、外務省ノ手ニ依ッテ出來タモノデアリマセヌ、是ハ北米合衆國ノ政府ガ十二万圓ノ金ヲ費シテ拵ヘマシタ原書ニ依ッテ、漸ク之ヲ翻譯シテ御茶ヲ濁シテ居ルデアル、然ルニ我移民ノ調査區域ハ非常ニ廣ウゴザイマス、單リ北米合衆國ノミナラズ、墨西哥、南亞米利加、加奈陀及廣袤七十万方里ヲ有シテ居リマス蘭領南洋諸島、瓜哇「ボルネオ」「スマタラ」等ニ互リマシテ、最モ廣大ナル區域ヲ持ッテ居ルノデゴザイマス、故ニ外務當局ハ宜シク大藏省ニ交渉致シマシテ、尙二万圓ナリ或ハ二万圓ナリ四万圓ナリ現在ノ額ヲ以テ満足セズ、相當ノ金額ヲ要求致シマシテ十分ナル調査ヲ遂ゲラレンコトヲ希望イタシマス、要スルニ此第一問ニ對シ移民問題ノ根本的解決ニ對シテ、外務當局ハ確定シタル方針ヲ有スルヤ否ヤニ付テハ私ハ質問スルノデゴザイマス、第二問ニ移リマシテ、在米日本人ニ關スル問題デアリマス、亞米利加ニ居ル日本人ガ最モ發展ヲ致シマシタノハ明治二十八年ノ交デゴザイマス、此當時ニ在米移民、其他加奈陀或ハ墨西哥或ハ瓜哇等ニ

散在シマス所ノ帝國移民ガ、日本ニ送金スル金額ハ年々一千万圓ヲ超過シテ居タノデゴザイマス、然ルニ不幸ニモ明治二十九年ノ十月ニ於テ、諸君ノ御記憶ノ桑港ニ學校問題ガ起リマシタメニ、我北米移民ニ付テ頓挫ヲ來シタノデアリマス、此學校問題ハ極メテ輕微ナル問題デアリマス、僅ニ七十八ノ日本人ノ小學校生徒ヲ復校セシムルガタメニ、多大ナル犠牲ヲ拂ッタノデゴザイマス、其結果北米移民ハ益、制限ヲ致サレマシテ、其制限ノ結果、在米日本人ノ人口ガ年々ニ減少シテ參リマシタノデゴザイマス、明治四十一年末ノ統計ニ依リマスレバ、在米日本人ノ總人口十萬三千六百三十八人ト云フ大キナ數ガアッタノデゴザイマスケレドモ、明治四十四年ニハ在米日本人ノ數ガ、九萬三千三百五十九人ニ減ジマシタ、尤モ此中ニハ寫眞結婚ニ依ル再渡航、竝ニ夫婦ノ間ニ生レタル子ガ計上シテアリマスカラ、實際吾々ノ最モ必要トスル壯丁ノ數、其壯丁ノ數ガ千六百七百人カラ減ジタノデゴザイマスカラ、此有様ヲ以テ進ミマシタナラバ、今後二十年或ハ二十年ノ後ニ於テ、在米日本人ノ人口ハ非常ニ減少致シマシテ、彼ノ「ルーズベルト」ノ所謂北米合衆國ニ於ケル日本人ノ數ハ、大日本帝國ニ在ルトコロノ亞米利加人ノ數ト一致スルト云フコトガ、近キ將來ニ於テ實現セラル、コトヲ私ハ大ニ憂フル次第デアリマス、諸君、在米日本人ノ送金ノ金額ガ太平洋ノ向フノ岸ニ居リマス加奈陀、墨西哥、或ハ太平洋ノ中間ニ在ルトコロノ瓜哇ヨリ、年々日本ニ送ッテ參リマス金額ガ、唯今デハ千七百八十万圓ノ莫大ナル數ヲ示シテ居ルノデゴザイマス、又在米日本人ノ耕地ハ日本ノ町歩ニ直シマシテ、日本人ガ現ニ所有シテ居リマス土地ガ一萬二千五百町歩、借地ガ十一萬三千六百町歩ト云フ廣大ナル面積ヲ今耕シテ居ルノデゴザイマス、然ルニ此状態ハ外務省ノ現在執ッテ居リマスストコロノ政策ノ結果トシテ、送金ハ年々ニ減少スル、耕地モ年々減少スルト云フヤウナコトニナリマシテ、多年ノ苦心ヲ以テ在米日本人ノ占メタルトコロノ地歩ハ、一步々々荒サレツ、アルノデゴザイマス、之ヲ防止スル方法ハ現狀維持、現在亞米利加ニ居リマス移民數ヲ減ラサナイト云フ現狀維持ノ方法ヨリ外ナイノデゴザイマス、例ヘバ一年ニ五人歸レバ五人送ル、再渡航ニ關スル制限ヲ緩ウサレタナラバ、此衰頹シツ、アル日本人ノ現狀ヲ維持スルコトガ出來ル、現ニ日本人ヨリ劣等ナル地位ニ在ル在米支那人ハ、確カ現狀維持ヲシテ居リマス、再渡航ニ關スル制限ガ非常ニ緩イノデアリマス、日本モ宜シク支那人ニ倣ヒ、再渡航ニ關スル制限ヲ緩ウシテ、在米日本人ノ現狀ヲ維持スルヤウニ努メラレタイモノデアリマスケレドモ、如何セン外務省ノ現ニ執リツ、アルトコロノ方針ニ依リマ

スレバ、再渡航ニ關スル制限ガ嚴重ナルガ爲メニ、日ニ益々人口ハ減少シテ往キマス、此外務省ノ既往ノ政
策ヲ改メズ、尙益々同一ノ政策ヲ執ラレ、ヤ否ヤト云フコトヲ特ニ御質問スルノデゴザイマス、又第三問ニ入
リマシテ在米日本人ノ小學校生徒ノ教育方針デゴザイマス、現ニ亞米利加ニ居リマスニコロノ日本人ノ小
兒ノ數ハ、二千六百十五人、加奈陀ニ居リマスニコロノ小兒ノ數ヲ合計致シマスルト、四千人カラアルノデゴ
ザイマス、學齡兒童ノ數ガ千五百八十人ゴザイマシテ、是等ノ學齡兒童ヲ教育スル設備、日本人ノ小學校ハ
桑港ニ一箇所「シアトル」ニ一箇所「ローサンゼルス」ニ一箇所「サクラメント」ニ一箇所「バンクバー」ニ一箇
所アリマス、併ナガラ是等ノ兒童ヲ如何ニ教育スルカト云フ教育ノ方針ニ付テ、何等ノ確乎タル信念ガナイノ
デゴザイマス、現ニ教育ノ任ニ當ッテ居ルモノガ非常ニ誤ッテ居ル、故ニ彼等教育ヲ擔當スル者ハ日本ヨリ來
米セラル、名士ニ就テ一々其意見ヲ聞イテ居ル、若シ島田二郎君ガ渡米シテ、能ク在米日本人ハ米國ノ教
育ニ同化スル方針ヲ以テ教育ヲセヨト云ヘバ、島田君ノ說ニ聞イテ米國ニ同化セヨト云フ、又若シ志賀重
昂君ノ如キ國粹保存論者ガ行カレマシテ、日本人ハ大和民族ノ精神ヲ發揮スルヤウニ教育セヨト云ヘバ、其
志賀君ノ說ニ聞イテ大和民族主義教育ヲ施スト云フヤウニ、現ニ教育ノ局ニ當ッテ居ル者ガ大ニ迷ッテ居ル
ノデゴザイマス、在米日本人ノ壯丁ハ減ジマスケレドモ、此小兒ノ數ハ年々ニ増加スルノデアリマス、サウシテ日
本ノ移民ガ將來英語ヲ話ストコロノ北米合衆國或ハ加奈陀等ニ殖民ヲ致シマス、又西班牙語葡萄牙語ヲ
話シマスニコロノ南米地方ニ移住ヲ致シマス、又或ハ和蘭語ヲ使用スルトコロノ南洋諸島ニ移住ヲシマス場
合ニ、將來如何ニシテ日本人ノ壯丁ヲ教育スルカト云フコトニ付テ、外務當局ハ一定ノ方針ヲ有セラル、ヤ
否ヤト云フコトヲ御伺ヒシタイタメニ、特ニ此三問ヲ出シタ次第デゴザイマス、願クハ責任アル人ヨリ確乎タル
答辯ヲ願ヒタイノデゴザイマス

此ノ質問ニ對シ二月二十四日牧野外務大臣ハ書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲セリ

一、質問第一項ニ對シテハ政府ハ移民ノ海外發展ヲ以テ帝國ノ利益ナリト認メ移民ノ保護監督ハ
勿論不絕移民地ノ調査ヲナシ彼等ノ爲メ常ニ諸般ノ利便ヲ計ル等之カ海外發展ニ關シ機宜ノ

措置ヲ執リツ、アリ尙將來ニ互リテモ依然此方針ヲ繼續スヘシ

一、質問第二項ニ對シテハ政府ハ在米日本人ニ對スル政府從來ノ方針ハ彼等ヲ絶滅セシムルカ如
キ懸念ナシト信ス又其方針ヲ變更スルノ意思ヲ有セス現ニ在米日本人ノ數ニ著シキ増減ヲ見ス
一、質問第三項ニ對シテハ在米日本人學齡兒童ハ米國ノ法制ニ依リ一般ニ義務教育ヲ受ケツ、ア
リ帝國政府ニ於テ之レニ干渉スヘキモノニアラス但シ右等兒童ハ米國ノ義務教育ヲ受クル傍
ラ日本語其他必要ノ教育ヲ受ケツ、アリ

三 内閣ノ措置並政綱ニ關スル件

二年一月二十一日元田肇君外一名ヨリ左ノ質問ヲ提出シタリ

- 一 今上陛下踐祚ノ始ニ於テ祖宗ノ宏謨ニ遵ヒ憲法ノ條章ニ由リ之レカ行使ヲ愆ルコト無ク以
テ 先帝ノ遺業ヲ失墜セサラムコトヲ宣シ給ヘリ是レ上下戮力以テ憲政ノ完美ヲ期セサル
ヘカラサルノ時ナリト信ス現内閣ノ所見如何
- 二 桂首相ハ 優詔ヲ拜シテ辭スル能ハス遂ニ内閣ヲ組織セリト公言セリ然ルニ桂首相ハ當時
内大臣兼侍從長ノ職ニ在リ右 優詔ハ何人ノ奏請セシモノナルヤ
- 三 又桂首相内閣組織ノ大命ヲ拜シ其ノ閣員ヲ奏上スルニ際シ海軍大臣留任ノ 優詔アリ是レ

何人ノ奏請ニ係ルモノナルヤ

四 桂首相内閣組織ノ大命ヲ拜シ未タ其ノ閣員ヲ奏上セサルニ先チ其ノ氏名ヲ公ニシ甚シキハ其ノ抱負ヲ公言シテ憚ラサルモノスラ之レアリシカ如シ是レ果シテ妥當ノ行動ト爲スモノナリヤ

五 現行官制ニ據レハ陸海軍大臣ハ現役大中將ニ限レリ現内閣ハ之ヲ以テ憲政ノ運用ニ支障ナキモノト認ムルカ

六 陸軍二箇師團増設ハ桂首相ノ同意スル所ナリト聞ク果シテ然ラハ今議會ニ其ノ案ヲ提出スルカ

七 桂首相カ地方官ニ訓示セシ所ニ據レハ大正二年度豫算ハ明治四十五年度ノ豫算ヲ基礎トシテ編成シ其ノ實行ニ當リテ五千萬圓ヲ節約セムトスルモノノ如シ果シテ然リトセハ是レ實行セサル豫算ヲ提出シテ議會ノ協贊ヲ求ムルモノノ如シ其ノ理由如何

八 右五千萬圓節約中ニハ陸軍省所管ノ節約額幾何ナルヤ

九 現内閣ハ減稅ノ意味ニ於ケル稅制整理案ヲ本議會ニ提出シ大正二年度ヨリ實行セムトスルヤ如何

此ノ質問ニ對シ二月五日桂内閣總理大臣ハ書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲セリ

一、踐祚朝見式ニ降シ給ヒタル勅語ハ寔ニ感激恐懼ニ堪ヘサル所、唯日夜眷々服膺シテ報效ヲ期シ其ノ及ハサルコトヲ是レ惧ルルノミ、質問ノ旨意政府ノ所見ト異ラズ

二、質問ニ對シテハ答辯ノ限ニ在ラス

三、右同斷

四、質問ノ事實ナシ

五、現行陸海軍省官制中大臣ヲ現役將官ニ限ルノ制ハ施行以來長ク年月ヲ經過シタルモ今日ニ至ル迄憲政ノ運用ニ關シ別ニ支障アルヲ見ス

六、前段ノ事實ナシ而シテ政府ハ今期議會ニ陸軍二箇師團増設ノ案ヲ提出スルノ意ナシ

七、政府ハ行政及財政ヲ整理シ年額約五千萬圓乃至六千萬圓ノ經費節約及繰延ヲ爲スヲ以テ財政ノ基礎ヲ鞏固ニシ併セテ財政經濟ノ調和ヲ計ルカ爲メ最モ機宜ニ適スルモノト認ム故ニ出來得ヘクムハ細目ニ付整理ノ考案ヲ立テ之ニ基キテ財政計畫ヲ定メ以テ大正二年度ノ豫算案ヲ編成セムコト素ヨリ其ノ希望シタル所ナリト雖現内閣ノ成立シタル時ハ恰モ帝國議會ノ開會ニ切迫シ居リタルヲ以テ此ノ如キ計畫ヲ立テテ豫算案ヲ編成スルコトハ時日之ヲ許サス故ニ政府ハ前述財政計畫ヲ豫算ニ計上スルハ之ヲ大正三年度ニ讓リ大正二年度ノ豫

算案ハ大體前年度豫算ニ依リ編成セリ然レトモ整理ノ事タル現下ノ國勢上最モ必要トスル所ナルヲ以テ政府カ豫算ヲ執行スルニ當リ出來得ル限り其ノ精神ノ實現ヲ期スヘキハ當然ノ事ト爲ス即チ政府ハ目下議會ノ協賛ヲ求メツツアル豫算案ヲ實行セムトスルモノニシテ唯其實行ニ當リ成ルヘク國勢ノ要求ニ從ハムコトヲ力メムトスルモノナリ

八、行政財政整理ノ細目ニ付テハ目下調査中ニ屬スルヲ以テ今日ノ所陸軍省所管ニ於ケル節約額ヲ確言スルコトヲ得ス

九、行政財政整理ノ結果確實ナル財源ヲ見ルニアラサレハ豫メ歳入ノ減少ヲ來スヘキ施設ニ付斷言スルコトヲ得ス從テ目下ノ所政府ハ大正二年度ヨリ實施スル目的ヲ以テ本會期ニ減稅ノ意味ニ於ケル稅制整理案ヲ提出スヘキコトヲ確言スルコトヲ得スト雖行政財政整理ノ結果ニ基ツキ諸般ノ計畫ヲ定ムル場合ニ於テハ減稅ノ意味ニ於ケル稅制ノ整理ニ付テモ十分ニ考量ヲ加フヘキ見込ナリ

右ノ答辯ニ對シ同日元田肇君質疑ヲ爲シ桂内閣總理大臣之ニ應答セリ

四 支那外交ニ關スル件

二年一月二十一日田中善立君ヨリ左ノ質問ヲ提出シ三月四日其ノ趣旨ヲ辯明シタリ

- 一 我カ帝國ノ對支那外交政策ハ保全ナリヤ分割ナリヤ保全ナリトセハ其ノ實行方針如何
- 一 露西亞ノ對蒙英國ノ對藏關係ハ支那保全ヲ破壞スルモノト認ム之ニ對スル政府ノ方針如何
- 一 歐米列國ハ支那内地ニ布教傳道ノ權ヲ有セルニ我カ國獨リ日支條約上ニ其ノ權利ヲ明記セス隨テ布教傳道ノ自由ヲ有セサルハ甚タ不均等ナリト認ム之ニ對スル政府ノ方針如何

私ハ過日支那外交ニ關スル質問ノ要點ニ箇條ヲ書面ニシテ差出シテ置キマシタ、其第一ハ我カ帝國ノ支那外交政策ハ保全ナリヤ、分割ナリヤ、保全ナリトセバ、其實行方針如何ト云フ、至ッテ露骨ナル尋ネ方デアリマスカ、是ハ支那現下ノ情勢ニ鑑ミテ已ヲ得ナイ次第デアリマス、今日ノ支那ノ國情外ハ、列強ハ恰モ餓虎ノ如ク爪牙ヲ磨イテ其ノ乘ズベキヲ窺ッテ居リマス、内財政及ヒ社會ノ狀態ハ病深ク膏肓ニ入ッテ、實ニ累卵ノ危キニ在ルノデアリマス、此時ニ當ッテ若シ之ヲ救濟セズンバ、復タ恢復スベカラザル悲境ニ沈淪スルト云フコトハ、明證確著タルモノデアリマス、而シテ我邦ハ古來支那トハ唇齒輔車ノ關係ヲ有シ、現ニ經濟其他ノ點ニ於テ、恰モ一族ノ如キ間柄デアリマスルカラシメ、ドウシテモ我邦ハ此際之ガ救濟ノ任ニ當ラネバナラヌト思ヒマス、從來我カ政府ノ方針ハ常ニ保全主義ヲ執ッテ居ラル、ヤウニ記憶シテ居リマス、現ニ外務大臣モ既ニ終始一貫、保全主義ヲ執ルト云フヤウナ宣明ガアリマシタガ、果シテ然リトセバ如何ニシテ保全ヲスルカ、今申ス如ク今日ノ支那ノ現狀ハ實ニ危急ノ場合ニ在ルノデアリマスルカラシメ、保全ヲスルナラハ實際之ヲ保全シ得ラルベキ方針ヲ確定シテ、直チニ實行セネバナラヌノデアリマス、唯徒ニ口ニ保全ヲ唱ヘマシタル所ガ、到底今日ノ危急ヲ救フト云フコトハ出來ナイノデアアル、故ニ何處マデモ誠實ニ保全主義ヲ貫徹スルト云フ方針ナラバ、宜シク今日速ニ的確ナル其方針ヲ天下ニ發表シテ、速ニ實行スルコトヲ希望スルノデアリマス、故ニ私ハ茲ニ其實行ノ方針如何デアアルカト云フコトヲ質問シタ次第デアリマス、第二ニ露西亞ノ蒙古ニ對シ、英吉利ノ西藏ニ對スル近來ノ行動ハ、明白ニ支那保全主義ヲ破壞スルモノデアゴザイマス、如何ニ外交的辭令ヲ以テ之ヲ辯護スト雖モ、其行ニ於テハ確ニ分割ノ端緒ヲ啓キツ、アルモノト私ハ認ムルノデアリマス、英國ハ我ノ同盟

テアリ、露西亞ハ我ノ協商國デア、何レモ親シキ間柄デアリマスルカラシテ、果シテ保全主義ヲ實行スルトナラバ、先ヅ此二箇國ニ向テ忠告ヲ與ヘテ然ルベシト思ヒマスル、何レ已ニ與ヘツ、アルノデアリマセウケレドモ、然ラバ茲ニ明ニ其態度ヲ宣明サル、コトヲ私ハ深ク望ムノデアリマスル、若シ之ヲサレナカッタラバ、如何ニ保全主義ヲ叫ブト雖モ、決シテ支那國民モ之ヲ信ゼズ、第二者モ之ヲ信ズルモノデアリマセウカラシテ、此點ハ最モ必要ト思ヒマスルカラシテ、明白ニ其事柄ヲ御答辯アラント希望スルノデアリマス、第二ニハ支那内地ニ於ケル我邦ノ宗教ヲ布教傳道スル其權利ヲ、何故ニ條約上ニ明記シナイカト云フ主意デゴザイマスル、是ハ一見閑問題ノヤウデゴザイマスルケレドモ、其實外交上ニ取ツテ實ニ緊要ナル問題デゴザイマスル、宗教ハ人心ヲ支配スル上ニ於テ權威最モ強キモノデアルコトハ、申スマデモアリマセウガ、之ヲ他國ニ宣傳スルニ方リマシテハ、彼此相互ノ意思ヲ疏通シ、他ノ民心ヲ融和シ、併セテ他ノ民情風俗ヲ察知シ、且又時々變ル所ノ他ノ國情ヲ充分ニ觀察シ得ラル、所ノ、便宜ナル一ノ機關デゴザイマスル、故ニ古來歐米各國ハ他ニ向テ發展セントスル時ニ當リマシテハ、先ヅ必ず傳道師ヲ送ツテ、大ニ之ガ後援ヲ致シテ居ルノデゴザイマスル、殊ニ支那ニ於キマシテハ、歐米各國ノ此布教傳道ニ力ヲ盡シテ居ルコトハ非常ナルモノデアリマスル、之ニ依ツテ彼等外交官ハ、常ニ機宜ニ適スル活動ヲ爲シテ居ルノデゴザイマスル、異文異人種ナル支那ニ來ツテ同文同人種ナル我が外交官ニ常ニ先鞭ヲ著ケテ機宜ニ適セル活動ヲスルト云フモノハ、智能ノ優レタル理由モゴザイマセウガ、ケレドモ其主ナル原因ト云フモノハ、斯カル必要ナル機關ヲ有シテ居ルカラデアリマスル、而シテ西曆千八百五十八年六月清國ノ咸豐八年五月ニ締結サレマシタル英清、米清、露清、佛清、ノ此四箇條約中ニハ、一箇條乃至三箇條、明ニ此布教傳道ニ就テノ、權能ガ明載シテアリマスル、然ルニ我國ニ於テハ一ノ明文ガナイノデア、ル、之ヲ以テ前清國政府ニ於キマシテハ、明治二十七年條約ニ明文ノ無キ理由ヲ以テ、浙江福建ニ一教亂ガ起リマシタ際ニ、斷然我國ノ宗教ヲ彼ノ内地ニ傳道スルコトヲ拒絕シタノデアリマス、我外務當局ハ之ニ向テ明文ハナイケレドモ、均霑條文中ニ含マレテアル故ニ、傳道シテモ差支ナイト主張シマシタケレドモ、歐米ハ何レモ天主教、耶穌教、同シ宗教デアリニモ拘ラズ、條約ニ明文ガアル、然ルニ我國ノ宗教ハ是ト異ナツテ、佛教或ハ神道デアリニモ拘ハラズ、明文ガナイ以上ハ、是ハ決シテ均霑條文中ニハ含マレテナイト云フ主張ヲ固ク執ツテ動カナイノデ、今日尙ホ懸案中ニナツテ居ルヤウデアリマス、斯ル重大問題ヲイツマデモ懸案ニ放任シ

テ置クト云フコトハ、實ニ今日ノ場合我國ニ取ツテ甚ダ不得策ト考ヘマスル、殊ニ又常ニ我外務當局者ハ何レモ無能呼バリヲサレテ居ルノデアリマス、是ハ必ずシモ無能デアリマスマイケレドモ、斯ル一機關ヲ有セザルガタメニ、常ニ機宜ニ後レルノテ惡ク言ハレルノデアリマスカラ、外務當局者自身ニ取ツテ、早ク解決サレンコトヲ希望スルノデアリマスガ、今日當局者ハ是ニ對シテ如何ナル考ヲ持ツテ居ラレカ、ソレヲ承ハリタイノデアリマス

此ノ質問ニ對シ三月二十二日牧野外務大臣ハ書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲セリ

- 一、政府ハ支那領土ノ保全ヲ以テ支那ニ關スル外交ノ根本政策トシ之カ實行ノ爲諸外國トノ條約ニ基キ隨時必要ノ措置ヲ執ル方針ナリ

- 一、英國ノ西藏ニ對スル又露國ノ蒙古ニ對スル問題ハ目下關係國ニ於テ交渉中ニ屬シ帝國政府ハ茲ニ之ヲ論議スルコトヲ欲セス

- 一、支那ニ於ケル布教ノ件ハ明治四十四年一月三十一日當時ノ外務大臣カ衆議院ニ於テ松本君平君ノ質問ニ對シ答辯シタル通ノ事實ニシテ其後尙交渉中ニ屬シ未タ解決ヲ視ルニ至ラサルハ遺憾トスルトコロナリ

五 新政黨ニ對スル内閣ノ責任ニ關スル件

- 二年二月五日小山谷藏君ヨリ左ノ質問ヲ提出シタリ
- 一 現内閣ハ政黨内閣制ヲ容認スルヤ

一 若然リトセハ政黨ノ後援ナキ現内閣ヲ非立憲ト認メサルヤ
 一 若非立憲ナリトセハ現内閣ハ其ノ責ニ任スルノ覺悟アリヤ
 本質問ハ二月二十七日提出者ヨリ之ヲ撤回セリ

六 内閣ノ政綱ニ關スル件

二年二月二十七日林毅陸君ヨリ左ノ質問ヲ提出シ三月五日趣旨辯明ニ先チ院議ヲ經テ内閣總理大臣ノ出席ヲ要求シ同大臣ヨリ參内中ニ付出席シ得ストノ挨拶アリタルニ依リ特ニ次回即チ八日ノ會議ニ於テ其ノ趣旨ヲ辯明シタリ(辯明中總理大臣出席ス)

- 一 政黨内閣ハ憲政ノ運用上必要ナリト信ス之ニ關スル現内閣ノ所見如何
- 二 現行官制ニ據レハ陸海軍大臣ハ現役大中將ニ限レリ現内閣ハ之ヲ以テ憲政ノ運用ニ支障ナキモノト認ムル乎
- 三 現行文官任用令ハ憲政ノ運用上速ニ之ヲ改正シ人材登用ノ門ヲ開クノ必要アリト信ス之ニ關スル現内閣ノ所見如何又現内閣ニ於テ之ヲ改正スルノ意アリトセハ其ノ範圍如何
- 四 陸軍二箇師團増設問題ハ西園寺内閣顛覆ノ動機トナリタルモノナリ現内閣ハ此ノ増設ヲ實行スルノ意ナリヤ如何

五 現内閣ハ減稅ノ意味ニ於ケル稅制整理案ヲ本議會ニ提出シ大正二年度ヨリ之ヲ實行セムトスルヤ如何若之ヲ實行ストセハ其ノ見積金額如何

(前略)私ノ質問ハ五箇條ニナッテ居ルノデアリマス、是ハ此前二月二十七日ノ午前中ニ提出シテ置イタノデアリマス、文書ニ依テ提出シテ置イタノデアリマス、然ルニ其日ノ午後ノ本會議ニ於キマシテ、段々議員諸君ヨリ質問ガ現ハレ、其質問ハ多ク私が問ハント欲スルところノ問題ニ觸レタノデアリマス、所ガ山本總理大臣ノ其時ノ御返辭ニハ、ドウカ文書ニ依テ質問ヲシテ貰ヒタイト云フノデ、答辯ヲ與ヘラレナカッタノデアリマス、幸ヒ私ハ文書ニ依テ質問ヲ出シテ置イタノデアリマスカラ、必ズ是ニ對シテハ充分ノ御答辯ガアルベキ筈ダト信ジテ居ルノデアリマス、且ツ其後私ノ問ハント欲シタル問題ニ付テハ委員會——豫算委員會等ニ於キマシテ、度々問題トナッタヤウデアリマス、是ハ詰リ是等ノ問題ニ對シテ非常ナル注意ヲ各方面ノ議員諸君ガ拂ッテ居ルト云フコトノ證據デアリマスカラ、即チ私が茲ニ問フところ、此質問ニ對シテノ贊成者ト云フ者ハ、唯紙ノ上ニ書イタ數ハカリデハナイ、非常ニ多數ノ贊成者ガ私ノ質問ノ後ニアルト云フコトヲ私ハ信ズルノデアリマスカラ、總理大臣ニ於テモ充分ノ敬意ヲ以テ御答辯ニナルコトデアラウト信ズルノデアリマス、扱私ノ質問ノ第一ハ、政黨内閣ハ憲政ノ運用上必要ナリト信ス之ニ關スル現内閣ノ所見如何ト云フノデアリマス、是ハ別段多ク説明スル必要ノナイ程ニ明白ナ事柄デアリマス、凡ソ憲政ノ運用ニ於テ、政黨内閣ナルモノガ缺ク可ラザルモノデアリ又避ク可ラザルモノデアルト云フコトハ、多ク説明ヲ待タズシテ明白ナルコトデアリマス、テ此政治組織ノ上ニ於テノ根本ノ問題ガ、未ダ我國ニ於テハ充分ニ決セラレテ居ラナイ、其爲メニ種々ノ紛争ヲ生ジ、殊ニ昨年ノ冬以來ヤカマシク天下ヲ騒ガシタト云フ問題ノ如キモ、要スルニ此政治組織ノ根本ノ問題ガ極ッテ居ラナイカラデアアル、此根本ノ問題ノ極ラザルタメニ長ク其争ニ時ヲ費シマシテ、實地ノ政策上ノ問題ノ研究ガ自然後廻シニセラレ、疎ソカニセラレル、充分ノ注意ヲ拂ハレナイト云フコトガアリマス、甚ダ是ハ残念ノ次第デアリマスカラシテ、成ルベク速ニ此政治組織ノ根本問題ヲ定メテシマツテ、上下共ニ其嚮フトコロノ方針ヲ決シテシマフ、而シテ實地ノ政策上ニ付テ互ヒニ争フ、其方ノ研究ヲスルト云フコトニ早ク移リタイト云フノガ吾々ノ希望デ

アリマス、之ヲ爲サナイ以上ハ何時マデモ何時マデモ昨年ノ冬以來ノ騷ギヲ繰返サネバナラヌト思フノデアリマス、故ニ斯カル面白クナイ、又國家ノタメニハ不幸ナル事柄ヲ避ケマスルタメニ、此政黨内閣ト云フモノハ憲政上ニ必要ナモノデアルト云フコトヲ、明白ニ原則トシテ極メテ置ケバ、今後ハ此原則ハ誰モ破レナイ、而シテ其以外ノ問題ニ於テ互ニ争フトカ研究シヤウト云フ風ニ致シタイト云フノガ、私ノ希望デアリマス、總理大臣山本伯ハ政黨政治ニハ大ニ好意ヲ表セラレテ居ルト云フコトデアアル、否好意ノミナラズ政黨政治ガ然ルベキコトデアルト、御認メニナツテ居ルガ如クニ、私ハ推測スルノデアリマス、若シ官制上ノ不自由ガナカッタラバ、政友會ニ入會シテモ宜シイノデアルガト云フ御考デアッタヤウニ承ツテ居リマスルカラ、政黨政治ト云フモノニ付テハ多分御異議ノナイ筈デアアル、就テハ御異議ノナイモノデアラナラバ、其意見ヲ明白ニ此處テ承ツテ置クト云フコトハ、甚ダ國家ノタメニ幸ヒデアルト思フノデアリマス、政黨内閣ハ憲政ノ運用上ニ必要ナモノデアルト云フコトヲ明言シテ、而シテ此原則ニ基イテ將來ハ政治ヲ執ルベキ筈ノモノデアアル、又自分モ其考ヘデアルト云フコトヲ明言シテ戴クコトガ出來マスルナラバ、甚ダ幸デアルト思フノデアリマス、尙此事ニ附屬シテ總理大臣ニ御尋シタイト思フノハ、若シ愈々私ガ推測スル如ク政黨内閣ノ主義ニ御同意デアアル、憲政ノ運用上政黨内閣ノ制度ト云フモノハ必要デアルト云フコトニ御同意デアアル、御贊成デアリマスルナラバ、現在ノ形ニ於テノ山本内閣ハ、此見地カラ見テ申シ分ナキモノデアルト山本伯ニ於テモ御考デアアルヤ否ヤ、是モ序ニ承リタイト思フ、若又山本伯ニシテ政黨主義ヲ必要トハ認メナイ、サウ云フモノハ、憲政ノ運用ニ必要トハ思ハナイト云フ御考デアアルトスルナラバ——サウデアアリマスマイガ、假リニサウ云フコトガアリト假定スルナラバ、今日政友會ト提擧シテ居ラレルコトハ、政黨政治ノ趣意ヨリ來リタルニアラズシテ、單ニ一時ノ便宜ノ爲ニ妥協提擧ノ手段ヲ執ツテ居ラレルダケノコトデアアルカ、其邊ヲモ添ヘテ承リタイト思フノデアリマス、次ニ第二ニ私ノ御尋致シタイト思フノハ、陸海軍大臣ノ任用ニ付テノ制限ノ問題デアリマス、御承知ノ如ク現役大中將ニアラザレバイケンイト云フ窮屈ナル制限ガアル、此事ニ關スル質問デアリマス、是ハ申スマデモナク憲政上ニ於テノ重大ナル問題デアリマス、ヤハリ是ガ政治組織ノ主義ノ上ヨリ見タル根本ノ大問題デアリマスノミナラズ、是ハ昨年西園寺内閣ガ倒レ桂内閣ガ起ル其前後ヨリ致シテ、我國ノ重大ナル問題ニナツテ、今尙明白ニ解決ヲ告ゲズニ居ルトコロノモノデアリマス、單ニ此時機ニ御尋申スト云フヤウナ問題デモ何デモナイ、實際宿題トナリ現在ノ問題トナツテ眼ノ前ニ

現ハレテ居ル、如何ニシテモ此解決ヲ告ゲネバナラナイト云フコトニナツテ居ル、サウ云フ問題デアリマスカラ、是ニ付テハ一層明白ナル御答辯ヲ煩ハサネバナラナイト思フノデアリマス、此事ニ付キマシテハ一月ノ二十一日政友會ヨリ致シマシテ、今ノ内閣ノ閣員タル松田原元田二君ノ如キモ提出者トナラレマシテ、サウシテ桂内閣ニ質問セラレタノデアアル、而シテ是等二君ヲ初メ、ソレニ屬スル政友會ノ意見ハ申スマデモナク此陸海軍大臣ノ任用令ニ於テノ制限ヲバ、憲政ノ運用ニ差支アルモノデアアル、支障アリト認メテ而シテ其改正ノ必要ナルヲ認メタノデアリマス、西園寺内閣ハ勿論此問題ニ苦シメラレテ、是ハ實ニ憲政運用上ニ支障アルモノト斯ウ認メタノデアアル、今ノ山本内閣ハ政友會ノ政策ヲ實行スルコト、承ハツテ居ル、又前ノ西園寺内閣ノ延長シタルモノト見做スベキモノデアルト云フコトヲ承ハツテ居ル、然ラバ此重大問題ニ付テモ必ず前ノ政友會ガ認メ、又西園寺内閣ガ認メタルト同ジキ意見ヲ執ツテ居ラレ、ニ相違ナイト私ハ思フノデアリマス、即チ此制限ハ憲政ノ運用上ニ差支アルモノデアルト御認メニナリ、從ツテコレヲ改正セネバナラナイト云フ御意見デアラウト考ヘルノデアリマスルガ、其御考ヲ此處テ明白ニ國民ノ前ニ言明セラレマシタナラバ、時局ヲ明白ナラシムルニ於テ甚ダ喜ブベキコトデアラウト思フノデアリマス、現在山本伯ノ閣員トシテ重要ナル地位——私ハ重要ナルト信ジテ居リマスルガ、重要ナル内閣員ノ地位ニ立ツテ居ラレル松田君ナリ、原君ナリ、元田君ハ、此問題ニ付テハ種々ノ因縁ヲ有シテ居ラレマス、デアアルカラ、必ず此ノ如キ憲政ノ運用ニ差支アル制限ヲ——サウシテ是ガタメニハ西園寺内閣ノトキニ散々苦シメラレタト云フ緣故ノアル此問題、之ヲ解釋スルニ付テノ充分ノ御抱負ガアルダラウト信ズルノデアリマス、定メシ山本内閣ニ御入りニナリマスルトキニハ、是等二君ハ此重要問題ニ付テ豫メ山本總理大臣ト打合セラレテ居ラウト私ハ推測スル、政治家ノ進退ハ決シテ輕シク爲スベキモノデナイ、大臣ノ椅子ニ就ク、總理大臣ト話ヲシテ其仲間ニ入ラウ、内閣ノ仲間ニ入ラウト云フニ付テハ、重要ナル政策ニ付テハ豫メ打合セスベキ筈デアアル、殊ニ前ノ政變以來特殊ノ關係アル時局ニ於テノソビキナラナイ問題トナツテ、眼前ニ横ハツテ居ルト云フ此事柄ニ付テハ、必ず一應山本總理大臣ニ打合セラシテ、此問題ハ斯ウ云フ成行ニナツテ居ル、吾々ハ斯ウ云フ考デアアル、斯ウ云フ立場ニ居ル、總理大臣ハドウデアアル、吾々ガ執リ來ッタコロノ意見ト同ジデアラナラバ、喜ンデ吾々モ内閣員トナラウト云フ位ノコトハ必ず爲サレタデアラウト私ハ想像スルノデアリマス立憲政治家ノ進退ハ徒ニ無方針無定見、唯誘ヒヲ受ケタカラ大臣ノ椅子ニサヘ著ケバ宜シイト

云フ譯ノモノデナイ、必ズ豫メ此問題ニ付テノ協議ハセラレタ答アル、然ラバ今日此問題ハ既ニ明白ニ内閣ニ於テハ極マツテ居ルコトデアラウト私ハ思フ、然ルニ過日來山本總理大臣ハ、此問題ニ付テ明白ナル答ヲ與ヘラレナカッタデアリマス、是ハ多分文書ニ依ル質問デナカッタカラカモ知レナイ、併シ幸ニ本員ハ文書ニ依ッテ御尋ヲ致シテ居ルカラ、宜シイ待ッテ居ッタデアルト云フヤウナ譯デ、定メシ明白ナ答ヲ與ヘテ國民ノ疑惑ヲ御解キニナルデアラウト本員ハ信ゼント欲スルデアリマス、私ハ此問題ニ對スル總理大臣ノ御答辯ニ依リマシテ、此内閣ガ立憲主義ノ上カラ見テ如何ナル價値ヲ有スルコト云フコトヲ、判斷スル材料ニ致シタイト思フデアアル、同時ニ松田原元田三君ガ、大臣シテ御入りニナッテ居ルガ、此三君ガ政治家トシテハ如何ナル人デアアル、責任ヲ知ル人デアアルヤ否ヤト云フコトヲ判斷スル材料ニ致シタイトデアアル、第三ニ本員ノ問ハント欲スルハ文官任用令ニ關スルコトデアリマス、此文官任用令ガ憲政ノ運用ニ差支ノアルモノデアルト云フコトハ、最早多ク論ヲ俟タナイ、私ハ此事ニ付テ長ク諸君ノ清聽ヲ煩ハス必要ハナカラウト思フデアリマス、總理大臣ガ豫算委員會ノ席上デ、此問題ニ付テ一議員ニ御答ニナッタコロニ依リマスルト、文官任用令ヲ改正スルヤ否ヤハ未ダ明言スル能ハスト云フコトデアアル、此ノ如キ答ハ吾々ノ満足スルヲ得ナイデアリマス、第一現在ノ文官任用令ヲ改正スル必要アリト認メラル、ヤ否ヤ明白ニ承リタイ、原則ニ於テ必要アリト御認メニナッタスレバ、第二ニハ如何ナル範圍ニ於テ如何ナル程度ニ於テ此任用令ヲ改正セントセラレルデアアルカ、ソレヲ承リタイデアリマス、此問題ハ憲政ノ運用ニ伴フ多年懸案トモ云フベキモノデアリマス、殆ド國民ハ其改正ヲ要求スルニ於テ一致シテ居ルデアリマスルカラ、定メシ山本總理大臣モ吾々ニ對シ満足スヘキ答辯ヲ與ヘラレルデアラウト豫期致スデアリマス、第四ノ二個師團増設問題、是ハ前ノ陸海軍大臣任用ニ關スル件ト同ジク、昨年ノ冬以來實地ノ問題トシテ政治社會ノ重大ナル注意ヲ惹イテ居ルトコロノデアアル、是ハ突發シタ問題デモナク、物好キニ出テ來タモノデ何デモナイデアリマシテ、種々ノ關係、西園寺内閣ノ倒レタトキヨリノ關係上、明白ニ解決シナケレバナナイ答ニナッテ居ルトコロノデアリマスルカラ、是非山本總理大臣ニ於テ充分ノ満足スベキ御答辯ヲ得タイト思フデアリマス、是マデ豫算委員會等ニ於テ、總理大臣ノ述ベラレタトコロニ據リマスルト、大正二年度ニ於テハ二個師團増設ハ豫算ニ計上シテナイト云フコトデアアル、是ハ說明デアッテ討論ヂヤナイ、豫算ヲ見レバ大正二年度ノ豫算ニ計上シテナイト云フノハ分ッテ居ル、ソレダケノコトデハ益ニナラナイデアッテ、

此二個師團増設ナルモノヲバ、必要ト認ムルデアルカ認メナイデアアルカ、本年大正二年度ノ豫算ニ之ヲ計上シナイノハ、唯財政上ノ都合ノミデアッテ、腹ノ中デハ之ヲ或ハ實行スル、實行シタイト云フ考ヘテ居ルデアアルカ、其邊ガ明白ニナラナイト吾々ハ満足スルコトハ出來ナイデアリマス、豫算委員會ニ於ケル質問及之ニ對スル當局者ノ答辯等ニ依リマスルト、此二個師團問題ニ對スル政府ノ態度ガ、啻ニ曖昧デアアルノミナラズ、頗ル奇怪デアルト云フノハ、總理大臣ハ必要デアルカ必要デナイカ未ダ分ラナイト云フコトデアアル、唯大正二年度ニ於テハ歲計ニ上ホシテ居ラナイ、豫算ニ上ホシテ居ラナイ、併シ必要デアルカ必要デナイカ分ラナイト云フコトダケノコトデアアルガ、陸軍大臣ガ說明セラレ答辯セラレタモノヲ見マスルト云フト、更ニ一步ヲ進メテ居ル、陸軍大臣ハ二個師團増設ノ必要ヲ認メテ、大正三年度ヨリハ之ヲ實行スルニ決シテ居ラル、カノ如クニ見受ケラレルデアリマス、斯ク見受ケラル、ガ如キ答辯ヲシテ居ラル、ノデアリマス、是ガ甚ダ私ハ奇怪ダト思フ、陸軍大臣ハ陸軍省ノ大臣デハナイ、内閣ノ大臣デアアルベキ答デアアル、議會ニ出テ、議員ノ質問ニ答ヘルト云フニ至ッテハ、單ニ陸軍省ノ省内ニ於ケル意見ヲ代表スベキモノデハナイ、政府ノ代辯者トシテ政府ノ意ノアルトコロヲ述ベル答ノモノデアアル、然ルニ政府ノ代辯者トシテ述ベルベキ其人ノ言フ事柄ハ、總理大臣ノ言フコト、充分一致シテ居ラナイト云フノハ、甚ダ可笑シイ話ト私ハ思フ、或ハ從來屢見タルガ如ク、陸軍省ナルモノハ内閣以外ニ一種ノ獨立ノ存在ヲ保ッテ、内閣ハ内閣デアアル、陸軍省ハ陸軍省デアルト云フコトニナッテ居ッテ、内閣トシテノ意見ニハ關係セズ、單ニ陸軍大臣ガ自分ノ意見トシテ答辯スルト云フノデアアルカ、果シテ然リトスルナラバ是ハ奇怪ナル事柄デアアル、立憲政治ノ行ハル、國ニ於テ、斯ル事柄ガ許シ得ラルベキ答ハナイデアリマス、惟フニ此邊ハ何等カノ間違ヒガアルデアラウト私ハ推測スル、若シモ陸軍大臣ハ二個師團増設ノ必要ヲ認メ、機ヲ見テアル積リデアルト云フコトヲ言ヒ、而シテ總理大臣ハイヤ一一個師團増設ノ必要ニ必要ハ未ダ研究中デアアル、未ダ分ラナイト云フヤウナコトデアリマスレバ、國民ハ甚ダ其間ニ惑ヒラ生ゼサルヲ得ナイデアリマス、政府ニ於テ二個師團増設ノ必要ヲ認メ、之ヲ爲スノ意向デアルト云フコトデアラナラバ、國民ノ前ニ正直ニツレヲ言明シテ戴キタイデアアル、總理大臣ニ聞クト云フト何ダカ分ラナイ、陸軍大臣ニ聞クト云フトヤハリサウダ、サウ云フ要領ヲ得ナイコトノ間ニ國民ヲシテ判斷ヲ爲スニ迷ハシムルト云フコトハ、甚ダ宜シキヲ得ナイコト、信ズルデアリマス、元來西園寺内閣ハ此問題ニ對シテ斷然反對シタデアリマス、政友會又然リデアリマス、故

ニ西園寺内閣ノ延長シタルモノデアッテ、政友會ノ政策ヲ實行スル筈デアルト云フコトヲ言ハレテ居ル山本内閣ハ、必ズ此事ニ斷然反對ノ態度ヲ示スベキ筈デアルト私ハ思フ、之ニ付テ山本總理大臣ノ申サレルコトニ私ハ甚ダ了解シ難キコトガアルデアリマス、ソレハ豫算委員會ノ席上デアッタデアリマスガ、西園寺内閣ハ海軍擴張ヲ急務中ノ急務ナリト考ヘテ其計畫ヲ立テタケレドモ二個師團増設案ハ財政ノ都合上見合セラレタデアルト云フコトヲ言ッテ居ラル、ノデアアル、西園寺内閣ガ二個師團増設ニ反對シタト云フノハ、單ニ財政上ノ意味デハナイト私ハ信ジテ居ル、必要ガ無イト考ヘタカラデアアル、ソレハ西園寺侯ガ政友會ノ大會ニ於テ演說セラレタトコロニ依ッテ明白デアリマス、其中ニ即チ一月十九日政友會ノ大會ニ於テ、西園寺侯ハ二個師團問題ニ付キマシテ、財政上ノ状態ニ見ルモ之ヲ大正二年度ヨリ實行スルコトノ出來ナイノハ勿論、國際上ノ關係ヨリ見ルモ急設ノ必要ヲ認メズ此ノ如ク明言セラレタデアアル、決シテ單ニ財政上ノ都合カラハカリ二個師團問題ニ反對シタノデアナイ、是ハ西園寺侯ガ總裁トシテ言ハレタハカリデアナク、更ニ此趣意ヲ敷衍シ充分其意味ヲ明カニシタ御方ガアル、ソレハ即チ松田正久氏デアリマシテ、西園寺侯ノ演說ガアリテカラ約十日間程經テマシテ、大阪ニ於ケル二月一日ノ憲政擁護大會ノ席上ニ於キマシテ斯ウ云フコトヲ言ッテ居ル、内閣ガ此西園寺内閣ノ倒レタ原因ニ就キマシテ、二個師團問題ニ説及ビ、此二個師團ノ増設タルヤ世界刻下ノ狀況ヨリ見ルモ其必要ハ毫モ認メラレナイト、此ノ如ク松田正久氏ガ言ウテ居ルデアアル、此大阪ノ憲政擁護大會ニ於ケル松田氏ノ演說ハ種々ノ新聞ニ報道セラレ、其報道ハ皆一致シテ居リマスルカラ、此點ニ於テ一致シテ居リマスルカラ決シテ是ハ間違ヒトハ思ハレナイ、要スルニ西園寺侯ノ政友會大會ニ於テ述ベラレタル趣意ヲ、更ニ敷衍シ多數ノ人ニ聞カシムルガタメニ大阪ニ於テ此演說ヲセラレタデアラウト私ハ思フ、サレバ西園寺内閣ガ二個師團問題ニ反對シタト云フコトハ、單純ナル財政上ノ意味ハカリデアナイ、其必要ヲ認メナイノデアアル、國際ノ狀況ヨリ見テ其必要ヲ認メナイト云フ點カラ來テ居ルト私ハ思フ、假リニ財政上ニ於テ工夫ガ附クニ致シマシテモ、國際上ノ關係ヨリ見テ必要ハナイト云フノデ、此案ニ反對セラレタデアルト私ハ確信スル、果シテ然リトスルナラバ此西園寺内閣ノ延長デアアル政友會ノ政策ヲ實行スル筈ノ山本内閣ハ、當然又同シヤウノ理由ヲ以テ、此二個師團増設ニ反對セラレルベキ筈デアルト私ハ思フ、西園寺内閣トハ特別ノ關係ガアリ、政友會トモ特別ノ關係ノアル筈ナル其政治家ノ口ヨリシテ、西園寺侯ノ

意見トハ違フ政友會ノ意見トハ違フコトノ考ヲ述ベラレテ、西園寺内閣ハ唯財政上ノ都合カラ此問題ニ反對セラレタデアルト御說明ニナルト云フコトハ、甚ダ恐入ッタ次第デアリマシテ、山本伯トシテ誤解ノ甚ダシキモノデアルト私ハ思フ、免三角此二個師團増設問題ハ西園寺内閣ヲ倒シタル關係深キ重大問題デアリマシテ、今日之ヲ曖昧ニ附シ去ルコトハ出來ナイノデアアル、西園寺侯ガ意見ヲ發表シ、又次テ松田正久氏ガ其意見ヲ發表シテ居ル、今日ニ至ルマテ世界ノ形勢ハ毫モ變シテ居ラナイ、今日ニ至ッテ俄ニ意見ヲ更メナケレバナラヌト云フ事情ハ生ジテ居ラヌト思フノデアアル、故ニ必ズ現内閣ニ於テモ前同様ノ說ヲ採ラルベキ筈デアアル、殊ニ松田君ナリ原君ナリ元田君ナリ純粹ニ前ノ西園寺内閣ト聯絡シ、純粹ニ政友會ト結ンテ居ル其政治家ニ於テ、責任上必ズ此二個師團問題ニハ當ニ大正二一年ニ於テハカリデアナイ、必要有ルヤ否ヤト云フ點カラ見テモ反對セラレルベキ筈デアルト考ヘルノデアリマス、併シ之ニ付テハ甚ダ政府今日マデノ態度不明デアリマシテ、説明頗ル曖昧デアアルガタメニ、國民ハ非常ニ迷ウテ居ルデアアル、或ハ無益ノ迷ヒデアアルカモ知レマセウガ、免ニ角迷ウテ居ルノデアリマスカラ、何卒總理大臣ニ於テ明白ニ此事ニ付テ御答辯ヲ下サイマシテ、決シテサウ云フ譯デアナイ、心配スルニ及バヌ、ヤハリ前ノ西園寺内閣及政友會ノ執リ來リタル意見ト同一デアルト云フコトヲ明カニシテ戴キタイノデアリマス、終リニ第五ノ質問ト致シテ本員ガ掲ゲマシタノハ減稅ノ事デアリマス、大正二年度ヨリ減稅ヲ行フヤ否ヤ、又行フトスルナラバ其積金額ハ幾何デアアルカト云フ事デアリマス、此事ニ付テ既ニ度々豫算委員會ノ問題トナリ、政府當局ヨリ度々御答辯モアッタヤウデアアルガ、其答辯ニハ要領ヲ得ザルモノモ甚ダ多ウカッタガ、此事實ヲ稍々明白ニシタ點ニアルノデアリマス、併シ此本會議ニ於テ此點ニ付テ明白ニ答辯セラレ、減稅ハ大正二一年度ニ於テ是ダケノ事ヲ實行スル積リデアアル、大正二二年トカ四年トカ云フ先キノ事マテ聽キタクナイ、現在スグ次ナル此ノ二年ニドレダケノ減稅、ドレダケノ意見ヲ實行スルト云フ點ヲ、充分ニ茲ニ御答ヲ願フナラバ甚ダ幸デアルト思フノデアアル、以上申上ケマスル五箇條ノ點ガ即チ本員ノ問ハント欲スル所ノ問題デアリマス、之ニ付テハ必ズ厚意ヲ以テ、誠意ヲ以テ、總理大臣ヨリ御答アル事ト信ジマスルガ、或ハ將來ノ事柄ハ此處テ答辯ガ出來ナイト云フヤウナ御說ガナイトモ限ラヌガ、本員ハ敢テ將來ノ事ヲ聽クノデアナイ現在ノ意見ヲ聽クノデアリマス、現在今日ニ於テ總理大臣ハ是等ノ問題ニ付テ如何ナル意見ヲ有スルカト云フコトヲ伺フノデアリマシテ、未來記ヲ強イテ問フト云フノデアナイ、尙是等ノ問題、殊ニ其中ニ於キマ

シテモ政治ノ組織問題ニ關シ、憲政ノ運用上ニ關スルト云フ種類ノモノニ至リマシテハ最モ重大ナル、全國民ガ非常ナル注意ヲ以テ其事ニ對スル政府ノ答如何ト云フコトヲ俟ツテ居ルノデアリマスカラ、願クハ要領ヲ得タル明白ナル而シテ國民ヲ満足セシムルニ足ルダケノ御答辯ヲ煩ハシタイト思フノデアリマス、是等ハ決シテ黨派ノ問題デナイ、一内閣ノミノ問題デナイ、國家國民ニ行ハツテノ大問題デアリマス、決シテ一黨派ノ見地カラ、或ハ一内閣ノ見地カラ一時ヲ纏縫シ糊塗シ、而シテ足レリト云フ如キ性質ノ問題デナイノデアリマスカラ、何卒誠意ヲ以テ是等ノ問題ニ御答辯ヲ煩ハシタイノデアリマス

山本内閣總理大臣ハ本質問ニ對シテハ目下熟慮審議中ニ付本日ヨリ三日間内ニ答辯スヘキ旨ヲ述ヘ越エテ十一日口頭ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲セリ

諸君、去ル二十七日林毅陸君ヨリ御提出ニナリマシタル質問ノ各事項ニ對シテ御答致シタイト存ジマス、第一問ハ政黨内閣ニ關シ現内閣ノ所見ヲ御質問ニ相成リマシタルデゴザイマス、内閣ノ組織ハ一ニ大權ノ發動ニ依ルコト、固ヨリ論ヲ竣タヌノデゴザイマス、而シテ施政ノ局ニ當リマスル者ハ、重キヲ政黨ニ置キ、國民ノ輿論ヲ尊重致シマスルコトハ憲政運用上最モ必要ナリト信ズルノデゴザイマス、第二問ハ陸海軍大臣ハ現役大將ヲ以テ之ニ充ツルノ現行制度ハ、憲政ノ運用上支障ナキモノト認ムルヤトノ御質問デゴザイマス、如何ニモ現行制度ハ憲政ノ運用上支障ナキヲ保シ難イノデゴザイマス、就キマシテハ政府ハ之ニ對シ慎重審議ヲ盡シテ相當ノ改正ヲ施スコトヲ期シテ居リマス第二ハ現行文官任用令ノ改正ニ關スル現内閣ノ所見及ビ改正ノ範圍ニ付キマシテノ御質問デゴザイマス、今改正ノ範圍ヲ茲ニ明言スルコトハ出來難イコトデゴザイマスルケレドモ、時勢ノ進運ニ伴ヒ、相當ノ改正ヲ施スノ必要ナルコトヲ認メテ居リマス、第四問ハ陸軍二個師團ノ増設ヲ實行スルノ意ナリヤ否ヤト、御質問デゴザイマス、是ハ財政其他四團ノ事情ニ鑑ミマシテ決定スベキモノト信ズルノデゴザイマス、第五ハ減稅ノ意味ニ於ケル稅制整理ノコトニ關スル御質問デアリマス、右ニ就キマシテハ稅制整理案中所得稅法改正案ハ、既ニ之ヲ本院ニ提出致シマシタ、又營業稅法案モ本會期中ニ之ヲ提出致シマス去リナガラ是等ノ改正法ハ鹽價引下ヲ除クノ外、何レモ大正三年分以降ナラデハ之ヲ實行スルコトガ出來マセヌ、而シテ其減稅ノ額ハ約一千万圓ノ見込デゴザイマス、右ハ林君ノ御質問ニ對スル答辯

デアリマス、而シテ過日本議場ニ於キマシテ犬養君ヨリノ御質問ガゴザイマシタ、之ニ對シマシテ追テ御答致スト申シテ置キマシタガ、唯今林君ノ御質問ノ第二ト第四トハ趣意ヲ同クシテ居ルト存ジマスルカラ、林君ノ御質問ニ對シテ致シマシタル答辯ニテ御了承アラシコトヲ望ミマス

林毅陸君更ニ質疑ヲ爲シ山本内閣總理大臣之ニ應答セリ

七 施政方針ニ關スル件

二年三月四日金尾稜嚴君ヨリ左ノ質問ヲ提出シ同月十一日其ノ趣旨ヲ辯明シタリ

一去ル二月二十一日山本總理大臣ハ其ノ官邸ニ於テ貴族院議員諸君ニ對シ施政方針ニ關スル演

說ヲ試ミ「然レトモ幸ニ茲ニ政友會ノ持セル一箇ノ主義方針アレハ採テ余ノ方針タラシメン

コトヲ欲ス」ト述ヘラレタリト聞ク

敢テ問フ山本總理大臣ノ採テ以テ自己ノ有トセラルル所ノモノ即チ政友會ノ主義方針トハ如何ナルモノヲ指稱スルカ

一 財政計畫ニ關シテハ第一次西園寺内閣ハ積極的方針ヲ執リ第二次西園寺内閣ハ消極的方針ヲ執リ所謂政友會ノ財政方針ナルモノハ僅々數年ノ間ニ於テ一定セサルモノノ如シ敢テ問フ山本總理大臣ハ二者何レノ方針ニ依ラムトスルカ

一 山本總理大臣ハ内閣組織ニ關シ政黨内閣制ヲ認容セラルルカ將タ超然内閣制ヲ固習セラルル

カ「超然内閣制ヲ固執ストセハ敢テ問フ政友會ノ主義ナルモノモ亦非政黨内閣主義ナルカ尙
シ山本總理大臣ニシテ政黨内閣制ヲ認容ストセハ何故政友會ノ首領トシテ其ノ内閣ヲ組織セ
サリシカ

一 尙シ山本總理大臣ニシテ特ニ現役ニ列セラレルノ御沙汰ヲ豫期シ爲ニ政黨ニ加盟セサリシト
セハ敢テ問フ如此場合ニ際シ敢テ 聖旨ヲ豫期スルモ尙上ミ 皇室ニ對シ不敬ナラスト思惟
スルカ

一 去ル二十一日總理大臣官邸ニ於ケル演說中山本總理大臣ハ「若シ夫レ豫算上ノ方針ニ關シテ
ハ財政難ノ今日ヲ致セル原因即チ日露戰役後各方面ニ對シ急激ニ膨脹セル過去ノ事情ニ鑑ミ
前西園寺内閣ノ方針ヲ是認シ當時調査完了セル整理案ニ則リ行政財政ノ兩整理ヲ斷行スルヲ
適切ニシテ且機宜ノ處置ト認ム」ト述ヘラレタリト聞ク

敢テ問フ現内閣ハ西園寺内閣ノ整理額ヲ踏襲スルニ止マリ其ノ以上ニ於テハ整理ノ餘地ナシ
ト認ムルカ其ノ餘地アリトセハ整理節約ノ程度如何

一 第二十八議會ニ於テ西園寺内閣ハ獨リ所得稅ノ改正ノミナラス營業稅、取引所稅ノ改廢鹽專
賣價格ノ低減ヲ公約シタリ

敢テ問フ現内閣ハ當期議會ニ於テ之ヲ實行スルカ

一 通貨ノ膨脹重稅ノ誅求官業ノ壓迫ハ國力ヲ枯渴シ貿易ノ逆勢ヲ馴致シタリ

敢テ問フ現内閣ハ通貨ヲ縮少シ減稅ヲ斷行シ官業ノ壓迫ヲ排シ民業ノ不振ヲ救ヒ貿易ノ逆勢
ヲ轉回シ國富ノ充實ヲ規畫スルノ政策アルカ之アリトセハ明確ニ具體的ニ其ノ方針ヲ發表シ
人心ノ所嚮ヲ指示スルノ必要ヲ認メサルカ

一 大正二年度ノ豫算ニ於テ陸軍二個師團増設費ヲ提示セサルハ國防上喫緊ノ必要ナキカ爲カ又
ハ財政ノ按排上之ヲ提示スル能ハサリシカ爲カ若夫レ後者ナリトセハ抑國防ハ國家ノ存立ニ
關スル所ノ最大要務ニシテ縱令佗ノ經費ヲ節スルモ敢テ辭セサル所ナルニアラスヤ

敢テ問フ之ヲ提示セサルノ理由如何

諸君、現内閣ノ施政方針ニ關スル質問ノ趣意ヲ簡單ニ述ベタイト存ジマス、今日總理大臣ノ御答辯ガアル
ト云フコトデアリマシタカラ、第一問ノ如キハ既ニ質問スル必要ハナキニ至ルカト考ヘマシタ、然ルニ御答辯ノ模
樣ヲ聽イテ見マスレバ、尙依然トシテ此質問ヲ致サナケレバナラヌト云フ有様ニナリマシタ、之ヲ深ク遺憾ト致
シマス、去ル二月二十一日山本總理大臣ハ、其官邸ニ於テ貴族院議員諸君ニ對シ施政方針ニ關スル演
說ヲ試ミラレ、其言葉ノ中ニ「然レトモ幸ニ茲ニ政友會ノ持セル一箇ノ主義方針アレハ採ッテ余ノ方針ヲラシメ
ンコトヲ欲ス」ト御述ニナッタト云フコトヲ承知シテ居ル、果シテ然ラバ敢テ御尋ネシマスルノハ、山本總理大臣
ノ採ッテ以テ自己ノ有トセラル、所ノモノ、即チ政友會ノ主義方針トハ如何ナルモノヲ指シテ言ハレノデア
ルカ、之ヲ確メテ置キタイノデ、思フニ政友會ノ主義方針ハ申スマデモナク、憲政ノ完備ヲ期スル、斯ウ云フ主義
ヲ持ッテ居ラレコトハ私ハ確信ヲシテ居ル、憲政ノ運用ヲ阻害スルトコロノモノハ、之ヲ排除スルト云フコト

ノ主義ヲ持ッテ居ラル、コトハ確信ヲシテ居ル、然ルニ内閣組織以來眼前ニ横ッテ居リマス。コトノ問題、海軍大臣ノ武官組織ノ制度、或ハ文官任用令ノ改正ノ如キ、是等ハ今日質問ヲスルマデモナク、若シ山本總理大臣ニシテ政友會ノ主義方針ヲ以テ之ニ遵由シ、採ッテ以テ自己ノ主義方針トセラレバ、今日尋ヌルマデモナク、業已ニ内閣組織後文官任用令ノ改正モセナケレバナラヌ、陸海軍大臣武官制度ノ改正モセナケレバナラヌニモ拘ラズ之ヲ尙其儘ニシテ置カレ、偶、御答ヲ聽イテ見レバ支障ナキヲ期シ難シ、將來之ヲ改正スルコトヲ期シテ居ルト、生マヌルイ御答ガアルヤウデハ政友會ノ主義方針ナルモノモ、ヤハリサウ云フ考ヲ持ッテ居ラル、ノデアアルカ、故ニ山本總理大臣ノ言ハレトコロノ政友會ノ主義方針ナルモノハ、如何ナルモノヲ指シテ言フノデアアルカト云フコトヲ第一ニ確メテ置キタイ(議場騒然)(議長注意)第二財政計畫ニ關シテ第一次西園寺内閣ハ積極的方針ヲ執ッテ居ル、第二次西園寺内閣ハ消極的方針ヲ執ッテ居ル、所謂財政方針ナルモノハ近々數年ノ間ニ變ッテ來テ居ル、敢テ問フ山本總理大臣ノ政友會ノ主義方針ニ依ルト言ハレトコロノ其主義方針ナルモノハ、此ニツノ中何レニ據ラントスルノデアアルカ、之ヲ第二ニ御尋スルノデアアル、第二ニ山本總理大臣ハ内閣組織ニ關シテ政黨内閣制ヲ認容セラレ、カ、將タ超然内閣制ヲ固習セラレ、ノデアアルカ、超然内閣制ヲ固執スルト言ハル、ナラバ、敢テ問フ政友會ノ主義方針ナルモノモ亦非政黨主義デアアル、若シ山本總理大臣ニシテ政黨内閣制ヲ認容スルト云フ考ヲ持ッテ居ラル、ナラバ、何故政友會ノ首領トシテ此内閣ヲ組織セラレヌノデアアルカ、次ノ御尋ハ、若シ山本總理大臣ニシテ特ニ現役ニ列セラレ、ノ御沙汰アルコトヲ豫期シテ、爲メニ政黨ニ加盟セザリシモノトセバ、敢テ問フ斯ノ如キ場合ニ際シテ敢テ聖旨ヲ豫期スルモ、尙上皇室ニ對シ不敬ナラズト考ヘ居ラレトアルカ、次ノ御尋ハ去ル二十一日總理大臣官邸ニ於ケル演說中、山本總理大臣ハ若シソレ豫算上ノ方針ニ關シテ、財政難ノ今日ヲ致セル原因、即チ日露戰役後各方面ニ對シ急激ニ膨脹セル過去ノ事情ニ鑑ミ、前西園寺内閣ノ方針ヲ是認シ、當時調査完了セル整理案ニ則リ、行政財政ノ兩整理ヲ斷行スルヲ適切ニシテ、且ツ機宜ノ處置ト認ムト御述ニナタト云フコトヲ聞イテ居ル、ソレナラバ吾々ハ無論此度ノ豫算ニ對シテハ政友會内閣即チ西園寺内閣ノ當時調査セラレタルトコロノ財政整理案ナルモノヲ、其儘提出セラル、デアアラウト確ク信ジテ居ル、然ルニ豫算ニ至ッテハドウデアアルカ、全クノ盲目判ヲ捺シタトコロノ豫算ヲ出シテ、而シテ財政ノ計畫ト云フモノハ別ニナキニ至リ、ソレヲモ示サ

ナイト云フ今日ノ有様云云ハ、殆ド豫算ハ議セナイト同様ナリ。若シ現内閣ガ政友會ノ主義方針ニ依テ財政ノ方針ヲ執ラル、ト云フナラバ、斯ノ如ク斷言シテ居ラレト、何故ニソレニ依ラヌノデアアルカ、現内閣ハ西園寺内閣ノ整理額ヲ踏襲スルト云フコトモシナイノデアアル、現内閣ハ西園寺内閣ノ整理額モ踏襲セヌ位ノ今日ノ有様デアリマスガ、吾々ガ此質問書ヲ書キマスルトキニハ、無論西園寺内閣ノ整理案ト云フモノヲ其儘御出シニナルデアアラウト信ジタ、故ニ此問ハ現内閣ハ西園寺内閣ノ整理額ヲ踏襲スルニ止マリ、ソレ以上ニ於テハ整理ノ餘地ナシト認ムルカ、其餘地アルトセバ、整理節約ノ程度如何、之ヲ御尋シタイノデアアル、次ノ御尋ハ第二十八議會ニ於テ西園寺内閣ハ獨リ所得稅ノ改正ノミナラズ、營業稅、取引所稅ノ改廢、鹽專賣價格ノ低減ヲ公約シテ居ル、現内閣ハ當期議會ニ於テ之ヲ實行スルカト云フ御尋デアリマスガ、是ハ政府カラ出シタモノモアルケレドモ出サナイモノモアル、此出シタモノモ今年度ニ於テハ殆ド唯出スト云フ形ノミデアッテ、政府ノ實際ノ收入ニハ何等ノ響キモナイト云フ出シヤウデアアル、是デハ西園寺内閣ノ當時約束ヲシタトコロノ其約束ニ悖ッタコトデアリマス、次ニ通貨ノ膨脹、重稅ノ誅求、官業ノ壓迫ハ國力ヲ枯渇シ、貿易ノ逆勢ヲ馴致シテ居ル、現内閣ハ通貨ヲ縮少シ、減稅ヲ斷行シ、官業ノ壓迫ヲ排シ、民業ノ不振ヲ救ヒ、貿易ノ逆勢ヲ轉回シ、國富ノ充實ヲ規畫スルノ政策ガアルデアラウ、若シ是アリトセバ明確ニ具體的ニ其方針ヲ發表シテ、人心ノ嚮フ所ヲ指示スルノ必要ヲ認メザルカ、之ガ問デアリマス、次ニ大正二年度ノ豫算ニ於テ、陸軍二個師團増設費ヲ提示シテナイ、是ハ國防上喫緊ノ必要ナキガタメニ提示セラレヌノデアアルカ、財政ノ按排上之ヲ提示スル能ハザリシカ、若シソレ財政ノ按排上之ヲ豫算ニ掲ゲルコトガ出來ナカッタト云フノデアアルナラバ、抑、國防ハ國家ノ存立ニ關スルトコロノ最大要務デアリマス、縱令他ノ經費ヲ節シテモ敢テ辭セザルトコロナルニアラズヤ、然ルニ之ヲ出サナイト云フノハ、如何ナル譯デアサナイト云フコトニナルノデアアルカ、之ヲ提出セザル理由ヲ確メテ置キタイ、以上質問ノ趣意ヲ極メテ簡單ニ述ベテ置キマス

此ノ質問ニ對シ三月二十五日山本内閣總理大臣ハ書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲セリ

一 質問ノ如キ言ヲ述ヘタルコトナシ

- 二 財政計畫ニ關シテハ大體整理節約ノ方針ヲ執ルモ國運ノ發展上必要ナル事項ハ財政ノ許ス限リ之ヲ遂行セムトス
- 三 内閣ノ組織ハ一ニ大權ノ發動ニ依ル
- 四 特ニ現役ニ列セラルルノ御沙汰ヲ拜シタルモ是レ固ヨリ臣子ノ豫期スヘキ所ニ非ス
- 五 質問ノ如キ言ヲ述ヘタルコトナシ而シテ行政財政ノ整理ハ大體西園寺内閣ノ整理案ヲ基礎トスト雖尙ホ出來得ル限リ其ノ完成ヲ期セムトス
- 六 所得稅法改正案及營業稅法改正案ハ既ニ之ヲ本院ニ提出シタリ鹽價ノ低減ハ大正二年度中ニ之ヲ實行スヘシ取引所稅法ノ改正ニ至テハ尙ホ調査ヲ要スルヲ以テ其ノ改正案ハ本會期中ニ之ヲ提出シ難シ
- 七 各方面ニ互リ相當ノ計畫ヲ立テ之カ實行ヲ期セムトス
- 八 陸軍二箇師團ノ増設費ハ財政其ノ他四圍ノ事情ニ鑑ミ大正二年度ノ豫算ニ之ヲ計上セサルナリ

八 東京株式取引所直取引ニ關スル件

二年三月三日福澤桃介君ヨリ左ノ質問ヲ提出シタリ

東京市日本橋區兜町東京株式取引所構内外ニ於テ舉行スル東京株式取引所新株ノ直取引ハ法律

違反ノ行爲ナリ政府ハ何故ニ之ヲ取締マラサルヤ

此ノ質問ニ對シ三月二十五日山本農商務大臣ハ書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲セリ

東京株式取引所ノ直取引ニ付テハ之レカ弊害ノ矯正ニ付注意ヲ解ラス理事者ニ對シテ警告ヲ加ヘタルコト一再ニ止マラス而シテ東京株式取引所ハ明治四十五年二月以降斷然東京株式取引所新株ノ直取引ヲ停止シ以テ今日ニ及ヘリ現今現物又ハ「ヂキ」ノ名ノ下ニ行ハル、賣買行爲ニ付テハ取締上ノ困難尠ナカラスト雖モ政府ハ之カ取締ニ付キ常ニ注意ヲ解ラサルヘシ

九 六國借款ニ關スル件

二年三月六日紫安新九郎君ヨリ左ノ質問ヲ提出シ同月十一日其ノ趣旨ヲ辯明シタリ

- 一 支那ノ六國借款ニ關シ帝國政府ノ採レル態度ハ如何
- 一 借款成立ノ時ハ我カ國ノ滿洲及蒙古ニ於ケル特殊利權ハ此ノ借款ノ使途ニ依リ侵害セラルルノ虞ナキヤ如何
- 一 借款問題ノ最近ノ情勢ハ如何

請君本員ハ支那六國借款ニ關シテ政府ニ質問セントスル者デゴザイマス、支那ノ現在ニ於ケル大問題トモ目スベキモノガ二ツアル、一ツハ露西亞ト蒙古トノ協約デアル、ソレカラ一ツハ六國借款ニ對スル問題デアル、露蒙協約ハ昨年ノ九月以來ノ問題デ、其事柄ハ比較的單純デアル、所ガ此六國借款ニ對スル問題ハ昨年ノ二月カラノ問題デアッテ、其實ハ是モ比較的單純デアルガ、其經過ハ頗ル複雑デアル、且此問題ノ成行如何ニ依テハ支那共和國ガ、或ハ分裂ノ端緒ヲ開クカモ分ラナイ、或ハ又之ニ依ッテ所謂支那財政ノ實ガ擧ゲラレテ、關係列國ヲシテ多少呆氣ナク感ゼシムルコトガナイデモナイノデゴザイマス、所ガ此六國借款ニ關スル問題ハ、何故ニ起ツタカト思ヒマスルト、元來ハ支那ハ是マデニ於テ莫大ナル負債ヲ負ッテ居リマス、即チ政府ノ國債責任債ヲ合セマスレバ二億一千六百萬磅ノ債務ヲ負ウテ居リマス所デ、革命戰爭以後一層支那ニ於ケル財政ハ逼迫シテ參リマシタ、革命戰爭中ハ租稅ノ收入ガ非常ニ減少シマシタ、又北清事變ノ償還金其他外國ニ支拂スベキ金モ皆停止致シマシテ、其結果革命後ニ於テハ革命前ニ比較シテ一層ノ財政窮乏ニ陥リマシタ、而シテ今日ニ於テハ革命戰爭ノ結果、今以テ八十萬ノ軍隊ヲ養ハンケレバナラヌコトニナッテ居リマス、又此大部分ヲ開放致スニ付キマシテモ莫大ノ經費ヲ要スルノデゴザイマス、所デドウニモ仕方がナイ、若シ此儘ニ放リマシタナラバ支那ヲ擧ゲマシタ破産ノ状態ニ陥ルカモ分ラナイト云フ有様デアリマス、ドウシテモ外國ヨリ一時巨額ノ金ヲ借入レテ、目前ニ差迫ッテ居ルトコロノ窮迫ヲ救フト共ニ、將來ニ對スル財政ノ大方針ヲ確定シナケレバナラヌ状態ニアルノデアリマス、而シテ此六國借款ハ革命後ニ其端ヲ發シタモノデアアルカト申シマスルト、是ハ一昨年ノ四國借款ニ關聯シタノデゴザイマス、一昨年亞米利加ガ發起人トナリマシテ、英國、佛蘭西、獨逸ノ二箇國ノ資本金ヲ誘ヒマシテ、四國借款ナルモノヲ起シマシタ、四國借款ヲ起シマシテ、一昨年ノ四月此四國借款ガ成立致シマシタ、當時我國ト露西亞ガ此四國借款ニ對シテ抗議ヲ申込シタノデアリマス、何故ニ抗議ヲ申込シタカト申シマスルト、此四國借款ナルモノハ滿洲ニ於ケル租稅ヲ擔保トシ、其金ハ一億兩デ四十萬箇年ノ償還期限トナッテ居リマス、滿洲ニ於ケル租稅ヲ擔保トシテサウシテ幣制ノ改革及滿洲ニ於ケル事業費ニ充當セントシタノデアリマス、滿洲ニ於ケル事業費ニ充當センガタメニ滿洲ニ於ケル租稅ヲ擔保トシテ外國カラ支那ガ金ヲ借入レタトシマシタナラバ、滿洲ニ於テ特殊ノ利權ヲ有シテ居ル帝國及露西亞ハ、之ヲ座視スルコトガ出來ナイ、ソコデ其當時秘密ニサレテ居リマシタトコロノ四國借款ナルモノヲ帝國政府ガ手ヲ廻

ハシテ取調ベテ見タトコロガ、其第十六條ニ斯ウ云フコトガアッタノデアリマス、此借款ニ依ッテ事業ヲ起シ、サウシテ之ヲ繼續シ、且ツ之ヲ完成スルニ當ッテ更ニ外債ヲ起スニ當ッテハ、此四國銀行團ガ優先權ヲ保留シテ居ル、此四國銀行團ニ於テ成功シナカッタ場合ノ外ハ、外國ノ借款ニ相談スルコトハ出來ナイト云フノ規約ガアッタノデゴザイマス、ソコニ於テ我國ナリ露西亞ハ大ニ驚イテ、露西亞ナリ日本ノ同盟國タル英佛兩國ニ向ッテ調停ヲ依頼シテ、斯ル規約ガアッテハ滿洲ニ特殊ノ利權ヲ持ッテ居ルトコロノ兩國ハ承認スルコトハ出來ナイ、何トカシテ此利害ノ衝突ヲ避ケル工夫ハナイデアロウカト云フコトヲ、日露兩國ノ同盟國タル英佛兩國ニ向ッテ申込シタ、ソコデ佛蘭西政府ハ之ニ對シマシテ日露兩國ノ提議ヲ容レマシテ、此四國借款ノ公債ハ市場ニ賣出サセナイト云フ方針ヲ執リマシテ、四國借款ヲ佛蘭西ノ市場ニ賣出スコトヲ禁ズルノ方針ヲ執リマシタ、所デ此四國借款ナルモノ、資本金ノ大部分ハ佛蘭西ノ市場ニ賣出スコトヲ禁ズルノ方針ヲ執リマシタ、目當ニシタトコロノ借款デアルノニ、此借款ヲ佛蘭西ノ市場ニ賣出スコトヲ許可シナイト云フコトニナリマスレバ、結果ハ四國借款ハ不可能トナランケレバナラヌノデアリマス、併ナガラ四國借款ハ其儘有耶無耶ノ間ニ經過致シテ居リマスル中ニ、彼ノ革命戰爭ガ起リマシタ、革命戰爭ガ起リマシタガ其結果ヤハリ財政逼迫テ堪ヘラレナイ、今日ノ革命ノ後ノ政府ハ其國家ニ對スル精神意氣ハ、滿洲朝廷ニ比較シマスレバ優越デアルコトハ論ヲ俟タヌ話デアリマスルカナレドモ、政治ヲスルニ最モ肝腎ナル金ニハヤハリ困ッテ居ル、ヤハリ困ッテ居ルカラシテ此儘デハ如何トモスルコトガ出來ナイ現狀ヲ見マシテ、支那ノ領土保全ニ厚意ヲ持ッテ居リマスルトコロノ英國ヲ始メ、我國其他ノ列國ガ斡旋致シマシテ、四國借款ニ日露ノ兩國ヲ加ヘマシテ六國借款ガ成立スルコトニナリマシタ、此六國借款ハ前ノ四國借款トハ形モ改マレバ性質モ改マッテ來タ、前ノ四國借款ハ經濟的借款デアリマス、トコロガ今度ノ六國借款ハ形ガ政治的借款トナッタ、且又餘程外交的色彩ヲ帶ビテ來タ、外交的色彩ヲ帶ビ、政治的意味ヲ有シテ居ルトコロノ六國借款ガ昨年ノ六月巴里ニ於テ成立致シマシタ場合ニ、我政府ハ又一ノ註文ヲ出シマシタ、其註文ハ此六國借款ノ使途ニ依ッテ滿洲及蒙古ニ於ケル帝國ノ特殊利權ヲ阻害セラル、コトノナイヤウニト云フコトヲ、此規約ノ中ニ含メテ吳レト云フコトヲ申出マシタ、此事ヲ申出マシタトコロガ、六國ノ借款國ハソレニ對シテ斯様ナコトハ政治上ノコトデアアル、斯様ナコトハ政治上ノコトデアラシテ吾々銀行團ガ干與スベキコトデハナイ、故ニ日本ノ此申込ハ單ニ斯様ナ申込ガアッタト云フコトヲ議事録ノ中ニ記

入シテ置カウ、是レ以上執ルベキ餘地ハナイト云フコトデアッタデアリマス、是カ私ガ大ニ政府ニ質問セントスルトコロゴザイマス、此六國借款團ニ對シテ帝國政府ノ申込ミタル抗議ハ、單ニ議事録ニ留置カレタニ過ギナカタノデゴザイマスルガ、單ニ議事録ニ留置カレタケテ、東亞大陸ニ於ケル我特殊ノ利權ハ將來侵害セラル、コトノナキコトヲ保障セラル、デアリマセウカ、ドウデアリマセウカ、又帝國政府ハ、此六國借款團以外ニ五箇國ノ政府ニ對シテ更ニ抗議ヲ申込コトガアルカ、或ハ又何等カノ取極ヲシタコトガアルデアラウカ、是モ私ガ政府ニ問ハントスルトコロゴザイマス、而シテ又昨今新聞紙ノ傳フルトコロニ據リマスレバ、頓挫ニ頓挫ヲ重ネタ、一年有餘ヲ經過致シマシタ、六國借款ガ愈々調印セントスルニ當リマシテ、備聘セラレル外國人ノ顧問問題ニ關シマシテ、佛蘭西ガ異議ヲ唱ヘテ將ニ破裂セントスル場合ヲ繙縫サレマシテ、偶々支那ト調印セントスルニ方ツテ今度ハ又支那ガ異議ヲ申込シテ、支那ガ異議ヲ申込シタガタメニ、此六國借款ハ又破裂セントスル機運ニ陥ツテ居ルト云フコトデゴザイマス、是ガ果シテ事實デアルカドウカ、何トナレバ此事ハ非常ニ大切ナルコトデアツテ、若シ此六國借款團ガ破レルト云フト、中央ナリ地方ニ於テ單獨借款ガ起ル、又列國ノ資本家ハ此六國借款ノ破レンコトヲ希望シテ居ルデアアル、此六國借款ガ破レシタラバ、中央ニ於テ地方ニ於テ、單獨借款ガ起ツテ、列國ノ資本家ハ此間ニ暗中飛躍ヲ試ミテ、支那ニ於ケル特殊ノ利權ヲ獲得セント狙ツテ居ルデアリマス、故ニ私ハ現在ニ於ケル六國借款ノ狀態ニ就テモ、政府ニ問ハントスルトコロゴザイマス、要スルニ六國借款ハ政治的色彩ヲ帶ビ外交的色彩ヲ帶ビテ居ルモノデゴザイマスガ故ニ、是以外ノ經濟的借款ニ至リマシテハ、各國ノ自由競争ニ放任セラレテ居ルデアリマス、各國ノ自由競争ニ放任セラレテ居リマスレバ、多大ノ借款ヲ成シタルモノガ多大ノ利權ヲ獲得スルト云フコトハ言フヲ俟タヌ話デゴザイマス、我邦ト密接ナル支那ニ對シテ歐米列國ガ多大ノ特殊ノ利權ヲ獲得致シマシタラバ、其將來ハ如何ニナルデゴザイマセウカ、是ハ冷靜ニ考ヘマスルト云フト、誠ニ憂慮ニ堪ヘザルコトデアラウト思ヒマス、是等ニ對シテハ帝國政府ハ如何ナル態度ヲ執ラントスルモノデゴザイマセウカ、今日ニ於ケル我帝國ノ支那ニ對スル態度如何ハ、支那將來ノ運命ヲ決スベキ一大要素デアラウト私ハ考ヘルノデゴザイマス、是等ハ山本新内閣ガ冷靜ニ慎重ニ解決シ、且又支那前途ノタメ帝國前途ノタメニ考慮スベキ問題デアラウト考ヘマス、故ニ敢テ私ハ此質問ヲ提起シタノデゴザイマス

此ノ質問ニ對シ二月十一日牧野外務大臣ハ口頭ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲セリ

唯今紫安君ヨリ御質問ニ對シマシテ、御答ヲ致シマス、紫安君ハ唯今御質問ニ臨ミマシテ續々借款ノ經過ヲ御話ニナツタデアリマス、大凡成行ニ就テハ御承知——御研究ニナツテ大體御承知ノヤウニ考ヘマス、ソレ深ク其邊ノコトハ立入りマセウカ、要スルニ帝國政府ノ關シマスル限リ要領ニ就テ簡單ニ御答申上ケマス、一昨年動亂ガ起リマシテ地方ノ秩序ガ紊レマシテ、其秩序恢復、又假政府ノ行政費支辨等ニ就テ、政費ノ多額ニ入用デアッタコトハ、當時ノ最モ重要ナ事態デアッタデアリマス、其場合ニ臨ミマシテ四國團體ヨリ金融ヲ致サヲ救フコトガ支那ノ事情ヲ改善スル唯一ノ最モ重要ナコトデアルト見込ミマシテ、其四國團體ヨリ金融ヲ致サウト云フコトガ起ツタデアリマス、其場合ニ臨ミマシテ日露兩國ハ清國ノ現狀ニ極メテ重要ナ關係ガアルト云フトコロカラシテ、此ノ四國團體ニ加入スル案内ヲ受ケタデアリマス、帝國ハ唯今モ御述ベノ通り清國ノ一日モ早く秩序ヲ恢復シマシテ、常態ニ復スルコトヲ極メテ切望ミマスルトコロカラシテ、此六國團體ニ入りタデアアル、爾來今日ニ至リマスルマデ、一年半有餘モ經過致シテ居リマスルケレドモ、其間ニ六國ノ關係スルコトデアリマシラカラ、利害其他見ルトコロノ各々時々異ルノハ、是ハ已ムヲ得ヌ次第デアリマス、サリナガラ此支那ヲ扶助スルト云フ點ニ於キマシテハ、何レモ皆一致シマシタ、故ニ今日マデニ此ノ六國團體ノ繼續ヲ維持スルコトガ出來テ居ルノデアリマス、其場合ニ於テ帝國ハ極メテ此ノ六國ノ協調ヲ保チ以テ清國ヲ援ケタイト云フ唯一ノ觀念ニ驅ラレテ、今日マデ其ノ商議ノ進ムコトニ專ラ力ヲ盡シテ居ルデアリマス、第二ノ滿洲地方ノ我が特殊ノ利益ニ六國借款ガ侵害ヲ與ヘルコトハナイカ否ヤ、是ハイロ／＼交渉モ致シテ居リマスルガ、我特殊ノ利益ニハ不利益ハナイ積リデアリマス、侵害スル如キコトハナイ見込デアリマス、第二ノ六國借款ノ目今ノ狀態ハ、成程此ノ顧問問題ニ就キマシテイロ／＼見ルトコロヲ異ニ致シタコトデアリマス、サリナガラ監視ノ顧問問題ニ就キマシテハ今日ハ略々議ガ纏リマシテ、尙之ニ關係スルコト未ダ清國假政府ト——中華民國ノ政府ト六國ト——六國公使團ト商議ガマダ纏ラヌ點ガアリマスルノデ、マダ調印ノ域ニ進マヌデアリマス、サリナガラ大體ニ於テハ歩調ヲ進メテ居リマスルカラシテ、遠カラヌ中ニ調印ノアルコトヲ希望シテ居ルヤウナ次第デアリマス

一〇 國務大臣ノ政治的非行ニ關スル件

二年三月七日阪本彌一郎君外一名ヨリ左ノ質問ヲ提出シタリ

一 奥田文部大臣カ宮中顧問官在職中文部大臣ニ就任シタルハ宮中府中ノ別ヲ紊ルモノナリ政府ノ所見如何

二 同大臣カ宮中顧問官在職中政友會ニ加入シタルハ宮内官ノ性質ニ矛盾スルモノナリ政府ノ所見如何

三 同大臣ハ二月二十七日衆議院ニ於テ只今宮中顧問官辭職許可ノ手續中ナリト明言セリ是レ明ニ當時辭職未タ許可セラレサルヲ意味ス然ルニ三月一日ノ官報ニハ二月二十一日付免官ノ辭令アリ是レ前二項ノ非違ヲ蔽ハムカ爲政府ヨリ宮内省ニ請求シテ故ラニ免官ノ日附ヲ遡ラシメタルモノト信ス果シテ此ノ事實アリヤ

四 同大臣カ帝國大學及私立中央大學教員ニ在職中政友會ニ加入シタルハ治安警察法第五條第四ニ違背セル犯罪行爲ニシテ之ヲ強要シタル山本總理大臣及松田、原、元田ノ各大臣ハ同法第二十二條ニ依リ同罪タルヲ免レス政府ハ之ニ對シテ如何ナル處置ヲ取ラムトスルカ

此ノ質問ニ對シ三月二十五日山本内閣總理大臣ハ書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲セリ

一 宮中顧問官ノ名譽官タルハ宮内省官制第二十一條ノ明定スル所ナリ而シテ奥田文部大臣ハ二月二十日文部大臣ノ任ニ就クト共ニ宮中顧問官ノ辭任ヲ申出テタリ其ノ辭任ヲ申出テタルハ宮中顧問官タルノ身分ニ伴フ禁令ニ依ルニ非ス而モ翌二十一日其ノ官ヲ免セラレタルモノニシテ毫モ宮中府中ノ別ヲ紊ルモノト認メス

二 奥田文部大臣カ政友會ニ加入シタルハ二月二十二日ニシテ其ノ前日已ニ宮中顧問官ヲ免セラレタリ

三 質問書ニ掲クルノ事實ナシ

四 奥田文部大臣カ東京帝國大學法科大學ノ講師ヲ解カレタルハ二月二十日ニシテ又私立中央大學講師ノ職ヲ辭シタルハ同月二十一日ニシテ其ノ翌日政友會ニ加入シタルナリ從テ治安警察法ニ違反スルコトナシ

一一 陪審制度ニ關スル件

二年三月七日齋藤隆夫君ヨリ左ノ質問ヲ提出シ同月十一日其ノ趣旨ヲ辯明シタリ

第二十六議會ニ於テ衆議院ハ陪審制度ノ建議案ヲ可決セリ政府ハ案ヲ具シテ本期議會ニ之ヲ提出スルヤ如何

陪審制度ニ關スル質問ニ就キマシテ、極ク簡單ニ其趣旨ヲ辯明シマス、諸君モ御承知デゴザイマセウガ、數年前ヨリ我國ノ在野法曹ノ一角ニ於キマシテ我國ニ陪審制度ヲ設立セントスルノ議論ガ起ツテ居ルノデアリマス此議論ノ起リシ原因竝ニ其後ノ經過ニ付キマシテハ本員ガ茲ニ述ベキ限デハゴザイマセウガ、此議論ガ本トナリマシテ、第二十六議會ニ於キマシテ政友會ノ議員ヨリ陪審制度ニ關スル建議案ガ提出セラレ、政友會全部ノ贊成ニ依テ此建議案ハ可決セラレテ居ルノデアリマス、時ノ政府ハ桂內閣デアッタノデアアル、本員ハ元來此制度ニハ反對スルモノデアリマス、理論ノ根柢ニ於テ反對シ我國ノ實情ニ照シテ反對シ、而シテ帝國憲法ノ規定上、今日歐米諸國ニ行ハル、陪審制度ナルモノハ斷シテ我國ニ施行スベカラズト確言スルモノデアリマス、從ツテ時々世上ニ現ハル、トコロノ淺薄皮相ナルトコロノ陪審論ヲ竊ニ笑ツテ居ルノデアリマス、併ナガラ是ハ議論ニ涉リマスルカラシテ今日ハ述ベマセウ、他日此問題ニ付キマシテ議論ヲ戰ハスベキ時ガ來マシタナラバ、如何ナル人ト雖モ相手ニ取ルコトハ辭セナイノデアリマス、ソレハ別トシテ本員ガ政府ニ向ツテ伺ハント欲スル趣意ハ、政府ハ一體此建議案ヲ如何ニ始末スル積リデアルカ、案ヲ具ヘテ議會ニ提出スルヤ否ヤト云フ點デアリマス、デ本員ガ時ノ現內閣ニ向ツテ之ヲ質問致シマスルノハ、現內閣ハ政友會ニ基礎ヲ置クカラデアリマス、山本首相ハ政友會ノ主義政策ヲ實行スルコトヲ聲明セラレタ人デアアル、而シテ此審判制度ハ政友會ノ司法政策ノ大ナルモノデアルト私ハ考ヘテ居ルノデアリマス、殊ニ政友會ノ領袖ニシテ且此建議案ニ贊成セラレタトコロノ松田正久君ハ今日司法大臣ノ地位ニ居ラル、ノデアアル、デ此好時機ニ於キマシテ此案ヲ提出シテ院議ニ問ハル、ト云フコトハ、松田司法大臣ノ職責デアルト斯ヤウニ本員ハ考ヘテ居ルノデアリマス、私ハ政友會諸君ノ言責ヲ信賴スル者デアリマス、野ニ於テ主張セラレタトコロノ政策ハ、朝ニ於テハ必ズ實行セラレルモノデアルト思フ、野ニ在テハ政策ヲ主張シ朝ニ在テハ棄テ、之ヲ顧ミナイト云フガ如キ無責任ナル言行ハ、少クモ政友會諸君ノ爲サレナイトコロデアアル、少クモ立憲政治家タル松田司法大臣ノ爲サレナイトコロデアルト信ズルガ故ニ、敢テ此質問ヲ提出シタノデアリマス、デ此問題ハ政友會ニ於キマシテハ既ニ四箇年以前ニ確定シテ居ルノデアリマス、而シテ此具體的提案モ當時ノ新聞紙上ニ於テ表白サレテ居ルノデアリマス、ソレ故ニ尙ホ取調中デアルトカ、或ハ法典調査會ニ諮問中デアルトカ云フヤウナ曖昧ナル答辯ハ、他ノ内閣ニ於テハ免ニ角、此現內閣ニ於テハ決シテ爲スベキモノデハナイ、松田司法大臣ノ有名ナル不得要領ナル

答辯ハ斷シテ御斷リヲ致シマス、明確ナル答辯ヲ受ケタイノデアリマス

此ノ質問ニ對シ三月二十六日松田司法大臣ハ書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲セリ

陪審制度ノ事タルヤ其關スル所頗ル廣汎且ツ重大ナルモノアリ今仍ホ法律取調委員會ニ於テ調査中ニ屬ス

一一 現內閣ノ施政竝議員ノ質問應答ニ關スル件

二年三月八日澤來太郎君ヨリ左ノ質問ヲ提出シタリ

- 一 現內閣施政ノ方針ハ政黨主義ニ基キ政友會ノ主義方針ニ則リ其ノ政綱政策ノ實行ヲ期スルニアルコトハ山本首相ノ宣明シタル所ナリ果シテ然ラハ獨リ財政計畫ノ一部分ノミナラス陸海軍官制中陸海軍大臣ハ現役大中將ニ限ルノ規定及文官任用令ノ改正其ノ他外交、國防、文政等一般ノ施政ニ至ル迄政友會ノ方針ニ依據スルノ意ナル乎若然ラストセハ其ノ政友會ニ則ル範圍ヲ明示セラレヨ

- 二 速記録ニ徵スルニ今期本會議竝各委員會ノ質問ニ對スル山本首相竝高橋藏相、木越陸相等ノ答辯ハ皆ニ其ノ要領ヲ得サルノミナラス動モスレハ口ヲ就任日尙淺キニ藉リテ答辯ノ責ヲ避ク是レ議院法ノ規定ニ背ク不法ノ行爲ニシテ無責任ノ甚シキモノト認ム政府ノ所見

如何

此ノ質問ニ對シ三月二十五日山本内閣總理大臣ハ書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲セリ

- 一 現内閣施政ノ方針ハ二月二十七日日本院ニ於ケル陳述竝本月十一日林毅陸犬養毅兩君ノ質問ニ對スル答辯ニテ盡シタリト信ス
- 二 政府ハ質問ニ對シテハ責任ヲ重シ口頭又ハ書面ヲ以テ誠意答辯ヲ爲シツツアリ毫モ議院法ノ規定ニ背キタル事實ナシ

一三 陸軍壯丁ノ體格不良ノ傾向ニ關スル件

二年三月八日田川大吉郎君ヨリ左ノ質問ヲ提出シ同月十八日其ノ趣旨ヲ辯明シタリ

- 一 明治二十六年ニ方リ全國壯丁ノ徵兵検査ヲ受ケタル者ハ三十八萬一千五百五十七人ニシテ全人口(男子)二千七十五萬二千三百六十六人ノ約一割九分ニ相當シ四十二年ニ在テハ受檢者總數四十三萬四百五十五人ニシテ全人口(男子)二千五百三十八萬七千二百二十二人ノ約一割七分ニ相當シ乃チ全人口ニ對スル壯丁ノ割合ハ稍減少シツツアルカ如シ
- 二 更ニ受檢者總數ニ對スル徵集兵ノ割合ヲ見ルニ二十六年ニ在テハ受檢者ノ三割一分七厘九

毛(十二萬一千二百人)徵集セラレ六割二厘(二二萬九千六百八十九人)ハ免除セラレタリシモノ、四十二年ニ在テハ五割九分八厘三毛(二十五萬七千五百七人)徵集セラレ三割二分五厘七毛(十四萬百八十七人)ハ免除セラレタル割合ト爲リ即チ約二十年間ニ徵集ノ人員ハ殆ト二倍シ免除ノ人員ハ殆ト半減シタリ

三 以上ノ結果トシテ徵募兵ノ體格ニ不良ノ影響ヲ及シタルハ勢ホノ免ルヘカラサル所ナリ即チ三十二年ニ在テハ五尺二寸以上ノモノ七割九分七厘、五尺以上五尺二寸マテノモノ二割

〇三厘ナリシカト、四十三年ニ在テハ五尺二寸以上ノ者六割六分二厘、五尺以上五尺二寸以下ノ者三割三分八厘ト爲リ斯テ良種ノ人漸ク減シ、劣種ノ人著ク増シツツアルノ狀歴然掩フヘカラサルニ似タリ

詳シク言ヘハ三十二年ニハ五尺二寸以上ノ壯丁中甲種五割一分、乙種二割八分七厘、五尺以上ノ壯丁中甲種一割一分四厘、乙種八分九厘ナリシモノ、四十二年ニハ五尺二寸以上ノ壯丁中甲種四割二分八厘、第一乙種一割五分四厘、第二乙種八分、五尺以上ノ壯丁中甲種一割八分八厘、第一乙種九分一厘、第二乙種五分九厘ト爲レリ以テ甲種ノ人漸ク減シ、乙種ノ人漸ク増シツツアル趨勢ノ一斑ヲ確實ニ察知スヘシ特ニ四十年以後ニ在テハ乙種ノ中ニ、第一乙種、第二乙種ノ別ヲ設ケ、四十年以前ニハ劣等ノ故ヲ以テ排棄シタリシ程度

ノ壯丁ヲ、四十年以後ニ在テハ第二乙種トシテ入選セシメ而シテ其ノ數四十二年ニ於テハ徵集全員ニ對シ一割三分九厘ノ多キヲ占ムルニ至レリ

四 敢テ問フ、政府ハ前三項ノ事實ヲ承認スルヤ果シテ然ラハ政府カ陸軍兵徵集ノ當初ニ豫期シタル目的ハ斯テモ尙満足ニ遂ケラレツツアリヤ若ハ不満足ナルヲ免レサルヤ而シテ此ノ如キ低下ノ趨勢ハ將來ニ恢復セラルヘキ何等カノ見込アリヤ若之ナシトセハ如何、更ニ此ノ上二十五箇師團ニモ擴張セハ壯丁ノ數愈多キヲ加フルニ從ヒ兵士ノ體格ハ愈益低下スヘシ、政府ハタトヘ體格ハ低下スルモ其ノ數ヲサヘ増加セハ以テ擴張ノ目的ヲ達シ得ヘシト爲スヤ

五 二十六年、徵集兵ハ十二萬餘ニシテ免除人員ハ二十二萬九千人餘ナリシモノ、四十三年ニハ徵集兵二十五萬ヲ超ヘ免除人員ハ十四萬人餘ト爲リタリ乃チ往時ニ在テハ二十二萬ノ壯丁ハ民間ニ殘サレテ生産ノ業ニ從ヒシモノ近時ニ在テハ其ノ數僅ニ十四萬人ニ過キサルニ至レリ我カ國富ノ増進セラレス國力ノ充實セサルハ自然ノ勢ニアラスヤ而シテ此ノ如キ事情ノ現在並將來ニ對スル政府ノ見解如何以テ患フヘシト爲スカ患フルニ足ラスト爲スカ之ヲ匡救スルノ途アリト爲スカ途ナシト爲スカ有リトセハ即チ其ノ途如何今日ニシテ既ニ然リ今後二十五箇師團ニ増加シタルノ日如何

(參考表略)

諸君、陸軍ノ現状ニ關シテハ、唯今澤君ノ質問ニアリマシタヤウナ、諸種ノ問題モ必ズ諸君ノ注意ヲ拂ッテ居ラレル重大ナル事項ト存ジラレマス、私ノ今茲ニ質問セントスルノハ此ノ如キ國防ノ正面問題ヲテクシテ、陸軍ノ壯丁ノ體格ニ關スル寧ろ體格ノ不良ニ關スル、尙大切ノ性質ヲ失ハナイト信ズル問題ノ一ツデアリマス、此質問ニ對シマシテハ私ハ先ヅ二三ノ事實ヲ諸君ノ前ニ御參考ニ述ベテ見タイ、一、二三ノ事實ガ此質問ノ前提基礎ヲ爲シツ、アルノデアリマス、其一ツノ事實ハ明治二十六年、今日ヨリ約二十年ノ前ニ遡リマシテ、全國ノ壯丁ノ徵兵ノ検査ヲ受ケマシタ者ハ、約三十八萬人デアリマシタ、當時ノ人口ノ男子ノ總數ニ比較致シマスレバ、約一割九分ニ相當致シテ居リマシタ、降ッテ四十二年、今日ヨリ一三年ノ前ニ至リテ徵兵ノ検査ヲ受ケマシタ者ハ約四十三萬人デアリマス、此數ハ當時ノ男子ノ總數ニ比較致シマシテ、一割七分ニ相當致シテ居リマス、二十年前ニハ全人口ノ一割九分ニ相當スル徵兵ノ受檢者ガアリ、二十年後ノ今日ニ於テハ全人口ノ約一割七分ニシカ相當スル徵兵ノ受檢者ガナイ、此ノ如キコトハ此數字ニ依ッテ考ヘマスレバ、吾々ノ壯丁ノ數ガ、年ヲ逐ウテ減少シツ、アル傾向ヲ示スモノデアリカト思フノデアリマス、尙數字ノ比例ヲ申上ゲマスレバ、二十六年時分ノ其受檢シタ壯丁ノ數ハ人口一萬人ニ對シテハ百八十三人ニ當ル、四十二年ニ於キマシテハ人口一萬人ニ對シテ百六十九人ニ當ル、前二百八十三人ニ當リ、後二百六十九人ニ當ル、此數字ノ傾向ガ我が受檢壯丁ノ年ヲ逐ウテ減少シツ、アル傾向ヲ示スモノデアリカト思フノデアリマス、是ガ第一ノ事實、第二ニ二十六年頃ニ受檢致シマシタ前ニ申シマシタ二十八萬人ノ中ニ、徵集セラレマシタ者ハ三割一分七厘九毛、假ニ三割一分ト申上ゲマセウ、當時三割一分デアリマシタモノガ、四十二年ニ於テハ五割九分八厘三毛、假ニ是ハ六割ト申上ゲテモ宜イト思フ、前ニ三割一分シカ徵集セラレナシト所ノ壯丁ガ、後ニ六割迄約二倍ノ數ダケ徵集セラル、コトニナリ來ツタ、是ガ第二ノ事實デアリマス、前ノ第一ノ事實ト第二ノ事實ヲ比較對照シテ考ヘマスレバ、徵集セラレツ、アル壯丁ノ體格ガ自然ニ惡クナリツ、アル、體格ノ標準ガ自然ニ低下シツ、アルト云フコトハ疑フ餘地ノ無イ事實デアルト思フノデアリマス、私ハ茲ニ

其二十年間ニ於ケル徵兵ノ體格檢査ノ成績ヲ、略、調ベ得タ積リテ參考書ニハ附加ヘテ置キマシタ、其數字ヲ茲ニ繰返シマスコトハ御迷惑デアルト存ジマス故ニ繰返シマセヌ、唯以上ノヤウナ計數、ソレカラ其以前二十六年頃ニ當リマシテハ五尺二寸以上ノ身長ヲ有スル者ノ數ガ全體ノ七割九分七厘、約八割ノ數ニ達シテ居リマシタモ、ガ、四十二年ニ至ッテハ六割六分ノ數ニマテ落ち來ツタ、斯ウ云フ數字ガ前申上ケマシタ通り、體格ガ年ヲ逐ウテ低下シツ、アルト云フコトヲ明確ニ證據スルモノデアルト云フ風ニ思フノデアリマス、又ソレニ附加ヘテモウ一ツ申上ケナケレバナラヌノハ、明治四十年ノ以前ニ徵兵ノ檢査ヲ致シマスノニ、第一乙種竝ニ第二乙種ナルモノ、區別ハ無カッタノデアアル、四十年ニ至ッテ始メテ此二種ノ區別ガ起ツタ此時以後始メテ第二乙種ノ壯丁ヲ徵兵ノ中ニ見ルコトニナッタノデアリマス、其第二乙種ノ壯丁ノ數ガ四十二年ニ於テハ一割三分九厘ノ多キニ達シテ居ル、此事實ガ我が壯丁ノ體格ガ益、段々ニ衰ヘツ、アルト云フコトヲ示スモノデアルト私ハ信ズル、ソコテ私ハ此事實ガ眞ナリヤ又誤ナリヤト云フコトヲ政府ニ向ッテ問ヒタイノデアアル、政府ハ此三項ノ事實ヲ事實ナリトシテ承認スルヤ如何、斯ウ云フノガ此ニ於テ起ル私ノ第一ノ問デアリマス、之ヲ事實ナリトシテ政府ガ承認致シマスレバ、政府ハ陸軍兵ヲ徵集スル當初ニ立テマシタル目的ハ、今モ尙満足ニ達セラレツ、アリヤ否ヤト云フコトガ第一ニ起ル問デアリマス、若クハ此現狀ニ對シテハ政府モ亦心カラ不満足ニ感ジツ、アリヤ否ヤ、又此ノ如ク年々低下シテ行キマスル趨勢ヲ、將來ニ於テ恢復セントスル何等カノ見込アリヤ否ヤ、斯ウ云フコトヲ問ヒタイノデアリマス、又將來ニ於キマシテ、恢復スベキ何等カノ見込ナシトセバ、其將來ニ處スル政府ノ見解如何、ソレガ次ニ起ル問題デアリマス、更ニ二個師團ノ増加ト云フコトガ問題ニナッテ居リマスケレドモ、私ハ陸軍ノ中ニハ二十五師團ニマテ擴張シナケレバ止マナイトスル一種ノ意見ガ成立シテ居ルコトヲ聞イテ居ルコト已ニ久シイ、果シテ然ラバ二十五師團ニモ擴張スルノ日ニ當ッテ、我が壯丁ノ體格ノ低下シテ行ク所ノ傾向ヲ如何ニ見ルカ、如何ニ見ツ、アルカ、左様ニ體格ガ段々ニ低下シテ行ク所ノ壯丁ヲ以テモ、尙澤山ノ師團ヲ擴張シサヘスレバ、即チ擴張ノ目的ヲ達シタリト爲スヤ否ヤ、是ガ問デアリマス、此問ニ附加ヘテモウ一ツノ事ヲ申シテ見タイ、前ニ申シマシタ二十六年ノ場合ヲ借リマスガ、其時分ニ徵集セラレマシタ兵ハ十二萬餘デアアル、徵集ヲ免除セラレシモノハ二十一萬ヲ超ヘタ、四十二年ニ至ッテハ徵集兵ナルモノハ二十五萬ヲ超ヘテ、徵集ヲ免ゼラル、者ガ十四萬ニ下ツタ、二十年前ニハ二十二萬ノ壯丁ガ民間ニアツタ、二十年後ニハ十四萬ノ壯丁シカ民間ニ無クナツタ、私ハ此徵集兵ナル數字ノ内容ニ付テ茲ニ申上ゲツ、アル通り、單純ナル事情テナイコトヲ承知致シテ居リマス、茲ニ私ガ掲ゲツ、アル數字ハ、是ハ陸軍ノ壯丁ノミニデハナイ、海軍ノ壯丁モ亦加ッテ居ル、陸軍ノ現役兵ノミニデナイ、其補充兵モ亦加ッテ居ル、併シ其現役幾何補充兵幾何ト云フノ内容ニ立入ルコトハ、私ガ誓ッテ遠慮シナケレバナラヌ事情デアリマス、故ニ私ハソレニハ立入ッテ居ナイ、立入ルコトハ努メマセヌガ、今申シタヤウナ數字ニ依テ表ハレル如ク、二十六年ニ假二十二萬餘ノ壯丁ガ徵集セラレタトシテ、四十二年ニハ其數ガ二十五萬ニ達シタ、二十年前ニハ二十萬ノ壯丁ガ民間ニ殘サレタトシテ、二十年後ニハ民間二十四萬ノ壯丁シカ殘サレタクナツタ、此數字ノ鈞合ニ於テ表ハレル其結果デアアル、其影響デアリマス、ソレヲ政府ガ如何ニ見テ居ルカ、簡單ニ私ノ思フトコロヲ述ベマステバ、斯ノ如ク民間ニ殘サレテ生業ニ從事スル壯丁ノ數ガ減ツツ、行キマス以上ハ、國富ガ増進シナイ國力ガ充實シナイト云フノハ、是ハ當然ノ結果デアルト斷ズルヨリ外ナイノデアリマス、而シテ斯ノ如キ事情ノ現在竝ニ將來ニ對スル政府ノ見解如何、政府ハ此傾向ヲ以テ憂フベシト爲スカ、若クハ憂フルニ足ラズト爲スカ、憂フルニ足ラナイト爲スナラバ其理由如何、憂ヘナケレバナラヌト爲スナラバ之ニ應ズルノ途ハ如何、此傾向ヲ匡救スルトコロノ途アリト爲スカ、若クハ途ナシト爲スカ、若シ途ナシト爲セバ將來ニ處スルノ策如何、若シ途アリトスルナラバ其途如何、是ガ私ノ問デアリマス、私ハ此問ヲ以テ單リ私一人ノ胸中ニ自然ニ沸イタ憂デアルト爲サマルノミナラズ、諸君モ亦此現象ニ對シテ多大ノ憂ヲ抱イテ御出ニナルト信ズルノデアリマス、依テ諸君ト共ニ此問題ニ對シテ、政府ノ明快ニシテ適切ナル回答ヲ待チタイト思フモノデアリマス

此ノ質問ニ對シ三月二十二日木越陸軍大臣ハ書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲セリ

第一項ニ付

男人口ニ對スル壯丁數ノ比例カ減少シツ、アリトハ未タ斷定シ難シ(第一表參照)

第二項ニ付

第二項ノ事實ハ大體ニ於テ質問ノ通

第三項ニ付

徵集人員ノ増加ニ伴ヒ徵集人員中身長大ナル者及甲種合格者ノ比例ノ減少スルハ已ムヲ得サルコトナレトモ壯丁數ニ對スル身長及合格者ノ比例ハ明治三十二年ニ於テハ五尺二寸以上ノ者四割五分甲乙種^{甲種不足スルトキハ}乙種^{乙種ヲ現役ニ徵集ス}合格者六割六分ナリシモ明治四十三年ニハ五尺二寸以上ノ者五割三分甲乙種合格者七割トナレル等寧ロ良好ノ傾向アルモノト認ム(第二第三表參照)其ノ他明治四十年ニ於テ從來ノ乙種ヲ第一乙種第二乙種ニ區別シタルハ徵集ノ便宜上乙種ノ中ニ等級ヲ設ケタルニ止マリ從來不合格ト爲シタルモノヲ繰上ケ採用シタルニアラス

第四項ニ付

徵集人員ノ増加ニ伴ヒ體格ノ比較的次位ニアル者ヲ徵集スルハ已ムヲ得サル所ナリト雖從來不合格ナリシ者ヲ合格ト爲シタル次第ニアラス而シテ體格ノ比較的次位ニアル者ヲ徵集スルモ軍隊教育兵器材料ノ改良並體力ノ程度ニ應シテ適當ノ兵業ヲ課スルコト等ニ依リ之ヲ補フヲ以テ軍事上支障ナキモノナリ

第五項ニ付

近年ニ於ケル毎年ノ徵集人員約二十五万中約十五万ハ補充兵ニシテ其ノ中少數ノ者カ短期ノ

召集ヲ受クルコトアルノ外常ニ郷里ニ在リテ生業ニ從事シ得ルモノトス而シテ現役兵ニ在リテモ約十万中其ノ大部ヲ占ムル歩兵約六万九千ハ二年在營制ト爲シ輜重輪卒約一万五千ハ三月在營ノ後郷里ニ歸休セシメアリ

(參照表略)

一四 國債償還額ニ關スル件

二年三月八日田川大吉郎君ヨリ左ノ質問ヲ提出シタリ

- 一 政府ハ毎年五千萬圓ツツノ國債償還ニ依リ將來幾何年間ニテ全部ヲ償還シ終ル目的ナリヤ而シテ國債ノ現況ハ其ノ豫定ノ目的ノ如クナリツツアリヤ
- 二 政府ノ國債ニ對スル方針ハ必スシモ其ノ絶無ヲ必要トスルニ非サルヘシ果シテ然ラハ大凡其ノ額幾何迄ハ之アルモ差支ヘ無キ相當ノ程度ト測度シツツアリヤ
- 三 政府ハ所謂百分一濟崩法(發行額ノ百分ノ一ヲ償還標準年額トシ其ノ償還ニ依リ剩生シタル利子額ヲ第二年以下ノ標準年額ニ加ヘテ償還スル方法ヲ謂フ)ニ準據シ國債ヲ償還スル意圖ナキヤ假ニ同方法ニ據ルトセハ別記參考表示所ノ如ク五分利國債ハ三十七年ニシテ全部ヲ償還スルヲ得ヘク現在二千五億餘圓ノ國債ハ即チ約二千五百萬圓ノ償還標準年額ニ

依リ凡ツ三十九年ニシテ償還シ得ヘキカ如シ政府ハ此ノ方針ニ據ルヲ我カ國家今日ノ信用上不安危險ナリト爲スヤ若此ノ方法ニ依リ五千萬圓償還ノ年額ヲ二千五百萬圓ニ低下スルヲ得ハ其ノ利益ハ國家新計畫ノ上ニモ國稅低減ノ上ニモ及ホシ國民ノ幸慶著大ナルヘシト信ス政府ノ所見如何

(參考表略)

此ノ質問ニ對シ三月十九日高橋大藏大臣ハ書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲セリ

- 一 國家ノ信用維持上必要ナリト認ムル間政府ハ毎年五千萬圓以上ノ國債償還ヲ實行スル方針ニシテ國債償還ニ一定年限ヲ期スルモノニアラス又前記方針ハ明治四十二年度以來豫定ノ如ク實行シツツアリ
- 二 國民經濟力發達ノ程度如何ニ關係スルカ故ニ今其ノ金額ヲ舉ケ難シ
- 三 第一ノ答辯ニテ自ラ明ナルヘシ

一五 公債政策等ニ關スル件

二年三月十日早速整爾君ヨリ左ノ質問ヲ提出シタリ

- 一 外債募集ハ現時ノ我カ財政經濟ニ對シテ惡影響ヲ及スヲ免カレスト信ス而モ政府ハ已ムヲ得サルニ藉口シ不利ナル條件ヲモ顧ミスシテ外債ヲ募集シ將來又更ニ外債ヲ募集セムトスルモノノ如シ是レ果シテ財政整理ノ本義ニ適フモノナル乎
- 二 外債ニ次クニ外債ヲ以テスルハ人爲的ニ在外正貨ヲ持續セムトスル目的ニ出ツルニアラサル乎果シテ然レハ以テ益我カ財政經濟ヲ紊亂セシムル所以タルヲ免カレスト信ス政府ハ斯ノ如キ彌縫策ニ依頼シテ尙我カ財政經濟ノ基礎ヲ鞏固ニシ得ヘシト信スル乎
- 三 人爲的ノ彌縫策ニ依レル在外正貨ノ持續ハ更ニ我カ貿易ノ輸入超過ヲ助長スル所以ナリト思惟セサル乎
- 四 斯テ又不自然的ニ成レル在外正貨ノ増加ハ延テ益我カ兌換券ヲ膨脹セシメ且物價ヲ騰貴セシムルノ弊ニ陷ラサル乎
- 五 現ニ我カ兌換券ハ其ノ自動的伸縮ノ機能ヲ缺ケルノ實情ニアリ政府ハ之ヲ認メサル乎
- 六 敢テ問フ政府カ募債政略ヲ擲ツ能ハサルハ我カ財政整理ノ根本義ヲ滅却スル所以ニアラサル乎
- 七 更ニ問フ政府ハ通貨膨脹、物價騰貴、輸入超過ニ對シテ果シテ如何ナル方策ヲ執リ如何ナル救濟ヲ施サムトスル乎或ハ之ヲ自然ニ放任セムトスルニアラサル乎

此ノ質問ニ對シ三月二十五日高橋大藏大臣ハ書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲セリ

本質問ノ各項ハ何レモ關聯セルヲ以テ便宜上之ヲ一括シテ左ニ答辯ス

政府ハ出來得ル限り公債募集ヲ避クルノ方針ナルモ例ヘハ鐵道建設改良費ニ要シタル資源ニシテ短期ノ借入金又ハ債券等ノ如キ急速整理ヲ要スルモノハ借換ノ爲起債ノ已ムヲ得サルモノニ屬ス而シテ右ハ内地ニ於テ整理ノ見込立チ難キヲ以テ之ヲ外資ニ仰クニ外ナラス

政府ハ外債募集ノ爲輸入超過兌換券膨脹物價騰貴等ノ惡影響ヲ生セシメサル様常ニ慎重ノ注意ヲ怠ラサル所ニシテ決シテ之ヲ自然ニ放任スルモノニ非ス各種ノ手段方法ニ依リ輸出入ノ均衡兌換券ノ自働的伸縮及物價ノ調節ヲ圖ラムコトヲ期セリ

一六 國防ニ關スル件

二年三月十一日澤來太郎君ヨリ左ノ質問ヲ提出シ同月十八日其ノ趣旨ヲ辯明シタリ

一 本員カ第二十八議會ニ試ミタル國防ニ關スル第十七項質問中「帝國國防ノ方針如何」同シク「國防上陸海軍ノ權衡ヲ失セルニ非スヤ」トノ質問ニ對シ時ノ陸海軍當局者ハ「帝國國防ノ方針ハ自衛ヲ旨トシ國利國權ヲ擁護シ國是ヲ貫徹スルヲ以テ目的トス」又「陸海軍ノ權衡ハ國防ノ本義ニ鑑ミ能ク其權衡ヲ保持セラレツツアリト認ム」ト答辯シタリ現政府モ亦此ノ

答辯ト同意思ナリヤ若同意思ナリトセハ當局者ノ所謂國是及國防ノ本義トハ如何ナル意味ナルカ更ニ具體的ノ説明ヲ求ム

二 同シク「陸海兩軍國防計畫ノ方針如何」トノ質問ニ對シ時ノ當局者曰ク「軍事ノ機密ニ屬スルヲ以テ開示スルコトヲ得ス」ト現政府モ亦同意思ナリヤ若同意思ナリトセハ何故ニ機密ニ屬スヘキモノナルカヲ明示セラレヨ

三 同シク「國防上陸海兩軍ノ權衡ヲ失セルニ非スヤ」トノ質問ニ對シ前項ニモ掲ケタル如ク時ノ政府ハ「其權衡ハ能ク保持セラレツツアリ」ト答辯シタリ現政府モ亦同意思ナリヤ若同意思ナリトセハ其ノ權衡保持ノ標準如何

四 同シク「當局者ノ所謂海陸兩軍ノ並行的擴張ハ國力トノ調節ヲ缺クノ虞ナキカ」トノ質問ニ對シ時ノ當局者曰ク「政府ハ帝國國防ノ本義ニ基キ國力トノ調節ヲ缺カサルノ範圍内ニ於テ陸軍及ヒ海軍ヲ整備シ以テ國防ノ目的ヲ達セント欲ス」ト答辯シタリ現政府モ亦同意思ナリヤ若同意思ナリトセハ帝國現時ノ國防計畫ハ其ノ調節ヲ缺カサル範圍内ニアリト爲スカ果シテ然ラハ其ノ範圍内ナリト云フ理由ヲ具體的ニ明示セラレヨ

五 國防問題ニ關シ第二回豫算會ニ於テ議員大石正己君ノ質問ニ對シ山本首相ハ曰ク「國防ノ大計ハ業ニ已ニ決定セルモノアリ而シテ此ノ決定ハ一定不變ニシテ内閣ノ更迭ニヨリ變更

スルモノニアラス」ト果シテ然ラハ其ノ一定不變ト稱スル國防ノ大計ナルモノ如何

六 同シク山本首相又曰ク「國防ノ事タル海陸兩軍個々ニ計畫ヲ競フモノニ非スシテ必ス統一ノ目的存ス」ト果シテ然ラハ其ノ目的トハ如何ナルモノヲ指スカ

七 又「國防ニ對シ政府ノ執ル所ノ目的ハ外交ノ如何ニ依リテ變化シ我カ帝國ノ地位ニ鑑ミテ計畫シ而シテ時ノ形勢ニヨリテ緩急ヲ異ニシ從ツテ陸海兩軍ノ計畫ニ先後主從ノ別アリ」ト然ラハ即チ現時ノ外交ト帝國ノ地位ニ於テハ其ノ目的ニ如何ノ變化ヲ來シ從テ海陸孰レヲ從トシ孰レヲ主トシ又孰レヲ先トシ孰レヲ後トスヘキモノト認ムルカ

八 國防計畫ト外交トハ密接ノ關係アルコトハ山本首相ノ言明スル所ナリ果シテ然ラハ現時ノ我カ外交ト國防トハ如何ナル調節ヲ保チ又如何ナル方面ニ如何ナル共同的动作ヲ執リツツアルカ

九 殖民問題ハ外交並國防計畫ト密接ノ關係ヲ有スルヤ勿論ナリトス果シテ然ラハ現内閣ノ殖民方針如何又從來執リ來レル滿韓集中策ヲ繼承シ是認シツツアルカ

十 第二次日露協約ニ依リ滿洲ニ於ケル彼我ノ勢力範圍ハ已ニ確定セルモノアリト聞ク果シテ然ラハ其ノ範圍及境界線ヲ明示セラレヨ而シテ又其ノ協約ノ前後ニ於テ我カ軍備ニ如何ナル影響ヲ來シタルカ

十一 我カ現時ノ國防計畫ハ其ノ根本義ニ於テ攻勢的計畫ナリヤ將タ守勢的計畫ナリヤ或ハ又陸海何レカ一方カ攻勢的ニシテ他方カ守勢的ナルカ如キコトナキカ又比較的大陸主義海國主義ノ差異ナキカ

十二 作戰用兵ノ一事ハ絶對的軍事機密ニ屬スルモノナルヲ以テ議會ニ開示スル限ニアラスト雖モ豫算ノ協贊即チ國防費ヲ要求スル上ニ於テ密接不離ノ關係ヲ有スル國防計畫ニ至テハ必ス議會ニ對シテ開示セサルヘカラサルモノト信ス若夫レ計畫ヲ祕シテ單ニ其ノ協贊ノミヲ求メムトスルカ如キハ是レ協贊ヲ求ムルニ非スシテ盲從ヲ強ヒムトスルニ等シ政府ノ所見果シテ如何

十三 國防計畫上若財政ノ如何ヲ顧慮スルコトナク當局者ノ所謂既定ノ大計ヲ理想通ニ完備セムト欲セハ海陸果シテ幾何程度ノ擴張ヲ要スヘキカ

十四 第一回豫算委員會第四分科會ニ於ケル議員大石正己大養毅守屋此助三君ノ二箇增師問題ニ關スル質問ニ對スル山本首相ノ應答中ニ「例ヘハ增師問題ノ如キ海軍充實ノ如キ究竟スル所財政ノ問題ニ順應セサレハ能ハス」ト果シテ然ラハ財政計畫ト國防計畫ト到底兩立スルコト能ハサル場合アリトセハ現政府ハ如何ニ之ヲ取捨セムトスルカ

十五 二箇增師案ナルモノハ山本首相ノ所謂一定不變ノ國防大計中ニ包含セラレサルカ若包含

シアリトセハ其ノ實行期ハ別問題トスルモ同意シ居ラルルモノト解シテ可ナルヘキカ政府ノ所見果シテ如何

十六 又第一回豫算委員會第四分科會ニ於ケル議員大石正己君ノ二箇増師問題ニ關スル質問ニ對シ木越陸相ノ答辯ヲ見ルニ「既定ノ中ニ包含セリト思惟ス」ト既ニ然ラハ「二箇師團限リニテ之ヲ打テ切ル計畫ナルカ」トノ追問ニ對シテ又答フラク「未タ攻究セサルヲ以テ答辯スル能ハス」ト果シテ然ラハ同一政府ニ異見アルヘキ筈キキヲ以テ木越陸相ノ答辯即政府ノ意見ト見テ可ナルヘキカ

十八 木越陸相留任ニ際シ二箇増師問題ニ關シ山本首相トノ間ニ果シテ何等ノ交渉スル處ナカリシカ

十九 現時ノ陸海並行的擴張程度ハ果シテ陸海共通ノ計畫ナリヤ換言スレハ陸軍ノ増師問題ハ海軍ノ同意スル所ニシテ又海軍ノ充實程度ハ陸軍ニ於テ異論ナキ所ナルカ

二十一 前陸軍大臣上原勇作君ハ二箇増師問題ノ爲ニ其ノ職ヲ辭スルニ方リ内閣總理大臣ヲ經由セス直接政治上ノ事由ヲ具シタル辭表ヲ闕下ニ捧呈シタリト聞ク果シテ然ラハ官制上正當ノ行爲ト謂フヘカラス之ニ對スル現政府ノ所見如何又木越現陸相ニシテ若同一ノ場合ニ遭遇セハ果シテ如何ノ態度ニ出テムトスルカ

二十二 豫算委員會第四分科會第一回ニ於ケル議員高木正年君ノ質問即チ「陸軍ノ豫算ニ於テハ其整理節減額竝ニ其要目如何」ト云フニ對シ木越陸相曰ク「目下調査中ニ付答辯スル能ハス」ト應答セリ今尙果シテ然ルカ

二十三 豫算委員總會席上ニ於ケル委員守屋此助君ノ海軍擴張ニ關スル質問ニ對シ齋藤海相ハ海軍充實費總額ハ大凡三億六千万圓ナリト答辯セリ果シテ然ラハ其ノ年度割竝之ニ順應スヘキ財政計畫ヲ明示セラレヨ

諸君、此國防問題ニ關シテハ昨年ノ議會ニ於キマシテモ、十七項ニ互ル質問ヲ試ミマシテ、各項ニ對シテ時ノ政府ハ詳細ニ答辯サレテアッタノデアリマス、然レドモ尙御開キスルデナケレバ、此問題ノ解決上不充分ナリト云フ感ヲ持ッテ居リマス爲メニ、議會ノ切迫致シマシタルニモ拘リマセズ、更ニ本年ノ議會ニ於キマシテ、而モ二十餘項ニ互ル質問ヲ試ムルニ立至ッタノデゴザイマス、言フマデモナク此國防ノ問題ナルモノハ國家ノ存立ニ關スル重大ナル問題デアリマシテ、而シテ其方針ノ立テヤウ其計畫ノ立テヤウ如何ニ依リマシテハ、單リ我財政計畫ノ上ニ至大ナル影響ヲ與フルバカリデナク、或ハ交通機關ノ上ニ、或ハ文教機關ノ上ニ或ハ殖産興業上其他國民生活ノ一般ノ状態ニ對シテ多大ナル惡影響ヲ來スモノデアリマスカラ、此問題ノ解決ナルモノハ取リモ直サズ現在ニ於ケル政治社會ノ、總テノ問題ノ解決デアルト私ハ信ジテ居ルノデゴザイマス、ソレ故ニ議會ノ度毎ニ御清聴ヲ煩スノ已ムナキニ立至ッテ居ルノデゴザイマス、本年ノ豫算委員會其他分科會ニ對シテ、山本首相竝ニ木越陸相ノ御答辯サレタル所ニ依リマスレバ、國防ノ大計畫ナルモノハ業ニ已ニ決定シテ居ルト、斯ウ斷言サレテ居リマスレドモ、本員惟フニツレハ甚ダ疑ハサルヲ得ヌノデゴザイマス、如何ニモ内閣總理大臣トシテ又陸軍大臣トシテハ、其事ハ一向存ジマセヌトハ御答スルコトハ出來マスマイカラ、確ニ此計畫

ハ立ッテ居ルト御答ハ致シマスルモノ、其實全ク此方針未ダ立タズ、計畫未ダ畫セラレテ居ラヌモノト私ハ思フノテゴザリマス、ナゼナレバ首相申サレマシタ通り、此國防ノ計畫ト云フモノハ四圍ノ形勢ト國ノ位置ト國力トニ鑑ミテ、サウシテ此計畫ヲ立テナケレバナラヌト云フコトデアリマスルガ、如何ニモ其通りデアル、四圍ノ形勢若クハ帝國ノ位置並ニ國力ノ如何、此三方面ニ鑑ミマシテ而シテ此大本ヲ立テナケレバナラヌデアリマスケレドモ、其言葉ヤ甚ダ抽象的デアリマシテ、一モ具體的ニ御説明ニナッテ居ラレマセヌカラ、漠トシテ捉フベカラザル感ニ堪エナイデアル、殊ニ此國防ノ方針ヲ立テマスル上ニ於テ、就中最モ重キモノハ何デアルカト云フト、即チ外交ノ關係國際ノ關係デアル、而シテ我國ノ此外交ノ方針ナルモノハ、果シテ一定不變ノ軌道ヲ歩ンデ居ルカドウカト云ヘバ、是亦例年ノ議會ニ於テ屢、同僚諸君ヨリ質問サレマシタ通り、ドウモ日本ノ外交方針ナルモノガ未ダ確定シテ居ルモノト見ルベキモノハナイヤウニ思ハレルデアアル、第一ニ鑑ミンケレバナラヌトコロノ此外交ノ方針ナルモノガ確定致サヌ以上ハ、此國防ノ方針ナルモノ、到底確立スル譯ハナイデアアル、何トナレバ我外交ノ有様ヲ見ルノニ、我外交ハ軍艦ノ先キニ立ッテ居ラヌデアアル、師團ノ先キニ立ッテ居ラヌデアアル、何時モ軍艦ノ蔭ニ隠レ、師團ノ後ニ退イテ居ルノデゴザイマス、即チ我國ニハ所謂國防的外交ト云フモノハ未ダ曾テ施サレテ居ラヌト云ッテモ、敢テ過言デナイト信ジマスル、國防的外交ニシテ完全ニ行ハレテ居ルナレバ、假令軍備ガ不確定不完全デアッテモ、其不完全ナル軍備ヲシテ完全ナラシムル作用ノアルノガ即チ此外交ノ作用デアル、所ガ惜イカナ未ダ我國ニハ此底ノ大乗的外交ト云フモノハ立ッテ居ラヌヤウニ思フノデゴザイマス、之ヲ又一般カラ評シテ見マスルト、從來我國ノ國防計畫ナルモノハ軍人ト云フ此僅カノ團體ニ於テノミ計畫サレテ居ル、言葉ヲ換ヘテ之ヲ言ヘバ官僚的國防ハゴザイマシタケレドモ、未ダ曾テ國民的國防ト云フモノハ畫セラレテ居ラナカッタノデゴザイマスル、ソレ故ニ此國防ノ大方針ナルモノガ定マッテ居ラマセヌカラ、從ッテ此方針ヨリ割出サレテ計畫スルトコロ、陸海軍ノ計畫ト云フモノモ、亦併セテ立ッテ居ラヌデアアル、若シ立ッテ居ルト言ハル、ナラバ、然ラバ如何ナル方針ニ基イテ陸軍ハ如何ナル事ヲ標準ニシテ如何ナル程度ニ計畫シテ居ルカ、海軍又同様ニ如何ナル標準ヲ以テ如何ナル計畫ヲ立テ、居ルト云フコトヲ承リタイノデアリマス、若夫レ我國ノ外交ニシテ、國防的外交ヲ施シ孫子ノ所謂「百戰百勝ハ善ノ善ナルモノニ非ス、戰ハスシテ人ノ兵ヲ屈スルハ善ノ善ナルモノナリ」ト謂フタ如ク、此ノ如キ大乗的外交ガアッタナラバ、何ヲ苦ンデ今ヤ財政難

ニ窮シテ居ルトコロノ此場合ニ於キマシテ、或ハ海軍ノ充實ト云ヒ、或ハ師團ノ擴張ト云ヒ、ソレヲ無理ヤクニヤラナケレバナラヌト云フ必要ハ無イデアアル、所謂戰ハズシテ人ノ兵ヲ屈スルト云フ底ノ大乗的外交ガアリマセヌタメニ、吾々ハ此問題ノタメニ、一般國民モ此問題ノタメニ、諸君モ此問題ノタメニ、毎年御憂慮サレテ居ルノデアラウト思ヒマス、而シテ本員ノ問ハント欲スルトコロノ條項ハ、唯今モ申上ゲマシタ通り、二十數項ニ亙ッテ居リマスルカラ、此各項ニ對シテ一々辯明ヲ加フルニ至リマシテハ、到底本日一日ヲ費シテモ辯明シ切レヌコト、思ヒマス、ソレ故ニ此箇條ヲ一々朝讀致シマシテ、其中是非トモ辯明ヲ致サンケレバナラヌト思ヒマスルニ二三ノ條項ニ就テ辯明ヲ試ミヤウト思ヒマス、國防ニ關スル質問主意書、一、本員カ第二十八議會ニ試ミタル國防ニ關スル第十七項質問中「帝國國防ノ方針如何」同シク「國防上陸海軍ノ權衡ヲ失セルニ非スヤ」トノ質問ニ對シ時、陸海軍當局者ハ「帝國國防ノ方針ハ自衛ヲ旨トシ國利國權ヲ擁護シ國是ヲ貫徹スルヲ以テ目的トス」又「陸海軍ノ權衡ハ國防ノ本義ニ鑑ミ能ク其權衡ヲ保持セラレツツアリト認ム」ト答辯シタリ現政府モ亦此ノ答辯ト同意思ナリヤ若同意思ナリトセハ當局者ノ所謂國是及國防ノ本義トハ如何ナル意味ナルカ更ニ具體的ノ説明ヲ求ム、是ガ第一項デス、二、同シク「陸海兩軍國防計畫ノ方針如何」トノ質問ニ對シ時ノ當局者曰ク「軍事ノ機密ニ屬スルヲ以テ開示スルコトヲ得ス」ト現政府モ亦同意思ナリヤ若同意思ナリトセハ何故ニ機密ニ屬スヘキモノナルカラ、明示セラレヨ、此項ニ就テチヨット申シテ置キマス、國防計畫ガ機密デアルト云フノガ私ハ分ラヌトデス、如何ニモ作戰計畫並ニ用兵上ノ事ニ至リマシテハ、是ハ參謀本部ノ内ニ於キマシテモ、機密中ノ機密ニ屬シテ居ルノデアルケレドモ、此國防ノ計畫ガ機密デアアルカラシテ開示スルコトガ出來ヌト云フコトハ、到底私ノ臆ニ落チヌデアアル、何トナレバ若シ此計畫ナルモノヲ議會ニ對シテ機密ニシ、諸君、吾々ニ對シテ開示スルコトヲセヌナラバ、如何ナル理由ヲ以テ此計畫ニ伴フトコロノ經費ヲ要求スルノデゴザイマセウ、經費ヲ要求スルニ付キマシテハ、是レ々々ノ計畫デアルニ因テ之ニ必要ナル費用デアルト云フ理由ヲ添ヘナケレバナラヌデアラウト思フデアアル、所ガ計畫ハ到底才前方ニ開示スルコトハ適ハヌガ、此經費ノ點ニ於テノミハ是非協贊ヲ與ヘテ異レト云フガ如キコトハ、昨年ノ議會ニ於テモ申上ゲマシタ通り、例ヘバ會社銀行ノ設計目論見ヲ機密ニシテ、サウシテ株券ノ拂込ノミヲ請求スルト、同一事由デアラウト思フノデアリマス、然ルニ曩キノ内閣時ノ政府ハ、之ヲ機密ナリトシテ明カニ御答ニナッテ居ラヌデアリ

マス、現政府ハ又曩キノ政府ト同ジク、ヤハリ此國防ノ計畫ナルモノヲ飽マテ議會ニ對シテ秘密ニセンケレバナ
 ラヌト云フ考ヲ御持チニナツテ居ルカドウカ、之ヲ承リタイノデアリマス、二、同ジク「國防上陸海兩軍權衡ヲ失
 セルニ非スヤ」トノ質問ニ對シ前項ニモ掲ゲタル如ク、時ノ政府ハ「其權衡ハ能ク保持セラレツツアリ」ト答辯シ
 タリ、現政府モ亦同意思ナリヤ、若同意思ナリトセバ、其權衡保持ノ標準如何、時ノ政府ハ唯權衡ハ能ク保
 持セラレテ居ルト答ヘタバカリテ、其標準ヲ示サナカッタデアリマス、故ニ私ハ現政府ニシテ又同意思ナリトセ
 バ其權衡ヲ保持サレテ居ル保持ノ標準ヲ承リタイ、四、同ジク「當局者ノ所謂海陸兩軍ノ並行的擴張ハ國
 力トノ調節ヲ缺クノ虞ナキカ」トノ質問ニ對シ時ノ當局者曰ク「政府ハ帝國國防ノ本義ニ基キ國力トノ調節
 ヲ缺カサルノ範圍内ニ於テ陸軍及海軍ヲ整備シ以テ國防ノ目的ヲ達セント欲ス」ト答辯シタリ現政府モ亦
 同意思ナリヤ若同意思ナリトセハ帝國現時ノ國防計畫ハ其ノ調節ヲ缺カサル範圍内ニアリト爲スカ果シテ
 然ラハ其ノ範圍内ナリト云フ理由ヲ具體的ニ明示セラレヨ、五、國防問題ニ關シ第二回豫算會ニ於テ議員
 大石正己君ノ質問ニ對シ山本首相ハ曰ク「國防ノ大計ハ業ニ已ニ決定セルモノアリ而シテ此ノ決定ハ一定
 不變ニシテ内閣ノ更迭ニヨリ變更スルモノニアラス」ト果シテ然ラハ其ノ一定不變ト稱スル國防ノ大計ナルモ
 ノ如何、六、同ジク山本首相又曰ク「國防ノ事タル海陸兩軍個々ニ計畫ヲ競フモノニ非スシテ必ス統一ノ目
 的存ス」ト果シテ然ラハ其ノ目的トハ如何ナルモノヲ指スカ、七、又「國防ニ對シ政府ノ執ル所ノ目的ハ外交
 ノ如何ニ依リテ變化シ我カ帝國ノ地位ニ鑑ミテ計畫シ而シテ時ノ形勢ニヨリテ緩急ヲ異ニシ從テ陸海兩軍
 ノ計畫ニ先後主従ノ別アリ」ト然ラハ即チ現時ノ外交ト帝國ノ地位ニ於テハ其ノ目的ニ如何ノ變化ヲ來シ
 從テ海陸孰レヲ從トシ孰レヲ主トシ又孰レヲ先トシ孰レヲ後トスヘキモノト認ムルカ、果シテ山本首相ノ申サレ
 マシタ通り、國防ノ計畫ナルモノハ外交ノ如何ニ依リテ變化スルモノデアッテ、時ノ形勢ニ依テ緩急ヲ異ニスル
 モノデアルトスレバ、現在我ガ外交状態ヨリ見テ帝國ノ地位ニ鑑ミテ、而シテ時ノ形勢ニ微シ果シテ孰レヲ緩
 トシ、孰レヲ急トスルノデアルカ、言葉ヲ換ヘテ言ハバ孰レヲ先トシ孰レヲ後トスルノデアルカ、所謂陸主海從カ、
 海主陸從カ、或ハ陸先海後カ、海先陸後カ、此點ヲ明瞭ニ御答アラント希望スルノデアリマス、八、國防
 計畫ト外交トハ密接ノ關係アルコトハ山本首相ノ言明スル所ナリ果シテ然ラハ現時ノ我カ外交ト國防ト
 ハ如何ナル調節ヲ保チ又如何ナル方面ニ如何ナル共同的動作ヲ執リツ、アルカ、九、殖民問題ハ外交並國

防計畫ト密接ノ關係ヲ有スルヤ勿論ナリトス果シテ然ラハ現内閣ノ殖民方針如何又從來執リ來レル滿韓
 集中策ヲ繼承シ是認シツ、アルカ、曩ニ桂内閣時代ニ於キマシテハ、我ガ移民ノ方針即チ殖民政策ナルモノ
 ヲ議院ニ開示スルニ當リテ、滿韓集中策ヲ執リテ居ルト云フコトヲ言明サレタノデゴザイマス、現政府モ亦果シ
 テ此滿韓集中策ヲ繼承シ、是認サレツ、アルモノカドウカ、此問題ハ我ガ國防政策ヲ定ムル上ニ於テ至大密
 接ノ關係アルモノデアリマスカラ、特ニ明白ナル御答ヲ希望スルノデアリマス、十、第二次日露協約ニ依リ滿洲
 ニ於ケル彼我ノ勢力範圍ハ已ニ確定セルモノアリト聞ク果シテ然ラハ其ノ範圍及境界線ヲ明示セラレヨ而シ
 テ又其ノ協約ノ前後ニ於テ我カ軍備ニ如何ナル影響ヲ來シタルカ、此一項ハ或ハ軍機ノ機密ニ互ツテ居ルカ
 モ知レマセヌカラ、若シ機密ニ互ツテ居ルモノト致シマスレバ秘密會議デモ宜シウゴザイマスカラ、吾々國民ガ如
 何ニモサウデアアルカト合點致スヤウニ御答下サルコトヲ望ミマス、十一、我カ現時ノ國防計畫ハ其ノ根本義ニ
 於テ攻勢的計畫ナリヤ將タ守勢的計畫ナリヤ或ハ又陸海何レカ一方カ攻勢的ニシテ他方カ守勢的ナルカ
 如キコトナキカ又比較的大陸主義海國主義ノ差異ナキカ、十二、作戰用兵ノ一事ハ絕對的軍事機密ニ屬
 スルモノナルヲ以テ議會ニ開示スル限ニアラスト雖モ豫算ノ協贊即チ國防費ヲ要求スル上ニ於テ密接不離ノ
 關係ヲ有スル國防計畫ニ至テハ必ス議會ニ對シテ開示セサルヘカラサルモノト信ス若夫レ計畫ヲ祕シテ單ニ
 其ノ協贊ノミヲ求メムトスルカ如キハ是レ協贊ヲ求ムルニ非スシテ盲從ヲ強ヒムトスルニ等シ政府ノ所見果シ
 テ如何、是ハ先刻モチヨツト辯明シテ置キマシタカラ、辯明ヲ省キマス、十二、國防計畫上若財政ノ如何ヲ顧
 慮スルコトナク當局者ノ所謂既定ノ大計ヲ理想通ニ完備セムト欲セハ海陸果シテ幾何程度ノ擴張ヲ要スヘ
 キカ、十四、第一回豫算委員會第四分科會ニ於ケル議員大石正己君養毅守屋此助三君ノ二箇增師問
 題ニ關スル質問ニ對シ山本首相ノ應答中ニ「例ハ増師問題ノ如キ海軍充實ノ如キ畢竟スル所財政ノ
 問題ニ順應セサレハ能ハス」ト果シテ然ラハ財政計畫ト國防計畫ト到底兩立スルコト能ハサル場合アリトセハ
 現政府ハ如何ニ之ヲ取捨セムトスルカ、十五、二箇增師案ナルモノハ山本首相ノ所謂一定不變ノ國防大計
 中ニ包含セラレサルカ若包含シアリトセハ其ノ實行期ハ別問題トスルモ同意シ居ラルモノト解シテ可ナルヘキ
 カ政府ノ所見果シテ如何、十六、又第一回豫算委員會第四分科會ニ於ケル議員大石正己君ノ二箇增師
 問題ニ關スル質問ニ對シ木越陸相ノ答辯ヲ見ルニ「既定ノ中ニ包含セリト思惟ス」ト既ニ然ラハ「二箇增師團

限リニテ之ヲ打切ル計畫ナルカトノ追問ニ對シテ又答フラク「未タ攻究セサルヲ以テ答辯スル能ハス」ト果シテ然ラハ同一政府ニ異見アルヘキ筈ナキヲ以テ木越陸相ノ答辯即チ政府ノ意見ト見テ可ナルヘキカ、十七、木越陸相ノ留任ニ際シニ箇増師問題ニ關シ山本首相トノ間ニ果シテ何等ノ交渉スル所ナカリシカ、此點ニ關シテ山本首相ガ委員會ニ對シテ説明サレマシタル所ニ依レハ、何等ノ交渉モ無カッタモノ、如クニ御答ニナツテ居ラル、而シテ一方木越陸相ハドウ云フコトヲ言ハレテ居ルカト云フト、此問題ハ内閣更迭ノ爲メニ豫算ニ計上スルコトガ出來ナカッタハカリデアル、斯ウ答ヘラレテ居ルデアリマス、首相ノ説明ト陸相ノ説明トヲ對照シテ見マスレバ、其間ニ何等カノ交渉ガアッタニ相違ナイト推スヨリ外ニ途ハ無イデアリマス、果シテツレトモ御交渉ガ無カッタデアルカ、若シアッタトスレバ如何ナル御交渉ガアッタデアルカヲ承リタイデアリマス、十八、現時ノ陸海並行的擴張程度ハ果シテ陸海共通ノ計畫ナリヤ、換言スレバ陸軍ノ増師問題ハ海軍ノ同意スル所ニシテ、又海軍ノ充實程度ハ陸軍ニ於テ異論ナキ所ナルカ、本員想フニ陸海交ニ國防費ノ分捕ヲ競争シテ居ルヤウニ思ハル、ソレ故ニ此問題ハ是非御伺シテ置カナケレバナラヌ必要ガアルデアリマス、十九、前陸軍大臣上原勇作君ハ二箇増師問題ノタメニ其職ヲ辭スルニ方リ、内閣總理大臣ヲ經由セズ直接政治上ノ事由ヲ具シタル辭表ヲ闕下ニ捧呈シタリト聞ク、果シテ然ラバ官制上正當ノ行爲ト謂フベカラズ、之ニ對スル現政府ノ所見如何、又若シ木越現陸相ニシテ同一ノ場合ニ遭遇セバ果シテ如何ノ態度ニ出デントスルカ、是ハ前ノ方ハ前内閣ノコトデアルカラ答フル限リデナイト御答ニナルカモ知レマセヌ、然ラバ試ミニ問ハシ、若シ木越現陸相ニシテ前ノ陸軍大臣ノ如ク此ノ一箇師團増設問題ノ爲メニ現内閣ト衝突ヲ見ルノ已ムベカラザル場合ニ際會シタナラバ、果シテ如何ノ態度ニ出デラレントスルデアルカ、之ヲ豫メ吾々ハ承知シテ置キタイト思フデアリマス、即チ陸軍官制ノ憲政運用ニ大ニ支障アル所以ハ、此ニ存シテ居ルデアル、聞ク所ニ依レバ軍人界ニ於ケル程社會主義ヲ憎ムモノハ無イト云フコトデアル、無政府主義ハ無論大ニ之ヲ厭ウテ居ルサウデアルケレドモ、諸君、曩ニ上原陸軍大臣ノ態度ニ徴シテ見レバ、陸軍ハ無政府主義ナルモノヲ實行シテ居ルト私ハ斷言スルニ躊躇セヌデアル、何トナレバ西園寺内閣時代ニ於テ二箇師團増設ニ對シテハ、陸軍大臣ヲ除イタル所ハ一人モ之ニ贊成スル者ガ無カッタデアアル、此増師問題ニ贊成ノ國務大臣ハ陸軍大臣一人シカ無カッタデアアル、然ルニ時ノ陸軍大臣ハ内閣會議ノ決定ニ服スルコトナク、唯今讀上ゲマシタ

通り辭表ヲ闕下ニ捧呈スルニ至ッタデアアル、其結果再ビ陸軍大臣ヲ得ント欲スルモ、到底得ベカラザルノ境遇ニ立至ッテ、西園寺内閣ハ御承知ノ通り倒レタデアアル、諸君、苟モ此會議ニ列シタル以上ハ、其會議ノ性質トシテ多數決ニ服從スルノ義務ハ前定サレテ居ルデアアル、然ルニ己レノ意見ガ容レラレナイカラトシテ、陸軍ノ威信ガ立たヌト云フ口實ヲ以テ、内閣ノ所謂會議ノ決定ニ服セズシテ、己レ獨リ超然トシテ去ルガ如キハ、取りモ直サズ政府ヲ無視スルモノデアアル、故ニ私ハ是ハ無政府主義ヲ實行シタルモノデアアルト思フデアアル、況ヤ再ビ陸軍大臣ヲ得ント欲スレバ、更ニ今度ハ同盟罷官ヲ企テ、陸軍同盟ヲ企テ、「ストライキ」ヲ企テ、再ビ陸軍大臣ヲ得ントシテモ得ルコト能ハナイヤウニ、同盟罷工ト云ッタ失禮デアリマセウガ、同盟罷官ヲ企テ、是レ即チ陸軍自ラ無政府主義ヲ實行シ、社會主義ヲ實行シタルモノナリト云フモ、之ニ對シテ相當ノ御答ノ辭ガ無カラウト私ハ信ズルデアリマス、二十、豫算委員會第四分科會第一回ノ會ニ於ケル議員高木正年君ノ質問、即チ「陸軍ノ豫算ニ於テハ其整理節減額並ニ其要目如何」ト云フニ對シ木越陸相曰ク「目下調査中ニ付キ答辯スル能ハス」ト應答セリ、今尙果シテ然ルカ、二十一、豫算委員會總會席上ニ於ケル委員守屋此助君ノ海軍擴張ニ關スル質問ニ對シ、齋藤海相ハ海軍充實費總額ハ大凡二億六千万圓ナリト答辯セリ、果シテ然ラバ其年度割並ニ之ニ順應スベキ財政計畫ヲ具體的ニ明示セラレヨ、大要斯ル條項デゴザイマス、此各項ニ對シテ必ズヤ昨年ノ議會同様、誠意ヲ以テ御答ヘ下サルニ相違ナイト信ジマスガ、此中ニハ所謂軍事ノ機密ラシキモノモ往々混ツテ居ルト思ヒマス、果シテサウ云フ箇條ガアリマシタナラバ、是ハ公會デナクテモ秘密會ノ席ニ於テ承リタク存ズルデアリマス、尙終リニ臨ンデ附加ヘテ申上ゲテ置キタイコトハ、總テ此國防ノ計畫ナルモノハ四圍ノ形勢ト云フモノニ重キヲ措カナケレバナラヌコトハ、既ニ申上ゲタ通りデゴザイマスガ、然ルニ山本首相ガ二月二十七日ノ開會ニ際シテ、御演說ニナラレタル所ニ依リマスレバ、四圍ノ形勢ハ或ハ陸軍ヲ擴張シ或ハ海軍ヲ擴張スルガ如キ形勢ニナツテ居ラヌコトヲ明白ニ御演說ニナラレテ居リマス、即チ上方ヲ略シマシテ「諸君帝國ト列國トノ交際ハ前内閣總理大臣ガ本議場ニ於キマシテ開陳致シマシタル如ク、益々親善ヲ加ヘ英國トノ同盟ハ愈々鞏固ニ、日佛日露ノ兩協約ハ益々實效ヲ收メツ、アリマスノハ諸君ト共ニ大ニ喜ブ所デゴザイマス」吾々國民ニ對シテ内閣首相ガ外交的辭令ヲ用ヒサル限リハ此通りニ相成ツテ居ルモノト承知シテ差支ナイト私ハ思フ、果シテ然ラバ四圍ノ形勢或ハ陸軍ノ二箇師團ヲ増設シ、

或ハ海軍ヲ充實スルト云フガ如キ必要安クニ在ルカ、若シアリトスレバ此時御演説ニナリマシタル四圍ノ形勢ナルモノハ、嘘ニナラナケレバナラヌノデアリマス、併セテ此事ヲモ承リタク存スルノデオザイマス、甚ダ長イ時間御清聴ヲ煩シマシテ感謝ノ至ニ堪ヘマセヌ

此ノ質問ニ對シ三月二十六日山本内閣總理大臣、牧野外務大臣、木越陸軍大臣及齋藤海軍大臣ハ書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲セリ

- 一 現當局亦同意思ナリ國防ノ本義ハ維新以來帝國ノ採リツツアル大方針ニ依リ自衛ノ趣旨ニ基キ國利國權ヲ擁護シ國是ヲ貫徹スルニ在リ
- 二 現當局亦同意思ナリ國防計畫ノ方針ハ軍事ノ機密ニ屬スルコト説明ヲ俟タス
- 三 現當局亦同意思ナリ陸海軍ノ勢力整備ハ國防計畫ノ定ムル所ナリ
- 四 現當局亦同意思ナリ陸海軍現在ノ施設ハ國力トノ調節ヲ缺カサルモノト認ム
- 五 軍事ノ機密ニ屬スルヲ以テ開示スルコトヲ得ス
- 六 陸海兩軍相俟テ國防計畫ヲ遂行スルヲ目的トス
- 七 國防ニ關シテハ陸海軍ニ先後主従ノ別ナシ
- 八 外交ト國防トハ常ニ能ク其調節ヲ保タサルヘカラサルハ言ヲ俟タス而シテ現時何レノ方面ニ於テモ圓滿ニ共同的動作ヲ執リツ、アリ
- 九 政府ハ朝鮮ハ勿論我版圖ニ接近セル地方ニ内地人ノ益々移住繁殖スルコトヲ希望スト雖他

ノ方面ニ對シテモ調査ヲ怠ラス利益アリト認ムル限リ移住ノ便ヲ圖ルノ方針ナリ

十 明治四十三年七月四日ノ日露協約ハ當時已ニ公表シタリ其ノ協約ニ質問ノ如キ事項ヲ定ムルコトナシ

十一 第五ノ質問ニ對シ答辯シタルカ如シ

十二 軍事機密ニ屬セサル限リ誠意ヲ以テ勉メテ詳細ニ説明スヘシ

十三 第五ノ質問ニ對シ答辯シタルカ如シ

十四 政府ハ國防計畫ト財政計畫ト相順應スルヲカム

十五 國務大臣ノ答辯ハ固ヨリ政府ノ意見ヲ發表セルモノナリト雖國防大計ノ内容ハ茲ニ明言スルノ限リニ在ラス

スルノ限リニ在ラス

十八 答辯ノ限ニ在ラス

十九 軍備ノ擴張及補充ハ政府之ヲ決シ帝國議會ノ協贊ヲ得テ之ヲ實行スヘキモノナリ陸海軍相互間ニ於ケル同意不同意ノ問題ニ非ス

二十一 答辯ノ限ニ在ラス

二十二 然リ

二十三 大正三年度以降ノ財政計畫ハ茲ニ言明スル能ハス

一七 米穀其ノ他取引所ニ關スル件

二年三月十一日小西和君ヨリ左ノ質問ヲ提出同月十八日其ノ趣旨ヲ辯明シタリ

一米穀其ノ他取引所ノ現状ニ對スル政府ノ所見如何

一不日營業期間ノ滿了ト爲ルヘキ米穀其ノ他取引所ニ對スル政府ノ方針如何

(前畧)諸君、本員ガ政府ニ問ハント欲スルトコロハ、米穀其他取引所ニ關スル件デゴザイマス、申スマデモナク取引所ノ設立ノ目的トスルトコロハ、米穀其他商品ノ價格ヲ最モ適當ナ最モ公平ナ點ニ維持シテ、其賣買取引ノ圓滑ヲ圖ツテ、サウシテ産業並ニ經濟ノ上ニ裨益スルニアリマス、隨テ取引所ガ必要ナルト云フコトニ付テハ、本員トモ固ヨリ何等ノ異論ヲ挾ムモノデハゴザイマセヌ、全國ニ散在セル四十餘箇所ノ取引所ガ、立派ニ其本能ヲ發揮致シ美事ニ其機關ヲ活動シ、ソシテアップレ取引所設立ノ目的ニ向ッテ進ミツ、アルノデゴザイマスナラバ、本員ハ何モ好シデ此質問ヲ提起スルモノデハゴザイマセヌ、然ルニ現在ニ於ケル取引所ノ状態ヲ通覽致シマスルト云フト、遺憾ナガラ之ヲ惡用致シマスル者ガ極メテ多イノデアアル、言葉ヲ換ヘテ申シマスレバ、是ガ設立ノ目的ニ背反シテ進ンデ居ル次第アリマス、論ヨリ證據、全國ニ於ケル取引所ノ取引高ヲ見マスルト云フト、何レモ皆増加ノ一方デゴザイマシテ、現状ノ維持若クハ取引高ノ減少ト申シマスルヤウナ場所ハ殆ド見受ケナイノデアリマス、併ナガラ更ニ一步ヲ進メテ之ガ實際ノ受渡高ヲ見マスルト云フト、ソレハ總取引高ノ多イノトハ全ク反對デアリマシテ、意外ニモ極メテ僅少ノ額ニ過ギナイノデアアル、即チ僅ニ百分率ヲ以テ勘定シナケレバナラヌト云フヤウナ状態デゴザイマス、斯ル事實ガ舉リマスルノハ疑モナク眞面目ナ取引ハ曉天ノ星モ宙ナラヌ、反對ニ濡手デ粟、一時ヲ僥倖スルト云フ種類ノ取引ガ恰モ暗夜ノ星ノ如クニ澤山デアルト云フコトヲ

證明シテ居ルモノト思ヒマス、斯ノ如ク不健全ナ取引ガ盛行ハレマスル結果ハ、相當ノ資産ヲ持ッテ居リマスル者ガ倒産ノ不幸ニ陥リ、或ハ堅實ナ中流社會ノ者ガ社會ノ下級ニ沈淪致スト云フヤウナ實例ガ決シテ珍ラシクナイノデゴザイマス、斯ル始末ヲ告ゲマスルコトハ、啻ニ一身一家ノ不幸デアアルノミナラズ、又實ニ一國ノ不幸デアルト信スルノデゴザイマス、諸君ノ御承知ノ通り政府ハ屢ニ互ニ矛盾セル政策ヲ取ルノデ、是ハ本員ノ頗ル遺憾トスル所デアリマスガ、此取引所ニ付テ見マシテモ、一方ニ於テハ地方ニ青年會ヲ設立サセ、産業組合ヲ獎勵致シ農家ニ對シテハ副業ヲ獎勵致スト云フヤウナ状態デアリマシテ、一時間デモ二分間デモ能ク働ケ、繩ヲ絢ヘ、一錢一厘デモ餘計ニ貯蓄ヲシト云フヤウナ方針ヲ執ッテ居リマス、是ハ至極結構デアアルノハ勿論デアリマスケレドモ、其反對ニ不健全ナル取引ガ盛行ハレマスル結果、一方ニ於テハ一時ニ數万數十万ノ金錢ヲ失ヒ、或ハ之ヲ得ルモノガアリマスレタメニ、青年會ノ仕事、或ハ農家ノ副業、是等ノモノハ馬鹿臭クテ出來ナイト云フヤウナ狀況ヲ各地ニ時イテ居ルノデアリマス、サウシテ是ガ爲ニ國民ノ思想ガ射利ニ奔リ、正業ヲ厭ヒ、徒食ヲ喜ブト云フモノガ増加スル始末ニナッテ居リマス、是ハ一國ノ風紀上最モ恐ルベキ最モ憂フベキ現象デアルト思フノデゴザイマス、サウシテ之ガタメニ國民ノ健全ナル思想ヲ喪失サセルコトハ、決シテ等閑視スルコトハ出來ナイ、實ニ重大ナ國家的ノ問題デアルト思フノデアリマス、取引所ヲシテ斯カル状態ニ陥ラセタコトハ、本員ノ見ル所ヲ以テシマスレバ政府ハ大ナル失敗ノ結果デアルト申スノニ躊躇致サヌ、サウシテ其結果トシテ現在ノヤウナ惡風ヲ馴致シタノデアルト信スルノデアリマス、ソコデ政府ハ甚シイ弊害ニ陥ッテ居ルノナラバ、此善後策、シテ如何ナル處置ヲ執ル積リテアルカ、之ニ對シ政府ノ意見ヲ伺ヒタイノガ、即チ本員ノ第一ニ質問セント欲スル所デアリマス、今一ツ第二ニ質問ガアルノデアアル、ソレハ米穀其他ノ取引所ノ營業期間ハ、本年カ若クハ來年ハ滿了スルノデアリマス、之ニ對シテ政府ガ如何ナル方針ヲ取ルノデアアルカ之ヲ伺ヒタイノデアアル、思フニ最初政府ガ全國ニ數十箇所ト云フ驚クベキ多數ノ取引所ヲ設ケタコトガ、早クモ取引所ニ對スル政策ヲ誤ッタ始メデアリマス、取引所ガ澤山ニアリ過ギルタメニ、先程申上ゲタヤウナ様ノ弊害ガ起ッタノデアリマスガ、若シモ此數ガ少カッタナラバ、サウシテ米穀其他商品ノ大ナル集散地ニ限リ二三ノ大都會ニ限リ其處ニノミ取引所ガアツテ、此處ニ出ナケレバ取引所コトガ出來惡イト云フヤウナ状態デアリマシタナラバ、斯カル惡風ニ感染スル

モノハ極メテ少ナカッタニ相違ナイト思フノデアリ、取引所が餘リ澤山ニアリ過ギル爲メニ、至ル所ヲ取引ガ詰リ相場ニ手ヲ出シ得ルト云フ現在ノ状態ニ立至リマシテ、サウシテ種々ノ弊害ト様々ノ惡風ヲ生ジマシタガ、取引所が多過ギルタメニハ、此外ニモ尙見通スコトノ出來ナイトコロノ弊害ガ起ツテ居ルノデアリマス、ツレハ米價ヲ人爲的ニ騰貴セシムルコトデアリマス、全體米ノ買占ヲ致シテ其價格ヲ人爲的ニ騰貴サセルト申スコトハ、一部ノ人々ガ盛ニ唱道致スコロゴザイマスケレドモ、本員ハ米ノ買占ニ依ツテ少數ノ人々ガ米、直段ヲ人爲的ニ高メルナド、云フコトハ、容易ニ行ハレルモノデアナイト信ジテ居ルノデアリマス、併ナガラ各地ニ取引所ガ澤山ニアル結果、到ル所デ、米ノ買占ヲ致スモノガ起ツタ場合ニハ、此米ノ買占ヲ致スモノガ正米ヲ引取ルガ如キ態度ニ出ルノデアリマス、サウ致シマスル賣方ニ廻ツテ居ル者モ、自衛上米ヲ準備致シテ之ニ對抗スル策ヲ取ラナケレバナラヌト云フコトニナツテ參ル、其結果ハ賣方ガ正米ノ準備ヲ致スノデ、從ツテ米ノ假需用ヲ起スト云フコトニナリマシテ、延テ米ノ集散ヲ妨ゲ調節ヲ亂スト云フヤウナコトハ、屢見ル所ノ現象デアリマス、是ガ米ノ價格ヲ高メ延テ米價問題ノ聲ヲ高メ、多數ノ國民ヲ苦メルコトニ大ナル關係ヲ持ツテ居ルト思フノデゴザイマス、翻ツテ見マスルニ、初メ米穀取引所ヲ設ケマスル時分ニハ、現在ト大ニ事情ヲ異ニシテ居マシタ、故ニ多數ノ取引所ヲ拵ヘマシテモ、其當時ハ格段ノ不都合ガナカッタカモ知レヌノデアリ、最初取引所ヲ拵ヘル場合ニ、政府ガ八方美人主義ヲ執リ澤山ニ之ヲ許シ過ギタ事實ハアリマスケレドモ、而モ尙大ナル弊害ヲ助成スルニハ至ラナカッタノデアリ、然レニ今ハ運輸交通乃至通信ノ機關ガ非常ニ發達ヲ致シテ參ツテ、又一方カラ見マスルト不眞面目ナ取引ヲ致シテ、一時ヲ僥倖セント望ムモノガ澤山ニ出來テ參ツテ、ツレガ爲メニイロノノ弊害ガ湧イテ參ルヤウニナツタ今日、多數ノ取引所ト云フモノハ斷ツテ不必要デアルト信ズルノデアリマス、蓋シ政府ハ取引所問題ニ付テハ、從來幾多ノ苦イ經驗ヲ持ツテ居ルノデアリ、本員ノ知ルトコロヲ以テシマスレバ、農商務大臣ガ政變以外ニ於テ更迭ヲ見ナケレバナラヌト云フヤウナコトガアッタノハ、單ニ取引所問題ノ場合ニ限ツテ居ルヤウデアリ、又取引所ノ問題ニ付テハ、行政裁判ヲ起サレテ、サウシテ政府ガ敗訴ニ歸シタ場合モ珍シクナイヤウニ思フノデアリマス、而モ政府ハ前回ニ取引所ノ營業期間ガ滿了致シマスル場合、既ニ此數ヲ減スト云フ策ヲ取ラウト試ミタ事實ガアルノデアリマス、是ハ本員ナドノ大ニ贊成ヲ致ス所デ、取引所ノ數ヲ減ズト云フコトハ、理ノ當然、須ラクヤラナケレバナラヌコト、信ジテ居ルノデアリマス、ツコデ多數ノ取引所ハ不日

營業ノ期間ガ滿了致シマスカラシテ、之ヲ良イ幸ヒト致シテ、是等ノ取引所ヲ減ラセル策ヲ取リ、單ニ必要ナル二二三ノ箇所ニ限ツテ、取引所ノ存續ヲ許シテ然ルベキデアルト信ジテ居リマス、之ニ對シテ政府ハ果シテ如何ナル方針ヲ取ラウトスルノデアルカ、營業ノ期間ガ目睫ノ間ニ迫ツテ居ル今日デアルカラシテ、政府ハ最早之ニ對スル方針ヲ定メテ居ルコト、信ズル、又是ガ定ツテ居ラナケレバナラヌ答ト信ジテ居ルノデアリマス、而モ斯ノ如キ事柄ハ固ヨリ之ヲ祕密ニ付スル必要ハナイノデアリマス、故ニ本員ハ此際ニ全國ニ於ケル四十餘箇所ノ總テノ取引所ヲ存續サセル見込デアルカ、若シ又其數ヲ減スト云フ方針デアラナラバ、全國ニ何箇所ノ取引所ヲ存置サセル方針デアルカ、是ガ伺ヒタイノデアリ、此場合ニ當ツテ此問題ヲ解決シタイト思フ者ハ、當ニ本員ノミニ止マラヌノデアリマシテ、直接取引所ニ關係ヲ致シテ居リマスル者ハ勿論、其他ノ者ト申シマシテモ切ニ之ヲ希望シテ居ル次第デゴザイマス、因テ之ニ對シテ最モ明確ナル答辯ヲ望ム次第デゴザイマス

此ノ質問ニ對シ三月二十四日山本農商務大臣ハ書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲セリ

- 一 取引所ハ經濟上重要ノ機關ナリト雖モ亦弊害ヲ伴フノ虞大ナルモアリ故ニ政府ハ一層其ノ監督ヲ嚴ニシ眞正ノ機能ヲ發揮セシムル爲弊害ノ防止及矯正ニ付キ遺憾ナカラシコトヲ期ス
- 一 營業滿期ト爲ルヘキ取引所ニ對シテハ慎重審議ノ上之カ處分ヲ爲スヘキモノナルヲ以テ具體的ノ方案ニ付テハ今之ヲ言明スルコト能ハス

一八 對米外交方針ニ關スル件

二年三月十一日鈴木梅四郎君ヨリ左ノ質問ヲ提出シ同月二十五日其ノ趣旨ヲ辯明シタリ

帝國ノ米國ニ對スル外交ハ過去ニ於テ全然失敗ナリ屈辱的外交ナリ試ニ其ノ重モナル事實ヲ列

- 一 歐洲諸國カ米國トノ通商條約上當然享有シテ多大ノ便宜ヲ受ケ居ル移民入國權ニ對シ帝國ハ不當ノ強壓ヲ被リテ自ラ同國行移民ノ禁止的制限ヲ爲スノミナラス在米移民ノ當然享有スヘキ米國領土内ノ轉住權ヲモ制限シ居レル事
- 二 在米ノ日本臣民中其ノ太平洋方面ノ在住者ハ所在米國人ノ排斥ヲ受ケテ同等ノ待遇ヲ受ケサルノミナラス甚シキハ其ノ營業安ヲ妨害セラレ其ノ快樂安ヲ劫嚇セラレツツアル事
- 三 米國內ニ於テ右ノ如キ失態ノ事實アル上ニ其ノ隣國即チ墨國ヘノ移民入國モ亦米國ニ對スル遠慮氣兼ノ爲ニ墨國自身ハ日本移民ヲ歡迎スルニ拘ラス帝國政府ハ米國同様ニ移民ノ禁止的制限ヲ爲シ居ル事

以上ハ過去ニ於ケル失敗外交屈辱の外交ヲ説明スル主ナル事實ナリ然レトモ今ヤ帝國ハ世界列強ノ伍伴ニ列シテ又昔日ノ日本ニアラス特ニ世ハ大正ノ新世紀ニ入り舉國上下深ク覺醒セリ國民ハ永ク此ノ失敗的屈辱の外交ニ満足スルコト能ハサルナリ現内閣ハ左記ノ條々ニ對シテ果シテ如何ナル懷抱ヲ有スルカ其ノ答ヲ待ツモノナリ

- 一 通商上ニ門戶開放機會均等ヲ絶叫スルハ米國ノ特色ニシテ外交上其ノ金看板トスル所ナリ我カ帝國當局者ハ米國政府ニ對シ其ノ金看板ニ違背シ其ノ特色ヲ没却セル日本移民排

斥ノ主張ヲ撤回セシメ今後歐洲諸國ト同等ノ權利ヲ以テ移民入國ノ自由ヲ得ルコトニ努力カスルノ覺悟アリヤ又此ノ努力ニ依リテ其ノ目的ヲ遂行シ得ルノ自信アリヤ

- 二 世界ノ人類ハ一切平等ナリ宗教ト人種ノ異同ヲ問ハサルハ文明國民ノ所謂正義人道ナリ而シテ此ノ正義人道論ハ亦米國民ノ常ニ盛ニ唱フル所ニシテ寧ロ其ノ誇トスル特色ナリ我カ帝國ノ當局者ハ此ノ米國ノ誇トスル正義人道ニ訴ヘテ今後在米ノ同胞ヲシテ其ノ屈辱的排斥ヲ免レシメ其ノ營業安ヲ保タシメ其ノ快樂安ヲ全フセシムルノ外交談判ニ努力スルノ決心アリヤ又其ノ努力ニ依リテ目的ヲ遂クルノ自信アリヤ

- 三 墨國ハ言フ迄モナク純然タル獨立國ナリ同國ニ移民ヲ送ルハ帝國ノ自由ナリ權利ナリ然レトモ我カ帝國ノ當局者ハ今後モ以前ノ如ク自ラ此ノ自由ト權利トヲ放棄シテ米國政府ニ遠慮氣兼シ不相變墨國ヘノ移民禁止的制限ヲ繼續スルヤ將タ又今後ハ日本民族ノ海外發展ノ爲ニ墨國ヘ移民ヲ入國セシムルヤ

今ヤ米國ハ共和黨退キテ民主黨政權ヲ得タリ其ノ結果トシテ在米ノ同胞ハ其ノ排日政略ノ更ニヨリ多ク加リ來ラムコトヲ慮リテ人心安カラス書ヲ母國ノ同胞ニ致シテ對米外交ノ根本的刷新ヲ熱望シ來ルモノ頻々タルモノアリ且又我カ帝國ノ現狀ハ人口ノ増加一年六十萬人ヲ超エテ食物ノ供給之ニ伴ハス都鄙共ニ就職難ト生活難ニ惱ムノ慘狀ヲ呈シ居ルヲ以テ他文明國民ト同様

諸君、本員ハ大臣ノ出席ヲ請求致シマシタガ、委員會ガアルガタメニ御出席ガナイト云フコトデゴザイマスカラ、諸君ニ對シテハ甚ダ御氣ノ毒デアルカモ分リマセヌガ、速記録ニ私ノ質問ノ趣意ヲ留メテ置キタイト思ヒマスルノデ、其段ヲ御承知ヲ願ヒタイ本員ノ質問ヲ致シマスル事項ハ三箇條ゴザイマスルガ、其事實ハ何レモ對米外交ノ失敗ノ事實デゴザイマス、即チ對米ノ外交ハ過去ニ於テ全然屈辱的ノ外交ニナッテ居ルト云フ事實デゴザイマス、通商條約ノ上ニ於キマシテ最モ歐羅巴諸國ガ重キヲ措キマスルトコロノ移民ノ國權ト云フモノガ、我帝國ト米國トノ間ノ外交ニ於キマシテハ、米國政府ノ強壓ヲ受ケマシテ自ラ禁止的ノ制限ヲ加ヘテ居ルデアリマス、同時ニ米國領土内ノ轉住轉航ト云フモノモ、制限ヲシテ居ルノデゴザイマス、其自ラ禁止的ノ制限ヲシマシテ、積極的ニ國家ノ利益ヲ失ウテ居リマスルバカリデナクシテ、消極的ニ非常ナ國民ニ損害ヲ與ヘテ居リマス、煩雜ナル手數ヲ掛ケテ居リマス、其最モ著シイ例ヲ舉ゲマスルト云フト、此自ラノ制限ヲ實行スルタメニハ、今日ノ世界ニ於テ大和民族ガ海外發展ト云フモノハ是ハ自然ノ勢デアアル、其自然ノ勢ヒヲ壓ヘマスルタメニ殆ド煩雜ニ堪ヘナイ手續ヲシテ此制限ヲシテ居ル、此事ハ悉ク申上ゲマセヌデモ御承知デゴザイマセウガ、米國ニ渡航スル者ニ對シマシテ、旅行券ヲ持ッテ行ク必要ガアルコトニナッテ居リマシテ、此旅行券ノ下附ト云フモノハ非常ナ面倒ナコトニナッテ居ル、今日ハ世間デ以テ最モ信用ノアル紳士紳商ト言ハレテ居ルトコロノ子息ガ、米國ニ渡航スルニ當リマシテ、旅行券ヲ得ヤウト致シマシテモナカク、容易ニ得ラレマセヌ、一週間ニ週間經ッテモ得ラレズシテ遂ニ外交官ノ——或ル外交ニ關係シテ居ル人ニ知己ノアル人ヲ頼ンデ、ヤウク貫フト云フヤウナ次第デゴザイマス、此事ニ付キマシテハ、私ノ實際ノ記憶——事實談ガゴザイマスカラ、御話シマスルガ、今日ヨリ十二三年前私ガ神戸ニ住ンデ居リマシタ時分ニ、一人ノ學生ヲ米國ニ渡航セシムルトニ致シマシテ、旅行券ヲ願ヒマシタ、二週間經ッテモ出マセヌ二週間後ニ私ノ所ヘ兵庫縣ノ巡查ガ尋ネテ參リマシタ、何事ニ來タカト云フコトヲ申シマシタトコロガ、アナタノ財産ヲ承リタイト云フコトデアリマシタ、巡查ガ私ノ財産ヲ尋ネテ來タ、奇態ナコトガアルト思ヒマシテ、ツレハ全體ドウ云フ譯デアアルカト云フコトヲ尋ネマシタトコロ

ガ、アナタノ保證人トシテ米國ヘ行クトコロノ何某ニ旅行券ヲ下附スルニ付テ、アナタノ財產問題ガ必要デアアル、斯ウ云フ話デゴザイマシタ、ツコデ私ハソレハ驚イタコトデアアルガ、併シ自分ハ一人ノ學生ヲ米國ヘ渡航セシムルニ付テ其位ナ支辨ヲスルコトハ出來ルカラ御安心ナサイ、斯ウ云ッテ實ハマダ安心ガ出來マセヌカラ巡查ヲ歸シテ、サウシテ兵庫縣廳ヘ行キマシテ知事ニ面會ヲシテ話ヲシテ、ヤウク、五日目ニ海外旅行券ヲ得マシタ、此ノ如キコトテ隨分此自ラ屈辱的ノ外交ヲ實行スルタメニハ、内國ノ人民ニ非常ナ手數ヲ掛ケテ苦ミヲシテ之ヲ制限ヲシテ居ルデアアル、洵ニ歎ハシイコト、私ハ思ヒマス第二ニハ、日本人民ノ米國ニ居リマスル太平洋方面ニ居リマスル人々ハ、皆非常ナル排日的ノ侮辱ヲ蒙ッテ居ル、甚ダシイノハ營業安ヲ妨害サレテ居ル、快樂安ヲ妨害サレテ居ルデアリマス、之ヲ事實ヲ御話致シマスレバイロク、御話ガアリマスガ、大分事實談ガ御嫌ヒノヤウデゴザイマスカラ略シテ御話シマスガ、併シ茲ニ一場ノ新ラシイ事實ガアリマスカラ御話致シマス、私ノ尊敬シマスル友人ニ昨年半公半私ノ用務ヲ帶ビマシテ米國ヘ渡航シタ紳士ガゴザイマス、所デ此太平洋方面ノ我國民ノ發展ノ有様ヲ觀察スルト云フノデ、自働車ヲ以テ或ル地方ニ參リマシタ、然ルニ風ノタメニ帽子ヲ取ラレマシタ、所デ其紳士ハ車ヲ止メテ其帽子ヲ取ラウトシマシタトコロガ、向フカラ米人ガ恭シク其帽子ヲ持ッテ參リマシタ、ソレデ其紳士ハ喜ンデ之ヲ申受ケル積リデ居リマシタトコロガ、其米人ガ自働車ニ近ヅイテ紳士ノ顔ヲ見ルヤ否ヤ其舉動ガ一變シマシテ、忽チ其帽子ヲ地上ニ抛ッテ如何ニモ腹立タシイ様子ヲシテ歸ッダデアリマス、所デ其紳士モ憤然ト怒ラレテ怒ラレマシタガ併シ喧嘩ニモナラヌカラ、再ビ塵打拂ヒマシテ車ニ上リマシテ、同乗ノ日本人ニ就テ話ヲ致シマシタトコロガ事實ガ分ッダ、斯ウ云フ譯ダ、其紳士ハ容貌態度立派ナ方デ、ソレデ全ク最初其米人ガ是ハ自分ノ米國人ト間違ヘタノデアアル、米國人ト間違ヘテ落シタ帽子ヲ獻上シヤウトシタトコロガ、近ヅイテ見ルト豈圖ンヤ日本人デアアル、自分ノ常ニ排斥シヤウト努メテ居ル日本人デアルト云フコトガ分リマシタメニデス、忽チ持ッテ來テ捧ゲヤウトシタ帽子ヲ擲ッテ歸ッダデアルト云フコトガ分ッダ、此ノ如ク屈辱ヲ受ケマシタ紳士ハドナタデアアルカト諸君思召ス、此紳士コソ即チ此議場ニモ御居デニナリマス所ノ三又居士、竹越與二郎君デゴザイマス諸君、此ノ如キ紳士ガ米國ヘ渡航サレマス、此ノ如キ冷遇ヲ受ケマス、此ノ如キ屈辱ヲ蒙ルノデゴザイマス、是ガ即チ所謂即チ排日思想ト云フモノガ米國ニ盛ニ行ハレテ其結果トシテ現在行ハレタル一ノ事實デゴザイマス、實ニ諸君甚ダ怪シカラヌ事實デハゴザイマセヌカ、ソレカラ第二